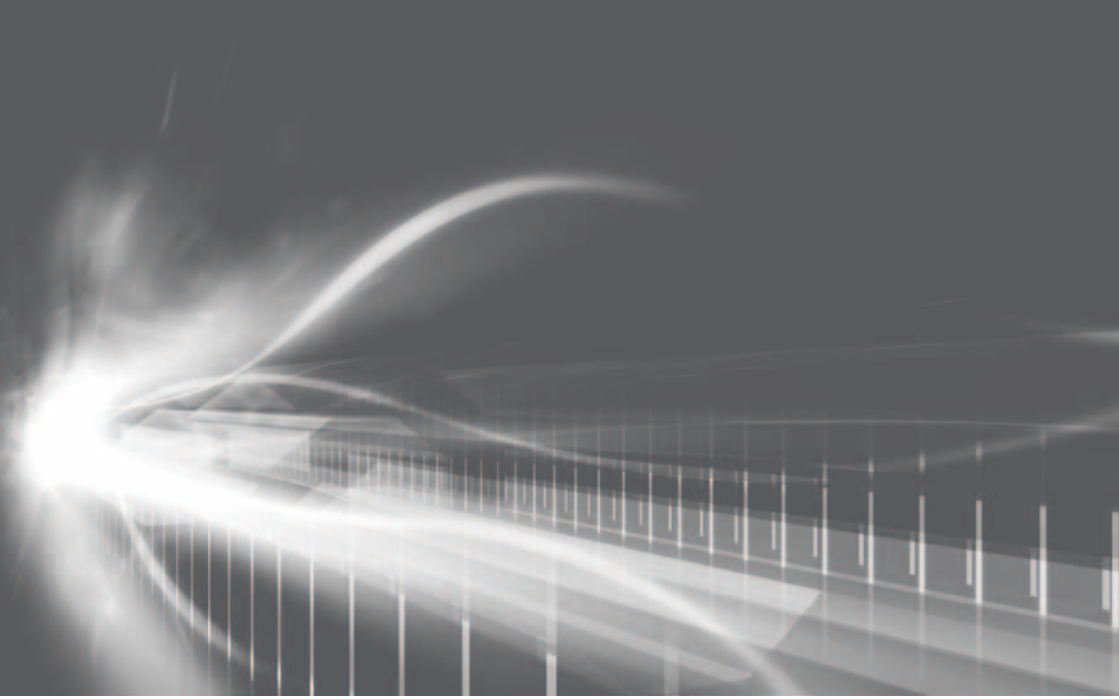


取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

ALPHARD

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 35
お子さまの安全のために 43
チャイルドシート 44
排気ガスに対する注意 66

1-2. つながるサービス
T-Connect DCM 単体 67

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 94
ハイブリッドシステムの注意 98

1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 104
オートアラーム 105

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 110
計器類 116
マルチインフォメーションディスプレイ 121
エネルギーモニター／燃費画面／ ESPO 画面 140

3 各部の操作

3-1. キー
キー 150

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
フロントドア 156
スライドドア 163
バックドア 181
スマートエントリー＆スタートシステム 191

3-3. シートの調整
フロントシート 198
セカンドシート 202
サードシート 217
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能 219
セカンドシートポジションメモリー 225
ヘッドレスト 227
シートアレンジ 231

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 243
インナーミラー 245
デジタルインナーミラー 247
ドアミラー 259
補助確認装置 262

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 263
ツインムーンルーフ 267

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....272
荷物を積むときの注意.....282

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ.....283
EV ドライブモード.....289
トランスミッション.....291
方向指示レバー.....296
電動パーキングブレーキ.....297
ブレーキホールド.....301

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....304
アダプティブハイビームシステム.....307
オートマチックハイビーム....312
フォグランプスイッチ.....316
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....318
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....322

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....324

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense..... 328
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 334
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 344
RSA（ロードサインアシスト）..... 356
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 361
先行車発進告知機能..... 377
ITS Connect..... 380
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 391
・BSM 機能..... 395
・RCTA 機能..... 399
クリアランスソナー..... 405
パーキングサポートブレーキ..... 420
インテリジェントパーキングアシスト 2..... 432
運転を補助する装置..... 496

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス..... 503
寒冷時の運転..... 505

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン 512
リヤオートエアコン 523
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター.....526

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....529
・室内灯 531
・マップランプ.....532
・リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）.....532
・読書灯 534
・ルーフカラーイルミネーション.....535

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....536
・グローブボックス.....537
・コンソールボックス.....537
・カップホルダー／ボトルホルダー.....539
・小物入れ 543
ラゲージルーム内装備 545

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 548
・サンバイザー..... 548
・バニティミラー..... 548
・時計 548
・アクセサリーソケット 549
・アクセサリーコンセント..... 551
・ワイヤレス充電器（おくだけ充電）..... 558
・後席用サンシェード 564
・サイドテーブル..... 565
・買い物フック..... 567
・アシストグリップ..... 568
・コートフック..... 569
・ステアリングスイッチ 570

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 572
内装の手入れ..... 577

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 581
ガレージジャッキ 585
ウォッシャー液の補充 587
タイヤについて..... 589
タイヤ空気圧について 593
エアコンフィルターの交換... 595
ワイパーゴムの交換 598
キーの電池交換..... 604
ヒューズの点検・交換 608
外装のランプの交換 611

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....614
非常点滅灯（ハザードランプ）.....615
発炎筒.....616
車両を緊急停止するには.....618

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....619
警告灯がついたときは.....628
警告メッセージが表示されたときは.....633
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）.....640
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）.....657
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....670
電子キーが正常に働かないときは.....672
補機バッテリーがあがったときは.....675
オーバーヒートしたときは....682
スタックしたときは.....687

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....690

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧.....694

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目.....703

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）.....706
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....710
アルファベット順さくいん.....712
五十音順さくいん.....714

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 12.1 型ワイドディスプレイ
- 音声操作システム
- パノラミックビューモニター
- ETC2.0 システム
- ハンズフリー
- T-Connect

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

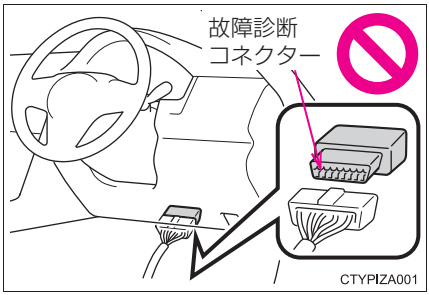
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。
電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・電気モーター回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション
・駆動用電池の状態

グレード･オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

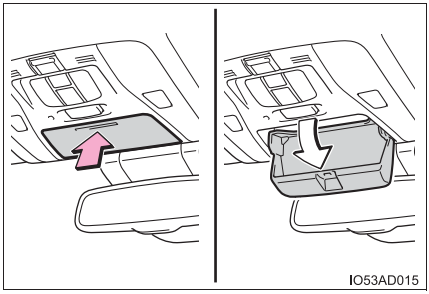
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

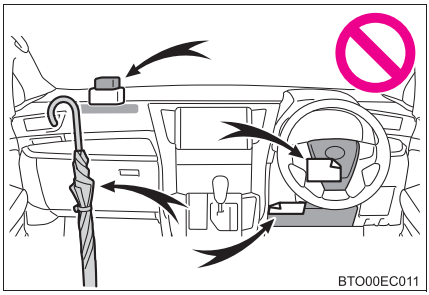
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

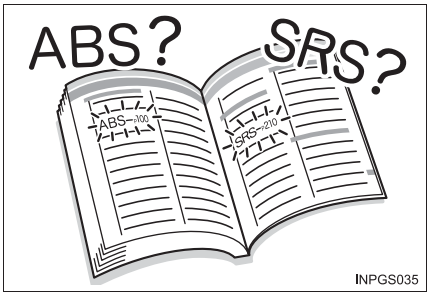


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

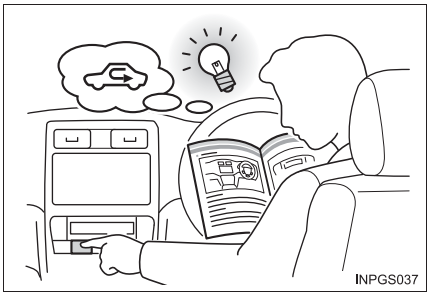
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....714
・アルファベット順
さくいん.....712



■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12

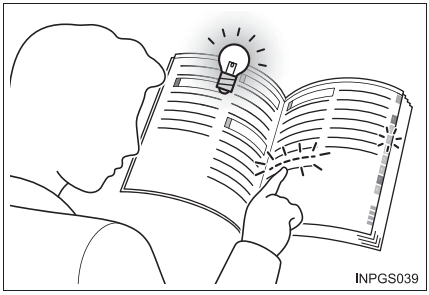


■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....706
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....710

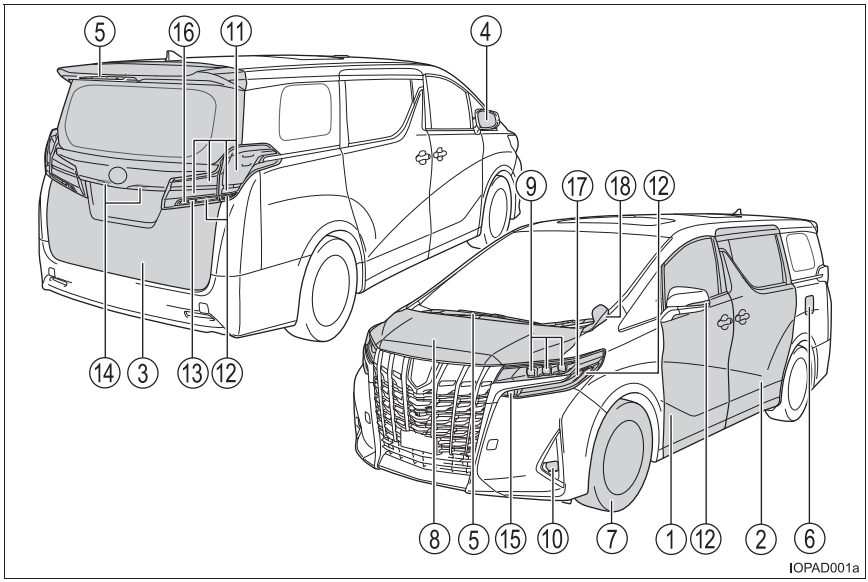
■ タイトルから探す

・目次.....2



イラスト目次

■外観



① **フロントドア . . . . . P. 156**
施錠／解錠 . . . . . P. 156
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 263
メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . P. 672
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 630, 633

② **スライドドア . . . . . P. 163**
施錠／解錠 . . . . . P. 163
スライドドアの開閉 . . . . . P. 166
パワースライドドア . . . . . P. 164
ドアガラスの開閉 . . . . . P. 263
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 630, 633

③ **バックドア . . . . . P. 181**
施錠／解錠 . . . . . P. 181
開け方／閉め方 . . . . . P. 182
パワーバックドア★ . . . . . P. 183
警告灯・警告メッセージ . . . . . P. 630, 633

④ **ドアミラー** . . . . . **P. 259**
鏡面の角度調整 . . . . . P. 259
ミラーの格納 . . . . . P. 259
曇りを取る（ミラーヒーター）★ . . . . . P. 260

⑤ **ワイパー** . . . . . **P. 318, 322**
冬季の注意 . . . . . P. 505
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ . . . . . P. 516

⑥ **給油扉** . . . . . **P. 324**
給油方法 . . . . . P. 324
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . P. 324, 690

⑦ **タイヤ** . . . . . **P. 589**
サイズ・空気圧 . . . . . P. 693
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . P. 505
点検・ローテーション . . . . . P. 589
パンク時の対処 . . . . . P. 640, 657

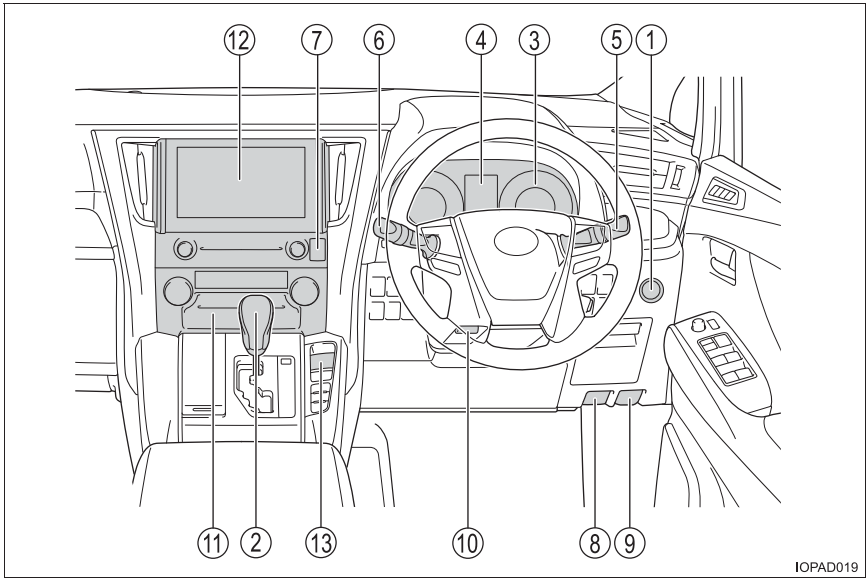
⑧ **ボンネット** . . . . . **P. 581**
開け方／閉め方 . . . . . P. 581
エンジンオイル . . . . . P. 690
オーバーヒート時の対処 . . . . . P. 682
警告メッセージ . . . . . P. 633

走行に関わる外装のランプ
（交換について：P. 611）

⑨ **ヘッドランプ** . . . . . **P. 304**
⑩ **フロントフォグランプ** . . . . . **P. 316**
⑪ **尾灯** . . . . . **P. 304**
⑫ **方向指示灯** . . . . . **P. 296**
⑬ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . P. 291
⑭ **番号灯** . . . . . **P. 304**
⑮ **コーナリングランプ★** . . . . . **P. 305**
⑯ **リヤフォグランプ★** . . . . . **P. 316**
⑰ **車幅灯／デイライト★** . . . . . **P. 304**
⑱ **補助確認装置★** . . . . . **P. 262**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . P. 283**
ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 283, 284
ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 618
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 670
警告メッセージ . . . . . P. 633

② **シフトレバー . . . . . P. 291**
シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 291
けん引時の注意 . . . . . P. 619
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 294

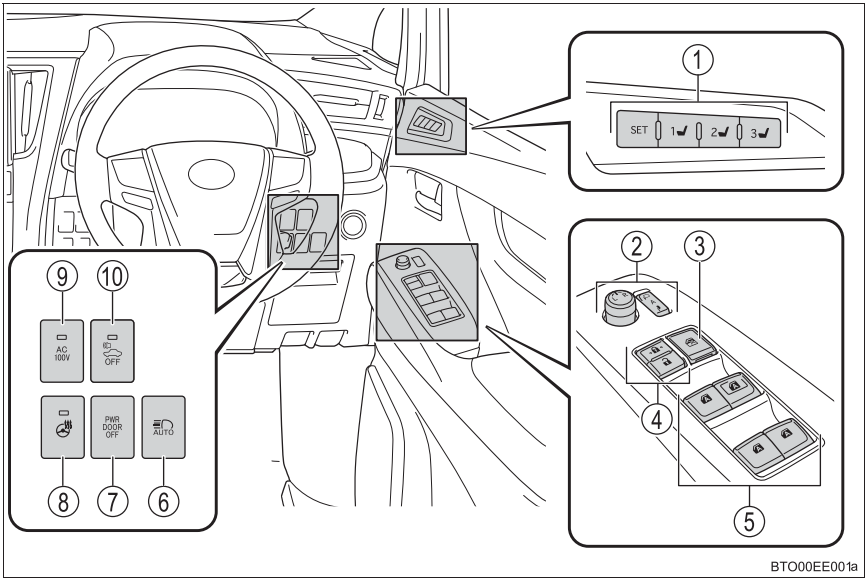
③ **メーター . . . . . P. 116**
見方・明るさの調整 . . . . . P. 116
警告灯／表示灯 . . . . . P. 110
警告灯点灯時の対処 . . . . . P. 628

④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . P. 121**
表示内容 . . . . . P. 121
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . P. 633

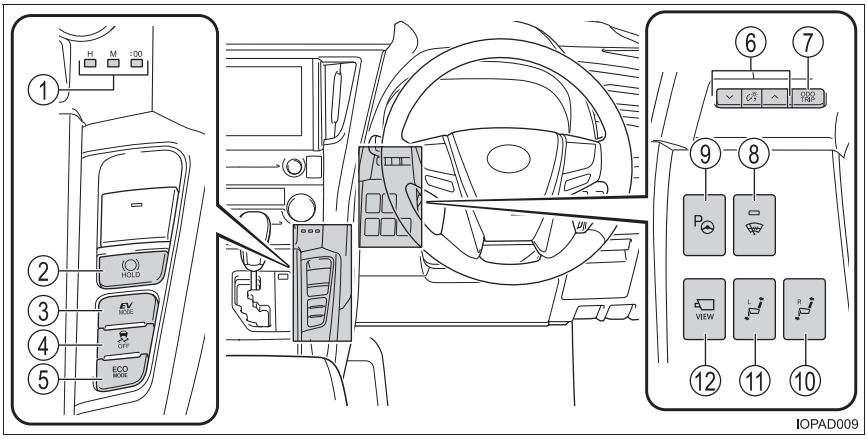
⑤ **方向指示レバー**.....P. 296
ランプスイッチ.....P. 304
ヘッドランプ・デイライト★／車幅灯・尾灯・番号灯 .....P. 304
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ .....P. 316
⑥ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント）**.....P. 318
ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ）.....P. 322
使い方.....P. 318, 322
ウォッシャー液の補充.....P. 587
ワイパーゴムの交換 .....P. 598
⑦ **非常点滅灯スイッチ** .....P. 615
⑧ **ボンネット解除レバー**.....P. 581
⑨ **給油扉オープナー** .....P. 327
⑩ **ハンドル位置調整レバー** .....P. 243
⑪ **フロントエアコン** .....P. 512
操作方法.....P. 512
リヤウインドウガラスの曇り取り
（リヤウインドウデフォッガー）.....P. 515
⑫ **オーディオ★※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑬ **パーキングブレーキ** .....P. 297
かける・解除する .....P. 297
冬季の注意 .....P. 506
警告ブザー・警告メッセージ.....P. 300, 633

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■スイッチ類

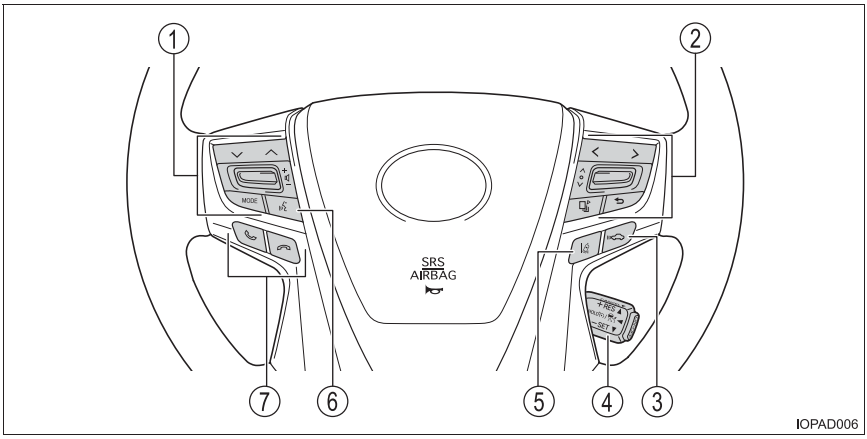


① ドライビングポジションメモリースイッチ★ . . . . . .P. 219
② ドアミラースイッチ . . . . . .P. 259
③ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 263
④ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 159
⑤ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 263
⑥ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . .P. 308
オートマチックハイビームスイッチ★ . . . . . .P. 312
⑦ パワードアオフスイッチ . . . . . .P. 167
⑧ ステアリングヒータースイッチ★. . . . . .P. 527
⑨ アクセサリーコンセントメインスイッチ★. . . . . .P. 551
⑩ 車両接近通報一時停止スイッチ . . . . . P. 95



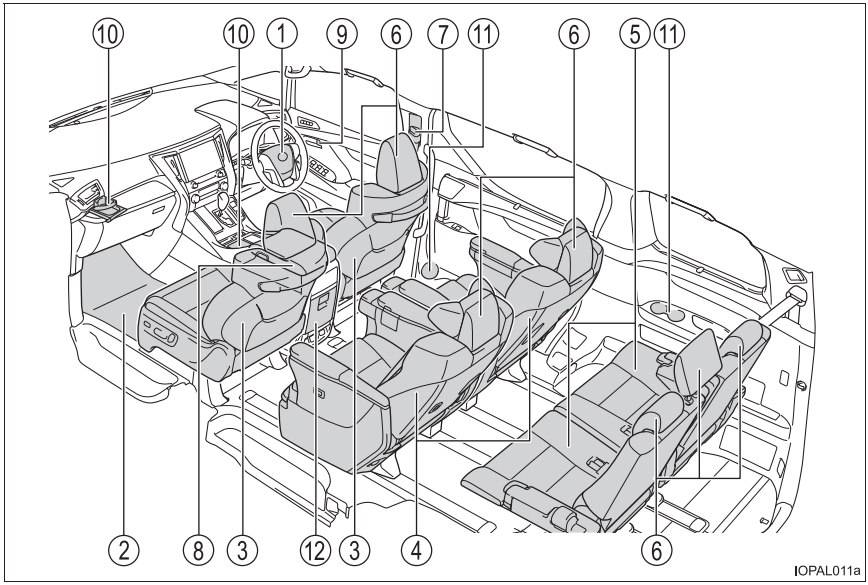
① 時刻調整スイッチ . . . . . .P. 548
② ブレーキホールドスイッチ . . . . . .P. 301
③ EV モードスイッチ . . . . . .P. 289
④ VSC OFF スイッチ . . . . . .P. 497
⑤ ECO MODE スイッチ . . . . . .P. 292
⑥ メーター照度調整スイッチ . . . . . .P. 117
⑦ オドメータートリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットスイッチ. . . . . .P. 117
⑧ ウインドシールドデアイサースイッチ★. . . . . .P. 516
⑨ IPA スイッチ★ . . . . . .P. 434
⑩ 運転席側セカンドシートニュートラル
ポジションスイッチ★ . . . . . .P. 212
⑪ 助手席側セカンドシートニュートラル
ポジションスイッチ★ . . . . . .P. 212
⑫ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



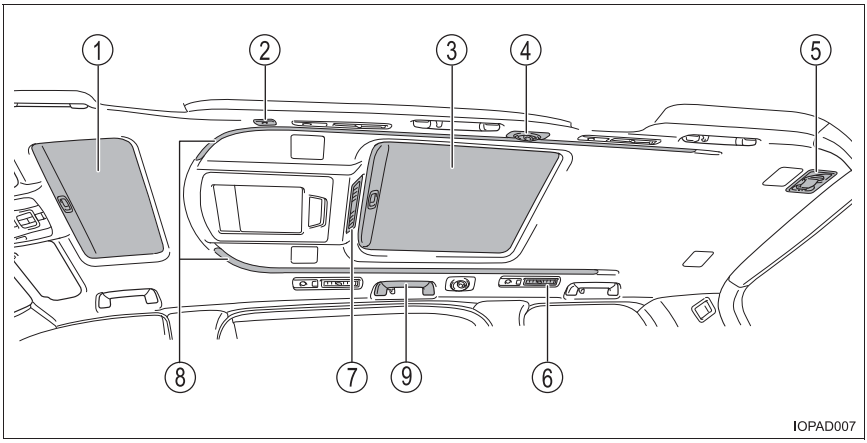
① オーディオスイッチ ※ . . . . . P. 570
② メーター操作スイッチ . . . . . P. 123
③ 車間距離切りかえスイッチ . . . . . P. 367
④ クルーズコントロールスイッチ . . . . . P. 361
⑤ LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ . . . . . P. 350
⑥ トークスイッチ ※ . . . . . P. 570
⑦ 電話スイッチ ※ . . . . . P. 570

室内

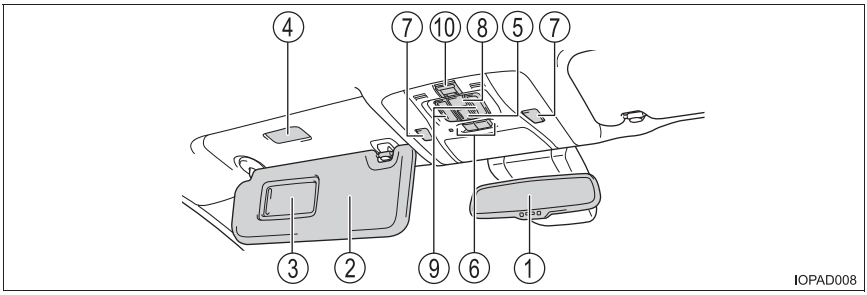


① SRS エアバッグ . . . . . P. 35
② フロアマット . . . . . P. 24
③ フロントシート . . . . . P. 198
④ セカンドシート . . . . . P. 202
⑤ サードシート★ . . . . . P. 217
⑥ ヘッドレスト . . . . . P. 227
⑦ シートベルト . . . . . P. 28
⑧ コンソールボックス . . . . . P. 537
⑨ ロックレバー . . . . . P. 159
⑩ カップホルダー . . . . . P. 539
⑪ ボトルホルダー . . . . . P. 539
⑫ 小物入れ . . . . . P. 543

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。



① フロントムーンルーフ★ . . . . . P. 267
② 後席「ナノイー」吹き出し口. . . . . P. 519
③ リヤムーンルーフ★. . . . . P. 267
④ 読書灯★ . . . . . P. 534
⑤ 分離格納式シートベルト★. . . . . P. 29
⑥ リヤエアコン吹き出し口 . . . . . P. 524
⑦ リヤエアコン . . . . . P. 523
⑧ ルーフカラーイルミネーション . . . . . P. 535
⑨ アシストグリップ . . . . . P. 568



① インナーミラー★ . . . . . P. 245
デジタルインナーミラー★. . . . . P. 247
② サンバイザー ※1. . . . . P. 548
③ バニティミラー. . . . . P. 548
④ バニティランプ. . . . . P. 548
⑤ リヤムーンルーフスイッチ★ . . . . . P. 267
⑥ 室内灯メインスイッチ. . . . . P. 531
⑦ マップランプスイッチ. . . . . P. 532
⑧ パワーバックドア開閉スイッチ★. . . . . P. 183
⑨ パワースライドドア開閉スイッチ . . . . . P. 166
⑩ ヘルプネットボタン ※2. . . . . P. 75

★： グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 49）

※2： メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....24
安全なドライブのために 26
シートベルト.....28
SRS エアバッグ.....35
お子さまの安全のために 43
チャイルドシート.....44
排気ガスに対する注意.....66
1-2. つながるサービス
T-Connect DCM 単体 67
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 94
ハイブリッドシステムの注意 98
1-4. 盗難防止装置
イモビライザーシステム 104
オートアラーム.....105

運転する前に

点検整備

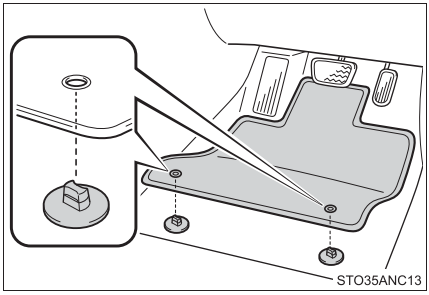
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

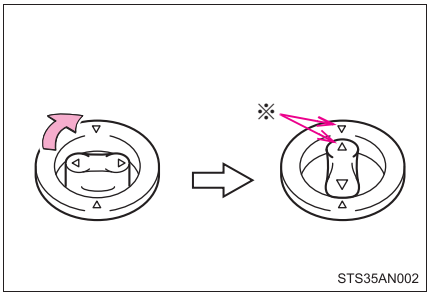
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

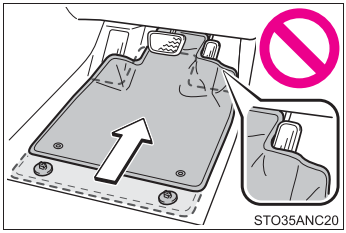
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

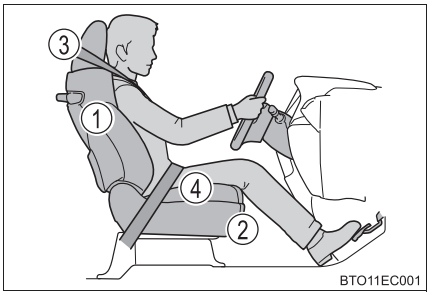
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 198）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 198）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 227）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 245, 247, 259）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を順守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

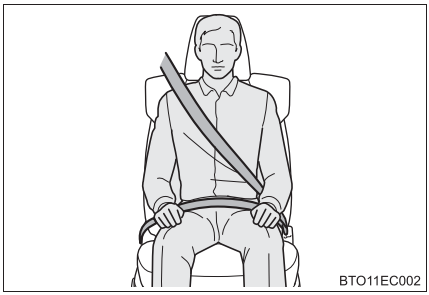
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

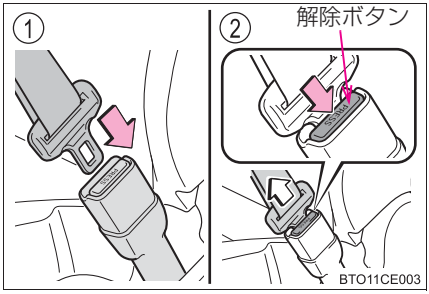
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方（サードシート中央席を除く）

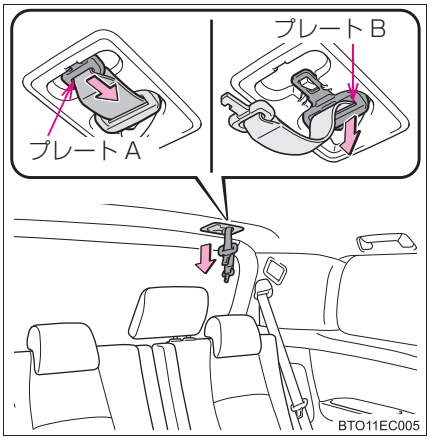
① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



着け方（サードシート中央席）

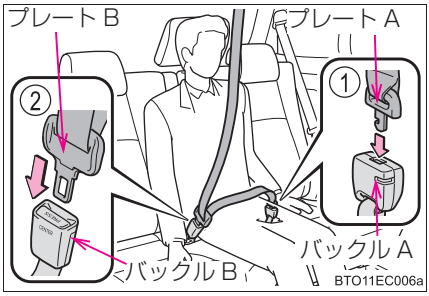
1 プレートを取り出す



2 ベルトを固定するには、プレートA、プレートBの順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

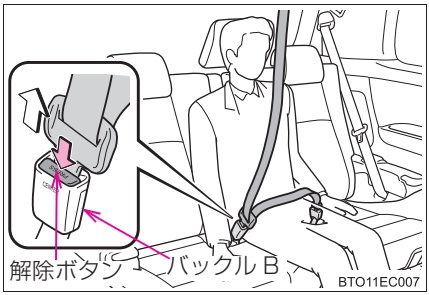
① プレート A、バックル A

② プレート B、バックル B



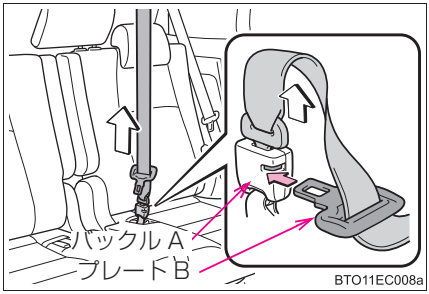
はずし方・格納のしかた（サードシート中央席）

1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



2 メカニカルキー（→ P. 152）、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

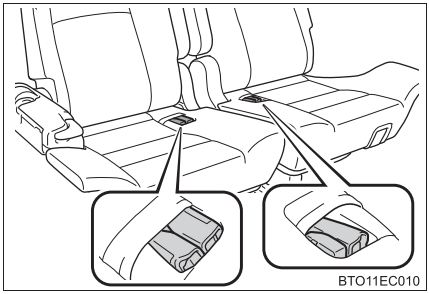
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

4 バックルを格納する

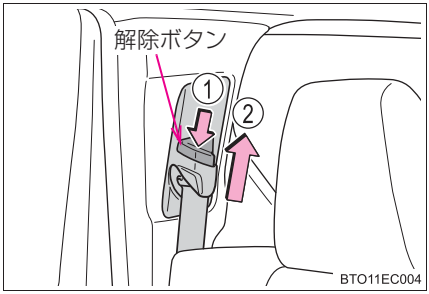


シートベルトの高さ調整（フロント席）

① 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる

② アジャスターを上げる

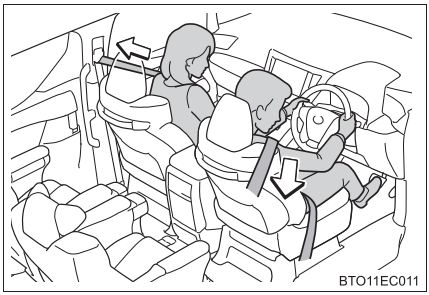
“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方・側方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方･側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。（→ P. 44）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 28）

■シートベルトプリテンショナーについて

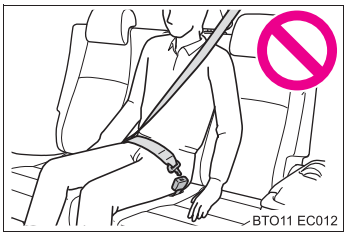
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

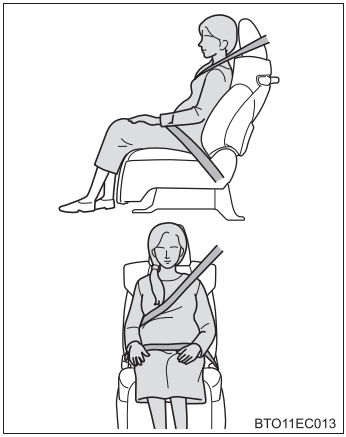
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- サードシート中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する（→ P. 29）



■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）

■**お子さまを乗せるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

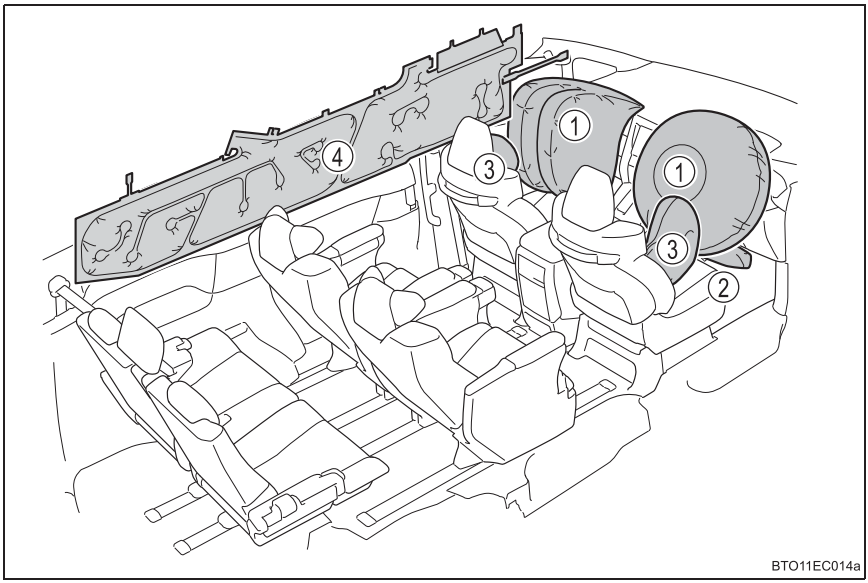
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルト（フロント席）の取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

② 運転席 SRS ニーエアバッグ
（運転者の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

警告

■SRS エアバッグについて

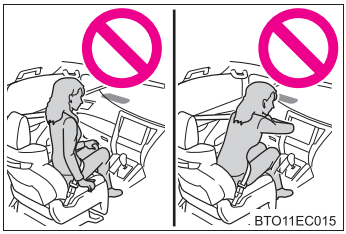
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

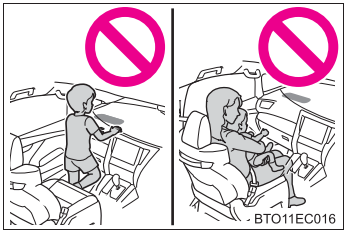
●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 44）

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

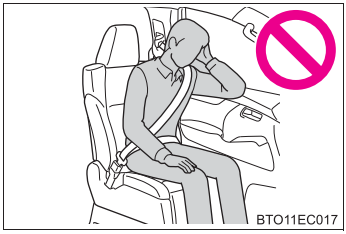
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



警告

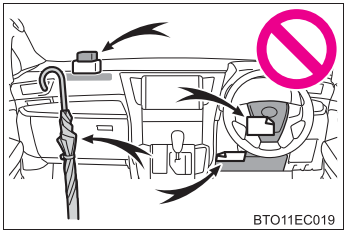
■SRS エアバッグについて

● ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

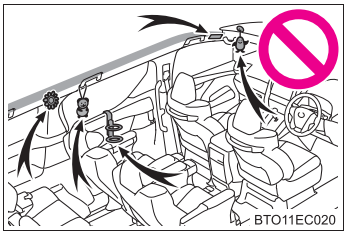


● 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

● ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



● ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→ P. 649）



● コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS　ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●T-Connect DCM 単体の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。（→ P. 67）

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

●T-Connect DCM パッケージの契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナー、運転席 SRS ニーエアバッグのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動します。

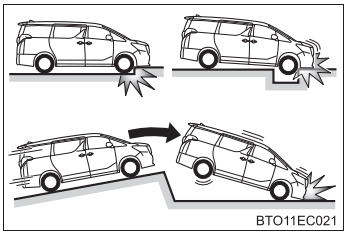
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



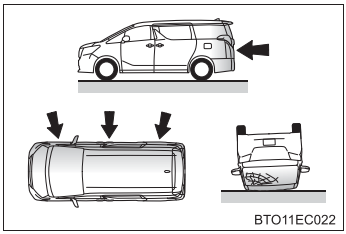
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

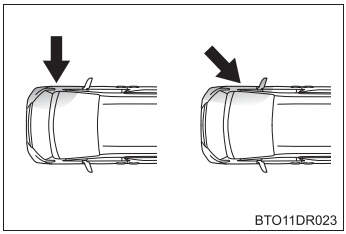


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

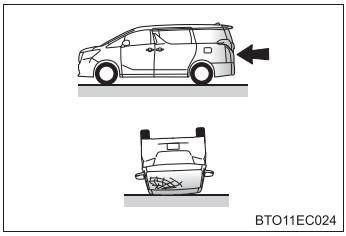
●斜めからの衝撃



SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

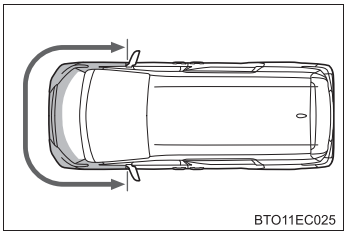


■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

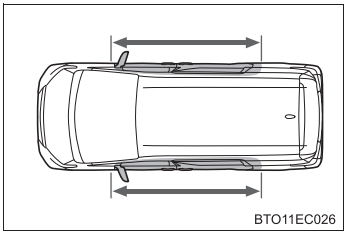
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

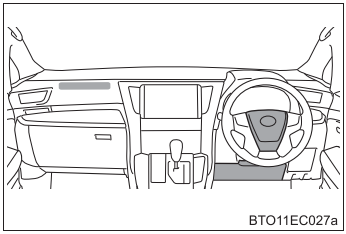
●フロントSRSエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



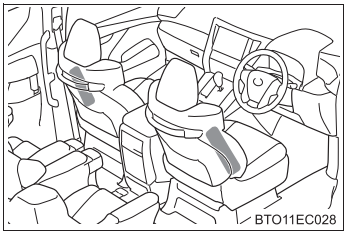
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



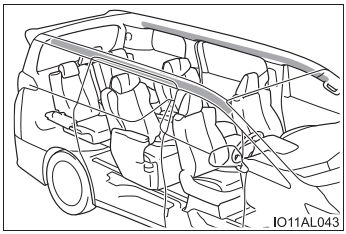
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 44）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 167）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 263）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ムーンルーフ★・ボンネット・スライドドア・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 44 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと 44
チャイルドシートについて. 46
チャイルドシートを助手席で使用するときは 48
チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで使用するときは 50
チャイルドシートの取り付け方法
・シートベルトで固定する 51
・ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する 58
・トップテザーアンカーを使用する. 64

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 車の取り付けに合った、ECE R44※ に適合するチャイルドシートを使用してください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合ったチャイルドシートを使用してください。

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりセカンドシートまたはサードシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- チャイルドシートにはお子さまを１人だけ乗せて、チャイルドシートのベルトで体を固定してください。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 51, 58）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートについて

お手持ちのチャイルドシートについては、次の項目を確認の上、車に取り付けてください。

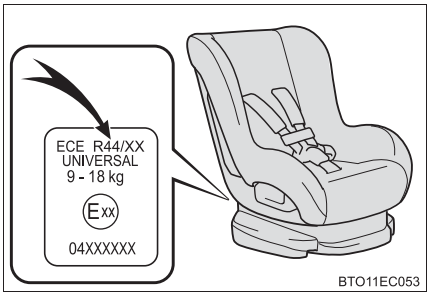
■ チャイルドシートの規格

ECE R44※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

ECE R44 認可マーク※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



※1 ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ 質量グループについて

この質量グループは、「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」を確認する際に必要となります。「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」と合わせて確認してください。（→ P. 52, 60）

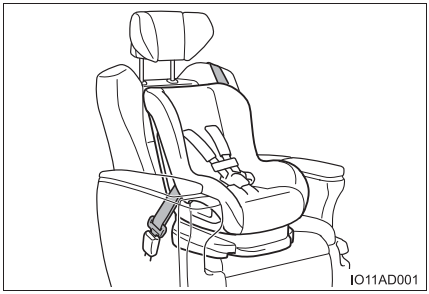
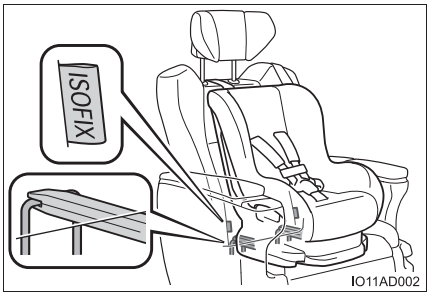
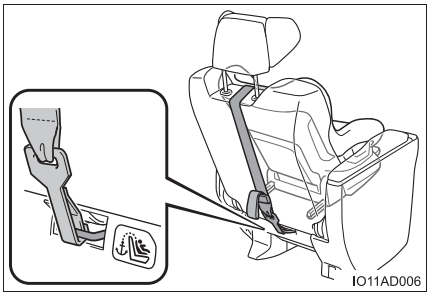
ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の 5 種類に分類されます。

質量グループ	お子さまの体重	参考年齢※
グループ 0	10kg まで	9ヶ月頃まで
グループ 0+	13kg まで	1 歳半頃まで
グループⅠ	9 ～ 18kg	9ヶ月頃～ 4 歳頃まで
グループⅡ	15 ～ 25kg	3 歳頃～ 7 歳頃まで
グループⅢ	22 ～ 36kg	6 歳頃～ 12 歳頃まで

※ 年齢の範囲は、おおよその目安になります。お子さまの体重に合わせて選択してください。

■ チャイルドシート固定方法の種類

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P. 51
ISOFIX チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 58
テザーベルトを固定する		P. 64

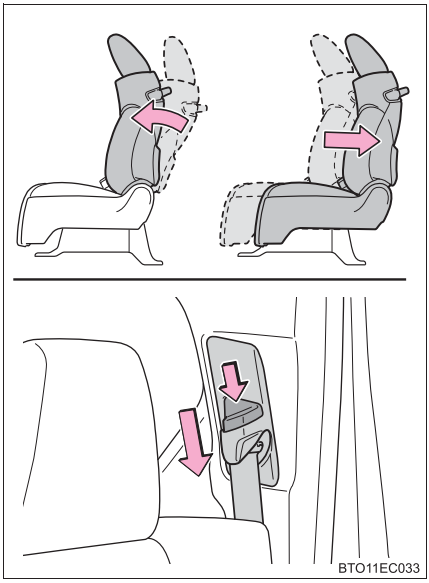
チャイルドシートを助手席で使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずす



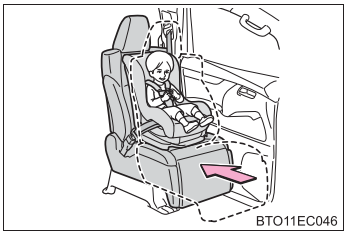
警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、次のことを必ずお守りください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

●助手席にチャイルドシートを前向きに取り付ける場合には、シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。



●ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

チャイルドシートをセカンドシートまたはサードシートで使用するときは

警告

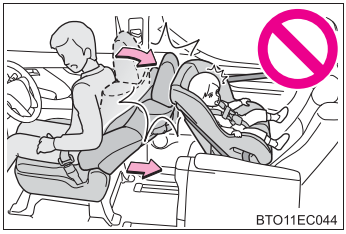
■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、セカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のセカンドシートに取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 52）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても選択することができます。次に記載されている、「シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた」も合わせて確認してください。

◆ シートベルトで取り付けるタイプのチャイルドシートの質量グループ・取り付け可能な座席位置の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する（→ P. 46）

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0+」になります。
（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

2 チャイルドシートの取り付け可能な位置と対応するチャイルドシートの種類（記号）を「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から確認して、適切なシートを選択する。（→ P. 52）

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

▶ フロントシート

質量グループ	助手席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	×	—
0+ （13kg まで）	×	—
Ⅰ （9 ～ 18kg）	うしろ向き ×	—
	前向き UF ※1	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	UF ※1	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（7 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※2	U ※2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※2	U ※2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※2, 3	U ※2, 3	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ セカンドシート（8 人乗り車）

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	U ※ 2	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”

▶ サードシート

質量グループ	右席	左席	中央席	推奨チャイルドシート
0 （10kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
0+ （13kg まで）	U ※ 2	U ※ 2	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅰ （9 ～ 18kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正 NEO G-Child baby”
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	U ※ 2, 3	U ※ 2, 3	×	“トヨタ純正ジュニアシート”

表に記入する記号の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きのチャイルドシートに適しています。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

※1 背もたれを直立位置にし、フロントシートをいちばんうしろまで下げてください。
シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

※2 背もたれを直立位置にしてください。

※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

◆ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

▶ セカンドマニュアルシート(7 人乗り)装着車 / セカンドマニュアルシート（8 人乗り）装着車

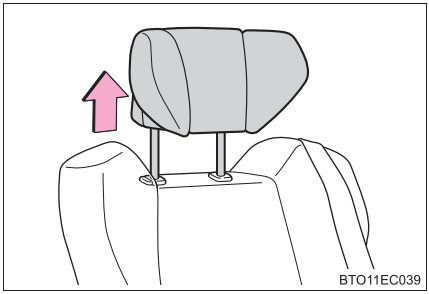
いったん背もたれを前に倒してから、1 段目の固定位置まで起こします。

▶ セカンドパワーシート装着車

背もたれをいちばん前にします。

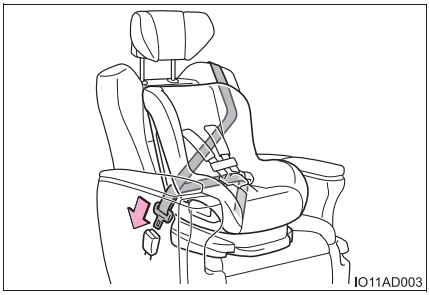
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 228）



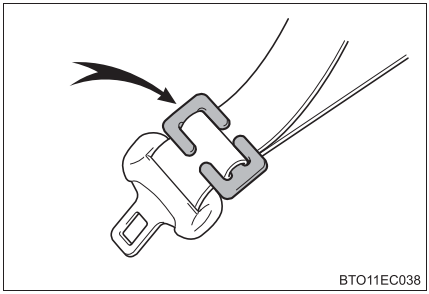
3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに “カチッ” と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



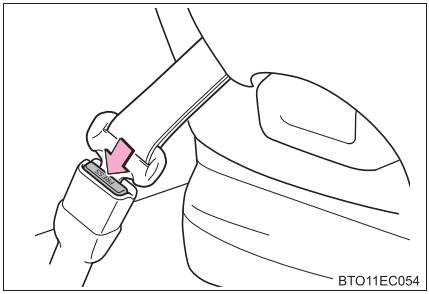
5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

◆ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

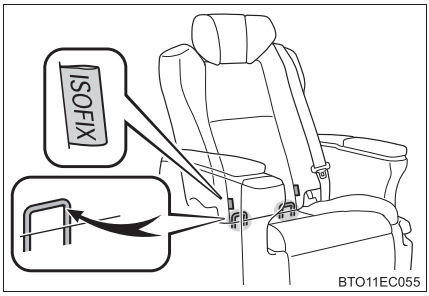
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートを ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



■ ISOFIX 対応チャイルドシートについて

ECE R44 ※ に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、認可マークが表示されています。（→ P. 46）

※ ECE R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

■ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表について

チャイルドシート適合性一覧表（→ P. 60）は、お客様がお持ちのチャイルドシートについて、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまにあった推奨チャイルドシートについても確認することができます。次に記載されている、サイズ等級、固定具および「ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた」も合わせて確認ください。

■ ECE R44 チャイルドシートのサイズ等級、固定具について

チャイルドシートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

サイズ等級	固定具	形状・大きさ	使用の向き	お子さまの大きさ
A	ISO/F3	全高	前向き	幼児
B	ISO/F2	低型	前向き	幼児
B1	ISO/F2X	低型	前向き	幼児
C	ISO/R3	大型	うしろ向き	幼児
D	ISO/R2	小型	うしろ向き	幼児
E	ISO/R1	—	うしろ向き	乳児
F	ISO/L1	キャリコット※	左向き	乳児
G	ISO/L2	キャリコット※	右向き	乳児

※ キャリコットはお子さまを寝かせた姿勢で横向きに取り付けることのできる乳児用シートのことです。詳しくはチャイルドシート製造業者または販売業者におたずねください。

■ ECE R44 ISOFIX 対応チャイルドシートの質量グループ・サイズ等級の確認のしかた

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する (→ P. 46)

(例 1)：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 ＋」になります。
(例 2)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ｉ」になります。

2 サイズ等級を確認する

手順 1 で確認した「質量グループ」と「シート位置別チャイルドシート適合性一覧表」から該当するサイズ等級を確認します。
(→ P. 60) ※

(例 1)：質量グループが「0 ＋」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2)：質量グループが「Ｉ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「推奨チャイルドシート」(→ P. 60) で指定されている製品を使用してください。

◆ シート位置別チャイルドシート適合性一覧表（ISOFIX での取り付け [ECE R44 適合のチャイルドシート]）

▶ セカンドシート

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置		推奨チャイルドシート
			右席	左席	
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	—
	G	ISO/L2	×	×	—
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
0+（13kg まで）	E	ISO/R1	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	D	ISO/R2	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	C	ISO/R3	IL	IL	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
I（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	IL	IL	—
	C	ISO/R3	IL	IL	—
	B	ISO/F2	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	B1	ISO/F2X	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”
	A	ISO/F3	IUF※	IUF※	—
			IL※	IL※	“トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg”

表に記入する記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL：ISOFIX チャイルドシートのリストに示す準汎用（セミユニバーサル）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

×：ISOFIX チャイルドシートを取り付けることはできません。

※ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

● 背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。

● チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 表に記載されていないチャイルドシートを使用する場合は、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

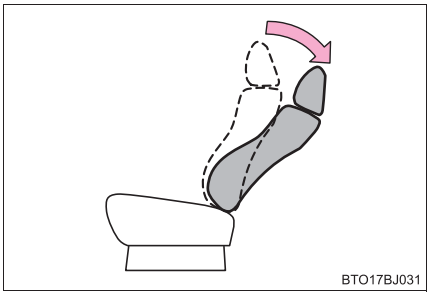
■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 背もたれを調整する

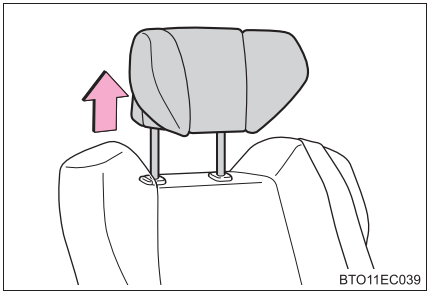
チャイルドシートが取り付けられる角度まで倒します。

マニュアルシートは背もたれが固定されていることを確認してください。


BTO17BJ031

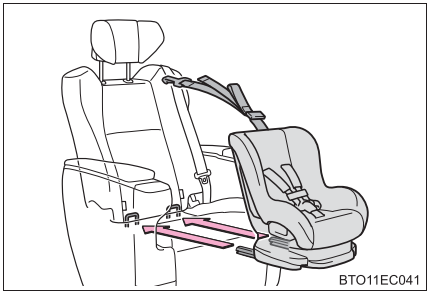
2 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。（→ P. 228）


BTO11EC039

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

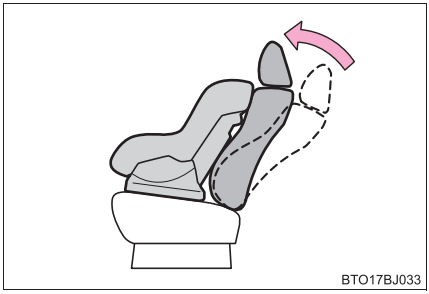
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。


BTO11EC041

4 背もたれを調整する

背もたれをうしろに倒してからチャイルドシートを取り付けたあと、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、チャイルドシートと背もたれがよい接触位置になるまで背もたれを調整してください。

マニュアルシートは背もたれが固定されていることを確認してください。


BTO17BJ033

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認する

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

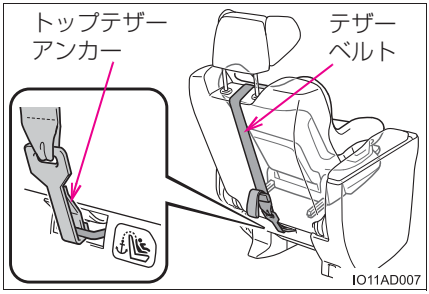
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。
  チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。
  その場合は、他の席を使用してください。
  お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

この車はセカンドシート外側席にトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

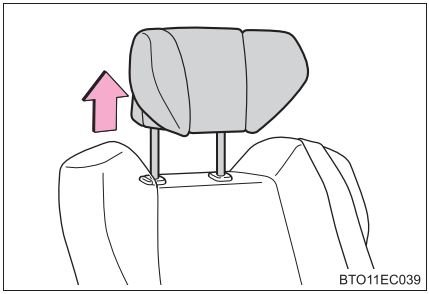


■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる

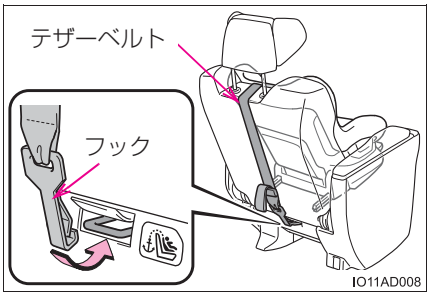
ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。(→ P. 228)



2 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

- バックドアを閉じてください。
- バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

T-Connect DCM 単体★

ここでは、T-Connect DCM 単体について記載しています。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、システムが異なりますので、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

T-Connect について

車両に搭載された通信機器により、「安心・快適・便利」な車向け情報サービスをご利用いただけます。

■ サービス

サービス	ページ
ヘルプネット	P. 74
マイカー Security	P. 89
リモートメンテナンスサービス	P. 93

※ T-Connectナビを装着されているお客様は、上記のサービスの他にT-Connectの様々なサービスがご利用いただけます。
販売店オプションのナビゲーションシステムは、製品に添付の取扱説明書を参照してください。

■ T-Connect のご契約

T-Connect DCM 単体	通信機器
	通信モジュール（DCM）
利用料金	初度登録日から 3 年無料 ※1 4 年目以降は有料 ※2
必要な手続き	トヨタ販売店または、Web サイト（https://tconnect.jp）もしくは T-Connect スマホアプリにて T-Connect の利用申し込み

※1 無料期間：T-Connect 初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までとなります。
無料期間内にいったん解約した場合でも、初度登録日から初回の 36 カ月点検（車検）月の末日までは無料となります。

※2 利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）でご確認ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

掲載の情報は、2018 年 1 月現在のサービスです。サービス内容は変更する場合がありますのであらかじめご了承ください。

最新のサービスは、T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）でご確認ください。

■ 通信モジュール（DCM）について

T-Connect は、通信モジュール（DCM）を利用して、データ通信を行います。

通信モジュール（DCM）は通信アンテナを使用します。

通信アンテナは、ルーフ後部とインストルメントパネルに内蔵されています。

■ 通信モジュール（DCM）の消耗品について

エアバッグ作動による自動通報を補助するため、ヘルプネット専用補助バッテリーを搭載しています。このバッテリーの電池は一次電池であり、充電することはできません。

寿命による交換時期は、ヘルプネットボタンの表示灯（赤点滅）でお知らせします。また、エアバッグ作動による自動通報を実施した際は、安全のため交換をお願いします。

ヘルプネット専用補助バッテリーの交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■通信モジュール（DCM）について

- 通信モジュール（DCM）は、電波法および電気通信事業法の基準に適合しています。
- 通信モジュール（DCM）を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。
- フリー / オープンソースソフトウェア情報について
  - ・通信モジュール（DCM）はフリー / オープンソースソフトウェアを含んでいます。
    このようなフリー / オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。
    http://www.globaldenso.com/en/opensource/dcm/toyota/

■データ通信時の留意事項

T-Connect は、データ取得時に通信を行います。
次の点をご理解の上、正しくお使いください。

●通信方式は、KDDI 株式会社の LTE 方式です。
サービスエリアは同社サービスエリア図をご参照ください。
なお、通信状況はさまざまな要因で変動します。必ずしもサービスエリア内にいれば、常に通信が可能というわけではありません。

●次のような通信環境では、データ通信できない場合があります。

・トンネルの中にいるとき
・地下駐車場にいるとき
・山奥などの通信圏外にいるとき
・回線が混雑しているなど、発信規制中のとき

●T-Connect はデータ取得に通信を利用するため、通信環境の整わない状況では通信を利用するサービスはすべて利用できません。

●この先、通信事業者にて通信に使用する電波が変更もしくは打ち切りになった場合、T-Connect が使用できなくなります。
（その場合には事前にご連絡します）

■データ通信料金とデータ取得の時間について

●通信モジュール（DCM）でのデータ通信に関する通信料金は
T-Connect 利用料金に含まれています。

●データ取得までの時間は、車載機の状態やデータの内容、電波状態によって異なります。

警告

■T-Connect をご利用になるときは

安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。
走行中の操作はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。車を停車させてから操作をしてください。

■ペースメーカーやその他の医療用電気機器をお使いの方は

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、T-Connect をお使いになる前に、医師や医療用電気機器の製造事業者などに個別にご相談ください。

T-Connect の利用開始操作

■ T-Connect の利用開始操作をする前に

T-Connect の利用開始操作をする前に、トヨタ販売店にて、申込みが必要です。

トヨタ販売店にお越しになれないお客様は、ホームページまたはT-Connect スマホアプリからもお申込みいただけます。

● URL：https://tconnect.jp

● QR コード：

「QR コード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

＜用意するもの＞

● 車検証

● メールアドレス
（パソコン、スマートフォン、携帯電話のもの）

一部のサービスは T-Connect スマホアプリを使用します。ご利用の際は、T-Connect スマホアプリのインストールとログインを実施してください。

■ パソコンまたはスマートフォンをお持ちのお客様へ

T-Connectの利用開始操作を実施する前にT-Connectユーザーサイト、または T-Connect スマホアプリでログインすることで、T-Connect の利用開始操作後に契約状況を確認することができます。

■ T-Connect の利用開始操作をする

1 できるだけ見晴らしの良い場所に車を駐車する

ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 手動保守点検を行い、次の点を確認する（→ P. 77）

・ 通信が正常に始まる
・ 通話ができる
・ 通報位置が正しい（ヘルプネットセンターとの通話で確認）

手動保守点検を実施する前に、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯している場合、前契約者の解約手続きが完了していません。T-Connect サポートセンターにご連絡ください。

3 手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅から点灯に変わり、赤の表示灯が消灯していることを確認する（→ P. 79）

・ ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない、または点灯しているにもかかわらず、赤の表示灯が点滅しているときは、一度パワースイッチを OFF にして、再度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてしばらくお待ちください。赤の表示灯が点滅または点灯した場合は、再度、手動保守点検を実施してください。
・ 手動保守点検が正常に終了しなくても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯することがあります。このとき、緊急通報できないことがあるため、トヨタ販売店にご相談ください。
・ ヘルプネットの利用開始操作 ※ が正常に完了しないと、ヘルプネットサービスの提供ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

● T-Connect の利用開始操作のお問い合せ先

T-Connect サポートセンター

全国共通・フリーダイヤル

0800― 500― 6200

受付時間　9：00 ～ 18：00（年中無休）

■ T-Connect の解約手続きについて

お車を手放すときなど、T-Connect を解約するときは、次のいずれかの手続きを行ってください。

● パソコンサイトから解約する場合
T-Connect の Web サイトに接続して解約手続きをする
https://tconnect.jp

● サポートセンターから解約する場合
T-Connect サポートセンターに連絡して解約する
T-Connect サポートセンター
全国共通・フリーダイヤル
0800― 500― 6200
受付時間 9：00 ～ 18：00（年中無休）

知識

■ T-Connect の利用契約の継続方法について

● T-Connect は、契約の更新日が近付くと、トヨタコネクティッド（株）より案内を送付します。

● 利用契約の継続／停止は T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）から手続きができます。

警告

■T-Connect の利用開始操作について

●次のように、関連機器が正常に動作しないとき、緊急時にヘルプネットセンターへ正しい情報が伝わらず、救援困難となる可能性があります。

・通信が始まらない
・通報位置とヘルプネットセンターの位置表示が違う
・通話できない

●T-Connect の利用開始操作は途中で中断せず、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯し、赤の表示灯が点滅または点灯しないことを確認するまで実施してください。赤の表示灯が点滅または点灯した場合は、再度手動保守点検を実施してください。
パワースイッチを OFF にして中断したときは、基本的にヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときはトヨタ販売店にご相談ください。

●ヘルプネットの利用開始操作 ※ 時の手動保守点検が正常に動作しなかったときは、緊急通報できないことがあり危険です。手動保守点検時に関連機器が正常に動作しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●手動保守点検後、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しないとき、緊急通報は動作しません。ヘルプネットの利用開始操作中に、手動保守点検が正常に動作しても緑の表示灯が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてしばらくお待ちください。それでも緑の表示灯が正常に点灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）

ヘルプネット（エアバッグ連動タイプ）は、交通事故発生時や急病などの緊急事態発生時に、自動またはボタン操作でヘルプネットセンターに電話し、車内からの通報を補助するシステムです。

ヘルプネットは、警察や消防への緊急通報サービスです。ロードサービスへの取り次ぎは行いません。

■ サービス開始と解約について

ヘルプネットは、ヘルプネットボタンの操作によるヘルプネットの利用開始操作※が完了すると利用できます。（→ P. 71）

ヘルプネットボタンなどが正常に動作するか確認してください。この確認を行わないと、ヘルプネットサービスの利用ができません。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

ヘルプネットを解約したいときは、T-Connect を解約すると、同時に解約されます。

ヘルプネットは（株）日本緊急通報サービスの登録商標です。

■ 緊急通報について

緊急通報は、ヘルプネットの利用開始操作の完了後に利用できる機能です。

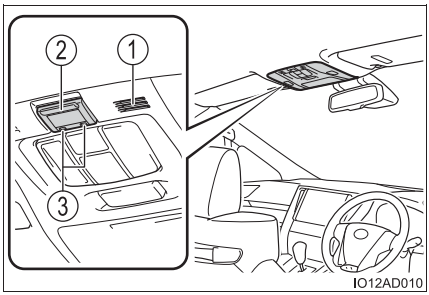
▶ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報します。

▶ ボタン操作による手動通報

乗員がヘルプネットボタンを押すと、ヘルプネットセンターに通報します。

◆ 各部の名称とはたらき



① マイク

緊急通報中や手動保守点検中のハンズフリー通話時に使用します。

② ヘルプネットボタン

ボタン操作による手動通報をするとき、手動保守点検をするとき、またはヘルプネットの利用開始操作をするときに押します。

③ 表示灯

赤と緑の表示灯の点灯の組み合わせにより、機器の故障、緊急通報中などシステムの作動状況をお知らせします。（→ P. 79）

◆ 緊急通報をする

■ エアバッグ作動による自動通報

エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、自動的にヘルプネットセンターに通報されます。

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 エアバッグ作動時など、お車に一定以上の衝撃が加わると、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

エアバッグが作動しなくても、事故の形態によっては通知を開始する場合があります。

2 ヘルプネットセンターに車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

3 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

お客様からの応答が無い場合には意識不明と判断し、オペレーターがお客様に代わって速やかに救急車の手配を要請します。

4 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

5 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断を行う

6 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

7 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

8 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

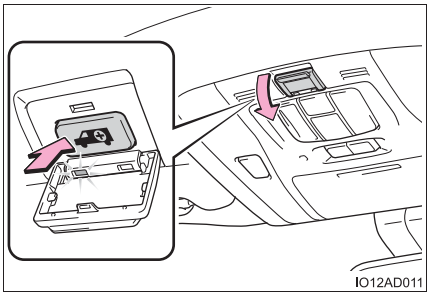
■ ボタン操作による手動通報

急病などの緊急事態発生時、車内からヘルプネットセンターへ通報するときにボタン操作をすることで緊急通報ができます。

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき、ヘルプネットボタンを押すと緊急通報が始まります。あとは音声案内やヘルプネットセンターのオペレーターの指示に従ってください。

1 ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯していることを確認する

2 ヘルプネットボタンのカバーを開き、ヘルプネットボタンを押す



3 ヘルプネットセンターへ接続を開始し、緊急通報が開始される

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し、システムが作動していることを知らせ、音声案内が流れます。

4 ヘルプネットセンターにデータ通信を行い、車両の位置などが送信され、データ通信完了後、通話モードになる

5 ヘルプネットセンターのオペレーターに、状況やけがの状態、警察または消防などへの通報の要否を伝える

手動通報時には、通話にて状況を直接オペレーターにお知らせください。

6 警察または消防への通報が必要なときは、ヘルプネットセンターが警察または消防に接続する

7 通話が終了すると、ヘルプネットセンターが電話回線の切断をする。

8 通話終了後、約 30 分間は、ヘルプネットセンターおよび救援機関からの電話による問い合わせのため、呼び返し待機状態になる。このあいだにかかってくる電話は、自動的にハンズフリー通話でつながる。

緊急通報終了後約 30 分間の呼び返し待機状態で電話がかかってくると、さらに約 30 分間、呼び返し待機状態が延長されます。このあいだにかかってくる電話は自動的にハンズフリー通話でつながります。

9 呼び返し待機状態が終了すると、ヘルプネット作動が完了する

ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅表示を終了します。

10 車内および車外の状況に応じて二次災害を防ぎながら、最も安全な処置をして救援を待つ

◆ ヘルプネットの保守点検をする

■ 自動保守点検について

自動保守点検は、定期的に自動で実施される保守点検です。お客様が会員登録されているかを、ヘルプネットセンターが確かめます。

自動保守点検を行うための特別な操作は、必要ありません。

● 点検時期

（株）日本緊急通報サービスが定める期間ごとに行われます。

● 点検時間

開始後 1 ～ 2 分で終了します。

■ 手動保守点検を実施する

手動保守点検は、お客様ご自身が手動で実施する保守点検です。

手動保守点検では、次の保守点検を実施します。

● 関連機器の保守点検（関連機器修理点検や車両修理後の保守点検）

● ヘルプネットセンターに会員登録されているかの確認（加入時、契約内容変更時）

1 できるだけ見晴らしの良い場所に車を駐車する

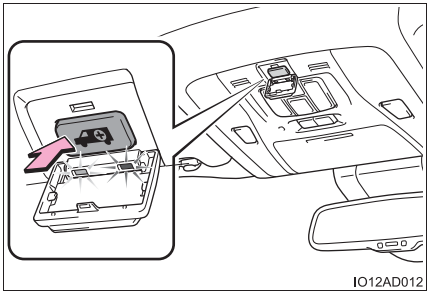
ビルの谷間や工場などの屋内は避けてください。

2 ヘルプネットボタンのカバーを開く

3 パワースイッチを OFF にする

4 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする

5 ヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯がともに点灯したら、すぐにヘルプネットボタンを押し、音声案内が流れるまで押し続ける



6 ヘルプネットセンターに接続が開始される

手動保守点検が開始されると、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し始め、音声案内が流れます。ボタンから指を離してください。

7 ヘルプネットセンターに接続すると、最初にデータ通信を行い、以下の確認が実施される

・ 車両の現在地
・ 手動保守点検をしていること
・ ヘルプネットセンターに会員登録されていること

8 データ通信完了後、通話モードになる

9 ヘルプネットセンターと通話する

ヘルプネットセンターの応対は、自動音声で行われます。自動音声で車両の現在地の確認後に、名前を聞かれます。「ピー」と鳴ったら、お客様の名前を話してください。自動音声で名前をくり返したのち、緊急通報可能であることをお知らせし、通話が終了します。

10 通話の終了後に点検を終了する

緑の表示灯は点滅を終了します。

◆ ヘルプネットボタンの表示灯について

ヘルプネットシステムはシステムの作動状態をヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯でお知らせします。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
点灯	消灯	動作中のとき（KDDI サービスエリア内）	緊急通報を利用できます。
		自動保守点検中のとき	緊急通報を利用できます。
消灯	点灯	動作中のとき（KDDI サービスエリア外）	緊急通報できません。KDDI サービスエリア内に移動して使用してください。
		関連機器に異常があるとき（KDDI サービスエリア内）	KDDI サービスエリア内でいつまでもこの表示が続くときは機器の故障が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
点滅	消灯	緊急通報中のとき	緊急通報が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検中のとき	手動保守点検が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作中のとき	T-Connect の利用開始操作が終了しても表示が変化しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

表示灯		動作状態	対処法
緑	赤		
消灯	点滅	緊急通報が正常に行えなかったとき	約10秒後に表示が変化します。再度緊急通報するか、最寄りの公衆電話などから通報してください。(→ P. 76)
		何度試行しても自動保守点検が正常に行えなかったとき (KDDI サービスエリア外)	KDDI サービスエリア内に移動して、手動保守点検をしてください。(→ P. 77) それでも表示が続く場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
		手動保守点検が正常に行えなかったとき	KDDI サービスエリア内に移動してから、再試行してください。(→ P. 77)
		関連機器に異常があるとき	いつまでも正常な表示に戻らないときは、機器の異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。
		ヘルプネット専用補助バッテリーの寿命が切れたとき	トヨタ販売店で交換してください。
点灯	点灯	パワースイッチを ON モードにしたとき(約 5 秒間)	20 秒以上続くときは、機器の異常が考えられます。トヨタ販売店にご相談ください。
		関連機器に異常があるとき	
消灯	消灯	ヘルプネットサービスの契約が切れているとき	ヘルプネットの利用開始操作※を行ってください。 (→ P. 71)
		関連機器が動作していないとき	パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしてもこの状態が続くときは、トヨタ販売店にご相談ください。
		T-Connect の利用開始操作をしていないとき	T-Connect の利用開始操作を行ってください。 (→ P. 71)

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

◆ 故障とお考えになる前に

本機が正常に作動しなくなったときは、次の内容を確認してください。表に従って対処しても作動しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。また、万一異常が発生したときは、必ずトヨタ販売店に修理をご依頼ください。

症　状	考えられること	処　置
ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しない	T-Connect の利用開始操作を完了していない。	T-Connect の利用開始操作を行ってください。(→ P. 71)
緊急通報できない	パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにした直後の点検中である。	緑の表示灯が点灯するまで待ってから、ヘルプネットボタンを操作して通報してください。(→ P. 76)
	電波状態が悪い。	電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→ P. 77)
	KDDI のサービスエリア外で使用している。	
	携帯電話回線が混雑している。	しばらくしてから、または電波状態の良好な場所に移動して、手動保守点検を実施してください。(→ P. 77)
パワースイッチを OFF にしても、ヘルプネットボタンの緑の表示灯が点滅し続けている	緊急通報中である。	「緊急通報を、終了しました」という音声案内が流れてから約 30 分経過するまで待って、緑の表示灯の点滅が終了することを確認してください。
ハイブリッドシステム始動後、ヘルプネットボタンの表示灯が両方共に点灯しない	T-Connect 利用契約が完了していない。	T-Connect の利用開始操作を行ってください。(→ P. 71)

知識

■ヘルプネットについて

●いたずらなどで緊急車両などが出動したとき、該当費用に関しての請求をされたり、関連法規により処罰されることがあります。いたずらをしないでください。

●事故発生時以外でも、エアバッグが開いたときには自動通報します。このようなときには、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。

●ヘルプネットボタンの表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、解約時の処理をしていない中古車などに搭載された通信モジュールを使用するときは、サービスの利用契約をしていない状態でも緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報について

●緊急通報中に音声案内が流れている間は、通話することができません。音声案内が終わったら、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話して、状況をお知らせください。

●誤操作などでヘルプネットセンターに接続されたときは、車両から通信または通話を終了することができません。終了する場合には、ヘルプネットセンターのオペレーターに理由を告げて通報を終了してください。なお、オペレーターとの通話中に電波状態の悪化によって回線が切断されることがあります。

■緊急通報できない場合について

以下のようなときには、ヘルプネットサービスが提供できない、またはヘルプネットサービスに支障が出ることがあります。

●T-Connect 利用契約の不成立または消滅

・未登録の場合
・利用契約を解除した場合

●ヘルプネット利用登録の不成立

・ヘルプネットの利用開始操作※を完了していない場合
・登録情報が更新されていない場合

※ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●関連機器の異常による通信不能

・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナおよびこれらを接続する電気配線など）の故障
・バッテリーの電圧低下など、関連機器の故障・消耗など
・車両の衝突・横転時の衝撃や車両火災などによる、関連機器の損傷

●緊急通報センターシステムの位置評定エラー

・GPS のシステムの異常、トンネルや建物の密集地、フェリー降船後などで GPS での位置演算の誤差が大きいときなど、位置評定が正常に行われない、または誤差が大きいとき
（ヘルプネットは、T-Connect DCM 単体でご利用の場合は、TEL メインアンテナで GPS 測位した情報、販売店オプションのナビゲーションシステム接続時は、ナビゲーションシステムが GPS アンテナで測位した情報から位置情報を取得しています。）

●ヘルプネットセンター／トヨタスマートセンターの異常による通信不能

・センターシステムの故障など
・センターの火災などによる、センターシステムの損傷

●ヘルプネットで利用する通信網に起因する通信不能

・本サービスに使用する KDDI サービスエリア外に、登録車両が位置するとき
・本サービスに使用する KDDI サービスエリア内であっても、電波の受信状態が悪く、結果として通信ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）が著しく混雑しているなど、通話利用もしくは通話時間が制限され、結果としてヘルプネットによる通信ができないとき
・本サービスに使用する通信事業者が大規模災害などにより通話が制限され、結果としてヘルプネットによる通話ができないとき
・本サービスに使用する携帯電話網または一般公衆固定網（中継網を含む）のサービスが事故、保守、工事などのため中断または休止されたとき

●緊急通報事業者の都合によるサービス提供の中断または休止

・センターシステムの保守を、定期的にまたは緊急に行う必要があるとき
・大規模な事故や災害により、一時的に緊急通報がセンターに集中したとき

●その他の要因

・手動通報で、ヘルプネットセンターからの問いかけに対して、通報者から応答が無く、ヘルプネットセンターとして状況把握ができないとき（手動通報後に容体が悪化した、強盗や暴漢に襲われたなど）

警告

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●安全運転を心がけてください。本システムは、交通事故や急病時などの救援通報を補助するものであり、乗員保護の機能を持つものではありません。乗員保護のために、乗員はシートベルトを着用し、安全運転を心がけてください。

●緊急事態が発生したときは、人命救助とけが人の対処を最優先にしてください。

●緊急事態発生により燃料の匂いや異臭を感じるときは、車内にとどまらずにただちに安全な場所に避難してください。

●ヘルプネットの利用開始操作※は契約者ご本人が実施し、ヘルプネットボタンの表示灯が緑点灯／赤消灯（KDDI サービスエリア内）していることを必ず確認してください。

※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。

●本システムは衝撃などによって、作動しなくなることがあります。このようなときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●バッテリーの電圧低下または接続が断たれたとき、ヘルプネットセンターと通信できないことがあります。

●KDDI サービスエリア内であっても電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話が困難になることがあります。この場合は、ヘルプネットセンターと回線接続しても、ヘルプネットセンターと通信できず、救援要請の通報および通話ができません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

●事故発生時、エアバッグが作動せず、車両へ強い衝撃が加わっていないときは自動通報されません。また、エアバッグが作動しても通報されないことがあります。このようなときにはボタン操作による手動通報をしてください。

警告

- 次のときは緊急通報できません。緊急通報できないときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
  - ・KDDI サービスエリア外で使用している
  - ・関連機器（ヘルプネットボタンおよび表示灯、マイク、スピーカー、通信モジュール、アンテナ、およびこれらを接続する電気配線など）に異常または損傷があり、故障している
  - ・T-Connect が未契約、または契約期限が切れている
  - ・ヘルプネットの利用開始操作 ※ を実施していないため、緊急通報可能状態になっていない

  ※ ヘルプネットの利用開始操作は必ず契約者ご本人が実施するようにしてください。
- 緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などの理由で回線接続ができないときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。
- 緊急通報後に救援を待つあいだは、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。
- 安全のため、走行中は緊急通報をしないでください。走行中の通報はハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。緊急通報は、停車して安全を確認してから行ってください。
- T-Connect を解約してもヘルプネットボタンの緑の表示灯が点灯しているときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- ヒューズ交換は、必ず表示された規格のヒューズをご使用ください。規定以外のヒューズを使用すると、発煙、発火の原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。
- 煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■緊急通報について

●呼び返し待機中は、後続車の追突などの二次災害を防ぐ手段をとり、乗員は安全な場所へ避難してください。基本的には車内にとどまらず、窓を開け、ヘルプネットセンターのオペレーターの声が聞こえる車外で、安全な場所を確保してください。

●呼び返し待機中は、緊急通報に関係のない着信も自動的にハンズフリー通話でつながります。通話中は救援活動に関わる着信であっても、着信できません。

●緊急通報できなかったときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

・KDDI サービスエリア外では緊急通報できません。
・KDDI サービスエリア内であっても、電波状態または回線混雑のために、緊急通報や通話することが困難になることがあります。このときは、ヘルプネットセンターと回線接続しても通信できず、救援要請の通報および通話ができません。
・緊急通報時は、ヘルプネットセンターへの回線接続をくり返し行います。ただし、電波状態などにより回線接続ができないときには、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅し、通報しないまま緊急通報を終了します。通報が必要なときには、最寄りの公衆電話などから通報してください。

■手動保守点検について

●手動保守点検の途中で、パワースイッチを OFF にしないでください。手動保守点検が正しく終了しません。スイッチを OFF にしてしまったときは、再度、手動保守点検をやり直してください。

●手動保守点検を実施するときは、途中で中断せず、最後まで完了してください。途中で中断したときは、手動保守点検が失敗となるためヘルプネットボタンの緑の表示灯は点灯しません。それでも点灯したときは緊急通報できない可能性があるため、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■ヘルプネットボタンの表示灯について

●表示灯が次のときには、ヘルプネットシステムに異常があることをお知らせしています。これらの異常表示がされたとき、システムが正常作動せず緊急通報できないことがあります。ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

・ハイブリッドシステム始動後にヘルプネットボタンの赤と緑の表示灯が約 5 秒間点灯したあと、赤の表示灯が点滅し続ける
・ハイブリッドシステム始動後、赤と緑の表示灯の点灯がいつまでも続く
・KDDI サービス圏内にもかかわらず赤の表示灯がいつまでも続く
・ハイブリッドシステム始動後に赤と緑の表示灯が点灯しない

●表示灯は、緊急通報可能または不可能状態を正しく表示しないことがあります。例えば、利用契約の解除を行っていない中古車などに搭載された関連機器を使用するときは、サービスの利用契約を結んでいない状態においても緊急通報可能状態として表示することがあります。

■緊急通報できないときは

緊急事態発生時に緊急通報できないときは、最寄りの公衆電話などから通報してください。

注意

■ヘルプネットについて

ヘルプネットボタンなどに液体をかけたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
ヘルプネットボタンなどが故障すると、緊急通報ができなくなったり、システム状態を正確にお知らせすることができなくなります。ヘルプネットボタンなどが故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

⚠注意

■ヘルプネットを安全にご利用いただくために

●本機内部は精密な構造になっています。無理に分解しようとすると、故障の原因になります。万一、異常などがあるときには、すぐにトヨタ販売店にご相談ください。

●関連機器などの取りはずしをすると、接触不良や機器の故障などを引き起こし、緊急通報ができなくなることがあります。取りはずしが必要なときには、トヨタ販売店にご相談ください。

●緊急通報および手動保守点検時は、スピーカーまたはマイクに故障などがあると、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話ができません。これらの機器が故障したときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●以下の温度範囲以外では、緊急通報が正常に動作しないことがあります。そのときは、最寄りの公衆電話などを使用してください。
動作温度範囲：－ 20 ℃～ 60 ℃

●実際の通報地点とヘルプネットセンターに通報される位置には、誤差が発生することがあります。通報地点や目標物は、ヘルプネットセンターのオペレーターと通話で相互確認してください。

●呼び返し待機状態で火災発生などの危険がある場合、および車外に避難するときは、パーキングブレーキをしっかりかけて、パワースイッチを OFF にしてください。

■自動保守点検について

自動保守点検開始後、何らかの理由で通信が中断されてしまったときは、次にパワースイッチを OFF からアクセサリーモードまたは ON モードにしたときに、再び自動保守点検を開始します。何度も正常に終了しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■手動保守点検について

手動保守点検は見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検は、正確に位置情報を送ることができることを確認しています。手動保守点検はビルの谷間や工場などの屋内は避け、GPS を受信できる見晴らしのよい場所で行ってください。

●手動保守点検開始後、何らかの理由でヘルプネットセンターとの接続ができなかったときは、ヘルプネットボタンの赤の表示灯が点滅します。このときはパワースイッチを一度 OFF にして、赤の表示灯の点滅が終了してから手動保守点検をやり直してください。KDDI サービスエリア内でやり直しても接続されないときには、トヨタ販売店にご相談ください。

マイカー Security

マイカーSecurity は、ドアの不正な解錠などオートアラームの作動を検知した場合、異常をメールや電話でお知らせします。また、車両盗難時はお客様の要請により、車両の位置を追跡し、警備員を現場に派遣します。

◆ マイカー Security の内容

- アラーム通知（→ P. 91）

  お車のオートアラーム作動を検知した場合、お客様へメールと電話でお知らせします。

- エンジン始動通知（→ P. 92）

  エンジンの始動を検知し、メールでお知らせします。

- 車両の位置追跡（→ P. 92）

  お客様の要請により、盗難車の位置を追跡します。

- 警備員の派遣（→ P. 92）

  車両盗難や車上荒らしの際、お客様の要請により、警備員を派遣します。

詳しくは、T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）をご覧ください。

◆ 設定内容を確認・変更するには

アラーム通知、エンジン始動通知の設定の確認・変更は T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）、または T-Connect スマホアプリから行えます。

それぞれの設定画面から実施してください。

サポートアドレスにメールアドレスの登録がない場合は、通知されません。
T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）、または T-Connect スマホアプリからサポートアドレスを登録してください。

サービス名	通知方法	設定	
アラーム通知	電話	設定中※	解除中
	E メール	設定中※	解除中
エンジン始動通知	E メール	設定中	解除中※

設定中.....通知します

解除中.....通知されません

※ 納車時の設定

◆ アラーム通知★

ドアの不正な解錠、車内侵入などによりオートアラーム作動を検知した場合、サポートアドレスに登録してあるメールアドレス・電話番号に通知します。

アラーム通知の設定・解除を行うことができます。（→ P. 90）

- 車外に出たあと、ドア・バックドア・ボンネットを閉め、全てのドアをロックしたあと、30 秒以上経過すると自動的にオートアラームが設定されます。
- アラーム通知の連絡を受けたとき、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→ P. 92）／警備員の派遣（→ P. 92）サービスをご利用ください。
- バッテリーがあがった場合、アラーム通知は行われません。
- 車両の室内温度が非常に高いとき、アラーム通知の送信が行われないことがあります。
- 通信環境が整わない状況等によりアラーム通知の送信が行われない場合、送信が完了するまで継続されます。
- アラーム通知が未送信状態で、アラームが複数回作動した場合は、最新のアラームを通知します。
- ヘルプネット通報中は、通報が終わるまで、アラーム通知は行われません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ エンジン始動通知

ハイブリッドシステムの始動を検知し、サポートアドレスに登録してあるメールアドレスに通知します。

お車から離れるとき、スマートフォンなどから設定しておくと、第三者によるハイブリッドシステム始動を確認できます。

エンジン始動通知の設定・解除を行うことができます。（→ P. 90）

- エンジン始動通知の連絡を受けたとき、車両から遠く離れていたり車両が盗難にあったりしていた場合は、車両の位置追跡（→ P. 92）／警備員の派遣（→ P. 92）サービスをご利用ください。
- オプション設定で、エンジン始動通知の連絡を受けたあと、パワースイッチが OFF になったことを検知し、通知することができます。

◆ 車両の位置追跡

お客様の要請により、オペレーターが盗難車両の位置を追跡します。

ご利用の際はオペレーターサービスにご連絡ください。

オペレーターサービス専用電話番号

0561 － 57 － 6818（365 日 24 時間対応）

◆ 警備員の派遣

お車が盗難にあったり、オートアラーム作動を検知した場合にお客様の要請により、警備員を現場に派遣します。

ご利用の際はオペレーターサービスにご連絡ください。

オペレーターサービス専用電話番号

0561 － 57 － 6818（365 日 24 時間対応）

- 警備員が出動してから 1 時間以内は無料です。1 時間をこえる場合は、オペレーターから延長するかどうかの確認を行います。
  延長した場合の利用料金は、トヨタ販売店または T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）でご確認ください。
- 警備員は盗難車両の確保はいたしません。追跡調査のみ行います。
- 警備員の派遣を依頼するときには、警察への被害届けが必要となります。

知識

■マイカー Security について

●マイカーSecurity では、車両の異常を検知した場合、サポートアドレスに登録されている電話番号やメールアドレスに通知します。サポートアドレスに登録されていない場合、通知できませんので、必ずご登録ください。また、連絡先に変更があった場合は T-Connect の Web サイト（https://tconnect.jp）、または T-Connect スマホアプリから変更手続きを行ってください。

●携帯電話／スマートフォンで迷惑メールの拒否設定などをされている場合は、下記の発信元メールを受信できるようにご登録ください。
［登録する発信元メールアドレス］
t-connect.info@mail.tconnect.jp

●メールによる通知には遅延が発生することがありますので、あらかじめご了承ください。

●アラーム通知される番号は発信専用番号となっています。ご連絡の際はオペレーターサービスにご連絡ください。

オペレーターサービス専用電話番号

0561 － 57 － 6818（365 日 24 時間対応）

また、指定着信許可・拒否などの設定をされている場合は、以下の番号を着信できるようご登録ください。
［通知番号］0570-024-111

●マイカーSecurity では車両の位置情報を使用します。本機が起動していない状態で車両が移動された場合、または電波の届かない場所に車両が移動された場合は、位置情報の変化を確認できません。

●T-Connect 利用契約を解除した場合、メールや電話による通知は送信されません。

リモートメンテナンスサービス

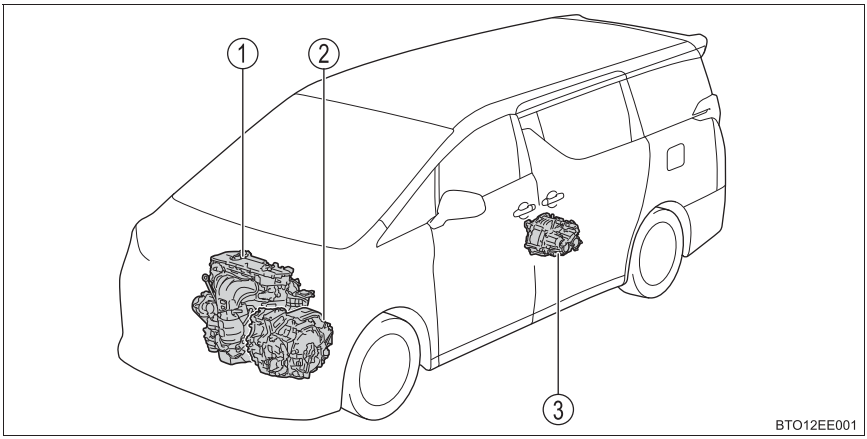
お車の状態に関する情報をトヨタスマートセンターで取得し、カーライフに役立つ情報を提供するサービスです。

■ リモートメンテナンスメール

走行距離や使用期間に応じて、定期点検やオイル交換・タイヤ交換などのメンテナンス内容を、パソコンのユーザーサイト、または T-Connect スマホアプリにメールでご連絡します。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン
② フロント電気モーター
③ リヤ電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※ します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※ し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→ P. 96）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

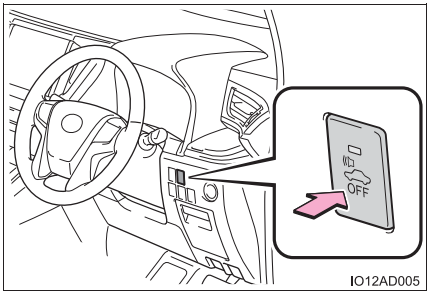
車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。スイッチ操作で消音することもできます。

消音するには、READY インジケーターが点灯している状態で、スイッチを押す

スイッチ上のインジケーターが点灯します。再度スイッチを押すと ON になります。ハイブリッドシステムを始動するごとに、車両接近通報装置は ON になります。



IO12AD005

知識

■回生ブレーキについて

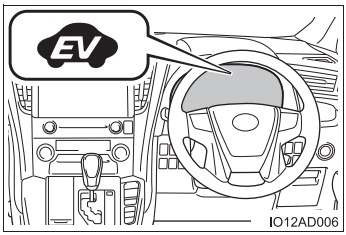
次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーが D または S で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーが D または S で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。

EV インジケーターの作動／非作動を設定できます。（→ P. 136）



IO12AD006

■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 675

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が 2～3 日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて、シフトレバーを P にしてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時にフロントシート足元から聞こえる“コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●駆動用電池冷却用吸入口（→ P. 99）から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理・廃車について

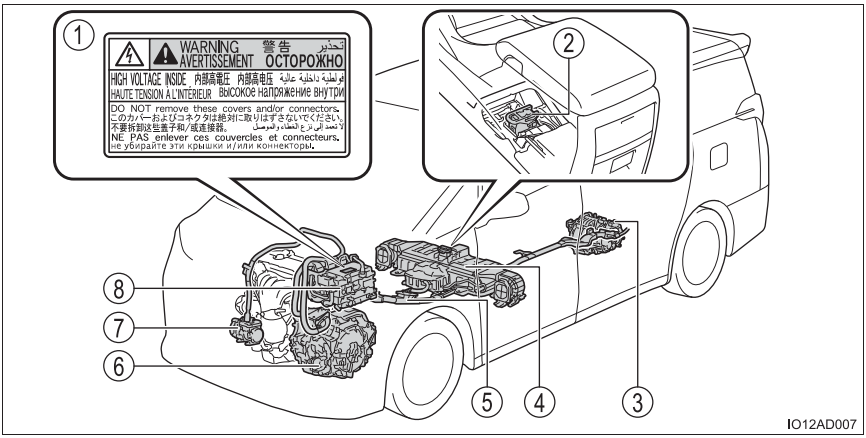
お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■カスタマイズ機能

車両接近通報装置の音量を大きくすることができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 695）

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

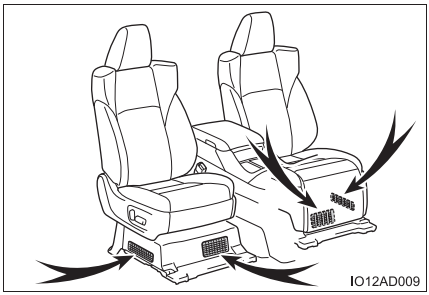


イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ リヤ電気モーター
④ 駆動用電池
⑤ 高電圧ケーブル（オレンジ色）
⑥ フロント電気モーター
⑦ エアコンコンプレッサー
⑧ パワーコントロールユニット

駆動用電池冷却用吸入口

フロントシート左右足元および、左右側面には、駆動用電池冷却用の吸入口がそれぞれあります。吸入口をふさぐと、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。



緊急停止システム

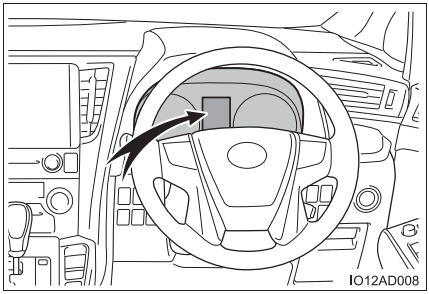
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 633）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 630）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 11.4L です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

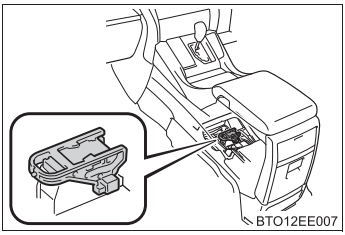
この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
  駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
  水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
  電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 625）
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
  この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

警告

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

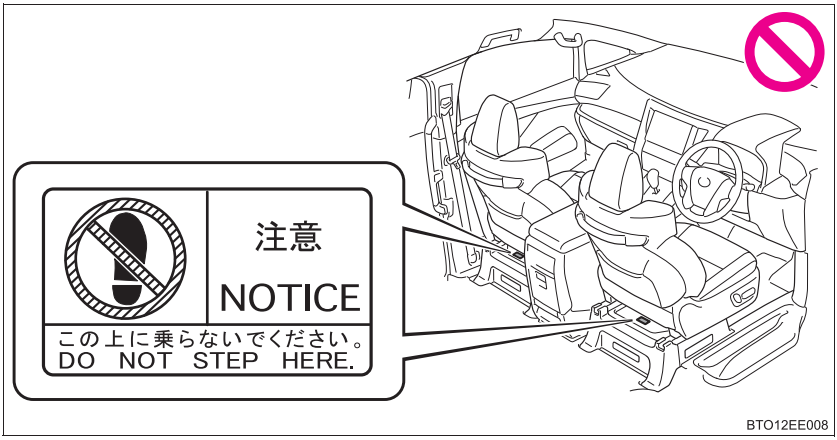
⚠ 注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口をふさぐように荷物などを置かないでください。
  吸入口がふさがれると駆動用電池の過熱、または故障の原因になります。
- 吸入口は、目づまりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
  駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
  誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■フロントシート下のラベルについて

フロントシート下に駆動用電池が搭載されています。
ラベルが貼ってある面に足を乗せたり、荷物を置くなどして荷重をかけたりすると、駆動用電池の冷却効果が十分に得られない場合があり、過熱または故障につながることがあります。



イモビライザーシステム

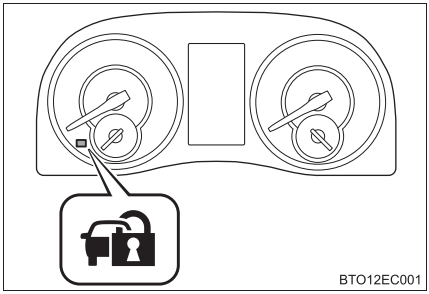
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠、または開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

※ T-Connect DCM 単体をご利用のお客様、または T-Connect DCM パッケージをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合メールや電話でお知らせすることができます。

▶ T-Connect DCM 単体をご利用のお客様

詳しくは、P. 67 を参照してください。

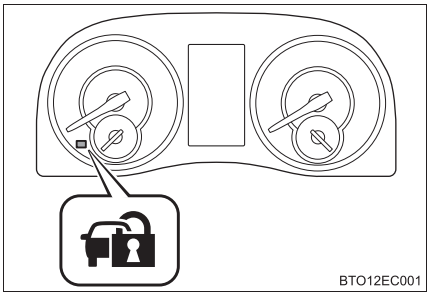
▶ T-Connect DCM パッケージをご利用のお客様

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ T-Connect ／サービスの使い方／マイカー Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア、バックドア、ボンネットを閉めスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたは、バックドアを解錠する
- パワースイッチをアクセサリーモードまたはONモードにするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

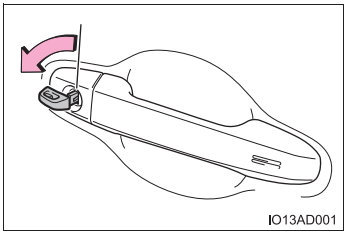
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

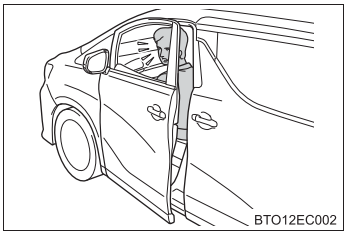
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

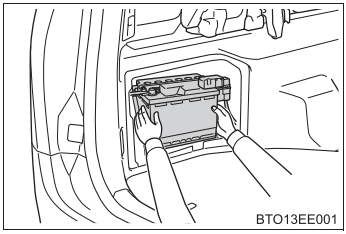
- メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア、バックドア、やボンネットを開けた、またはロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 675）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動した

●アラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠した

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動しないように設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P. 699）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

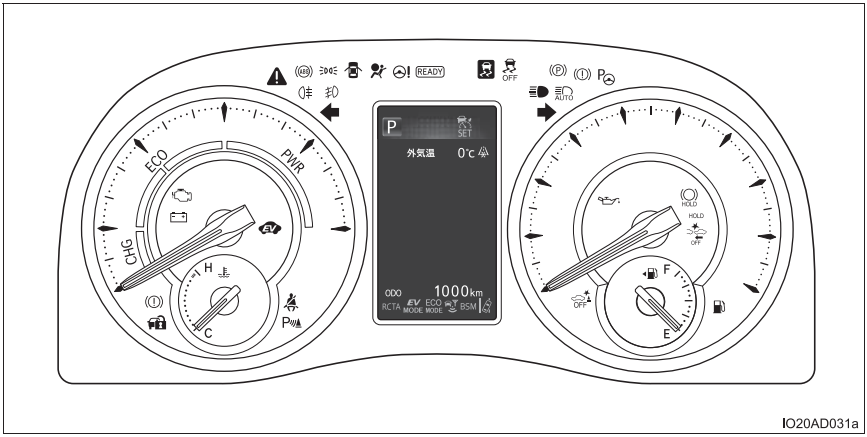
2

2. 計器の見方

警告灯／表示灯 110
計器類 116
マルチインフォメーション
ディスプレイ 121
エネルギーモニター／
燃費画面／ ESPO 画面 140

警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



グレードなどによりメーターの意匠は異なります。

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

※1

（赤色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 628）

※1

（黄色）
ブレーキ警告灯
（→ P. 628）

※1

充電警告灯
（→ P. 628）

※1

エンジン警告灯
（→ P. 628）

※1

SRS エアバッグ／
プリテンショナー警告灯
（→ P. 628）

※1

ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯
（→ P. 629）

※1

（赤色／
黄色）
パワーステアリング警告灯
（→ P. 629）

※1

（点滅また
は点灯）
PCS 警告灯
（→ P. 629）

※1

スリップ表示灯
（→ P. 629）

※1

（点滅）
ブレーキホールド作動
表示灯
（→ P. 629）

（点滅）
パーキングブレーキ
表示灯
（→ P. 629）

※1

（点滅）
PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 630）

半ドア警告灯
（→ P. 630）

燃料残量警告灯
（→ P. 630）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 630）

※1

マスターウォーニング
（→ P. 630）

※2

油圧警告灯
（→ P. 630）

※2

高水温警告灯
（→ P. 630）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※2

ブレーキオーバーライドシステム警告灯／ドライブスタートコントロール警告灯／PKSB警告灯★（→P. 631）

※2

（橙色）
LTA 表示灯（→ P. 631）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 296）

尾灯表示灯
（→ P. 304）

ハイビーム表示灯
（→ P. 304）

フロントフォグランプ
表示灯（→ P. 316）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 316）

READY インジケーター
（→ P. 283）

パーキングブレーキ
表示灯（→ P. 297）

※1

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（→ P. 301）

※1

ブレーキホールド作動
表示灯（→ P. 301）

※1

（点滅）
スリップ表示灯
（→ P. 497）

※1, 2

VSC OFF 表示灯
（→ P. 498）

EV インジケーター
（→ P. 95）

セキュリティ表示灯
（→ P. 104, 105）

※1, 2

PCS 警告灯
（→ P. 337）

オートマチックハイビーム
表示灯★（→ P. 312）／
アダプティブハイビームシステム表示灯★（→P. 308）

クリアランスソナー表示灯
（→ P. 406）

※1, 2

PKSB OFF 表示灯★
（→ P. 422）

※1

インテリジェント
パーキングアシスト 2
表示灯★（→ P. 436）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※3 スマートエントリー&スタートシステム表示灯（→ P. 283）

※3 EV ドライブモード表示灯（→ P. 289）

※3 エコドライブモード表示灯（→ P. 292）

※3, 4 低温表示灯（→ P. 116）

※3, 5 LTA 表示灯（→ P. 350）

※3 レーダークルーズコントロール表示灯（→ P. 361）

※3 クルーズコントロール表示灯（→ P. 361）

※3 クルーズコントロールセット表示灯（→ P. 361）

※3, 6 ITS Connect 通信接続状態表示灯★（→ P. 382）

※3 BSM 表示灯★（→ P. 392）

※3 RCTA 表示灯★（→ P. 392）

※7, 8 BSM ドアミラーインジケーター★（→ P. 392）

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON モードにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイ内に表示されます。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅したあとに点灯します。

※5 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※6 現在の通信状況により、アイコンの意匠がかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※7 作動確認のため、次の条件のときインジケーターが点灯します。

・マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面でBSMの機能をONに設定している状態で、パワースイッチを ON モードにしたとき

・パワースイッチが ON モードの状態で、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で BSM 機能を ON にしたとき

システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

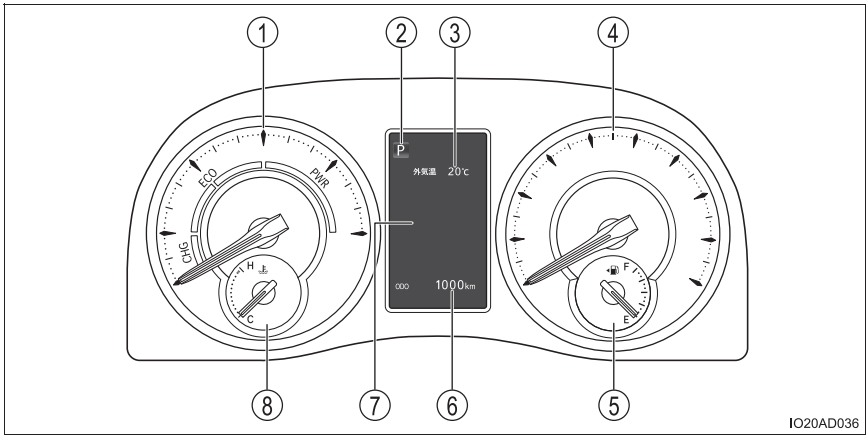
※8 ドアミラーに表示されます。

⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



グレードなどによりメーターの意匠は異なります。

① ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。（→ P. 118）

② シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。
（→ P. 291, 292）

③ 外気温

外気温を－ 40 ℃～ 50 ℃のあいだで表示します。外気温が約 3 ℃以下になると、低温表示灯（→ P. 114）が点灯し、5 ℃以上になると消灯します。

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 121）

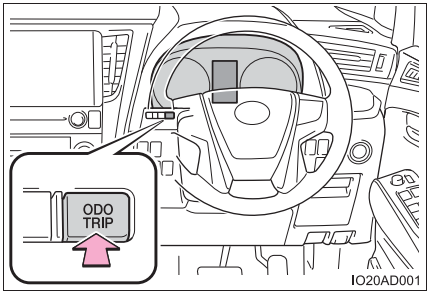
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 633）

⑧ 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。
また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



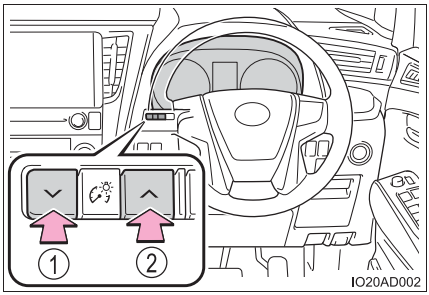
メーター照度調整スイッチ

メーターの明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする

スイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。（→ P. 122）



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■シフトポジション・シフトレンジ表示の背景色について

エコドライブモード（→ P. 292）を選択すると、シフトポジション・シフトレンジ表示の背景色が青色になります。

■メーター照度の切りかえについて

車幅灯が点灯・消灯すると、メーターの明るさが切りかわります。
ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

■ハイブリッドシステムインジケーターについて

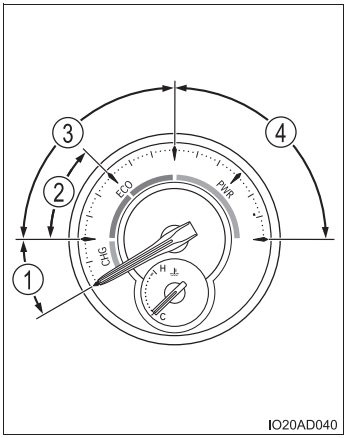
① チャージエリア
回生ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

② ハイブリッドエコエリア
ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア
エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア
全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。



●インジケーターの針をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

●チャージエリアは、回生 ※ 状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

●次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターの作動が停止します。

・READY インジケーターが点灯していないとき
・シフトポジションが D または S 以外のとき

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “ -- ” または “ E ” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■燃料計と航続可能距離（→ P. 126）について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

1 車両を平坦な場所に停車させる

2 ODO TRIP スイッチを押して、オドメーター／トリップメーターの表示をオドメーター表示に切りかえる

3 パワースイッチを OFF にする

4 ODO TRIP スイッチを押したまま、パワースイッチを ON モードにする

5 そのまま約 5 秒間 ODO TRIP スイッチを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために**

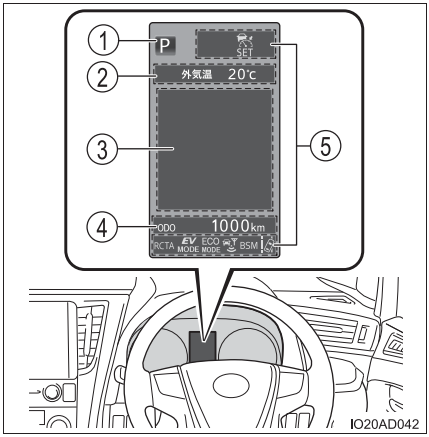
水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または、「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 682）

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、後席の照明や各システムの設定などを変更することもできます。

◆ 画面の見方

マルチインフォメーションディスプレイには、次の情報が表示されます。



① シフトポジション･シフトレンジ表示（→ P. 116）

② 外気温･メニューアイコン表示部

通常は外気温が表示されます。（→ P. 116）

メーター操作スイッチ（→ P. 123）を操作すると、数秒のあいだ、メニューアイコンが表示されます。※（→ P. 124）

③ 情報表示部

ドライブインフォメーション（→ P. 126）や各種のメッセージなどを表示します。

④ オドメーター／トリップメーター表示部（→ P. 117）

パワースイッチを操作してアクセサリーモードまたは ON モードに切りかえると、現在のパワースイッチのモードが表示されます。（→ P. 284）

⑤ 表示灯表示部

各機能の ON・OFF 状態や設定状況などに従って、関連する表示灯類が点灯・消灯します。（→ P. 110）

※ を押したときは、メニューアイコンが表示されません。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■割り込み表示について

次の機能の作動状況に従って、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み画面が表示されます。

- 交差点案内★
- 電話着信★
- S-FLOW 作動状態
- メーター照度調整

これらの機能の割り込み表示が不要な場合は、画面の「割込表示」で OFF に設定することもできます。（→ P. 131）

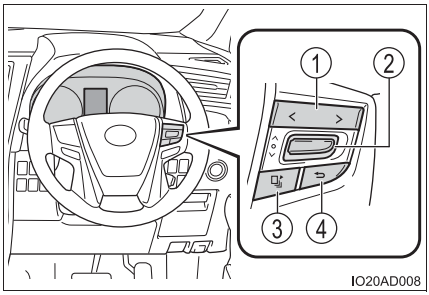
■液晶ディスプレイについて

→ P. 119

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



① メニューの切りかえ ※1

② 上下に操作：
画面の切りかえ・
カーソルの移動 ※1

押す：
決定・次画面へ移動 ※2・
機能の ON ／ OFF※2

③ トップ画面に移動

スイッチを押すと に登録されている画面が表示されます。

④ ひとつ前の画面にもどる

※1 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、操作方向を示すマーク（〈・〉など）が表示されます。

※2 一部の機能のみ

知識

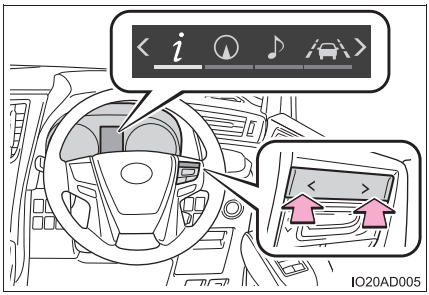
■ トップ画面について

- 工場出荷時は、ドライブインフォメーション画面が登録されています。
- トップ画面を変更するときは、登録したい画面の表示中に を押し続け、 を上下に操作して「はい」を選択し、 を押します。
- 登録できない画面を選択しようとした場合、「この画面は に登録できません」と表示されます。
- 画面の「 スイッチ設定」で、トップ画面の登録方法を確認できます。（→ P. 131）

◆ メニューアイコン

メーター操作スイッチの < > を操作してアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。



ドライブインフォメーション

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 126）

ナビゲーションシステム連携画面★

メーカーオプションのナビゲーションシステム、またはマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）と連携して、方位計などを表示します。
また、ナビゲーションシステムでの目的地案内中に交差点案内が行われると、マルチインフォメーションディスプレイにも交差点案内が表示されます。

目的地の設定・地図の向きの切りかえなどについては、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」、または製品に添付されている取り扱い説明書を参照してください。

オーディオ連携画面★

メーカーオプションのナビゲーションシステム、またはマルチインフォメーションディスプレイとの連携機能に対応した、トヨタ純正ナビゲーションシステム（販売店オプション）を装着している場合、選択されているオーディオソースの情報を表示します。

・オーディオソースを切りかえるには、メーター操作スイッチの を押してオーディオソース選択画面を表示し、 を上下に操作してご希望のオーディオソースを選択してから を押します。
・オーディオソースの変更を中止する場合は、オーディオソース選択画面で を押します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行支援システム連携画面

次のシステムの作動状況を表示します。

・LTA（レーントレーシングアシスト）（→ P. 344）
・RSA（ロードサインアシスト）（→ P. 356）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→ P. 361）
・ITS Connect★（→ P. 380）

後席状態表示画面

リヤエアコンの作動状態、および後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★の開閉状態を確認できます。また、後席の照明に関する設定を変更することもできます。（→ P. 129）

警告メッセージ表示画面

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→ P. 633）

・警告メッセージがないときは、「メッセージなし」と表示されます。
・複数の警告メッセージがあるときは、メーター操作スイッチの を上下に操作することで、表示を切りかえることができます。
・確認可能な警告メッセージがあるときは が黄色で表示されます。

設定画面

車両の機能やマルチインフォメーションディスプレイの表示などに関する設定を変更できます。（→ P. 131）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライブインフォメーション

メーター操作スイッチの を上下に操作することで、画面上に表示される情報を切りかえることができます。

■ ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

次の中から選択した情報を 1 画面ごとに 2 つずつ、ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 として表示することができます。

ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 に情報を登録する方法については、P. 131 を参照してください。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

項目		表示内容
瞬間燃費	バー表示	現在の瞬間燃費をバーグラフで表示します。
平均燃費	リセット間※	前回リセットしてからの平均燃費を表示します。
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。
	給油後	給油後の平均燃費を表示します。
平均車速	リセット間※	前回リセットしてからの平均車速を表示します。
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示します。
走行時間	リセット間※	前回リセットしてからの経過時間を表示します。
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示します。
距離	航続可能距離	現在の燃料残量で走行可能な、およその距離を表示します。（→ P. 127）
	始動後	ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示します。
その他	ブランク	情報を非表示にします。

※ リセットするには、リセットしたい項目の表示中にメーター操作スイッチの を押し続けます。

リセットが可能な情報が 1 画面上に 2 つ表示されているときは、リセットする情報を選択する画面が表示されます。その場合は、 を上下に操作してリセットしたい情報を選択し、 を押します。

その後、「実行」を選択して を押すと、情報がリセットされます。

■ エネルギーモニター

→ P. 140

■ エンジン回転数（タコメーター）

毎分のエンジン回転数を示します。

■ 車速（デジタルスピードメーター）

車両の走行速度を示します。

■ ブランク表示（画面 OFF）

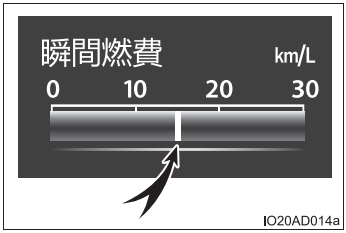
ドライブインフォメーションが非表示になります。

知識

■瞬間燃費について（→ P. 126）

●バーグラフ内の縦線は、現在のリセット間平均燃費（→ P. 126）を表しています。

●リセット間平均燃費をリセットすると、縦線の位置も 0 にもどります。



■航続可能距離について

●運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 119）

●「給油してください」と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。
その場合は、すみやかに給油してください。

■駆動用電池の残量警告について

→ P. 143

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

注意

■**ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために**

タコメーター表示（→ P. 127）の針がレッドゾーン（エンジン許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

後席状態表示画面

リヤエアコン・後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★の状態を確認できます。また、後席の照明の設定を変更することができます。

■ 後席エアコン状態

リヤエアコンに関する、次の情報が表示されます。

- 現在の吹き出し口のモード
- 設定温度
- AUTO 作動の有無
- 風量

リヤエアコンの操作については、P. 523 を参照してください。

■ 後席窓開状態

後席パワーウインドウ・リヤムーンルーフ★が開いているときに、メッセージが表示されます。

■ 天井照明設定

後席の照明類の設定を変更することができます。

1 メーター操作スイッチの を上下に操作してご希望の項目を選択し、 を押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

2 設定画面で を上下に操作してご希望の設定を選択し、 を押す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	設定結果
照度調整	消灯	ルーフカラーイルミネーションが消灯する
	100%	ルーフカラーイルミネーションの照度が切りかわる ※
	75%	
	50%	
	25%	
照明色切替	照明色 1 ～ 16	ルーフカラーイルミネーションの照明色が切りかわる ※
パーソナルランプ ★	消灯	・すべてのパーソナルランプが消灯する ・ラウンジモードが解除される
	ラウンジモード（→ P. 533）	リヤパーソナルランプがラウンジモードに切りかわる

※ ルーフカラーイルミネーションの消灯中に「照度調整」または「照明色切替」の設定操作を行うと、設定した照度・照明色で、ルーフカラーイルミネーションが点灯します。

知識

■後席の照明について

後席の照明の設定は、それぞれの照明の操作スイッチで変更することもできます。（→ P. 532, 535）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定画面

メーター操作スイッチで、車両の設定や画面の表示内容などを変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 メーター操作スイッチの < > を操作して を選択する

2 メーター操作スイッチの を上下に操作して設定を変更したい項目を選択し、 を押す

機能のON ／ OFF や機能の感度レベルなどを設定する項目では、 を押すたびに機能の ON ／ OFF、または調整レベルが切りかわります。

機能の作動内容や表示内容などを設定できる項目では、設定画面が表示されます。

3 設定画面が表示されたときは、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定する ※

作動内容や設定値などを選択する項目では、ご希望の設定を選択、または値を設定したあと、 を押します。

設定を中止する場合は、 を押します。

設定の実行を確認する画面が表示された場合は、実行か中止を選択の上、 を押します。

※ 設定項目の種類によっては、項目を選択すると、さらに次の設定画面が表示される場合があります。

■ 設定項目一覧

項目	設定内容		設定結果
LTA	センタートレース	有	車線維持支援機能の有無が切りかわる（→ P. 349）
		無	
	操舵支援	有	操舵支援の有無が切りかわる（→ P. 348）
		無	
	警報感度		車線逸脱警報機能の感度が切りかわる（→ P. 137）
	ふらつき検知	有	ふらつき警報機能の有無が切りかわる（→ P. 349）
		無	
	ふらつき検知感度		ふらつき警報機能の感度が切りかわる（→ P. 137）
クリアランスソナー	On		クリアランスソナーの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 406）
	Off		
PKSB ★	On		PKSB の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 422）
	Off		
PCS	PCS	On	PCS（プリクラッシュセーフティ）の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 337）
		Off	
	警報感度		衝突警報の作動タイミングが切りかわる（→ P. 137）
BSM ★	On		ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 392）
	Off		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容			設定結果
RCTA★	On			RCTA 機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 392）
	Off			
RSA	RSA		On	RSA の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 356）
			Off	
	告知手段	速度超過	告知なし	最高速度標識を認識したときの警報方法が切りかわる（→ P. 358）
			表示のみ	
			表示と警報	
		追い越し	告知なし	はみ出し通行禁止標識を認識したときの警報方法が切りかわる（→ P. 358）
			表示のみ	
			表示と警報	
		その他	告知なし	車両進入禁止標識を認識したときの警報方法が切りかわる（→ P. 358）
			表示のみ	
			表示と警報	
	告知車速		10 km/h	最高速度標識の認識時、制限速度に対してどの程度、速度超過した場合に警報を実施するかが切りかわる（→ P. 358）
			5 km/h	
			2 km/h	
nanoe★	On			「ナノイー」※の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 516）
	Off			
車両設定	「車両設定」設定項目一覧：→ P. 134			
表示設定	「表示設定」設定項目一覧：→ P. 136			

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「車両設定」設定項目一覧

項目	設定内容		設定結果
BSM★	明るさ		ドアミラーインジケーター（→ P. 137）の明るさが切りかわる
	感度		接近車両の検知を知らせるタイミングが切りかわる（BSM 機能のみ）（→ P. 137）
RCTA 音量★			RCTAブザーの音量が切りかわる（→ P. 137）
先行車発進告知	先行車発進告知	On Off	先行車発進告知機能の ON ／ OFF が切りかわる（→ P. 377）
	告知距離		先行車の発進を告知する距離が切りかわる（→ P. 137）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容		設定結果
ITS Connect★	信号情報	On	赤信号注意喚起などのON／OFFが切りかわる（→P. 388）
		Off	
	道路環境情報	On	一時停止注意喚起などのON／OFFが切りかわる（→P. 388）
		Off	
	緊急車両通知	On	緊急車両存在通知のON／OFFが切りかわる（→P. 388）
		Off	
	通知感度		ITS Connect で各注意喚起を通知するタイミングが切りかわる（→P. 137）
クルーズ（ITS）★	On		通信利用型レーダークルーズコントロールのON／OFFが切りかわる（→P. 388）
	Off		
IPA★	リバース連動	On	シフトレバーをRにしたときの、インテリジェントパーキングアシスト2連動機能のON／OFFが切りかわる（→P. 458）
		Off	
	音声案内	On	インテリジェントパーキングアシスト2の、音声案内のON／OFFが切りかわる（→P. 436）
		Off	
	ブザー音色	ブザーA	パワースライドドア作動開始／作動中の、ブザーの音色が切りかわる（→P. 169）
		ブザーB	
		ブザーC	
	ブザー音量	Off	パワースライドドア作動開始／作動中の、ブザーの音量が切りかわる（→P. 169）
		小	
		大	
	待ち時間★	0.5秒	ウェルカムパワースライドドアによる、スライドドア開作動開始までの待ち時間が切りかわる（→P. 173）
		1.5秒	
		2.5秒	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「表示設定」設定項目一覧

<table>
<tr><th>項目</th><th colspan="2">設定内容</th><th>設定結果</th></tr>
<tr><td rowspan="2">言語</td><td colspan="2">日本語</td><td rowspan="2">マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語が切りかわる</td></tr>
<tr><td colspan="2">English（英語）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">単位</td><td colspan="2">km/L</td><td rowspan="2">燃費表示の単位が切りかわる</td></tr>
<tr><td colspan="2">L/100km</td></tr>
<tr><td rowspan="2">EV</td><td colspan="2">On</td><td rowspan="2">EV インジケーター（→ P. 95）の作動／非作動が切りかわる</td></tr>
<tr><td colspan="2">Off</td></tr>
<tr><td colspan="3">ドライブインフォ 1※1</td><td rowspan="2">→ P. 126</td></tr>
<tr><td colspan="3">ドライブインフォ 2※1</td></tr>
<tr><td rowspan="8">割込表示</td><td rowspan="2">交差点案内★</td><td>On</td><td rowspan="8">選択した項目の、マルチインフォメーションディスプレイへの割り込み表示の有無が切りかわる（→ P. 122）</td></tr>
<tr><td>Off</td></tr>
<tr><td rowspan="2">電話着信★</td><td>On</td></tr>
<tr><td>Off</td></tr>
<tr><td rowspan="2">S-FLOW</td><td>On</td></tr>
<tr><td>Off</td></tr>
<tr><td rowspan="2">照度調整</td><td>On</td></tr>
<tr><td>Off</td></tr>
<tr><td>カラー</td><td colspan="2">表示色 1 ～ 4</td><td>マルチインフォメーションディスプレイの表示色が切りかわる ※2</td></tr>
<tr><td>スイッチ設定</td><td colspan="2">ー</td><td>トップ画面（→ P. 123）を変更する方法が表示される</td></tr>
<tr><td rowspan="2">表示設定初期化</td><td colspan="2">はい</td><td rowspan="2">実行すると、マルチインフォメーションディスプレイの設定が工場出荷時の状態にもどる</td></tr>
<tr><td colspan="2">いいえ</td></tr>
</table>

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2 を選択すると、現在登録されている情報の名称が表示されます。いずれかの情報名を選択し、選択画面で新たに表示させたい情報を選択することで、ドライブインフォ1 ／ドライブインフォ 2 に表示される情報を変更できます。

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、カーソル色を変更すると、ナビゲーション画面のテーマカラーも連動して変更されます。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブインフォメーションの一部のデータ（メーター操作スイッチの操作でリセット可能な項目）がリセットされます。

■設定項目について

●「RSA ／告知手段」・「RSA ／告知車速」・「車両設定」・「表示設定」の各設定項目は、走行中は選択不可になり、操作できません。また、次の場合は設定画面が一時中断されます。

・警告メッセージが表示されたとき
・走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

■感度などを設定する項目について

設定画面上のアイコンは、それぞれ次の意味を表しています。

設定項目		アイコン	設定結果
LTA (→ P. 132)	警報感度		高い
			普通
	ふらつき検知感度		高い
			普通
			低い
PCS (→ P. 132)	警報感度		早い
			中間
			遅い

設定項目		アイコン	設定結果
BSM★ (→ P. 134)	明るさ		明るい
			暗い
	感度		早い
			中間
			遅い
			死角領域のみ
RCTA 音量★ (→ P. 134)			小
			中
			大
先行車発進告知 (→ P. 134)	告知距離		遠い
			普通
			近い
ITS Connect★ (→ P. 135)	通知感度		高い
			低い

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

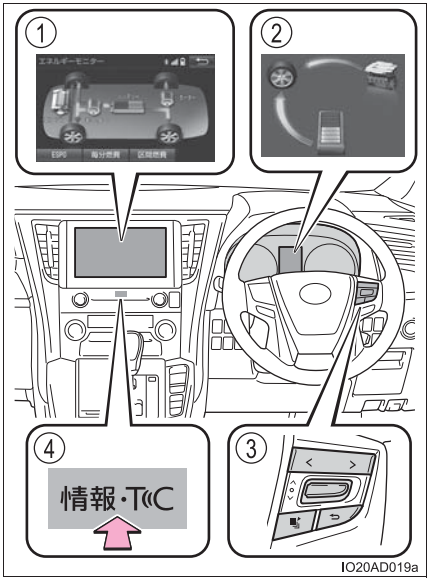
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面★／ ESPO 画面★

ハイブリッドシステムの状態を、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面 ※ に表示します。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

① ナビゲーション画面
② マルチインフォメーションディスプレイ
③ メーター操作スイッチ
④「情報・TC」スイッチ



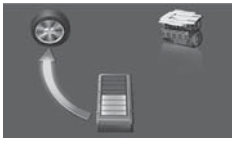
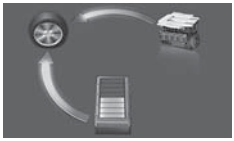
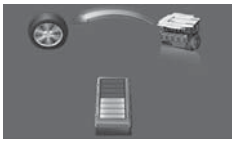
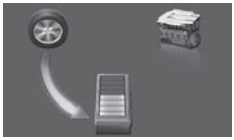
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エネルギーモニターの見方

■ マルチインフォメーションディスプレイで表示するには

1 メーター操作スイッチの < > を操作して i を選択する

2 を上下に操作して、「エネルギーモニター」を選択する

作動状況	画面表示
電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない　多い

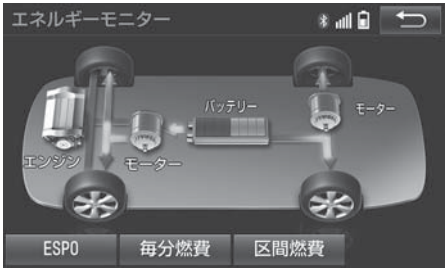
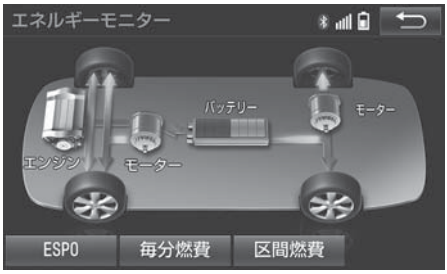
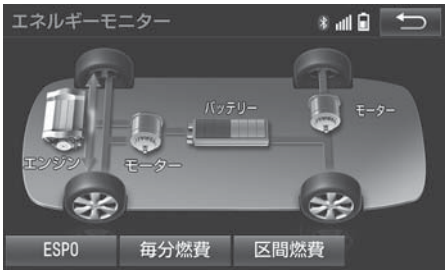
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ ナビゲーション画面★で表示するには

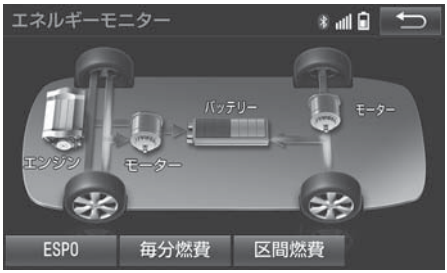
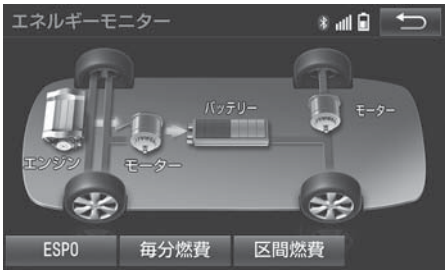
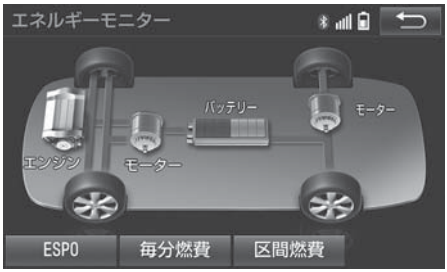
1 「情報・TC」スイッチにタッチし、「情報」画面を表示させる

「オンライン」または、「Apps」画面が表示されたときは、「情報」を選択してください。

2 「エネルギー」を選択する

作動状況	画面表示
電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

作動状況	画面表示
駆動用電池に充電しているとき	 
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない　多い

表示画面については実際の状況と異なる場合があります。

知識

■駆動用電池の残量警告について

- シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかわります。
- マルチインフォメーションのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

燃費画面★／ESPO 画面★の表示のしかた

1 「情報・TC」スイッチにタッチし、「情報」画面を表示させる

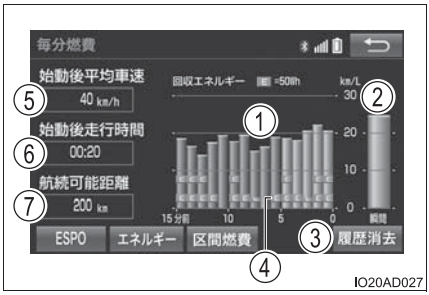
「オンライン」または「Apps」画面が表示されたときは、「情報」を選択してください。

2 燃費画面：「燃費」を選択する
ESPO 画面：「ESPO」を選択する

燃費画面の見方

■ 毎分燃費の見方

区間燃費が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。



① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ 過去 15 分間の 1 分ごとのエネルギー回収量

E マーク 1 つが 50Wh です。

⑤ ハイブリッドシステム始動後平均車速

⑥ ハイブリッドシステム始動後走行時間

⑦ 航続可能距離

平均燃費はパワースイッチを ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

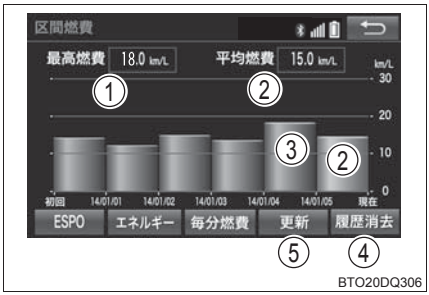
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。



① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

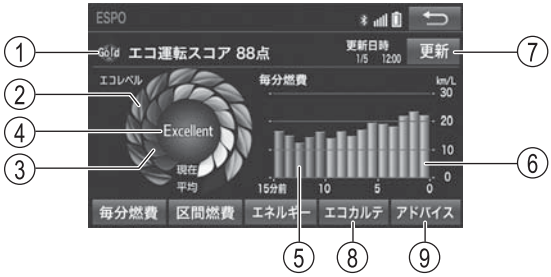
④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

ESPO 画面の見方



IO20AD029

① ステータス／エコ運転スコア表示 ※

エコ運転の採点結果や走行情報をトヨタスマートセンターに送信し、計算されたデータをもとにエコ運転スコアやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベル平均値

エコレベルインジケーターの平均値を表示します。マークが増えるほど、環境に配慮した運転をしていることになります。

③ エコレベルメーター

ハイブリッドシステムインジケーターの針がエコエリア内の状態を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

⑤ 毎分燃費（前回ハイブリッドシステム始動～ハイブリッドシステム停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回ハイブリッドシステム始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。
今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ ※

走行情報などをトヨタスマートセンターへ送信し、ステータスなどを更新します。

⑧ エコカルテスイッチ ※

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO_2 排出量・平均燃費・獲得ポイント・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。よいところを確認したり、さらによくするにはどうしたらよいかを知ることができます。
・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ T-Connect をご利用されているときに表示されます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■トヨタスマートセンターへ送信する走行情報について

トヨタスマートセンターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....150

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

フロントドア.....156

スライドドア.....163

バックドア 181

スマートエントリー&
スタートシステム 191

3-3. シートの調整

フロントシート.....198

セカンドシート.....202

サードシート.....217

パワーイージーアクセス
システム／
ポジションメモリー
（フロントシート）／
メモリーコール機能 219

セカンドシート
ポジションメモリー 225

ヘッドレスト.....227

シートアレンジ.....231

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 243

インナーミラー.....245

デジタルインナーミラー 247

ドアミラー 259

補助確認装置.....262

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ.....263

ツインムーンルーフ 267

キー

キーについて

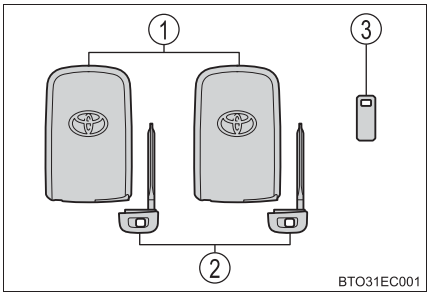
お客様へ次のキーをお渡しします。

① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 191）
- ワイヤレス機能の作動

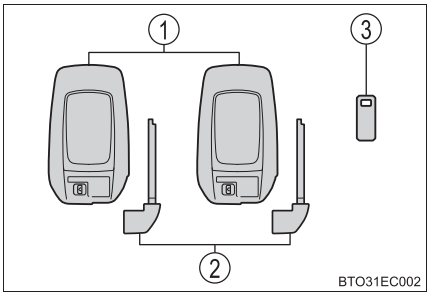
② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

▶ パワーバックドア非装着車

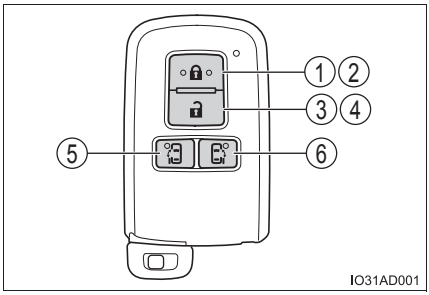


▶ パワーバックドア装着車



ワイヤレスリモコン

▶ パワーバックドア非装着車



① 全ドアを施錠する（→ P. 157）

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める ※（→ P. 157）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 157）

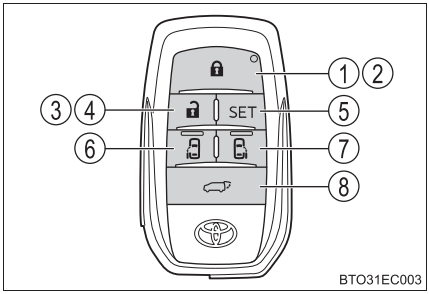
④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く ※（→ P. 157）

⑤ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 164）

⑥ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 164）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 700）

▶ パワーバックドア装着車



① 全ドアを施錠する（→ P. 157）

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★を閉める ※（→ P. 157）

③ 全ドアを解錠する（→ P. 157）

④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★を開く ※（→ P. 157）

⑤ ウェルカムパワースライドドア★を予約する（→ P. 168）

⑥ 助手席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 164）

⑦ 運転席側パワースライドドアを開閉する（→ P. 164）

⑧ パワーバックドアを開閉する（→ P. 183）

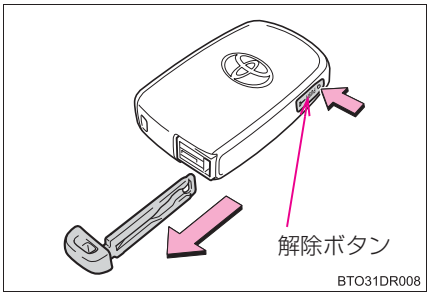
※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 700）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

メカニカルキーを使うには

▶ パワーバックドア非装着車

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

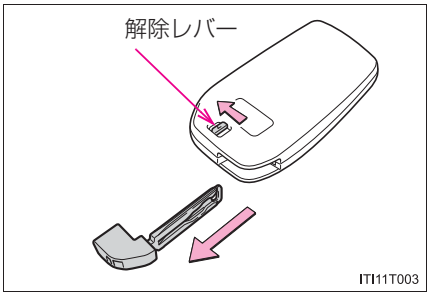


メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 672）

▶ パワーバックドア装着車

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出す



メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 672）

知識

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

電池はお客様自身で交換することができます（→ P. 604）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→ P. 193）

■電子キーの状態や、パワースイッチのモードに関するメッセージが表示されたときは

車内への電子キーの閉じ込みや、同乗者による電子キーの持ち出し、電源の切り忘れなどを防止するため、電子キーやパワースイッチなどの状態の確認をうながすメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されることがあります。その場合は、表示内容に従ってすみやかに対処してください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「キーの電池残量が少なくなっています 電池を交換してください」が表示されたときは

電子キーの電池残量が少なくなっています。新しい電池と交換してください。
（→ P. 604）

■電池の交換方法

→ P. 604

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

- ●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- ●温度の高いところに長時間放置しない
- ●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- ●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- ●分解しない
- ●電子キー表面にシールなどを貼らない
- ●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- ●電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

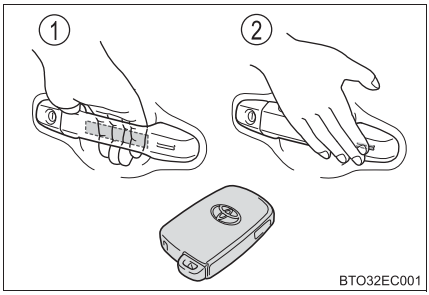
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

フロントドア

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



① ドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

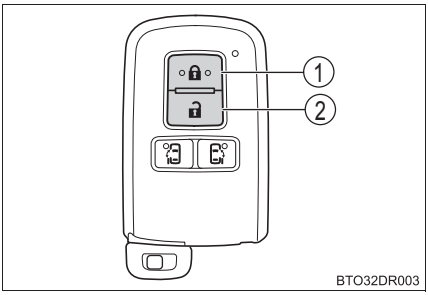
押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まります。※

② 全ドアを解錠する

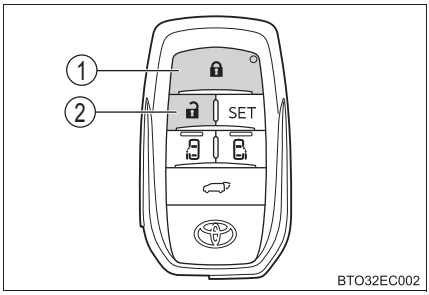
押し続けるとドアガラスとリヤムーンルーフ★が開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 700）

▶ パワーバックドア非装着車



▶ パワーバックドア装着車



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラス・リヤムーンルーフ★：ワイヤレスリモコンによる開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

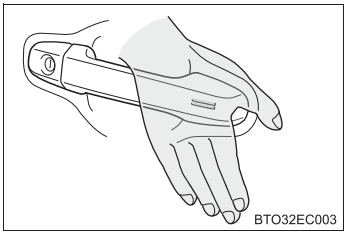
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定

施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 105）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 672）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 604）

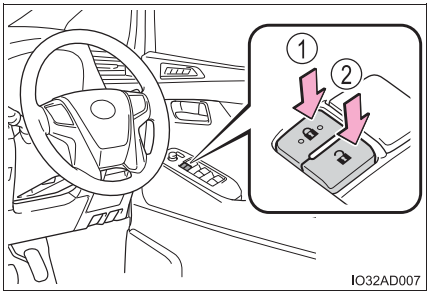
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内からの施錠／解錠

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

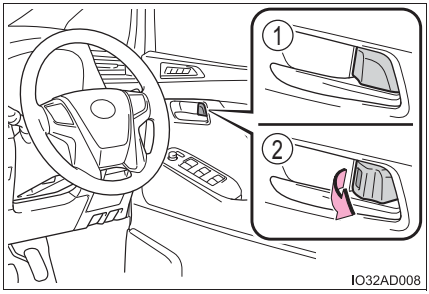


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロントドアを施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト操作連動ドアロック	ハイブリッドシステムが作動中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートドアロック	速度が約 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ **設定・解除のしかた**

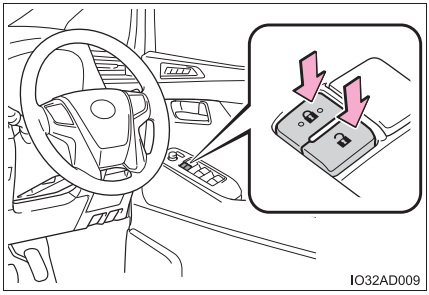
次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

1 すべてのドアを閉め、パワースイッチを ON モードにする（その後 20 秒以内に 2 を行う）

2 シフトレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの 🔒 または 🔓 を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。



機能	シフトレバーの位置	運転席ドアロックスイッチ
シフト操作連動ドアロック	P	🔒
シフト操作連動アンロック		🔓
車速感応オートドアロック	N	🔒
運転席ドア開連動アンロック		🔓

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ナビゲーションシステムの画面からでも、設定の変更が行えます。（→ P. 694, 695）

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 672）

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア、またはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドア、またはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 194

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやリヤムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

スライドドア

スライドドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

→P. 156

◆ ワイヤレスリモコン

→P. 157

車内からの解錠／施錠

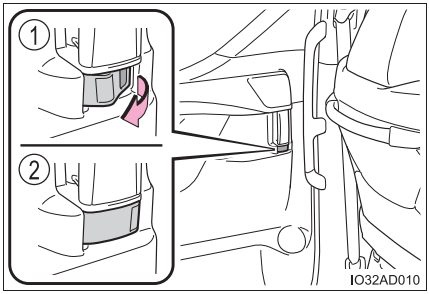
◆ ドアロックスイッチ

→P. 159

◆ ロックレバー

① 解錠

② 施錠



スライドドアの自動開閉（パワースライドドア）

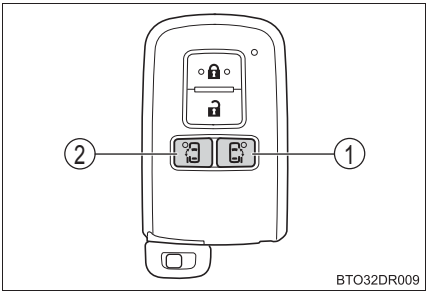
◆ ワイヤレスリモコン

① 運転席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

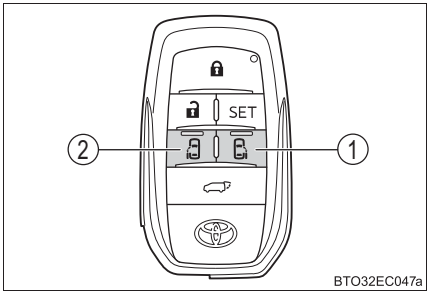
② 助手席側パワースライドドアを開閉する（長押し）

スライドドアを解錠してから操作してください。

▶ パワーバックドア非装着車



▶ パワーバックドア装着車

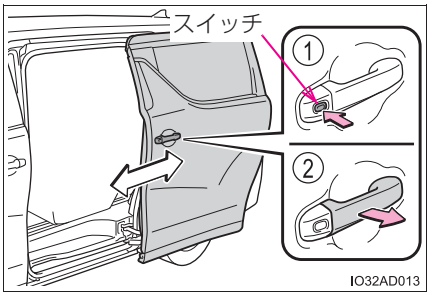


◆ スライドドアハンドル

① スイッチを押して開閉する

ドアが施錠されているとき：
電子キーを携帯してスイッチを押すと、すべてのドアが解錠され、スライドドアが自動で開きます。
電子キーが検知エリア内(→P. 192)にある状態で、スイッチを押してください。

ドアが解錠されているとき：
電子キーを携帯していなくても、スイッチを押すとスライドドアが自動で開閉します。



② ドアハンドルを引いて開閉する

スライドドアを解錠してから操作してください。

自動開閉中にスイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、作動を停止します。再度スイッチを押す、またはドアハンドルを引くと、反転作動します。

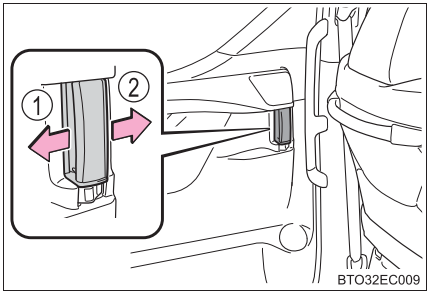
◆ インサイドドアハンドル

① 開ける

スライドドアを解錠してから操作してください。

② 閉める

ドアハンドルを操作するとパワースライドドアが自動で全開または、全閉になります。
また、自動開閉作動中に再度ドアハンドルを操作すると自動開閉作動が停止します。



◆ パワースライドドア開閉スイッチ

スイッチを約 1 秒押す

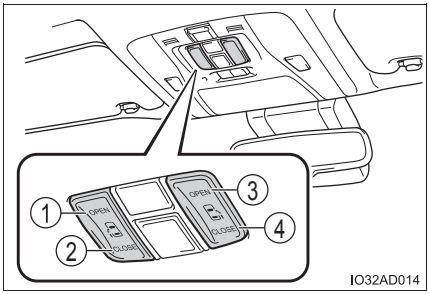
スライドドアを解錠してから操作してください。

① 助手席側パワースライドドアを開ける

② 助手席側パワースライドドアを閉める

③ 運転席側パワースライドドアを開ける

④ 運転席側パワースライドドアを閉める



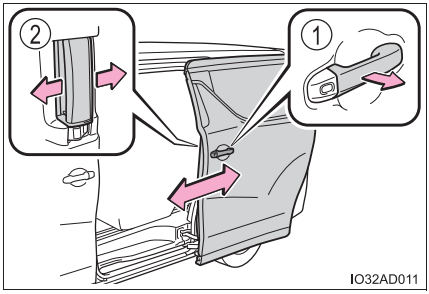
開閉作動中に再度スイッチを押すと、作動が停止します。

スライドドアの手動開閉

パワードアオフスイッチ（→ P. 167）が OFF のとき、車外のスライドドアハンドル、または車内のインサイドドアハンドルを操作します。

① スライドドアハンドル

② インサイドドアハンドル



パワースライドドアの機能を停止するには

パワードアオフスイッチをOFFにしてパワースライドドアの機能を停止します。

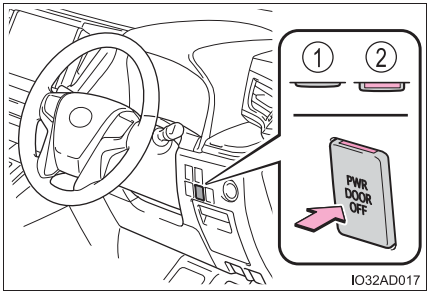
① OFF

スライドドアを手動でのみ開閉できます。OFF にするとパワーバックドア★も使用できなくなります。

② ON※

パワースライドドアをワイヤレスリモコン／スライドドアハンドル／インサイドドアハンドル／パワースライドドアスイッチの操作により、自動で開閉できます。

※ ON にすると、スイッチ上部にオレンジ色のマークが表れます。



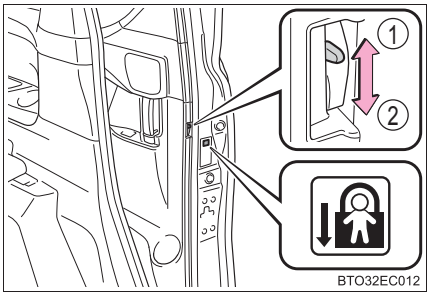
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、インサイドドアハンドルを使用してスライドドアを開けられなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からスライドドアを開けられないようにできます。両側のスライドドアを施錠側にしてください。

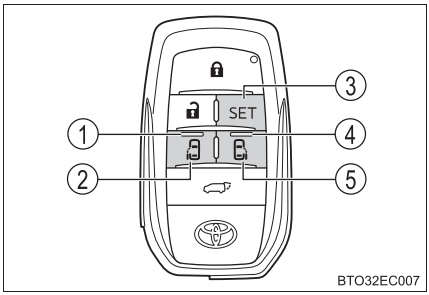


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ウェルカムパワースライドドア★

予約（→ P. 168）が完了した電子キーを携帯して、予約した側のスライドドアのウェルカムパワースライドドアの作動範囲に入ると、すべてのドアが解錠し、そのままウェルカムパワースライドドアの作動範囲内で約2.5秒間※待つと予約した側のスライドドアが自動的に開作動します。

※ スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。（→ P. 131）



① 助手席側パワースライドドアインジケーター

② 助手席側パワースライドドアボタン

③ SET ボタン

④ 運転席側パワースライドドアインジケーター

⑤ 運転席側パワースライドドアボタン

■ 予約のしかた

1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

電子キーのパワースライドドアボタンのインジケーターが点滅します。

2 インジケーターが点滅しているあいだに、予約したい側のパワースライドドアボタンを押す

押された側のパワースライドドアボタンのインジケーターが約 3 秒間点灯し、消灯すると予約が完了します。

予約の有効時間は約 20 分間となります。予約を完了してから 20 分以上経過すると予約はキャンセルされます。

■ 予約の確認をする

電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

予約確認をすると、予約の有効時間はそこから約 20 分間となります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 予約のキャンセル／変更をする

1 電子キーの SET ボタンを押し続ける

予約された側の電子キーのパワースライドドアボタンのインジケータが約 5 秒間点灯します。

2 インジケーターが点灯しているあいだに次の操作をする

予約をキャンセルする場合：
予約されている側（点灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

予約を変更する場合：
予約されていない側（消灯している側）のパワースライドドアボタンを押す

知識

■スライドドアイージークローザー

スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが作動し、スライドドアが自動で完全に閉まります。スライドドアイージークローザーは、両側のスライドドアに装着されています。

- パワースイッチのモードに関係なく、スライドドアイージークローザーは作動します。
- スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、スライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。
- スライドドアイージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く）

■作動の合図（パワースライドドア使用時）

ブザーで知らせます。（作動開始時に 1 回、閉作動中は継続）

ブザーの音量・音色を変更できます。（→ P. 131）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）

●給油扉が開いているときは、助手席側パワースライドドアは作動しません。助手席側スライドドアは手動で開閉できますが、途中までしか開きません。（中間ストッパー位置で停止します）
中間ストッパー位置で停止したスライドドアを全開にするときは、給油扉を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドアを開けてください。

●助手席側パワースライドドアの自動開閉中に給油扉を開けると、ブザーが鳴り、手動操作に切りかわります。このとき約 7 秒間スライドドアにブレーキをかけ、ドアの速度を抑制します。

■パワースライドドアの作動可能条件

次の作動条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます。

●パワードアオフスイッチが ON のとき

●スライドドアのドアロックが解錠されている（閉作動を除く）

●給油扉が閉じている（助手席側パワースライドドアのみ）

パワースイッチが ON モードのときは上記に加え、車速が 3km/h 以下かつ次のいずれかの条件を満たしていることが必要です。ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

●シフトレバーの位置が P のとき

●パーキングブレーキがかかっているとき

●ブレーキペダルを踏んでいるとき

■パワースライドドアの作動について

●パワードアオフスイッチが ON のとき、ハンドルをブザーが鳴る位置まで操作すると自動で作動します。
閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワードアオフスイッチが OFF のときは、手動でのみ開閉できます。

●パワースライドドアの自動開閉中に、人や異物などにより挟み込みを感知すると、ブザーが鳴り、10cm 位反転作動したあとに作動を停止します。停止後にパワースライドドアを操作すると、以下のように作動します
逆方向に動く：
・アウトサイドハンドルを引くまたはスライドドアハンドルのスイッチを押す
開方向に動く：
・インサイドハンドルを開方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（OPEN 側）を押す
閉方向に動く：
・インサイドハンドルを閉方向に引くまたはパワースライドドアスイッチ（CLOSE 側）を押す

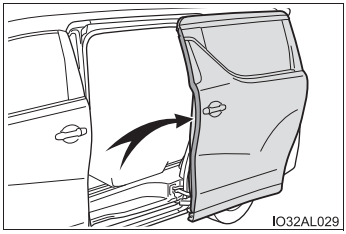
挟み込み防止機構作動後、電子キーのパワースライドドア開閉スイッチを押しても、パワースライドドアは作動しません。

■補機バッテリー端子を脱着したとき

パワースライドドアを適切に作動させるために、初期設定が必要です。スライドドアハンドルまたはインサイドドアハンドルを使用して、スライドドアを手動で一度全閉にしてください。

■挟み込み防止機構（パワースライドドア）

パワースライドドアの前端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機構が作動し、ドアは10cm 位反転作動したあとに停止します。



■予約ロック機能について（パワースライドドア）

パワースライドドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、パワースライドドア以外のすべてのドアが施錠され、パワースライドドアも閉まると同時に施錠されます。

1 パワースライドドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワースライドドアの自動閉作動中にフロントドアまたはバックドアでスマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 156、181）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→ P. 157）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。
- 予約ドアロック操作をしてパワースライドドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ウェルカムパワースライドドア★の作動可能条件

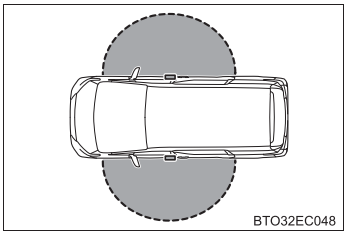
すべてのドアが施錠されているときに作動可能です。
ただし、次のときはすべてのドアが施錠されていてもウェルカムパワースライドドアは作動しません。

- ドア施錠操作後、5 秒以内
- カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき（→ P. 697）
- 電子キーが節電モードに設定されているとき（→ P. 193）
- 車内に電子キーがある状態で施錠操作をしたとき

■ウェルカムパワースライドドア★の作動範囲

●：作動範囲

フロントドアハンドルから周囲約 150cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）



■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

- ウェルカムパワースライドドアの作動範囲内に入ってからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだに次のことを行うとウェルカムパワースライドドアの機能がキャンセルされ、スライドドアの開作動は行われません。
  - ・電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲内から離れた
  - ・ドアを施錠した
  - ・ワイヤレスリモコンを操作した
  - ・パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにした
- ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの自動開作動中に次のことを行うと、スライドドアの開作動は停止します
  - ・電子キーの SET ボタンまたは、パワースライドドアボタンを押した
  - ・パワースライドドアの停止操作を行った
  - ・挟み込み防止機能が作動した

■ウェルカムパワースライドドア★が正常に働かないおそれのある状況

- 複数の電子キーがウェルカムパワースライドドアの作動範囲にある
- スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 194）
- 隣接する車両でウェルカムパワースライドドアが作動している

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■電子キーの電池の消耗について（ウェルカムパワースライドドア★使用時）

通常のスマートエントリー＆スタートシステム機能と比べて電子キーの電池を多く消耗します。
ウェルカムパワースライドドアの使用頻度が多いほど、電子キーの消耗は早くなります。

■ウェルカムパワースライドドア★使用時の電子キーについて

●予約は 1 つの電子キーで行ってください。複数の電子キーに予約した場合、先に検知されたほうの電子キーの予約内容でウェルカムパワースライドドアが作動します。

●電子キーの電池が切れたり、電子キーの電池を交換すると予約はキャンセルされます。再度予約を行ってください。

■ウェルカムパワースライドドア★のスライドドア開作動開始までの待ち時間の変更について

マルチインフォメーションディスプレイの 画面から、スライドドアの開作動が開始するまでの待ち時間を変更できます。（→ P. 131）

■自動洗車機を使うとき

→ P. 573

■カスタマイズ機能（パワースライドドア）

スライドドアスイッチの反応時間などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 696）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことをお守りください。
お守りいただかないと思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉める
- すべてのドアを施錠する
- お子様を乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用してドアが開かないようにする
- シートベルトを必ず着用する
- 走行中はインサイドドアハンドルを操作しない

■**お子さまを乗せているときは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまを車内に残さないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはスライドドアの開閉操作をさせないでください。
  不意にスライドドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクター（→ P. 167）を使用して車内からドアが開かないようにする

■**スライドドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 乗り降りするときは、スライドドアが全開位置であることを確認してください。
- スライドドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ドアガラスを開けた状態でスライドドアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- スライドドアを開けるときは、必ず全開位置まで開き固定してください。（全開にするとスライドドアがストッパーで固定されます）半開状態ではスライドドアが確実に固定されないため、傾斜地などで不意に動き出すおそれがあります。

警告

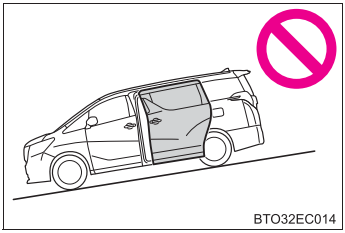
■スライドドアの操作にあたって

●車内からスライドドアにもたれかからないでください。スライドドアを開いたとき、車外へ落ちるなど思わぬ事故につながるおそれがあります

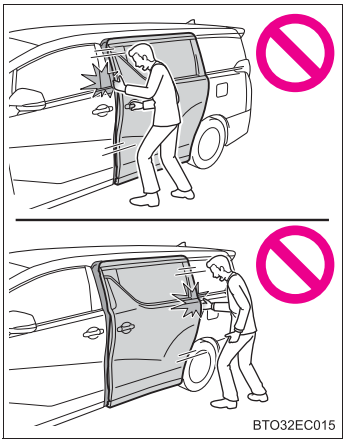
●スライドドアが中間ストッパーの位置で停止した場合、スライドドアは固定されません。坂道などではドアが不意に動き出すおそれがありますので、十分注意してください。

●傾斜した場所ではスライドドアの開閉スピードが速くなります。スライドドアにあたったり挟んだりしないように注意してください。

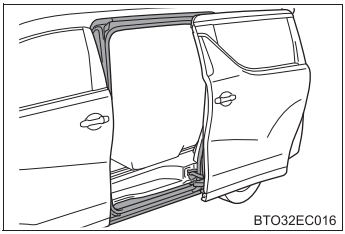
●下り坂で乗り降りするときは、スライドドアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルやドアハンドルスイッチを操作しないでください。スライドドアが突然動き出すおそれがあります。


BTO32EC014

●スライドドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。


BTO32EC015

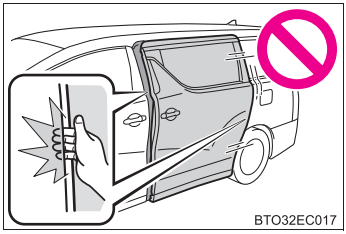
●スライドドアのアーム、レール、ピラー部および配線部には、手足をかけないでください。


BTO32EC016

警告

■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアが半ドア状態になったとき、スライドドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
（→ P. 169）



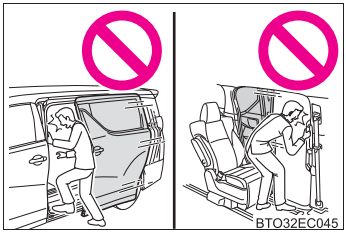
●スライドドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチが OFF であっても作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

●ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のとき、スライドドアイージークローザー作動中にインサイドドアハンドルを引くとスライドドアイージークローザーが半ドア状態で停止し、開けられません。指などを挟まれないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

■パワースライドドアについて

パワースライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●パワースライドドア作動中に乗り降りしないでください。



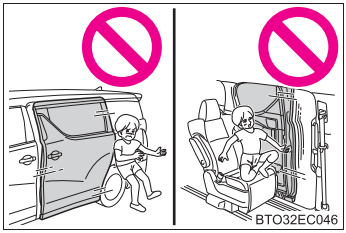
●ドアハンドルを使ってパワースライドドアを開閉するときは、操作後すぐにドアハンドルから手を離してください。ドアハンドルを握ったままスライドドアが作動すると、手・指・腕などに無理な力がかかるおそれがあるので十分注意してください。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

警告

■パワースライドドアについて

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、パワースライドドアを作動させないでください。



●自動開閉中にパワードアオフスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中、または全開以外のときは、ドアが急に反転作動したり、動きだすおそれがあります。必ず全開で静止していることを確認してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で静止していることを確認してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し、手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、傾斜した場所では、スライドドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

警告

■パワースライドドアについて

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にスライドドアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・ハイブリッドシステム停止時でパワースライドドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●チャイルドプロテクターを施錠側にしているときは、パワースライドドアの誤操作防止のため、パワードアオフスイッチを OFF にしてください。

●ドアガラスを開けた状態で自動開閉するときは、絶対に窓から手足や顔などを出さないでください。

●タイヤ交換時や洗浄機を使用する際は、パワードアオフスイッチを OFF にしてください。OFF にしないと誤ってスイッチにふれたときにスライドドアが動き、手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能（パワードアオフスイッチ ON 時）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機構を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、スライドドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

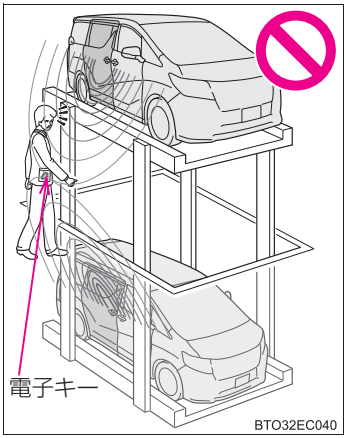
警告

■ウェルカムパワースライドドア★について

ウェルカムパワースライドドアによるスライドドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントドアハンドルから約2m以上離れた位置で、十分に周囲の安全を確認してから車両に近付いてください。
周囲に人がいるときは、車両に近付く前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のスライドドア付近にもたれている人がいるときは、ウェルカムパワースライドドアを作動させないでください。

●機械式駐車場などでは、車両が安全な場所にあることを確認してから車両に近付いてください。
車両が電子キーよりも上または、下にある状態でも電子キーが検知されればウェルカムパワースライドドアが作動し、スライドドアが自動的に開作動します。



●電子キーが検知されてからスライドドアの開作動が開始するまでのあいだは、いつでもスライドドアの作動が停止できるようにスライドドアハンドルに手が届く位置、または電子キーのSETボタンを押せる状態でお待ちください。

●スライドドア開作動までの待ち時間の変更（→P. 173）で待ち時間を短めに設定したときは、電子キーが検知されてからスライドドアが開作動するまでの時間が短くなるため、よりいっそう注意して操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

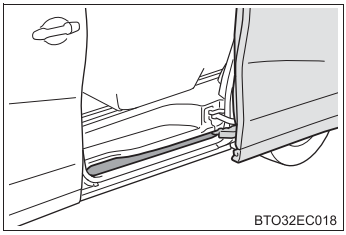
⚠注意

■スライドドアについて

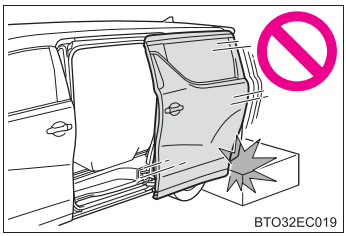
●スライドドアを開閉する前に、運転者はスライドドアが安全に開閉できるように車外および車内のスライドドア付近の状態を必ず確認してください。

●走行するときやドアを開閉するときは、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどをスライドドア内側のボトルホルダー（→ P. 541）に収納しないでください。

●スライドドアのリヤステップ下のローラー滑走面に、石などの異物が入り込まないように注意してください。異物が入り込んだままスライドドアを開閉すると、スライドドアの故障の原因になります。



●スライドドアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。スライドドアを損傷するおそれがあります。



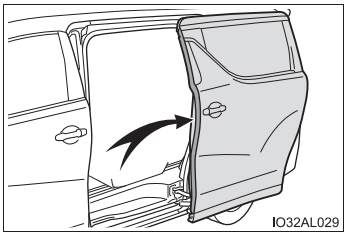
■スライドドアイージークローザーについて

●スライドドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。

●ドアの開け閉めを短時間にくり返すとスライドドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワースライドドアについて

パワースライドドア前端部のセンサーを刃物などの鋭利なもので傷付けないよう注意してください。
センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、スライドドアはただちに停止します。



バックドア

バックドアは次の方法で解錠・施錠および開閉することができます。

解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

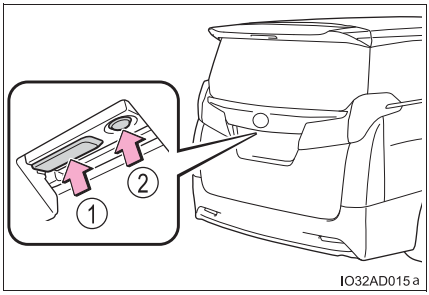
電子キーを携帯して操作します。

① 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



◆ ワイヤレスリモコン

→P. 157

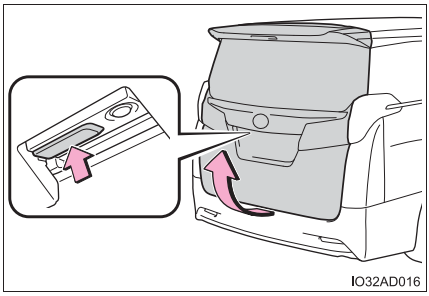
◆ ドアロックスイッチ

→P. 159

バックドアの手動開閉

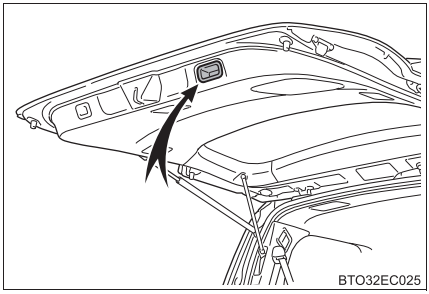
■ 開ける

スイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



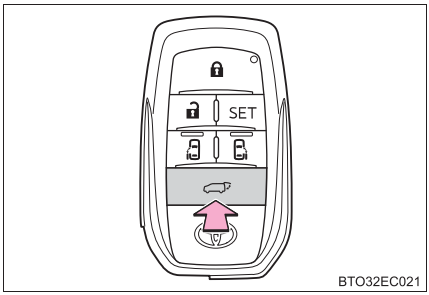
バックドアの自動開閉（パワーバックドア装着車）

◆ ワイヤレスリモコン

スイッチを押し続ける

バックドアを解錠してから操作してください。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。

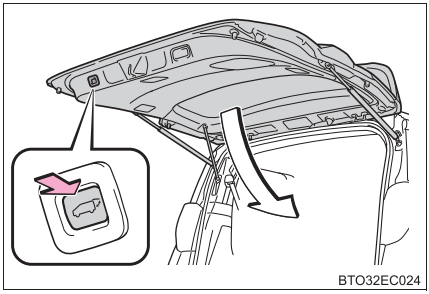


◆ パワーバックドアスイッチ（閉作動のみ）

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、バックドアは再び自動で開きます。

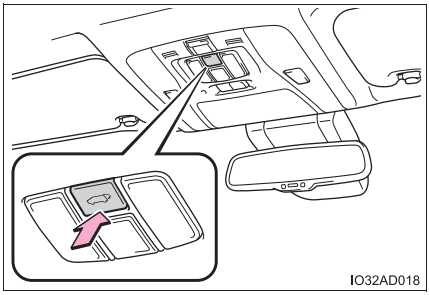


◆ パワーバックドア開閉スイッチ

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に再度スイッチを押すと、反転作動します。
ただし、作動開始から約 1 秒間は反転作動に切りかわりません。



パワーバックドアの機能を停止するには（パワーバックドア装着車）

パワースライドドアの機能を停止するとパワーバックドアの機能も停止します。（→ P. 167）

バックドアを手動でのみ開閉できます。

パワースライドドアも使用できなくなります。

知識

■パワーバックドアの作動可能条件（パワーバックドア装着車）

●パワードアオフスイッチが ON のとき（→ P. 167）

●バックドアが解錠されている（閉作動を除く）

パワースイッチが ON モードのときは上記に加え、次の条件を満たしていることが必要です。
ただし、ワイヤレスリモコンによる開閉はできません。

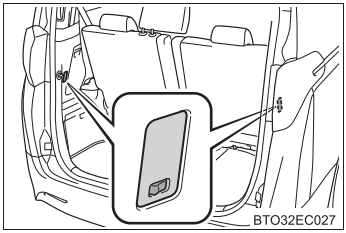
●シフトレバーの位置が P のとき

●車速が 3km/h 以下のとき

■ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

パワースイッチが OFF の場合、約 20 分後に自動消灯します。


BTO32EC027

■バックドアをいったん開けてから閉めたあとは

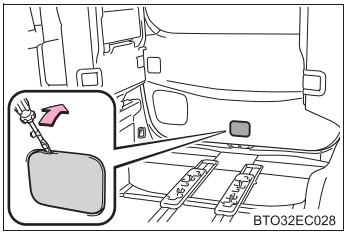
バックドアが自動で施錠されないため、再度バックドアを施錠してください。

■バックドアが開かなくなったら

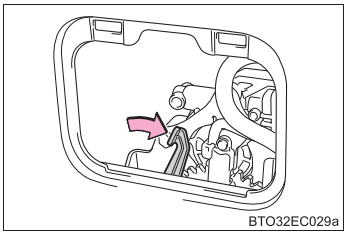
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


BTO32EC028

2 レバーを押す


BTO32EC029a

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

●パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

●バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について（パワーバックドア装着車）

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。また開閉作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

●パワードアオフスイッチが OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。

●パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置または、全閉位置で停止します。

●パワーバックドア自動開閉中に、連続して3回以上の異常を感知するとブザーが鳴り、バックドアにブレーキをかけ、速度を抑制しながら作動し、全開位置または全閉位置で停止します。

■予約ロック機能について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。
次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→ P. 156）
またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→ P. 157）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

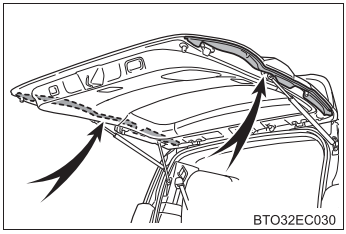
●予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
予約ドアロック機能は、必ずキーを携帯した状態で使用してください。

●予約ドアロック操作をしてパワーバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が作動するなど停止操作が行われると、予約ドアロック機能が解除されすべてのドアが解錠されます。

●車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からバックドアは自動的に反対方向に動き、全開位置で停止します。



■補機バッテリーを再接続したときは（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

■カスタマイズ機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアスイッチの操作方法などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 696）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**バックドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

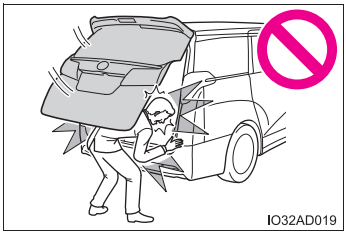
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

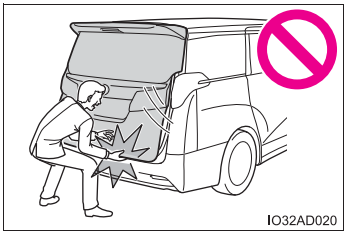
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


IO32AD019

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアグリップを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


IO32AD020

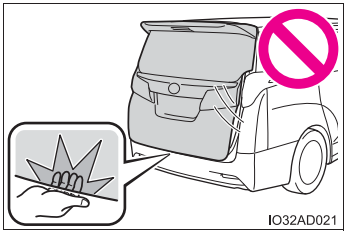
●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにバックドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

警告

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。
（→ P. 185）



●バックドアイージークローザーは、パワードアオフスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。（パワーバックドア装着車）

■パワーバックドアについて（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワードアオフスイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

●自動開閉中に作動可能条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。
この場合、坂道などの傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき
・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

警告

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。
  バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■挟み込み防止機能（パワーバックドア装着車）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

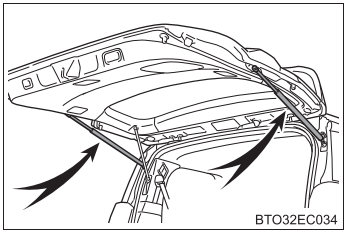
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



⚠注意

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

●バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

●バックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんバックドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

■パワーバックドアの故障を防ぐために（パワーバックドア装着車）

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→ P. 186）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

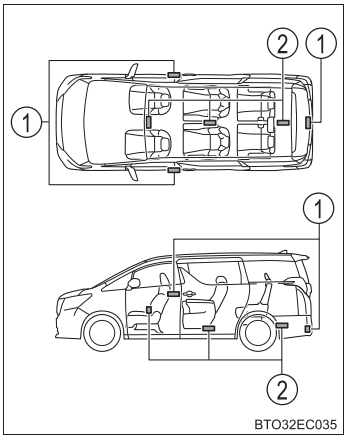
- ドアを解錠・施錠する（→ P. 156）
- スライドドアを開ける ★（→ P. 168）
- バックドアを解錠・施錠する（→ P. 181）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 283）

知識

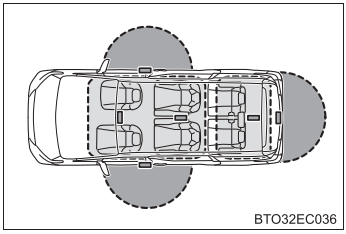
■アンテナの位置

① 車外アンテナ

② 車室内アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）



●：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル／バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

●：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチのモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。
警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→ P. 633）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステム、もしくはワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から “ピー、ピー” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

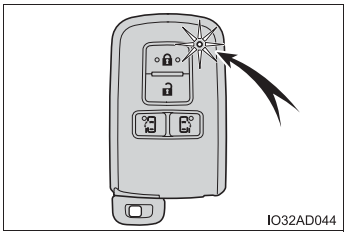
■電子キーの節電モードについて

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

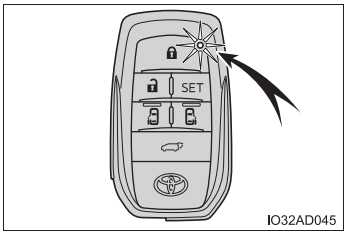
電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケータが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステム･ウェルカムパワースライドドア★を使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

▶パワーバックドア非装着車



▶パワーバックドア装着車



●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 672）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングに駐車しているとき（車両検出用の電波が影響をおよぼす可能性があるため）

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・ハイブリッドシステム始動時やパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、ハイブリッドシステムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。※

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。

・キーを車両から2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 193）

●洗浄機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

※ カスタマイズ機能により、操作方法を変更できます。（→ P. 697）

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。（→ P. 697）

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの解錠・施錠：→ P. 672

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 673

■ウェルカムパワースライドドア★の作動について

→ P. 172

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 697）

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

●ドアの解錠・施錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの解錠・施錠ができます。（→ P. 672）

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 673

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 284

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電波がおよぼす影響についての警告（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P. 191）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

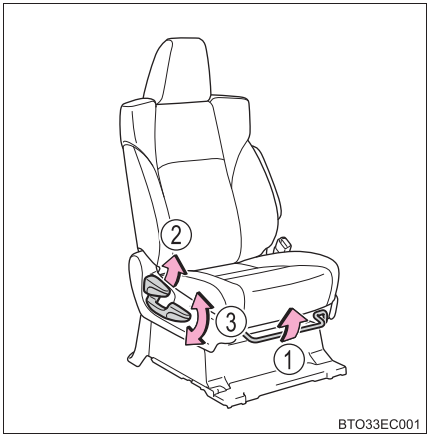
調整のしかた

▶ マニュアルシート

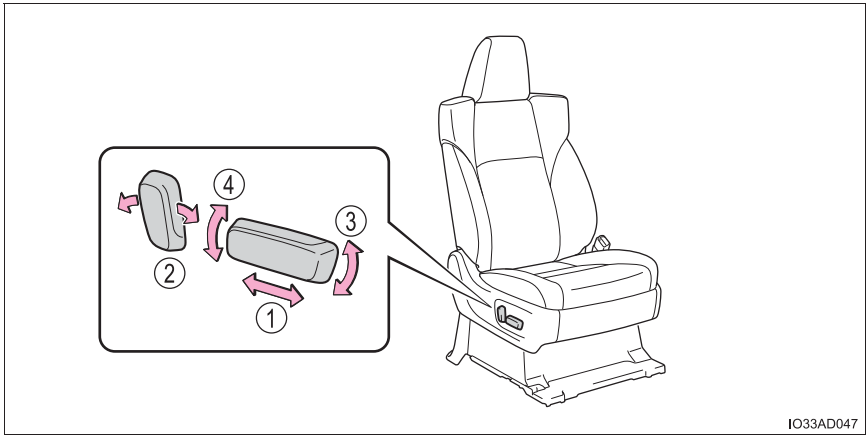
① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ シート全体の上下調整
（運転席のみ）



▶ パワーシート（運転席）



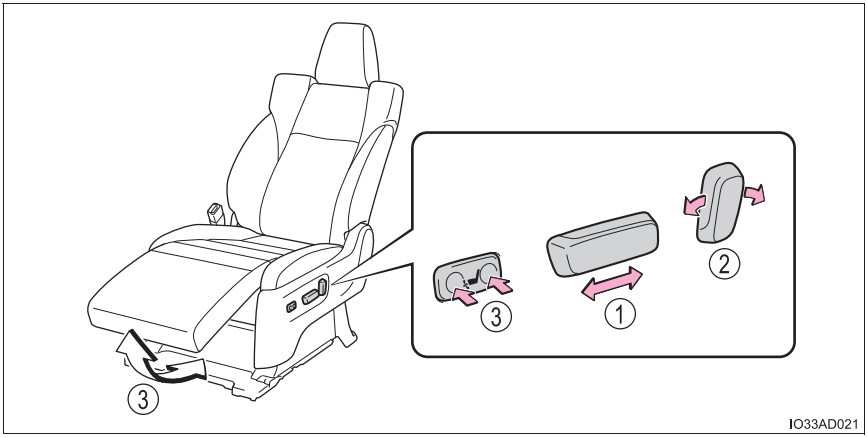
① 前後位置調整

② リクライニング調整

③ クッション前端の上下調整

④ シート全体の上下調整

▶ パワーシート（助手席）

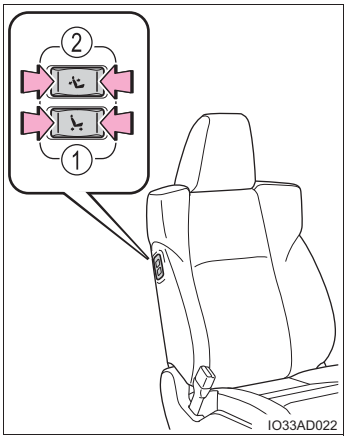


① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ オットマン角度調整／格納

知識

■運転席から助手席を操作するには（パワーシート［助手席］装着車）

① 前後位置調整
② リクライニング調整



■パワーイージーアクセスシステム★

パワースイッチのモード切りかえ・運転席のシートベルト脱着に連動して、運転席シートが動きます。（→ P. 219）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■シート調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。
（マニュアルシート）

■運転席から助手席を操作するとき（パワーシート［助手席］装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中は、助手席に座らないでください。
足を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■前後位置調整やオットマン★の操作をするときは

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマン★の使用について

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際オットマンを上げているときは格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■**運転席から助手席を操作するとき（パワーシート［助手席］装着車）**

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■**オットマン★の故障を防ぐために**

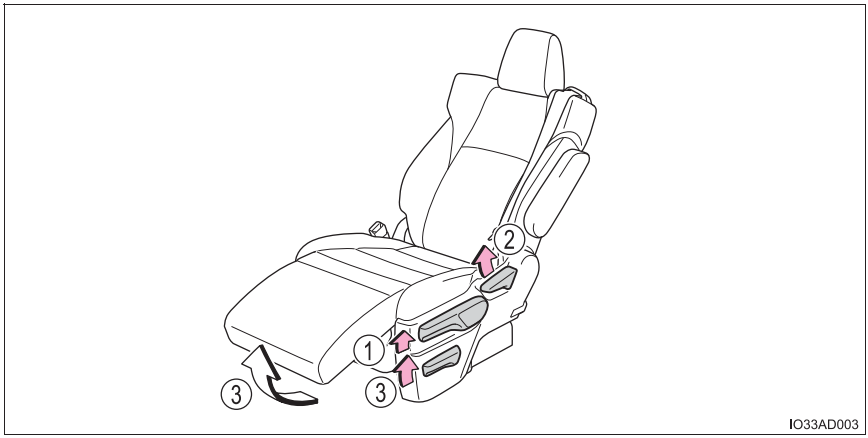
- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

セカンドシート

調整のしかた

▶ マニュアルシート（7 人乗り）



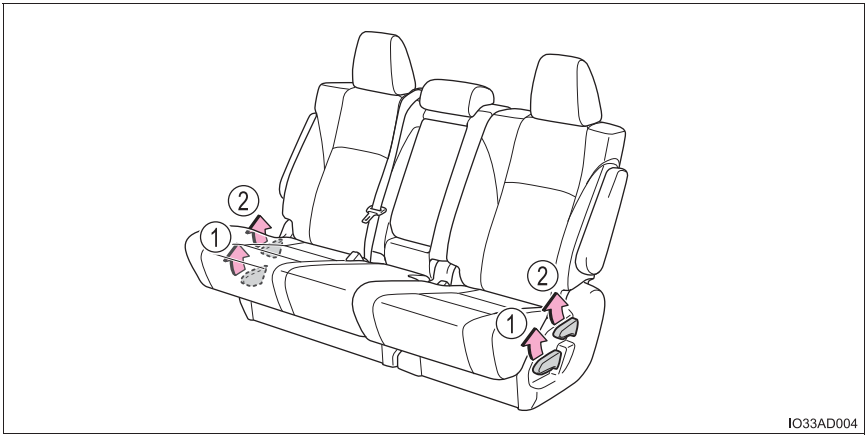
① 前後左右位置調整 ※

② リクライニング調整

③ オットマン角度調整／格納

※ レバーを 1 段階上げると前後位置調整、2 段階上げると前後左右位置調整ができます。

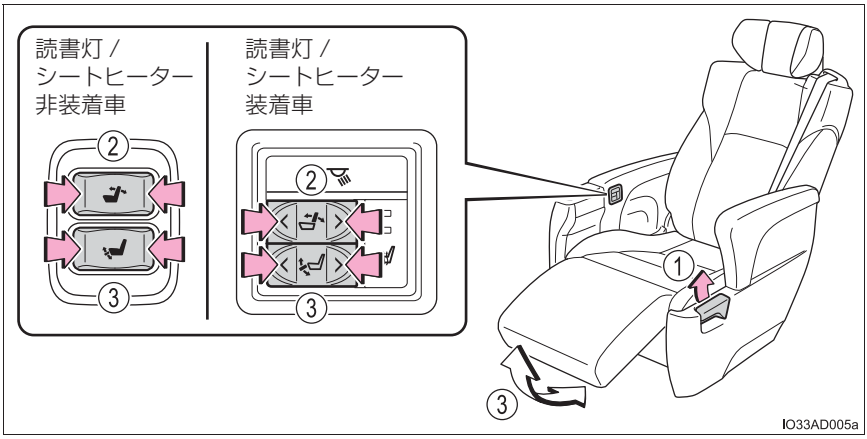
▶ マニュアルシート（8 人乗り）



① 前後位置調整

② リクライニング調整

▶ パワーシート（シートポジションメモリー非装着車）

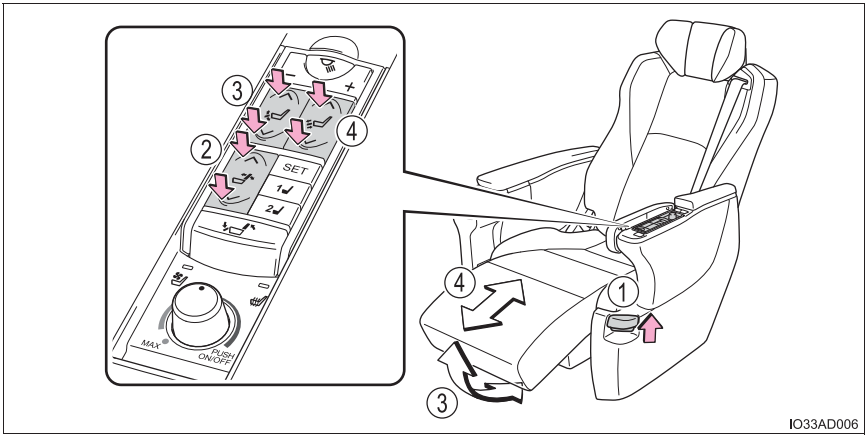


① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

③ オットマン角度調整／格納（電動）

▶ パワーシート（シートポジションメモリー装着車）



① 前後位置調整（手動）

② リクライニング調整（電動）

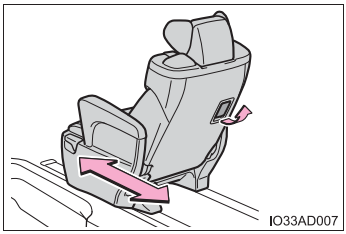
③ オットマン角度調整 / 格納（電動）

④ オットマン長さ調整（電動）

知識

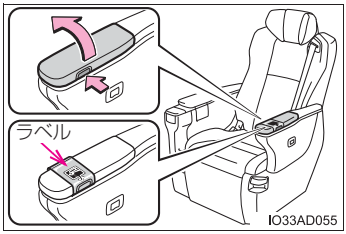
■サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには（パワーシート装着車）

レバーを引き、セカンドシートを前後に動かします。



■アームレストのフタを開けるとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

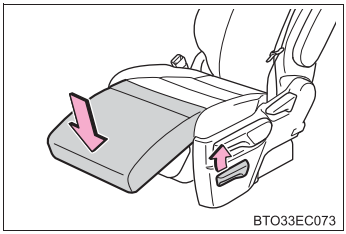
フタの横のボタンを押してください。
アームレストにボタンの位置を示すラベルが貼ってあります。使用する前にラベルをはがしてください。



■オットマン★を格納するときは

▶マニュアルシート

オットマン調整レバーを引いたままオットマンを下側に押します



▶パワーシート（シートポジションメモリー装着車）

オットマンの長さをいちばん短くして格納してください。

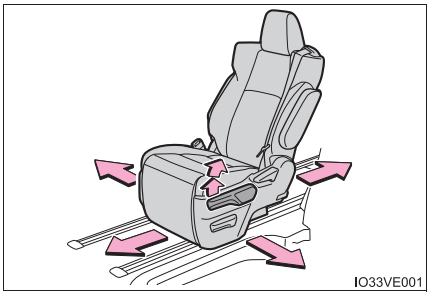
■警告ブザー（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

シートを調整したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合、シート調整システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

セカンドシートを左右に調整する（マニュアルシート［7 人乗り］）★

レバーを 2 段階引く

セカンドシートを前後左右に調整することができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシートへの乗り降り（マニュアルシート）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 7 人乗り車：

オットマンを格納する（→ P. 202）

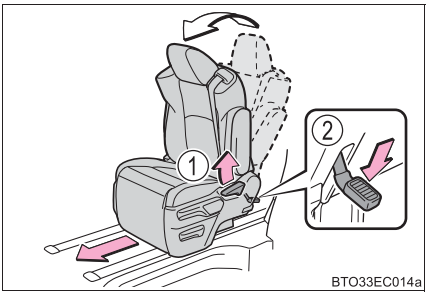
8 人乗り車：

運転席側から乗り降りするときは、セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 214）

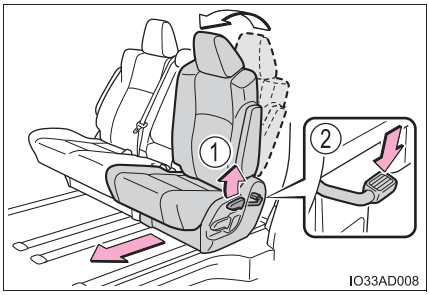
3 リクライニングレバー（①）を引く、または前倒しペダル（②）を踏む

背もたれが前に倒れて、シートを前方に移動させることができます。

▶ 7 人乗り車



▶ 8 人乗り車



4 乗車または降車後、ご希望の位置にセカンドシートを動かし、背もたれを起こす

背もたれとシートの位置が固定されます。

サードシートへの乗り降り（パワーシート）

▶ パワーシート（シートポジションメモリー非装着車）

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 オットマンを格納する（→ P. 202）

3 サイドテーブルを格納する（→ P. 565）

左右セカンドシートの間から乗り降りします。

▶ パワーシート（シートポジションメモリー装着車）

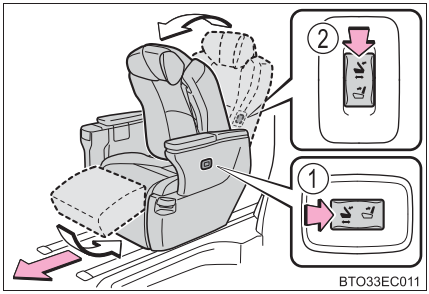
■ **電動で操作する**

1 車を停止させる。シフトレバーを P に入れるかパワースイッチを OFF にし、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サイドテーブルを格納する（→ P. 565）

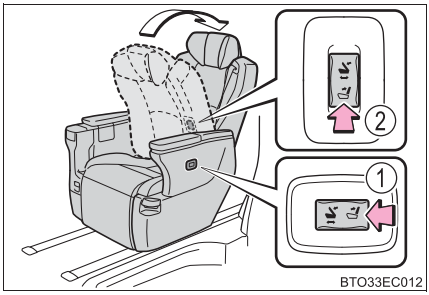
3 ブザーが鳴るまで①または②の を押す

背もたれが自動で倒れ、オットマンが格納し、手動でシートを前方に移動させることができます。



4 乗車または降車後、ご希望の位置までシートを動かし、①または②の をブザーが鳴るまで押す

背もたれがニュートラルポジションにもどり、シートはロックされます。



シートを軽くゆすり、確実にロックされていることを確認します。

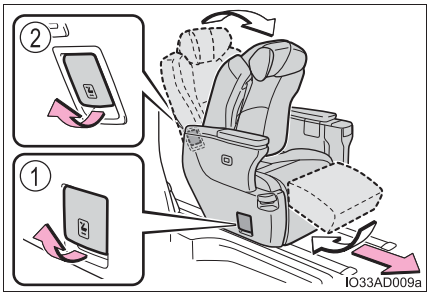
■ 手動で操作する（運転席側のみ）★

1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 サイドテーブルを格納する（→ P. 565）

3 ①または②のレバーを引く

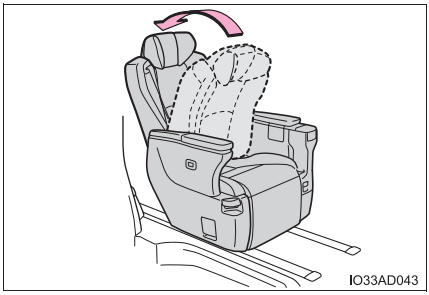
背もたれが自動で倒れ、オットマンが格納し、手動でシートを前方に移動させることができます。



4 乗車または降車後、ご希望の位置までシートを動かし、背もたれをロックする位置まで起こす

シート位置もロックされます。

シートを軽くゆすり、確実にロックされていることを確認します。



知識

■シートが作動しないとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

次のいずれかの状況のとき、 を押すとブザーが 2 回鳴り、シートを操作することはできません。

●スイッチを押した側のシートに人が座っている、または荷物が載っているとき

●スイッチを押した側のシートベルトが装着されているとき

●パワースイッチが ON モードで、シフトレバーが P 以外にあるとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■シートの作動を途中で止めるとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

作動しているシートで、次のいずれかの操作をします。

● か を押す

●シート横の前後位置調整レバーを操作する
シート背面のレバーでは、作動を停止することができません。

●リクライニング調整・オットマン角度調整・オットマン長さ調整スイッチのいずれかを押す

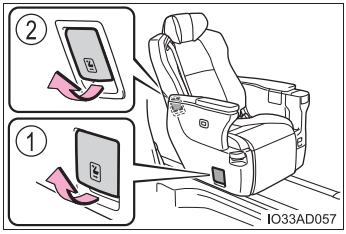
● “SET” ボタン・セカンドシートポジションメモリーのいずれかのボタンを押す（→ P. 225）

●シートまたはインストルメントパネルにあるセカンドシートニュートラルポジションスイッチを押す（→ P. 212）

●シートに座るまたはシートベルトを着用する

止める位置によっては、ブザーが約 3 秒間鳴ることがあります。その場合はもう一度スイッチを押 して、作動を完了させてください。処置をしてもブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■シートの電動作動中に手動操作したとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］［運転席側のみ］）★



を押してシートが自動で作動している時に、①または②のレバーを引くと自動作動が停止して背もたれが倒れます。

背もたれはレバーを引いた位置までしかもどらないため、位置によってはブザーが約 3 秒間鳴ることがあります。その場合は を押してください。処置をしてもブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告ブザー（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

●パワースイッチを ON モードにしたときにブザーが約 3 秒間鳴った場合、前回シートを調整したときに異常が発生していた可能性があります。

この場合、いずれかのシート調整スイッチまたは か を押して、シートが正常に動くことを確認してください。

●次のいずれかの状況でブザーが約 3 秒間鳴った場合、 を押して作動を完了させてください。

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外の位置にあるとき
・セカンドシートに人が座っているか、荷物が載っている、またはシートベルトが装着されているとき
・セカンドシートが調整中でないとき

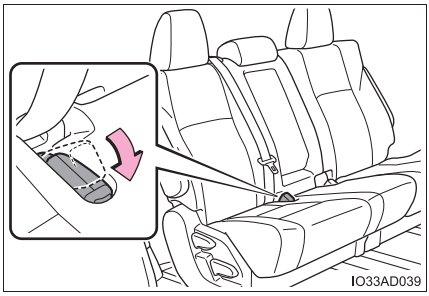
処置をしても警告ブザーが鳴る場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

セカンドシートをチップアップするには（マニュアルシート[8 人乗り]）

運転席側、助手席側ともに、同じ要領で操作することができます。

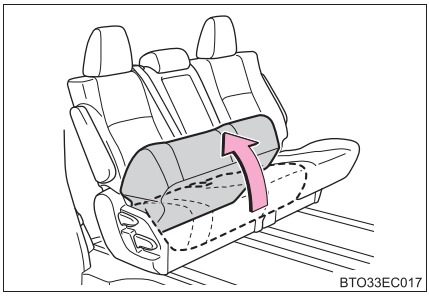
1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける

2 セカンドシートベルトのバックルを格納する



3 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 214）

4 シートクッションを起こす

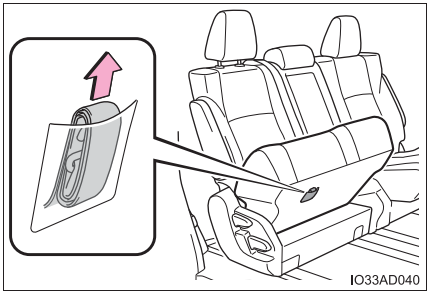


5 リクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 202）

シートのロックが解除されます。

6 シートをお好みの位置に移動したあと、背もたれをもとにもどし、シートを固定する

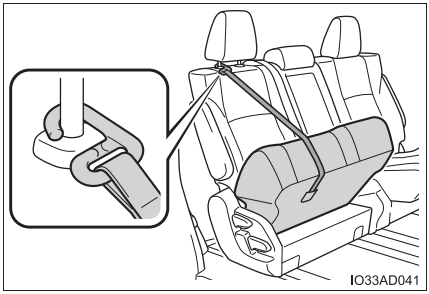
7 シートクッション下部の収納ポケットから、シート固定バンドを取り出す



8 シート固定バンドのフックをヘッドレストにかけ、シートクッションを固定する

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

チップアップしたあとに前後位置調整レバーを引くと、シートを動かすことができます。



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

ニュートラルポジションにもどすとき（パワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

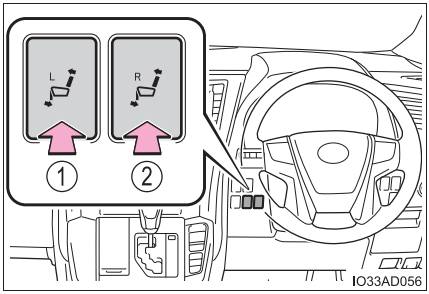
■ 運転席で操作する

ブザーが鳴るまでスイッチを押す

① 助手席側

② 運転席側

あらかじめ登録されたポジション（→ P. 213）に背もたれがもどるとともに、オットマンが格納されます。



お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

■ セカンドシートで操作する

ブザーが鳴るまで を押す

あらかじめ登録されたポジション（→P. 213）に背もたれがもどるとともに、オットマンが格納されます。

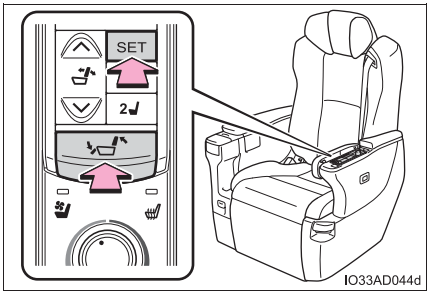
お好みの背もたれ位置を登録していない場合は、所定の位置（初期設定の位置）にもどります。

■ ポジションの登録

1 パワースイッチを ON モードにする

2 背もたれをお好みの位置に調整する

3 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと、3 秒以内に をブザーが鳴るまで押す



知識

■運転席側からセカンドシートを操作するとき

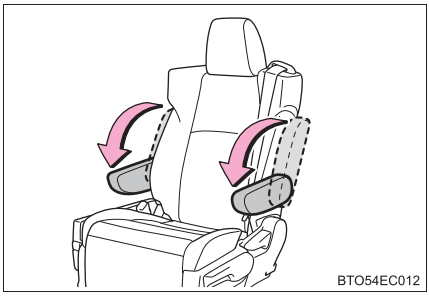
次の場合は、運転席側のスイッチを押してもセカンドシートが作動しません。（ブザーが 2 回鳴ります）

- セカンドシートに乗員がいる、または重量物が置かれているとき
- セカンドシートのシートベルトが装着されているとき

アームレスト★

▶ マニュアルシート（7 人乗り）

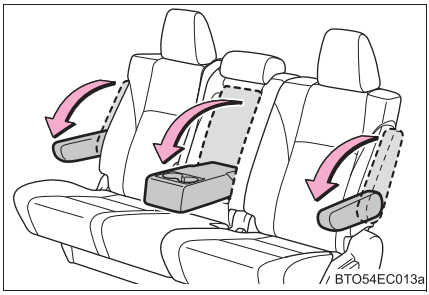
アームレストの角度を調整するには、アームレストをいっぱいまで持ち上げてから、止まる位置まで下げます。その後、お好みの位置まで持ち上げると、その位置でアームレストが固定されます。



アームレストが固定されると、さげることはできなくなります。
下げたいときは、再度いっぱいまで持ち上げてください。

▶ マニュアルシート（8 人乗り）

手前に倒して使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■シート調整について

●同乗者や荷物などにシートがあたらないよう、ご注意ください。

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。

■サードシートに乗り降りするとき

●サードシートへ乗り降りしたあとは、必ずセカンドシートを固定させてください。

●シートを調整しているときは、シートの下や動いている部分の近くに手を近付けないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。

■前後調整やオットマン★の操作をするとき

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■オットマン★を使用するとき

●走行中は角度・長さ調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●オットマンの上には絶対に乗らないでください。
オットマンが破損し、転倒などして生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車に乗り降りする際、オットマンを上げているときは格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**運転席またはサードシートからセカンドシートを操作するとき**

セカンドシートに乗員がいるときは操作をしないでください。
セカンドシートの乗員がけがをするおそれがあります。

注意

■**サードシートに乗り降りするとき（マニュアルシート［8 人乗り］）**

シートクッションを持ち上げているときは、前倒しペダルを通常よりも強く踏み込んでください。

■**オットマン★の故障を防ぐために**

- 足元のスペースを確保しオットマンの作動をさまたげないようにしてください。
- オットマン部分に重いものを載せないでください。
- オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

■**運転席またはサードシートからセカンドシートを操作するとき**

操作する前に、セカンドシートの足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

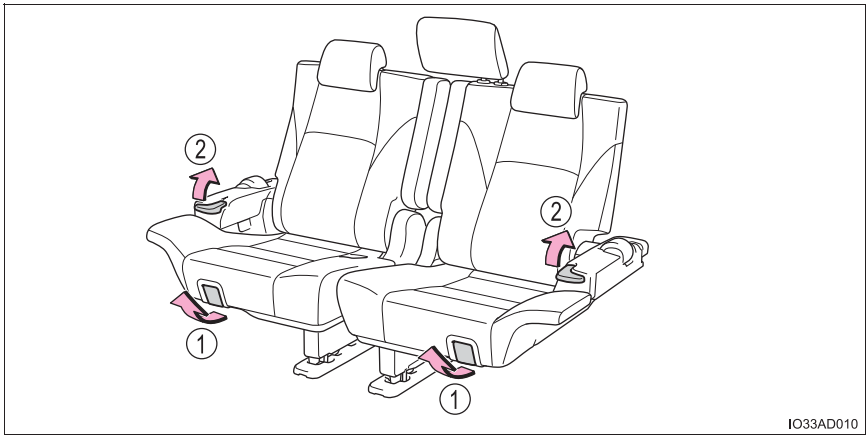
■**アームレスト★の破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

サードシート★

調整のしかた



① 前後位置調整　② リクライニング調整

サードシートへの乗り降り

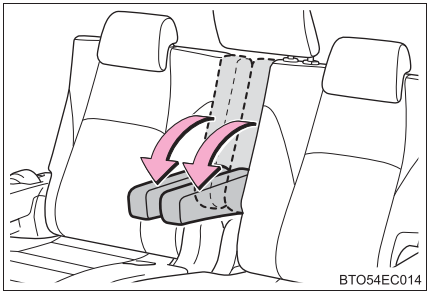
→ P. 206

サードシートを格納するには

→ P. 235

アームレスト

手前に倒して使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■サードシートからセカンドシートを前後に移動させるには（セカンドパワーシート装着車）

→ P. 204

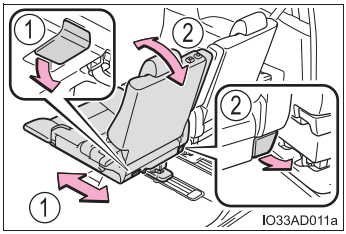
■バックドア側からサードシートを調整するには

① 前後位置調整

レバーを引いたまま、シートを前後に動かします。

② リクライニング調整

レバーを引いたまま、背もたれを前後に動かします。



警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートを軽くゆさぶり、シートが確実に固定されていることを確認してください。
- 中央席に座るときは、前後位置およびリクライニング位置を左右のシートで同じにしてください。
  お守りいただかないと、サードシート中央席シートベルトが正しく着用できず重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■アームレスト★の破損を防ぐために

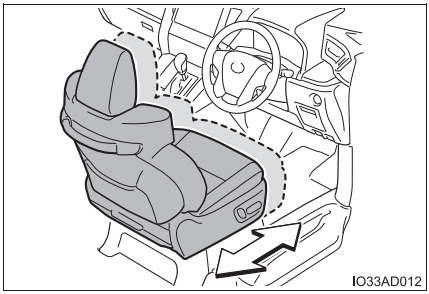
過度の負荷をかけないでください。

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー（フロントシート）／メモリーコール機能★

自動で運転席・ドアミラーを動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整したりします。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートが自動で動きます。



■ 降車時

次のすべての操作を行ったとき、シートが降りやすい位置に自動で調整されます。

- シフトレバーを P に入れる
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

■ 乗車時

次のいずれかの操作を行ったとき、シートがもとの位置にもどります。

- パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにする
- シートベルトを着用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■作動の停止について

パワーイージーアクセスシステム作動中に次の操作をすると作動が停止します。

降車時：
- シフトレバーを操作する
- 運転席のシート調整スイッチ（→ P. 198）のいずれかを操作する
- ポジションメモリーの 1・2・3 のいずれかのボタンを押す（→ P. 221）

乗車時：
- 運転席のシート調整スイッチ（→ P. 198）のいずれかを操作する
- ポジションメモリーの 1・2・3 のいずれかのボタンを押す（→ P. 221）
- 車両を発進させる

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 697）

ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ドアミラーの角度）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。
ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

登録方法

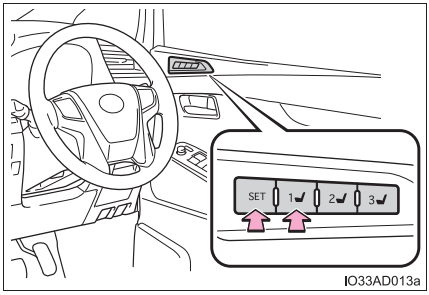
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 運転席・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する（→ P. 259）

4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

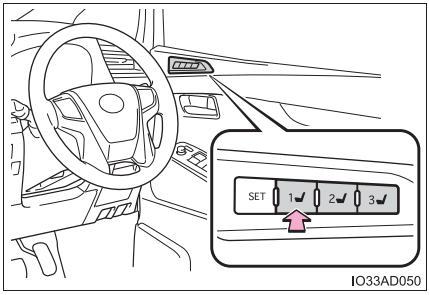


呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→ P. 198）

すべての位置が登録できます。

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能

お好みのドライビングポジションを電子キーに登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

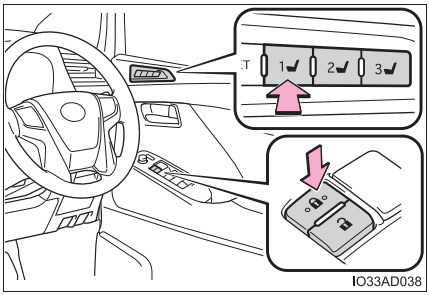
1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

シートの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

ドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、シートベルトを着用する

シートが登録したドライビングポジションに動きます。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 697）

警告

■シートを調整するとき

シート調整中は、シートがセカンド席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

セカンドシートポジションメモリー★

お好みのポジション（オットマンと背もたれ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ 登録方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

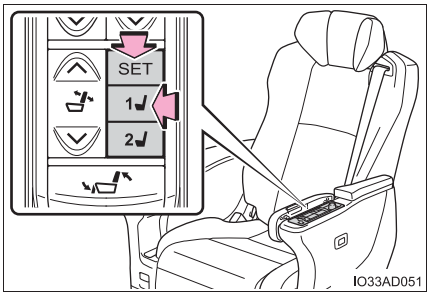
2 パワースイッチを ON モードにする

3 ボタンを押してカバーを開ける（→ P. 204）

4 セカンドシートをお好みの位置に調整する（→ P. 204）

5 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に、1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。



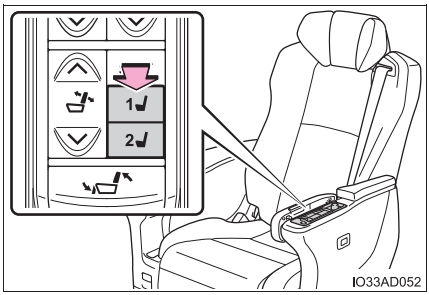
■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 パワースイッチを ON モードにする

3 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

背もたれの作動中は、ブザーが断続的に鳴ります。

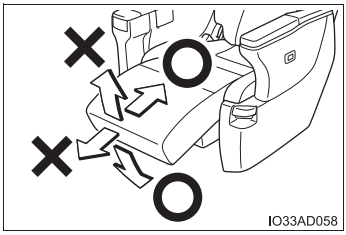


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■オットマンの作動について

登録された位置が現在の位置より上および伸びる位置にある場合は作動しません。現在の位置より下または縮む位置にある（格納方向）場合のみ作動します。



■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する

■登録できるシート位置

シート前後位置以外の位置が登録できます。

■もとの位置（ニュートラルポジション）にもどすには

→ P. 212

■警告ブザー

登録したポジションを呼び出したあとにブザーが約 3 秒間鳴った場合は、システムに異常がある可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、セカンド席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

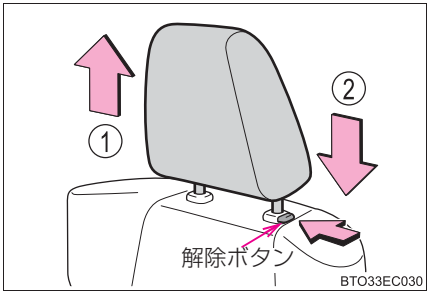
ヘッドレスト

フロントシート

① 上げる

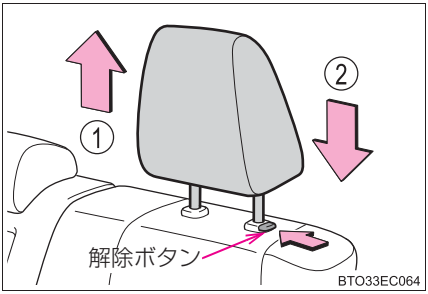
② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



セカンドシート（8 人乗り車中央席を除く）

▶ マニュアルシート

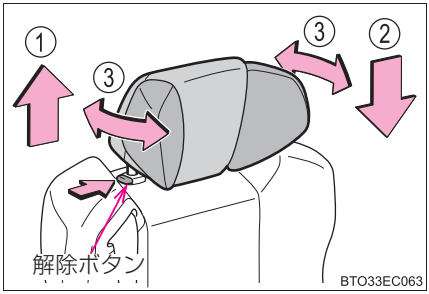


① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ パワーシート



① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

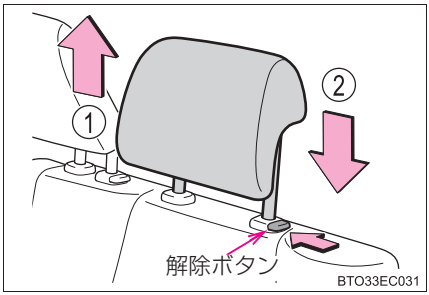
③ 左右調整

セカンドシート（8 人乗り車中央席）／サードシート（外側席）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

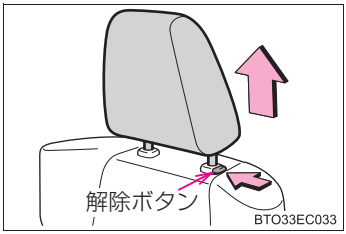


知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

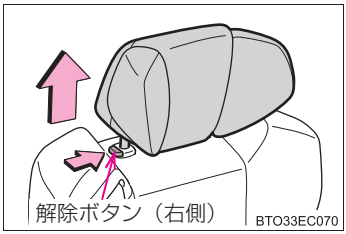
▶ セカンドパワーシートを除く

解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。

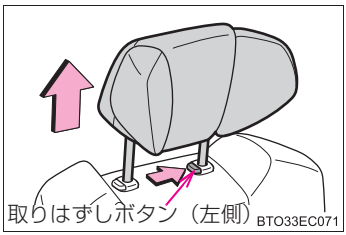


▶ セカンドパワーシート

1 解除ボタンを押しながらヘッドレストをいちばん上まで引き上げる



2 ヘッドレストを引き上げながら取りはずしボタンを押して、ヘッドレストを取りはずす

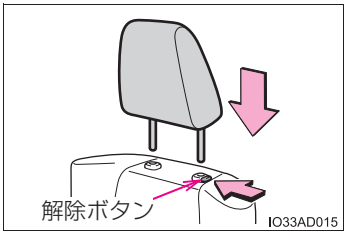


■ヘッドレストを取り付けるとき

▶ フロントシート / セカンドマニュアルシート / サードシート（外側席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

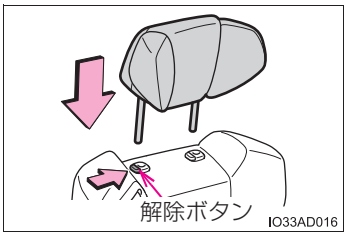
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶ セカンドパワーシート

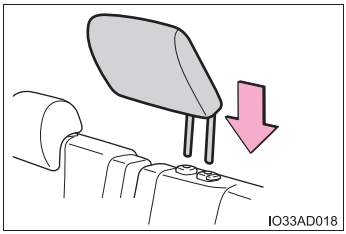
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



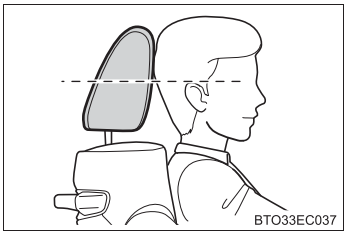
▶ サードシート（中央席）

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。



■ヘッドレストの高さについて（フロントシート／セカンドシート［8 人乗り車中央席を除く］）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



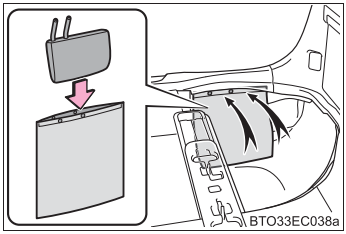
■セカンドシート（8 人乗り車中央席）／サードシート（外側席）のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■サードシート（中央席）のヘッドレストの格納について

1 左側のデッキボードを折り曲げてくぼみにかける、または取りはずす（→ P. 545）

2 ヘッドレストを収納袋に入れて、収納袋のホックとラゲージルームのホックで固定する



警告

■ヘッドレストについて

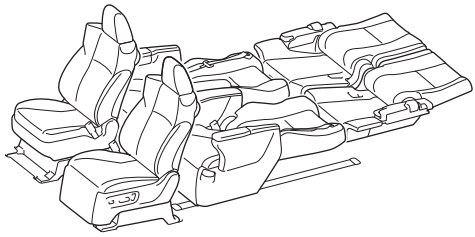
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートアレンジ

◆ リヤシートフルフラットモード★

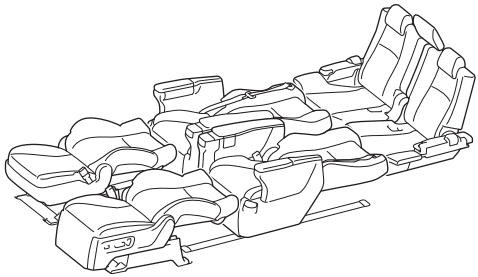
セカンドシート、サードシートをフルフラットにする（→ P. 233）



BTO33EC039

◆ フロント・セカンドフルフラットモード★

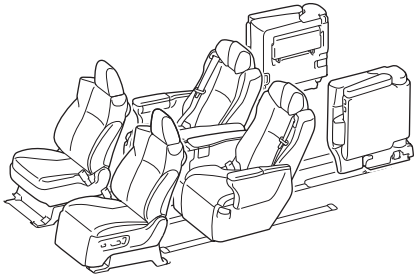
フロントシート、セカンドシートをフルフラットにする（→ P. 234）



BTO33EC040

◆ 荷室モード

サードシートを格納する（→ P. 235）

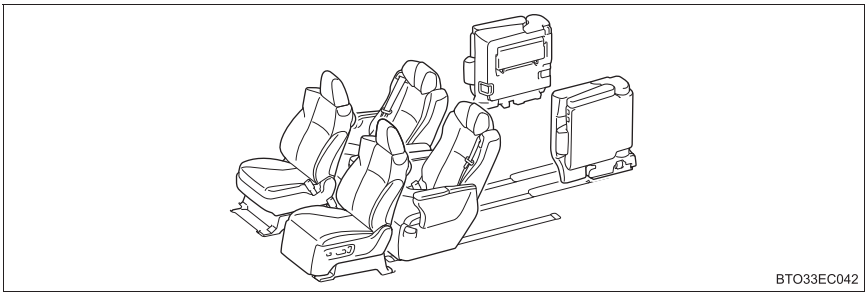


BTO33EC041

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

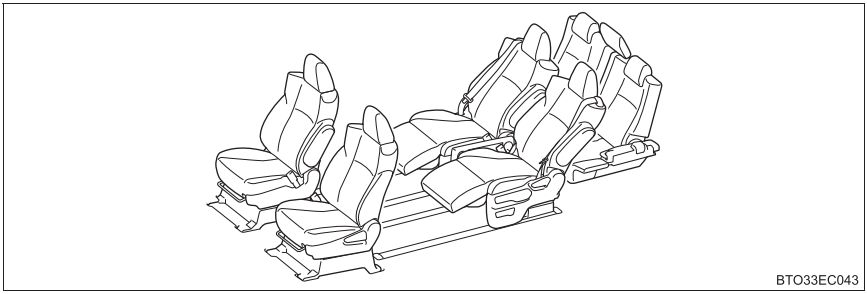
◆ 最大積載モード

ラゲージスペースを拡大する（→ P. 237）



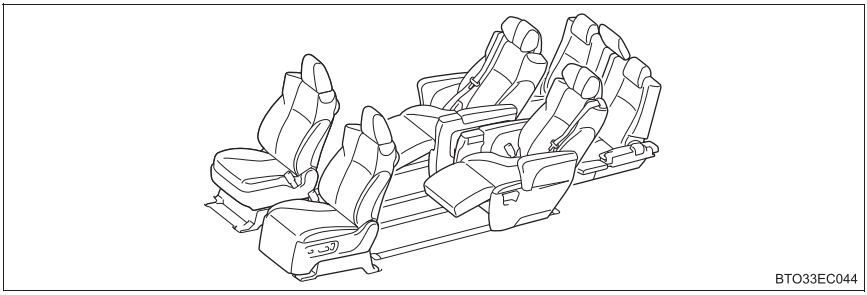
◆ スーパーリラックスモード（セカンドマニュアルシート［7 人乗り］装着車）

セカンドシートを後方へ移動する（→ P. 238）



◆ エグゼクティブモード（セカンドパワーシート装着車）

→ P. 238



リヤシートフルフラットモードにする★

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 217）

サードシートのアームレストを格納してください。（→ P. 217）

4 サードシートのヘッドレストをはずす。（→ P. 227）

中央席ヘッドレストは、ラゲージルームに収納します。（→ P. 230）

5 サードシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 217）

6 サードシートがバックドアにふれる位置までうしろに移動させる（→ P. 217）

7 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 202）

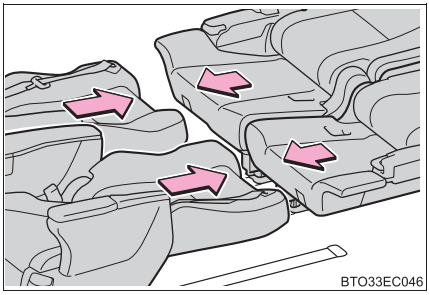
8 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 202）

セカンドシートのアームレストを格納してください。（→ P. 214）

9 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 227）

10 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 202）

11 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるように必要に応じてシートを移動させる（→ P. 202, 217）



シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント・セカンドフルフラットモードにする★

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 217）

サードシートのアームレストを格納してください。（→ P. 217）

4 セカンドシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 202）

セカンドシートのアームレスト★を格納してください。（→ P. 214）

5 フロントシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 198）

6 フロントシートのヘッドレストをはずす（→ P. 227）

7 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 198）

8 フロントシートとセカンドシートのすき間がなくなるようにセカンドシートを移動させる（→ P. 202）

9 7 人乗り車のセカンドマニュアルシートは、左右位置を中央に移動させる（→ P. 202）

10 セカンドシートのヘッドレストをはずす（→ P. 227）

11 セカンドシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す（→ P. 202）

12 セカンドシートとサードシートのすき間がなくなるようにサードシートを移動させる（→ P. 217）

13 サードシートの背もたれをバックドアにふれるまで倒す（→ P. 217）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

荷室モードにする

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシート中央席シートベルトを格納する（→ P. 30）

3 サードシートの各シートベルトのバックルを格納する（→ P. 31）

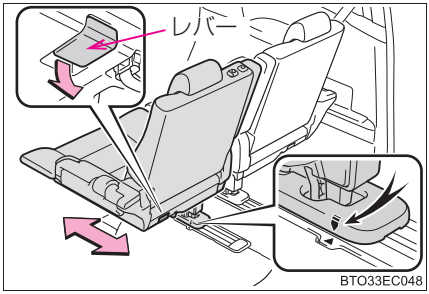
4 サードシート中央席のヘッドレストを取りはずして収納する（→ P. 228）

5 サードシート左右席のヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 227）

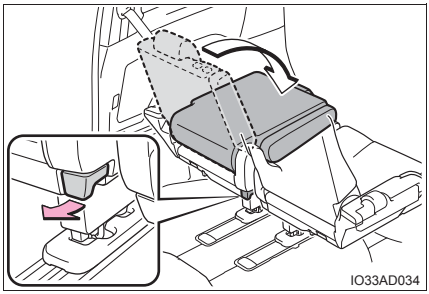
6 サードシートのアームレストを格納する（→ P. 217）

7 レバーを引いてサードシートを前後に動かし、シート側のマークをレール側のマークに合わせる

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。



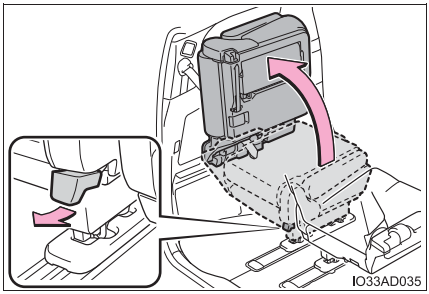
8 スペースアップレバーを 1 段階引いて背もたれを倒す。



9 スペースアップレバーをもう 1 段階引いてシートをはね上げる。

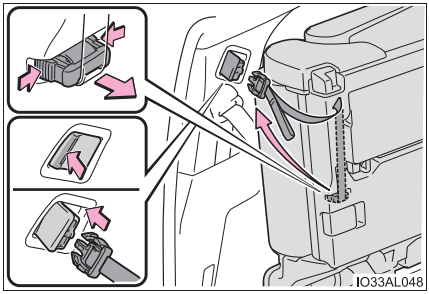
シートを前後に動かさないではね上げてください。

シートのはね上げと連動して、シート脚部が格納されます。



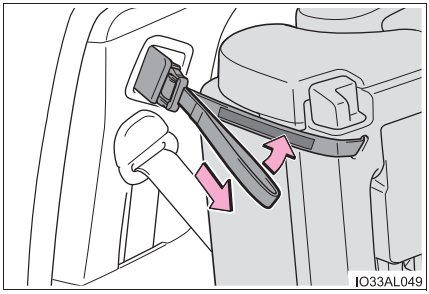
10 シートクッション裏側からシート固定ベルトを取り出し、壁面のロック部と結合する

ロック部は、図のように押してから引き出します。



11 シートを手で押さえながら、シート固定ベルトを引っ張りる

ベルトの長さを調整したあと、図のように面ファスナーでベルトを固定します。



12 シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

最大積載モードにする

▶ セカンドパワーシート装着車

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 217）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 202）

シートを軽くゆすり、確実にロックしていることを確認します。

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り）装着車

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 217）

3 セカンドシートをいちばん前まで移動させる（→ P. 202）

▶ 8 人乗り車

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートを格納する（→ P. 235）

3 セカンドシートベルトのバックルを格納する（→ P. 28）

4 セカンドシートのアームレストを格納する（→ P. 214）

5 セカンドシートのシートクッションを起こす（→ P. 211）

6 セカンドシートのシートクッション下部の収納ポケットから、シート固定バンドを取り出す（→ P. 211）

7 シート固定バンドのフックをヘッドレストにかけ、シートクッションを固定する（→ P. 212）

シートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認します。

8 セカンドシートのリクライニングレバーを引く、または前倒しペダルを踏んで背もたれを前方に倒す（→ P. 202）

シートを前方に移動させることができます。

9 セカンドシートをいちばん前まで移動したあと、背もたれをもとにもどし、セカンドシートを固定する（→ P. 202）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

スーパーリラックスモードにする（セカンドマニュアルシート［7 人乗り］装着車）

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 217）

サードシートのアームレストを格納してください。（→ P. 217）

3 セカンドシートのサイドテーブル★を格納する（→ P. 565）

4 セカンドシートの左右位置を中央に移動させる（→ P. 202）

セカンドシートのアームレストを格納してください。（→ P. 214）

5 セカンドシートとサードシートのあいだのスライドストッパーをはずす（→ P. 239）

6 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 202）

7 オットマンの角度を調整する（→ P. 202）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

エグゼクティブモードにするには（セカンドパワーシート装着車）

1 車を停止させ、シフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキをかける

2 サードシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P. 217）

3 セカンドシートを後方へ移動させる（→ P. 202）

4 オットマンの角度／長さを調整する（→ P. 202）

シートをもとにもどすときは、逆の手順でもどしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

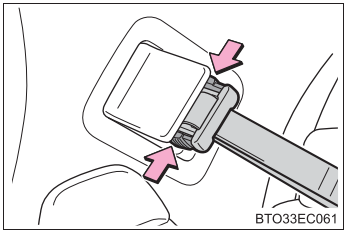
■サードシートを格納するとき

サードシートを格納するときは、バックドア側から操作してください。

■シート固定ベルトをはずすとき

シート固定ベルトの上下のツメを押してはずし、シートクッション裏側に格納します。

シートを押して、ベルトをゆるめた状態でツメを押してください。

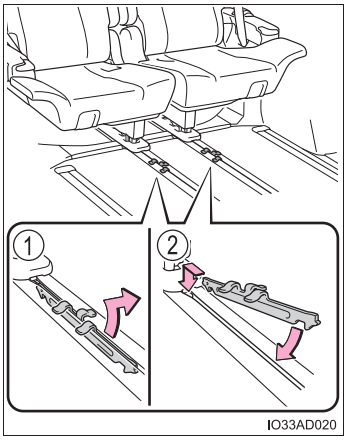


■スライドストッパーについて

- サードシートの足元に、スライドストッパーがあります。これはシートをスライドさせたとき、誤って乗員がシートとシートのあいだに足を挟まないようにするために取り付けられています。
- スライドストッパーを取りはずしたときは、紛失しないように大切に保管してください。工具袋に入れておくことをおすすめします。（→ P. 643, 658）

① 取りはずし

② 取り付け



警告

■**シートアレンジについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はシートアレンジ操作をしないでください。
- 必ず平坦な場所でシフトレバーを P に入れて、パーキングブレーキを確実にかけてください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- シートアレンジをしたあとは、シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。
- シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。
- ラゲージルームに人をのせて走行しないでください。
- フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。
- ラゲージルームにお子様をのせないでください。
- シートを移動しないときはスライドストッパーを取りはずさないでください。

■**フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物を乗せて走行しないでください。

警告

■サードシートの格納について

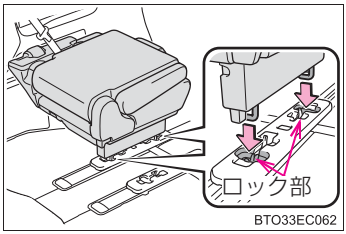
●ラゲージスペースに人を乗せて走行しないでください。

●シートベルトが背もたれや、シートクッションに挟まれていないことを確認してください。

●シートクッションの上に荷物などをのせたままシートを格納しないでください。

●シート格納時にシート固定ベルトで固定されていない場合、シート脚部が動き、荷物やシートが破損したり、けがをするおそれがあります。シートを格納したときは必ずシートを固定してください。

●シートをおろしたときは、シート脚部が床面ロック部に確実に固定されたことを確認してください。



●左右のシートを同時に格納しないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあります。シートを格納するときは、片側ずつ操作してください。

■シートをもとの位置にもどしたあとは

●シートを軽くゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。

●シートの間にシートベルト、バックルが挟み込まれていないか確認してください。

●ヘッドレストが取り付けられていることを確認してください。

⚠注意

■シートアレンジについて

シートレールの上にマットなどを敷かないでください。

■シートの格納について

- セカンドシートのシートクッションを持ち上げたときは、シートクッションの土台部分に乗ったり、手や足を入れないでください。
- サードシートをおろすときは、床面に物がないことを確認してから行ってください。
- セカンドシートの位置や、サードシートの片側の背もたれが前に倒れている状態だと、サードシートがあたり格納できないことがあります。
- サードシートのバックルを格納（→ P. 31）しないでサードシートを格納（→ P. 235, 237）すると、背もたれがへこむことがあります。

■フラットシートについて

- 背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。（マニュアルシート）
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動してください。

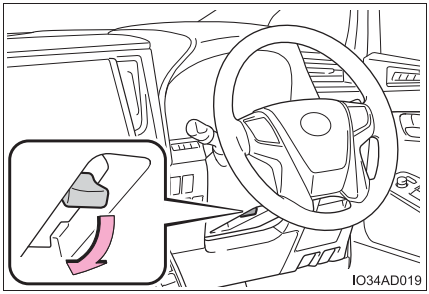
■スライドストッパーについて

スライドストッパーは必ず正しい向きで取り付けてください（→ P. 239）。逆向きで取り付けた状態でシートをスライドさせると、レール部やストッパーなどが破損するおそれがあります。

ハンドル

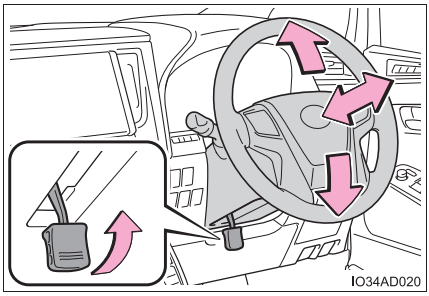
調整のしかた

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



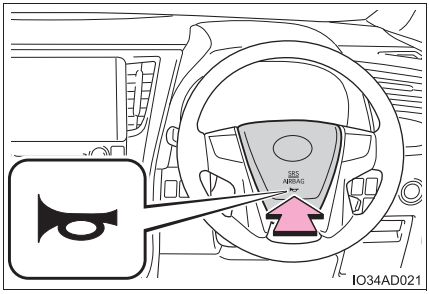
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



警告

■**走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

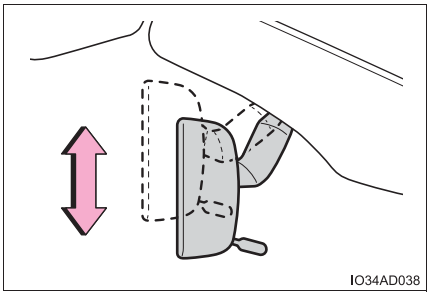
インナーミラー★

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



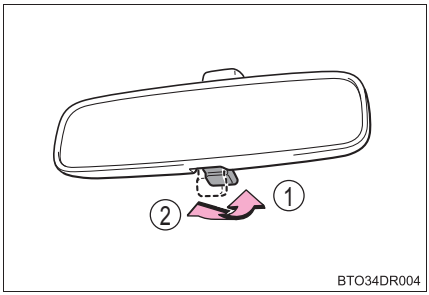
防眩機能

▶ 手動防眩ミラー

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



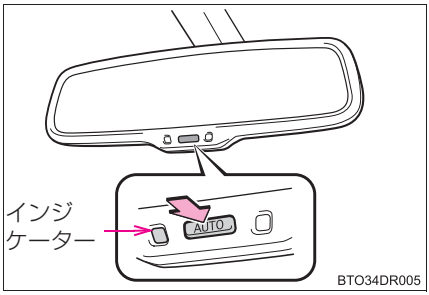
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 自動防眩ミラー

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

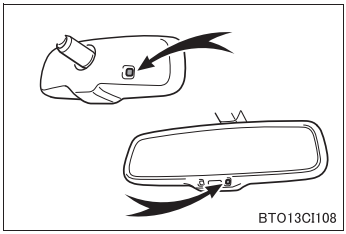
ON のときはインジケーターが点灯します。
パワースイッチを ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

デジタルインナーミラー★

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する運転補助装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、セカンドシート・サードシートを映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

警告

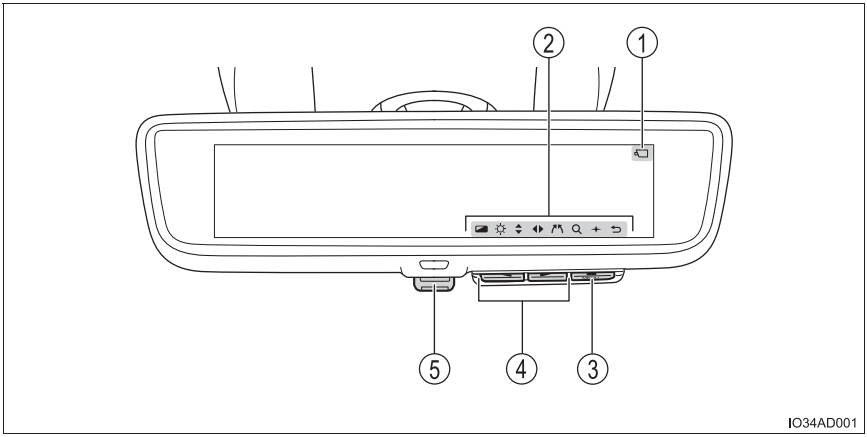
次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■デジタルインナーミラーをお使いになる前に

- 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→ P. 250）
- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各部の名称



① カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

② アイコン表示エリア

調整アイコン（→ P. 250）などが表示されます。

③ メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

④ 選択スイッチ

調整アイコンの選択や、ディスプレイ表示の調整を行います。

⑤ 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

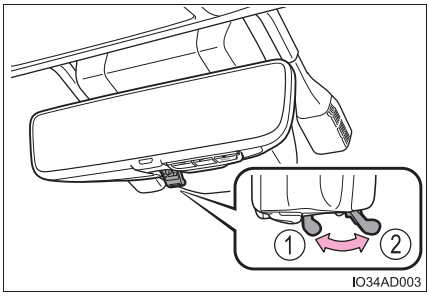
① デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

② 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。



知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

パワースイッチを ON モードから OFF またはアクセサリーモードにすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴やほこりが付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のライトのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●バックドアが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード（ツインムーンルーフ装着車）を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のライトの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

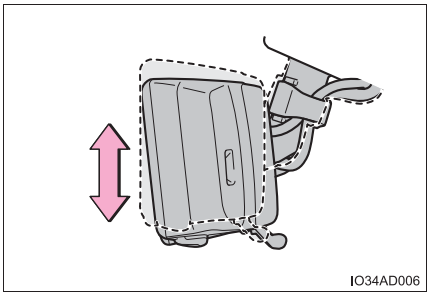
●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こすおそれがあります。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

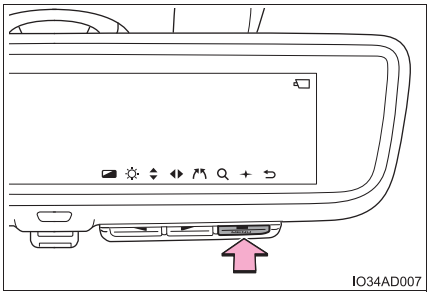


■ ディスプレイの調整（デジタルミラーモード）

デジタルミラーモードの調整や機能の ON/OFF ができます。

1 メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンが表示されます。



2 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定変更したい項目にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

3 選択スイッチの ▬ または ▬ を押して設定を変更し、メニュー／決定スイッチを押す

◪ と ✦ の ON/OFF を選択するときは、▬ または ▬ を押して

❙（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押します。

4 選択スイッチの▬または▬を押して↩にカーソルを合わせてメニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	自動防眩機能の ON/OFF を 切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に調整します。 パワースイッチを ON モードにしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。
	PLS モードの ON/OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさを抑え、ディスプレイが見えにくくなることを防止します。（デジタルミラーモードで使用時）PLS モードが ON の時はディスプレイ左上に✧が表示されます。

※ 鏡面ミラーモード使用時の機能ですが、デジタルミラーモード使用時にも設定できます。（→ P. 252）

■ 自動防眩機能の ON/OFF 切りかえ（鏡面ミラーモード）

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。変更はデジタルミラーモード使用時、鏡面ミラーモード使用時のいずれからでも行えます。

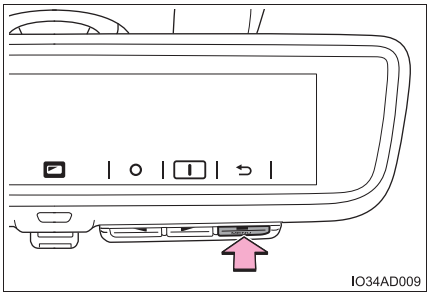
▶ デジタルミラーモード使用時

→ P. 250

▶ 鏡面ミラーモード使用時

1 メニュー／決定スイッチを押す

設定画面が表示されます。



2 選択スイッチの ▭ または ▭ を押して ▌（ON）または ○（OFF）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

設定画面の表示が消えます。

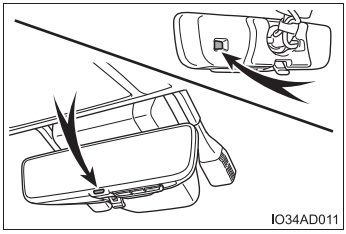
知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

- 約 10 秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。
- ディスプレイ表示の調整を限界値まで行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。
- ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。
  目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。
- ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行前の留意事項

走行前に次のことを行ってください。

- 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する
- デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

■走行中の留意事項

- 走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。
  デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

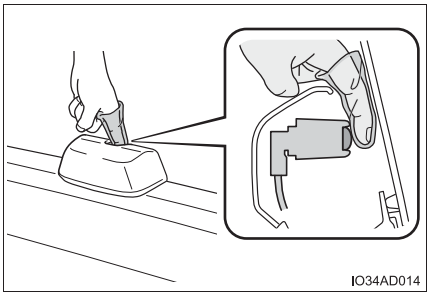
ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラのレンズが汚れていると、鮮明な画像が得られません。

水滴やほこりなどが付着したときは水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

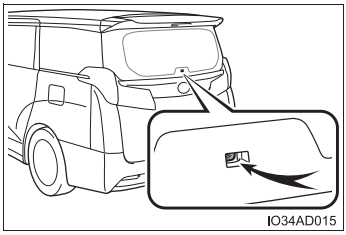
また、清掃する際はリヤウインドウガラスの内側も同様に清掃してください。



知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。



⚠注意

■**デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために**

ミラー本体の取り外し・分解・改造はしないでください。

■**カメラの故障や誤作動を防ぐために**

デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

- カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
- カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。
- カメラレンズをふくときは水で湿らせたやわらかい布を使用してください。カメラレンズを強くこするとレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
- リヤウインドウガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼る場合は、カメラ前部に貼らないでください。
カメラ前部に貼り付けた場合、映像が正しく映らなくなる場合があります。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになった時は、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	ミラー表面が汚れている	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった	鏡面ミラーモードに切りかえてください。（ツインムーンルーフ★からの光があたっているときは、サンシェードを閉めてください）
	・夜間など暗いところで使用した ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した ・カメラ付近の温度が高い、または低い ・外気温が低い ・雨天時など湿度が高い ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください）
	カメラのレンズに水滴、ほこりなどの異物や汚れが付着している	水で湿らせたやわらかい布でカメラレンズを清掃してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい	リヤウインドウガラスが曇っている	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 リヤウインドウデフォッガー（→ P. 515）を使用し、曇りが取れてから再びデジタルミラーモードでご使用ください。
	リヤウインドウガラスの外側が汚れている	リヤワイパーで汚れをふき取ってください。
	リヤウインドウガラスの内側が汚れている	水で湿らせたやわらかい布で清掃してください。
ディスプレイに表示される映像がずれている	バックドアが完全に閉まっていない	バックドアを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった	システムに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した		
ディスプレイ上に が表示された	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い （徐々にディスプレイが暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
切りかえレバーが正常に作動しない	切りかえレバーに異常が発生した	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約 10 秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます）

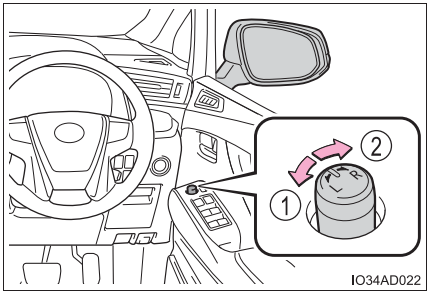
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす

① 左

② 右



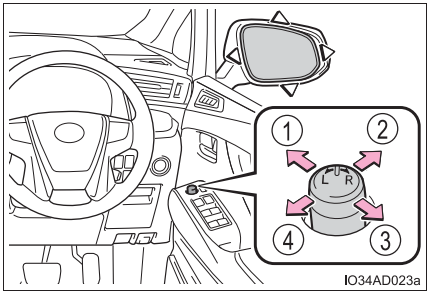
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

① 上

② 右

③ 下

④ 左

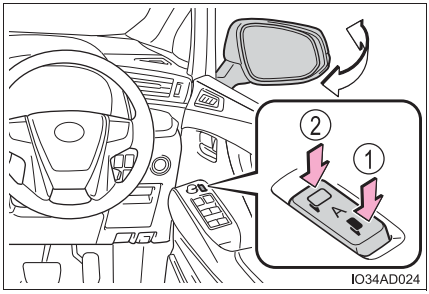


ドアミラーを格納・復帰する

① ミラーを格納する

② ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。



リバース連動機能について★

ミラー調整スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー調整スイッチの選択がLまたはRに選択されていない状態にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたはONモードのとき

■ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 515）

■ミラー角度の自動調整★

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P. 221）

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■カスタマイズ機能

オート電動格納作動の作動内容などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 701）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■**ミラーが動いているとき**

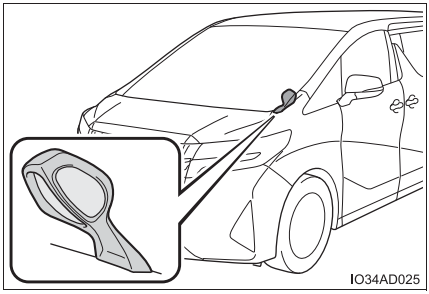
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■**ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助確認装置★

発進時またはごく低速時に、前方および左側車両側面を確認するときに役立ちます。

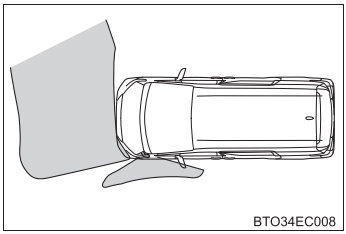


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

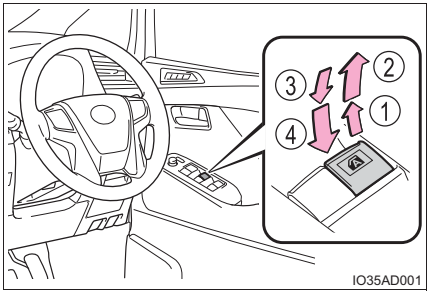
① 閉める

② 自動全閉 ※

③ 開ける

④ 自動全開 ※

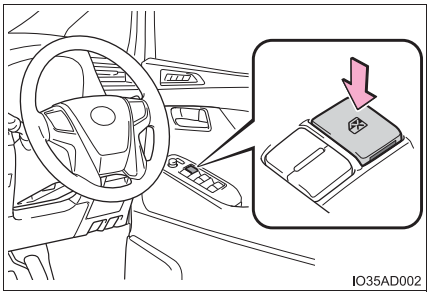
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスやリヤムーンルーフ★が作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスやリヤムーンルーフを開閉することを防止できます。



知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■**ハイブリッドシステム停止後の作動**

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■**挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めるときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON モードの状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON モードにする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 672）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→ P. 157）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告機能

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイから後席窓の開状態を確認できます。
（→ P. 129）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 700）

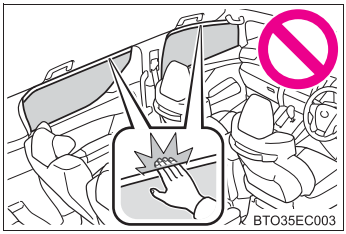
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→ P. 263）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

注意

■**挟み込み防止機能・巻き込み防止機能について**

ドアガラスを開閉しているときに、ドアを強く閉めると挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動し、ドアガラスが反転・停止することがあります。

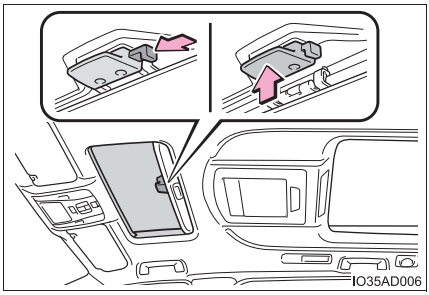
ツインムーンルーフ★

フロントムーンルーフをチルトアップすることができます。また、頭上のスイッチでリヤムーンルーフを開閉できます。

フロントムーンルーフをチルトアップする

ボタンを押しながらハンドルを押し上げる

閉めるときは“カチッ”と音がするまで引き下げます。



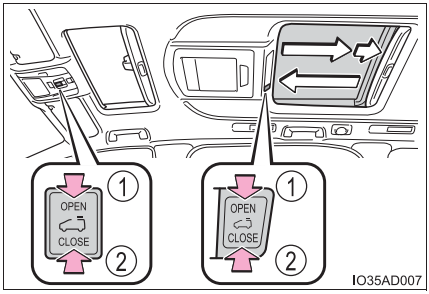
リヤムーンルーフを開閉する

① 開く ※

全開の手前の位置で止まります。(風切り音の低減機能)
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② 閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■リヤムーンルーフの作動条件

パワースイッチが ON モードのとき
ただし、パワーウインドウのウインドウロックスイッチが押された状態のときは作動しません。（→ P. 263）

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はリヤムーンルーフを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■リヤムーンルーフの挟み込み防止機能

リヤムーンルーフを閉めるときに、リヤムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、リヤサンシェードはリヤムーンルーフが開くと連動して開きます。

■リヤムーンルーフが正常に閉まらないとき

閉まるときに反転し閉じ切らない場合、次の操作を行ってください。

1 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける ※

リヤムーンルーフが全閉位置まで閉じてから、全開位置まで開き、その後再び全閉位置まで閉まります。

2 リヤムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す。

※復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■リヤムーンルーフ開警告機能

パワースイッチが OFF でリヤムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■後席窓開状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイからリヤムーンルーフの開状態を確認できます。（→ P. 129）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動リヤムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 700）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

●走行中はルーフから手や顔を出さない

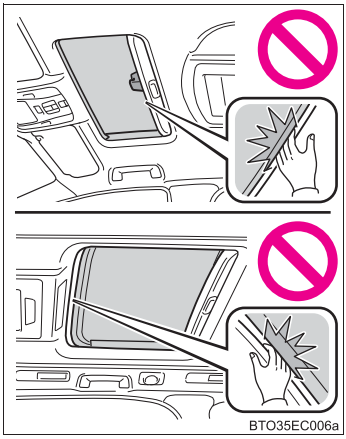
●開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

●運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●フロントムーンルーフを閉めるときや、リヤムーンルーフを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってリヤムーンルーフを操作するときは、リヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。


BTO35EC006a

●車から離れる時はパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■リヤムーンルーフの挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、リヤムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 272
荷物を積むときの注意..... 282

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ 283
EV ドライブモード..... 289
トランスミッション..... 291
方向指示レバー 296
電動パーキングブレーキ..... 297
ブレーキホールド 301

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 304
アダプティブハイビームシステム 307
オートマチックハイビーム... 312
フォグランプスイッチ..... 316
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 318
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 322

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....324

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....328
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....334
LTA（レーントレーシングアシスト）.....344
RSA（ロードサインアシスト）.....356
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....361
先行車発進告知機能.....377
ITS Connect.....380
BSM（ブラインドスポットモニター）.....391
・BSM 機能 395
・RCTA 機能 399
クリアランスソナー.....405
パーキングサポートブレーキ.....420
インテリジェントパーキングアシスト 2.....432
運転を補助する装置.....496

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....503
寒冷時の運転.....505

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 283

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 291）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 298）

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P 以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。（→ P. 297）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける（→ P. 298）

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 291）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 298）、シフトレバーを P にする（→ P. 291）

3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 291）

2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける（→ P. 298）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを手動で解除して発進する（→ P. 298）

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 496）

■燃費をよくする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 503）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 631）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

・アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→P. 497）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転（ハイブリッドシステムインジケーター）

→P. 118

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 618を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 291）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■床下に衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。ブレーキ液や燃料のもれ、マフラーなど車体下部に損傷がないか確認してください。もれや損傷がある場合はただちに販売店で点検整備を受けてください。
もれや損傷を放置すると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをＰにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 640, 657 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・トランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●セカンドシート・サードシート★のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席または助手席足元
・助手席やセカンドシート／サードシート★（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステム始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→ P. 298）

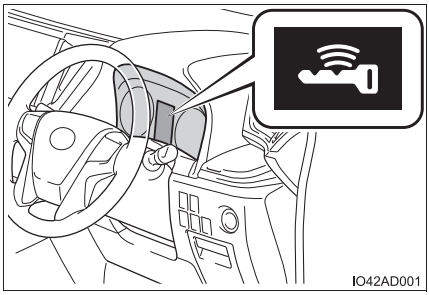
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

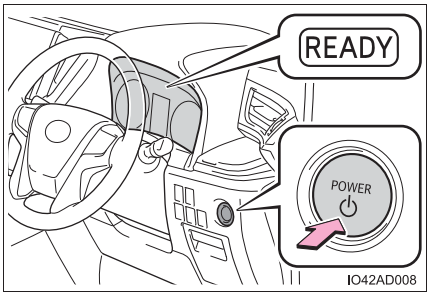


4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

完全にハイブリッドシステムが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



パワースイッチのどのモード（→ P. 284）からでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 298）シフトレバーを P の位置にする

3 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止します。

4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

① OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

② アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

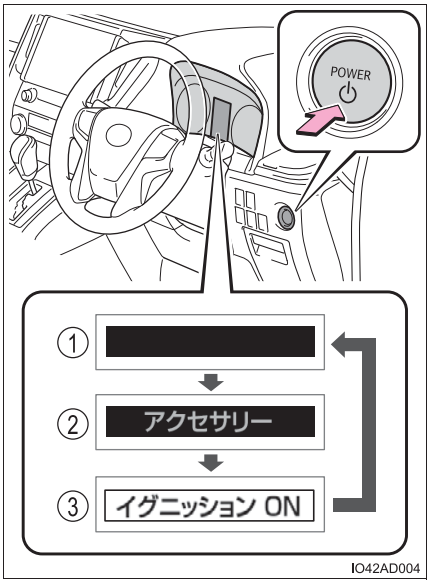
マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。



シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーを P の位置にする
3. マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、パワースイッチを 1 回押す
4. マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモード、または ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動

→ P. 97

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 153

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 194

■ご留意いただきたいこと

→ P. 195

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります（→ P. 104）。トヨタ販売店へご連絡ください。

●シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動することができない場合があります。
マルチインフォメーションディスプレイに「始動時は P レンジに入れてください」が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム停止　P レンジに入れてください」が表示されます。

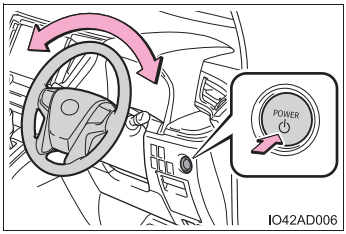
●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイに「ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください」が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないとき

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるとき

→ P. 99

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 672

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき

→ P. 672

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 618)
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。
安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、ハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーを N にし、パワースイッチを押してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリー」の表示が消灯していないときは、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

EV ドライブモード

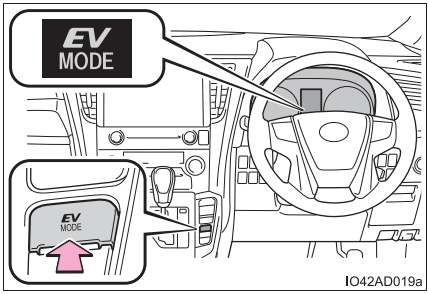
EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

通常は車両接近通報装置が ON になっているため、静かに走行したい場合は OFF にしてください。（→ P. 95）

スイッチを押して、EV ドライブモードの ON ／ OFF を切りかえる

EV ドライブモードになると、マルチインフォメーションディスプレイに EV MODE 表示灯が表示されます。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
  炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
  約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
  エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 141）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき（→ P. 515）

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→ P. 141）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

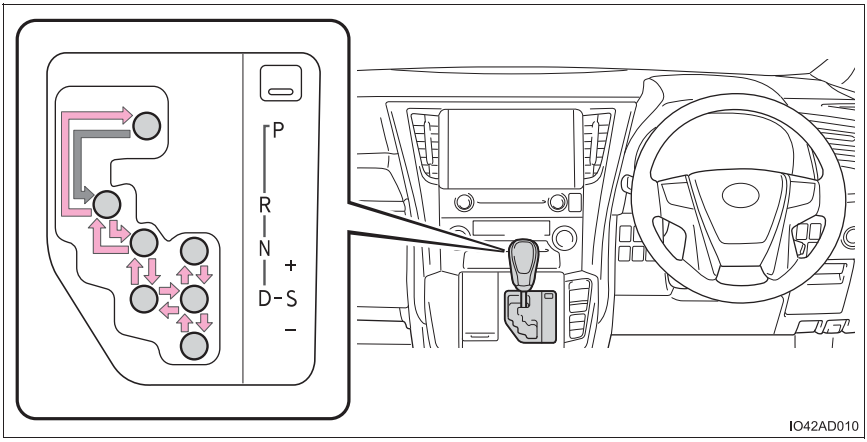
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が ON でも、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。特に車両接近通報装置を OFF にしているときは、注意が必要です。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
S	S モード走行 ※2（→ P. 292）

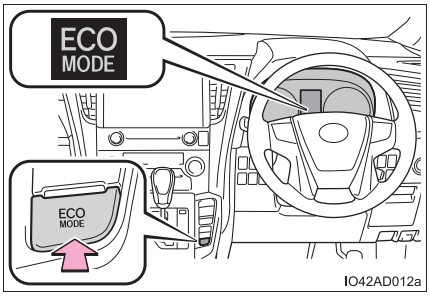
※1 D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に最適なシフトレンジが自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

※2 S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

エコドライブモードの選択

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコドライブモードに切りかえるときは、スイッチを押す



マルチインフォメーションディスプレイに ECO MODE 表示灯が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、通常走行モードにもどります。

エコドライブモードが ON の状態は、パワースイッチをOFFにしても記憶されています。

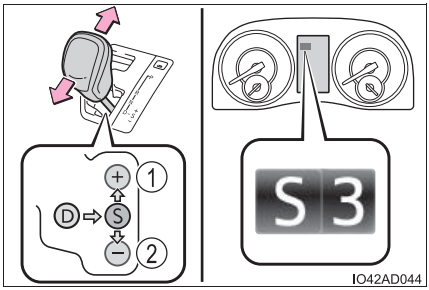
S モードでのシフトレンジ選択

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトレバーの操作で思いどおりのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトレバーの “ － ” 側または “ ＋ ” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
S1～S6のあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。



■ シフトレンジ機能

- 車速や走行状況に応じて、1～6のシフトレンジを自動的に選択します。
  ただし、選択したシフトレンジに応じて最高ギヤ段は制限されます。
- 加速力・エンジンブレーキ力は、6 段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

知識

■S モードについて

●4レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると6レンジに設定されます。

●エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）を使って走行しているとき

シフトレバーを D から S にシフトしてもエンジンブレーキは効きません

エンジンブレーキを目的に S モードで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしてもレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）が解除されないため、エンジンブレーキは効きません。（→ P. 292）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

次のような通常と異なる操作が行われた場合、駆動力を抑制する場合があります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は S ポジションを含む）
この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

■シフトレバーを S にしても、シフトポジション表示が S にならないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

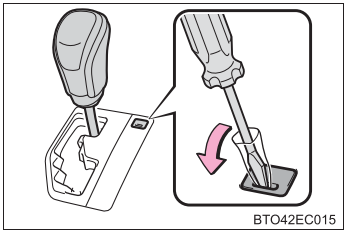
2 パワースイッチを OFF にする

3 ブレーキペダルを踏む

4 カバーをはずす

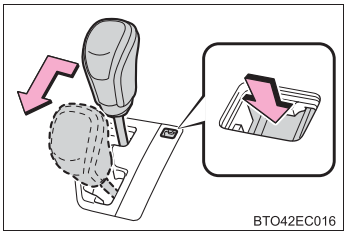
マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずします。

傷が付くのを防ぐために、ドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。


BTO42EC015

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


BTO42EC016

■シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが鳴ります。）

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 517）空調の効きをより良くしたいときは、風量を調整するか、エコドライブモードを解除してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

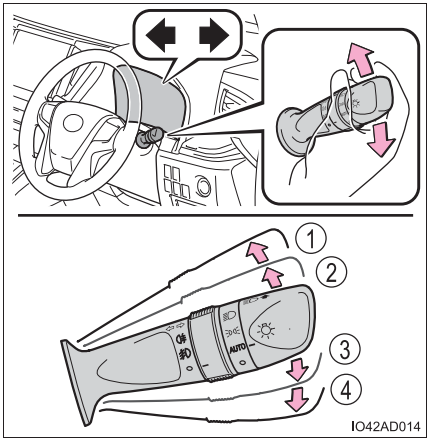
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON モードのとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

各方向指示灯が正常に点滅しているか、確認してください。

電動パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

オートモード

シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。（→ P. 298）

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード On シフト操作に応じてパーキングブレーキが作動」と表示されるまでスイッチを引き続ける

・P から P 以外にしたとき：
パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

・P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ **オートモードを OFF にする**

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイに「オートモード Off」と表示されるまでスイッチを押し続ける

マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

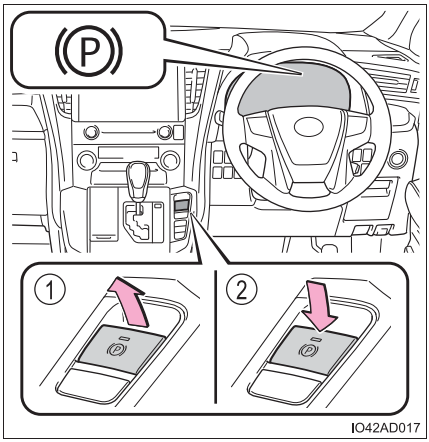
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

アクセルペダルを踏みながらでも操作できます。（上り坂の発進のしかた：→ P. 273）



パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。（→ P. 629）

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「EPB 動作が途中で停止しました」または「パーキングブレーキ現在使用できません」と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ ウィーン ” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON モード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■モードの切りかえについて

オートモードの ON/OFF を切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■パーキングブレーキスイッチが故障した場合

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→ P. 272

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキが解除されず車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキ警告灯が点灯したときは

→ P. 628

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 506

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。

ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

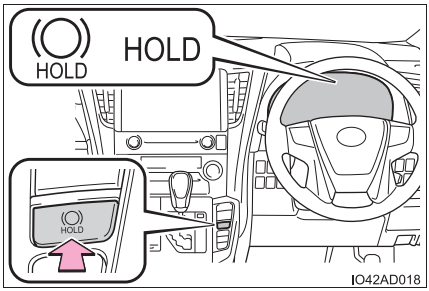
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

シフトレバーが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON できません。

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

●ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

●運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む

●ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する（→ P. 298）

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 297）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold　故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→ P. 629

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■**駐車するとき**

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

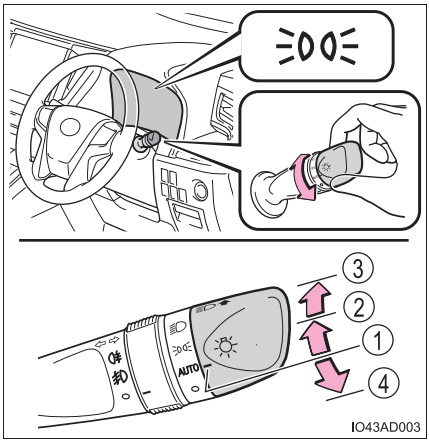
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

① AUTO　ヘッドランプ・デイライト★（→ P. 305）・車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチが ON モードのとき）

② 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ ○　消灯



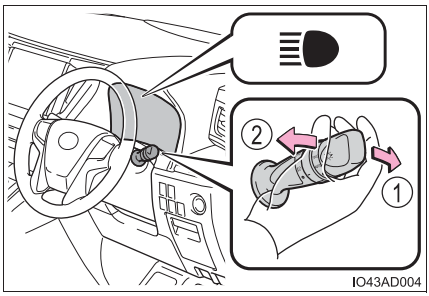
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コーナリングランプ★

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点灯）

ただし、車速が約 35km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。

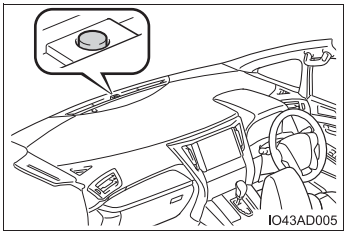
知識

■デイライト★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、デイライトが自動で点灯します（車幅灯より明るく点灯します）。
デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態でフロントドアまたはスライドドアを開けるとヘッドランプと尾灯が自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチをAUTOまたは ○ の位置にもどし、再度 または の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■節電機能

補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。
パワースイッチを ON モードにすると節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後、すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアを開閉したとき

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■コーナリングランプ ★

コーナリングランプは、点灯したまま約 30 分経過すると、自動で消灯します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 697）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステム★

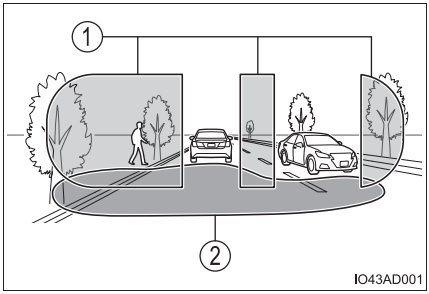
アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。
  （遮光ハイビーム）

  前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

① ハイビームで照らす範囲

② ロービームで照らす範囲



- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

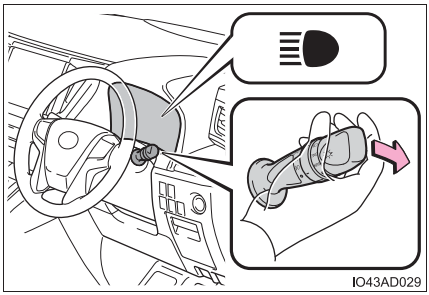
■アダプティブハイビームシステムの誤操作を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

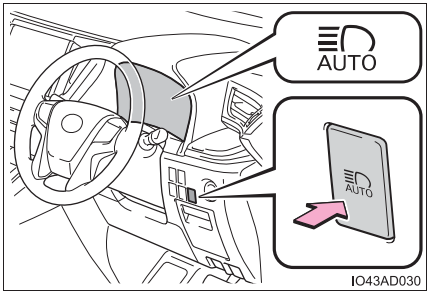
アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または にし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



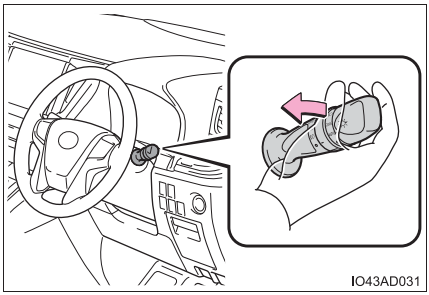
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

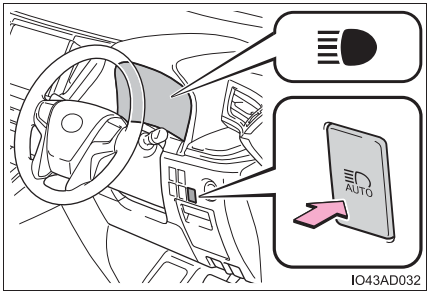


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・前方にランプを点灯した車両がない
・車両前方が暗い

※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・前方にランプを点灯した車両がある
・車両前方が暗い

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 10km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・前方車両から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 701）

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

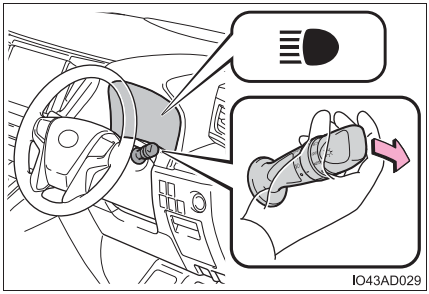
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

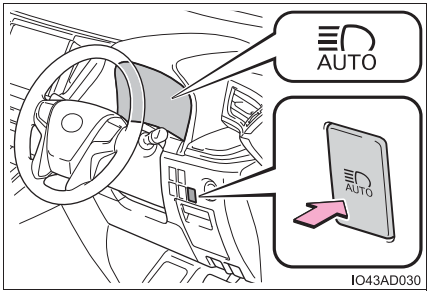
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO または にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



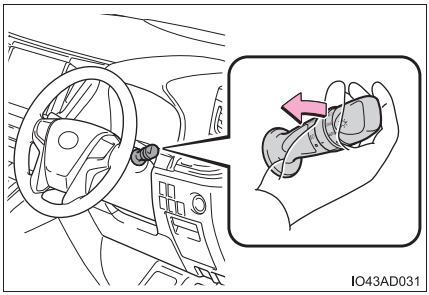
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。
オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

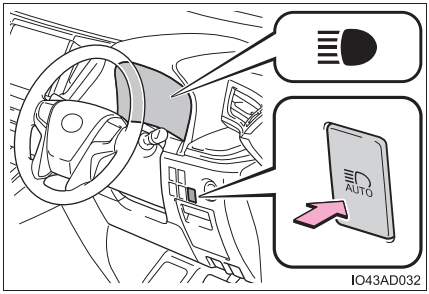


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■**マルチインフォメーションディスプレイに「ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください」が表示されたとき**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

フォグランプスイッチ

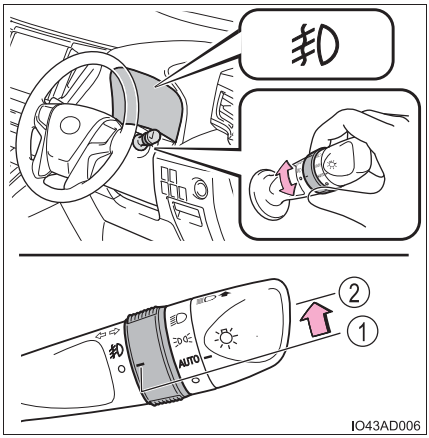
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプスイッチ

① ○ 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ★

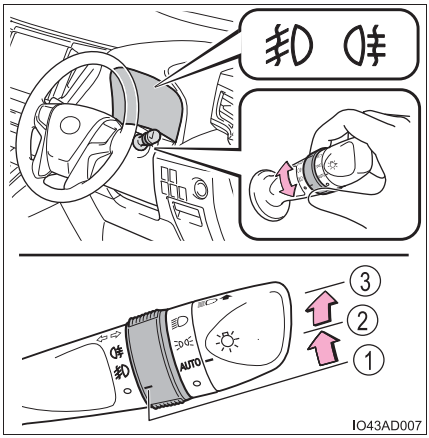
① ○ 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度、スイッチをに操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ★：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
  視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

▶ 間欠時間調整式ワイパー

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

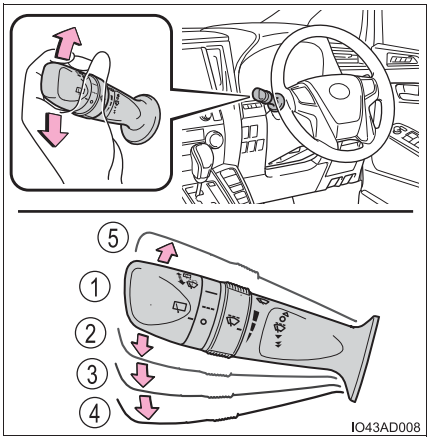
② 間欠作動

車速が高くなると、作動頻度が増えます。

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

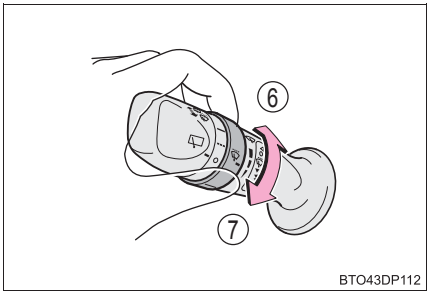


を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

間欠作動の時間は、車速に応じてかわります。

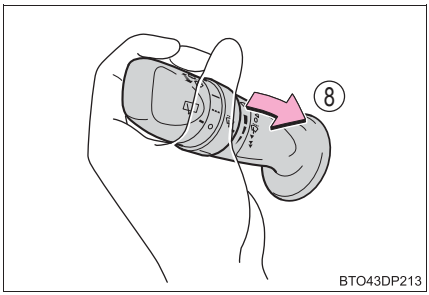
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）

⑦ 間欠ワイパーの作動頻度（減）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



▶ 雨滴感知式ワイパー

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

① ○ 停止

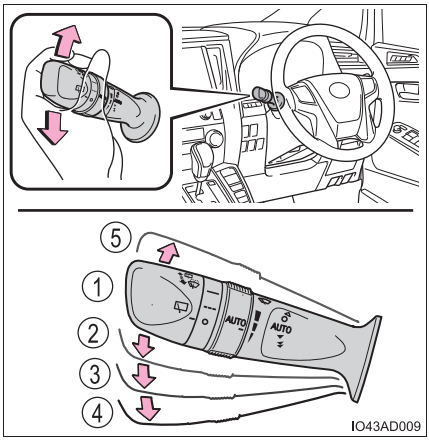
② AUTO AUTO モード

③ ▼ 低速作動

④ ▼▼ 高速作動

⑤ △ 一時作動

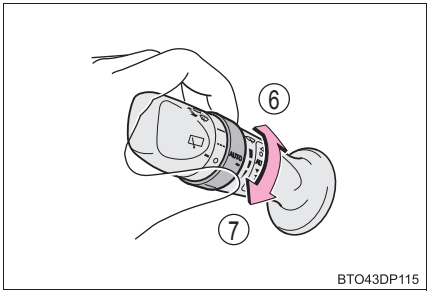
「AUTO」AUTO モードを選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します



「AUTO」AUTO モードが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

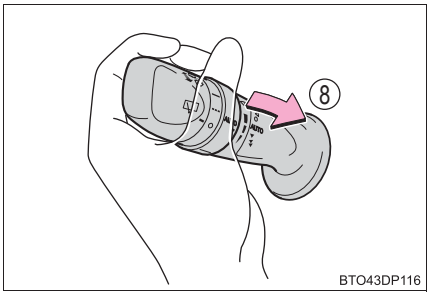
⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）

⑦ 雨滴センサーの感度調整（低）



⑧ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに 1 回作動します。
ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

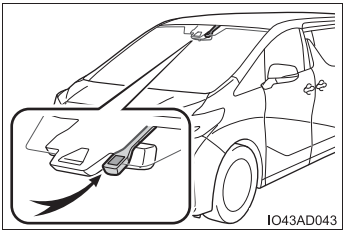
■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチがONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●AUTO モードのとき雨滴センサーの感度調整を（高）側へ調整すると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■**AUTO モード時のワイパー作動について**

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■**ウォッシャー使用時の警告**

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったとき**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

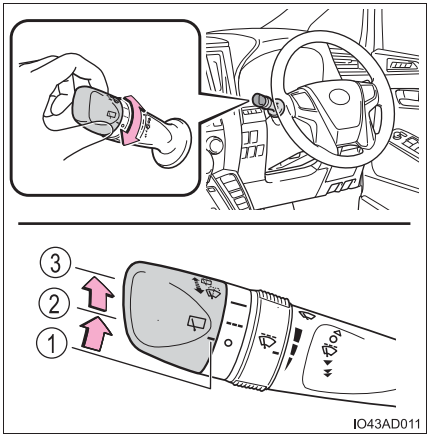
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

① ○ 停止

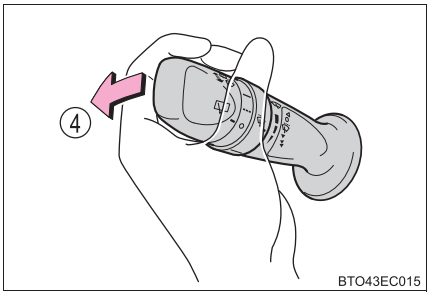
② --- 間欠作動

③ ━ 通常作動



④ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。



知識

■作動条件

パワースイッチがONモードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■**燃料の種類**

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■**バイオ混合ガソリンについて**

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

■**給油扉が開いているとき（助手席側スライドドア）**

→ P. 170

警告

■**給油するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するとき

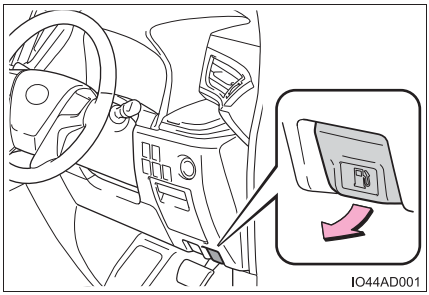
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン ※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

- ●エンジンの始動性が悪くなる
- ●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ●エンジン出力が低下する
- ●排気制御システムが正常に機能しない
- ●燃料系部品が損傷する
- ●塗装が損傷する

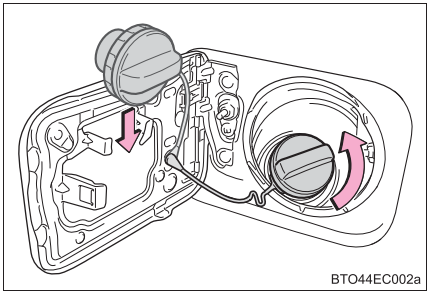
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを引いて、給油扉を開く



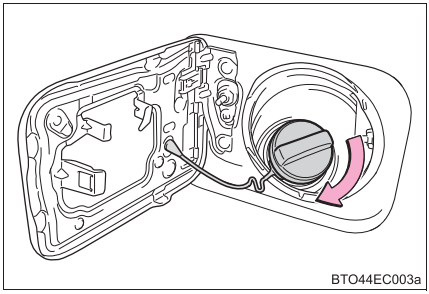
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 334

◆ LTA（レーントレーシングアシスト）

→ P. 344

◆ アダプティブハイビームシステム★

→ P. 307

◆ オートマチックハイビーム★

→ P. 312

◆ RSA （ロードサインアシスト）

→ P. 356

◆ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→ P. 361

◆ 先行車発進告知機能

→ P. 377

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。
本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・前方カメラの画像情報（プリクラッシュブレーキまたはプリクラッシュブレーキアシスト作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報は販売店にて消去することが可能です。

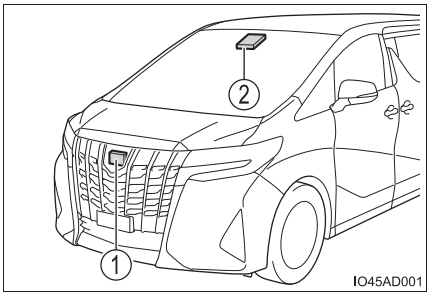
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

① レーダー

② 前方カメラ



警告

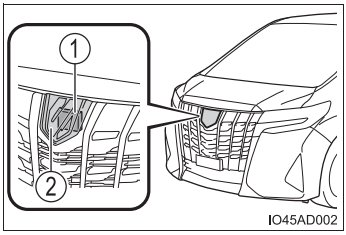
■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

① レーダー

② レーダー専用カバー



レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●レーダー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

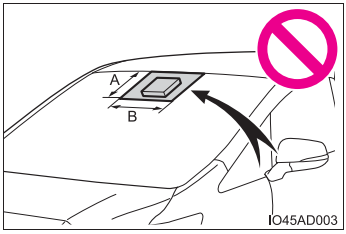
■**前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで
B：約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）



●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 515）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

・ワイパーゴムの交換：→ P. 598
・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

警告

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。
対処を行っても症状が改善しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く ・前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P. 515）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーなどが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても症状が改善しない場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 334）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 337）

システムの作動対象

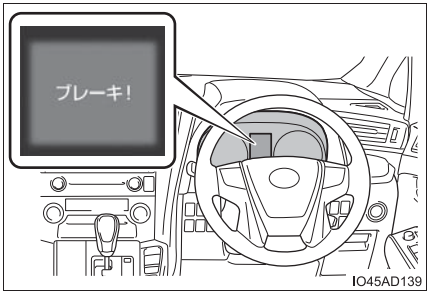
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ･･･”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 339
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 341

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

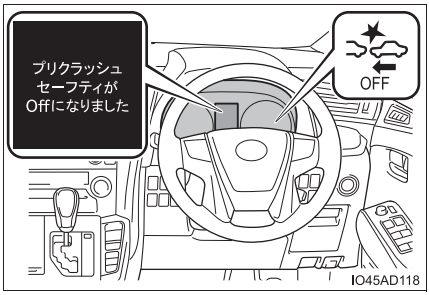
プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 131）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON モードになるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 131）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

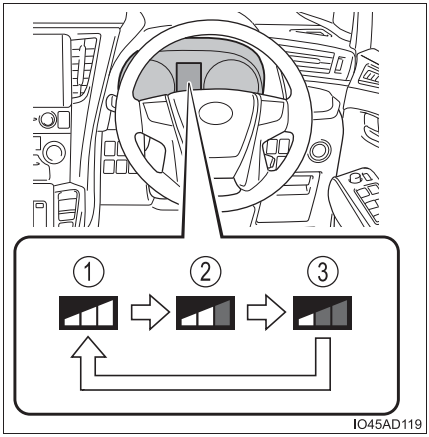
変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

① 早い

② 中間

初期設定

③ 遅い



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトレバーが R のとき

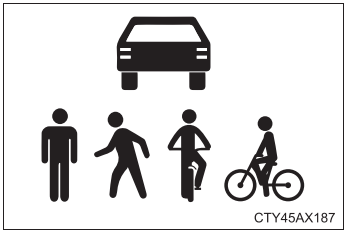
●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 341）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

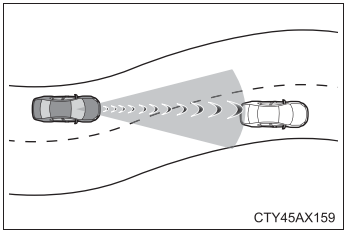
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

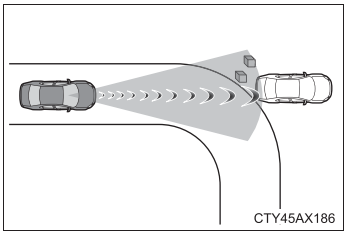
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

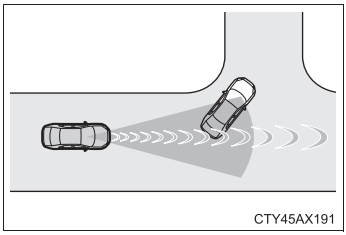
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき


CTY45AX159

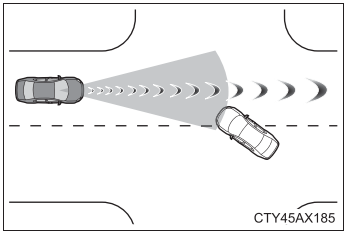
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき


CTY45AX186

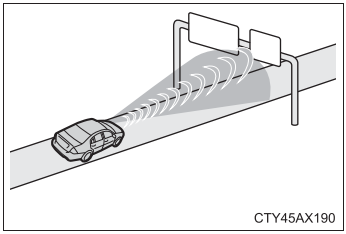
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTY45AX191

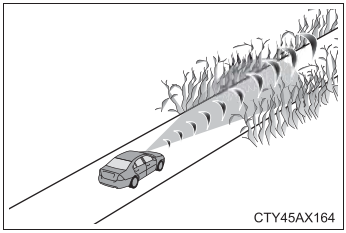
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・進路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

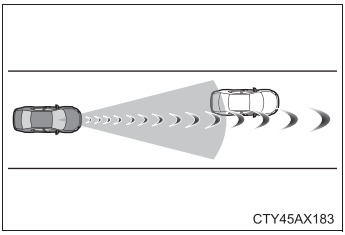


・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

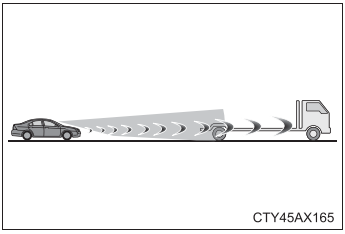
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

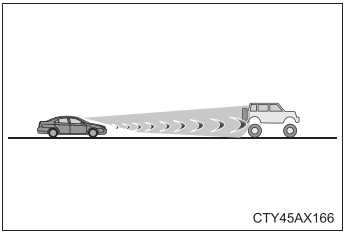
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき


CTY45AX183

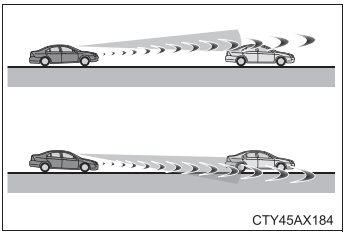
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のものなどで隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）


CTY45AX165

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2　人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 498）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

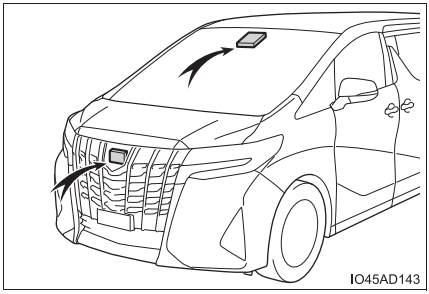
LTA（レーントレーシングアシスト）

機能概要

白（黄）線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



警告

■LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき

警告

- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき
- 車両けん引時

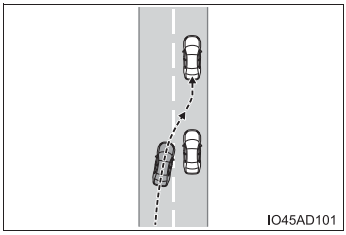
■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。
- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

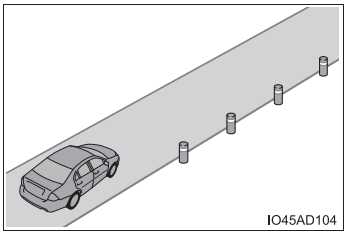
- 先行車追従表示中（→ P. 351）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



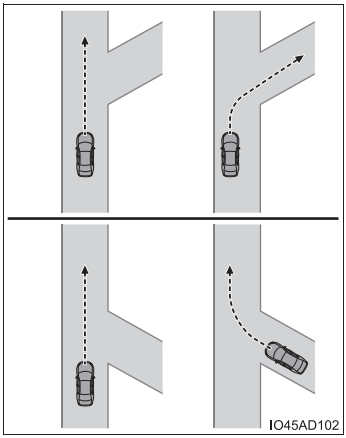
- 先行車追従表示中（→ P. 351）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 351）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 先行車追従表示中（→ P. 351）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき

警告

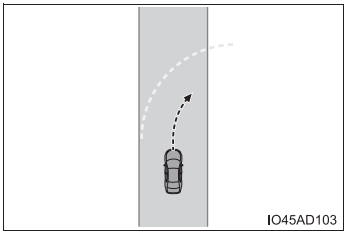
●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）



●分岐・合流路などを走行するとき



●道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

警告

- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

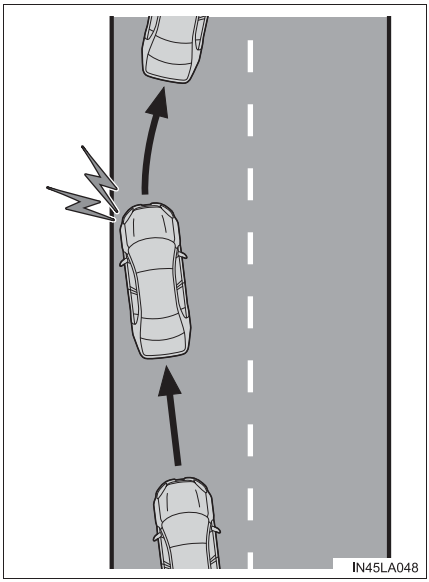
LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

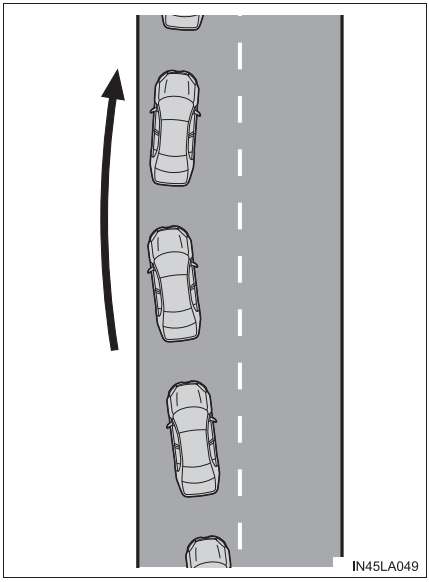


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路 ※ から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

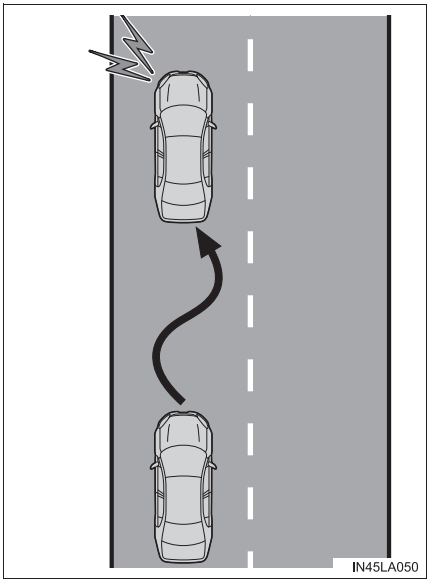
一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



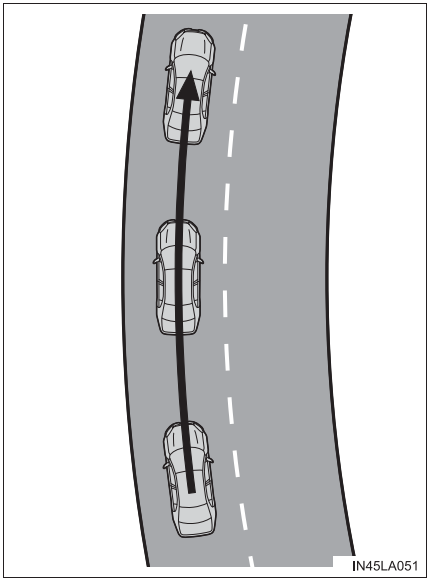
■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

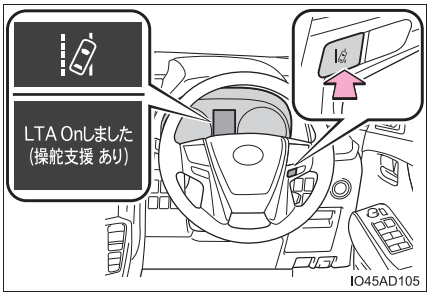
渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

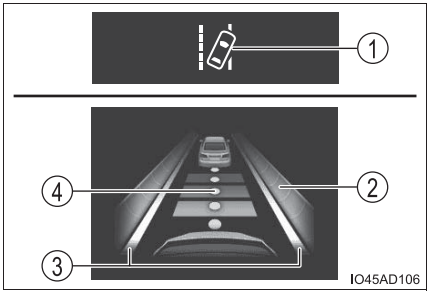


LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

マルチインフォメーションディスプレイ表示



① LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

② ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連係画面に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

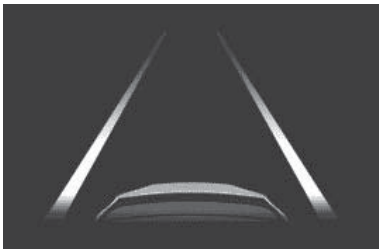
片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

③ 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連係画面に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

④ 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援システム連係画面に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・システムが白（黄）線または走路※を認識しているとき（白 [黄] 線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 355）

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→ P. 131）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 354）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→ P. 131）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 355）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき

・マルチインフォメーションディスプレイの 画面で「操舵支援」を「有」かつ「センタートレース」を「有」に設定しているとき（→ P. 131）

・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）

・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき

・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき

・方向指示レバーを操作していないとき

・急カーブを走行していないとき

・システムの異常が検知されていないとき（→ P. 355）

・一定以上の加減速がないとき

・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき

・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき

・TRC または VSC を OFF にしていないとき

・手放し運転に対する注意喚起（→ P. 354）が行われていないとき

・車線中央付近を走行しているとき

・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→ P. 352）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→ P. 353）が満たされなくなった場合、“ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

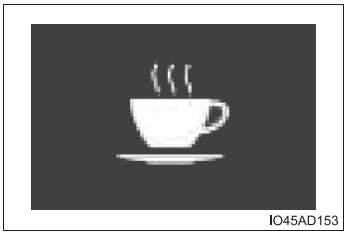
●カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。



■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

●「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

●「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

●「LTA 現在の車速では使用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

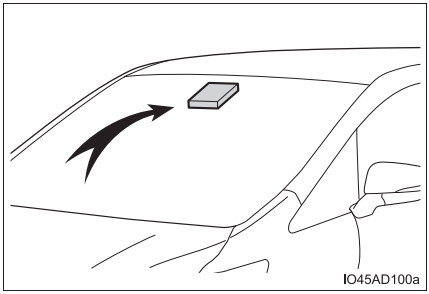
■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（→ P. 131）

RSA（ロードサインアシスト）

機能概要

前方カメラを使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音で運転者に告知します。

警告

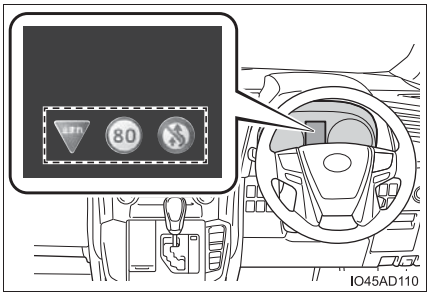
■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

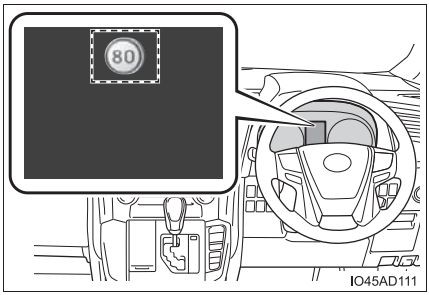
マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラによって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 走行支援システム連係画面を選択したときは、最大3つの標識を表示できます。(→P. 121)



● 走行支援システム連係画面以外を選択したときは、最高速度標識または車両進入禁止標識(告知時のみ)を表示します。(→P. 121)



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

次の種類の道路標識は、電光標識も含めて認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された形式の標識は認識されません。

最高速度

はみ出し通行禁止

車両進入禁止

※

終わり

一時停止

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているはみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

→P. 131

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが悪いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA　故障販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（→ P. 131）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

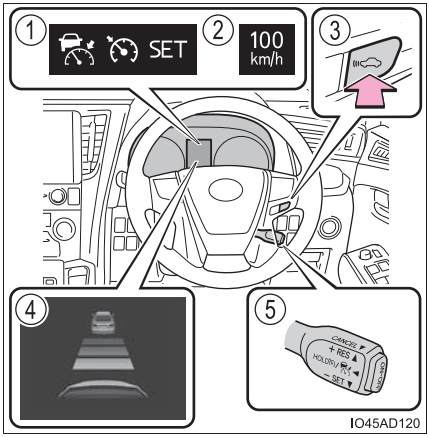
通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→ P. 364）
- 定速制御モード（→ P. 369）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect装着車のみ）（→ P. 370）

システムの構成部品

① 表示灯
② 設定速度
③ 車間距離切りかえスイッチ
④ マルチインフォメーションディスプレイ
⑤ クルーズコントロールスイッチ



警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

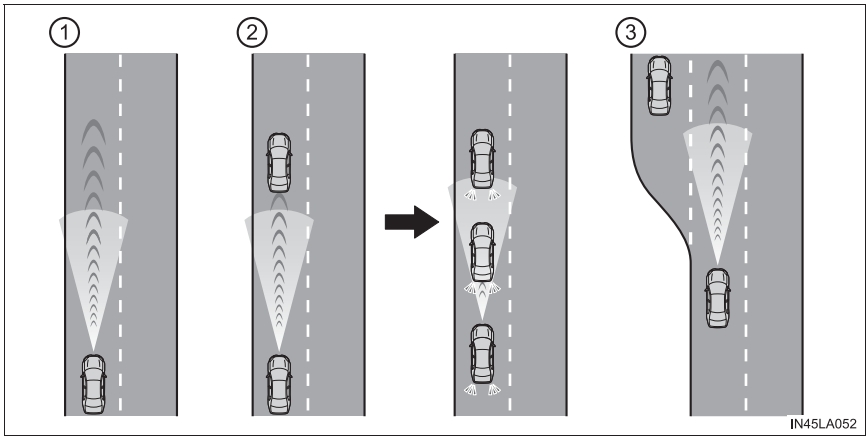
次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

② 減速走行 ― 追従走行：
設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

車速が約80km/h以上で自車が走行している車線より右車線へ車線変更する場合、方向指示レバーと連動して設定速度まで早めに加速することで、追い越しを支援します。

③ 加速走行：
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

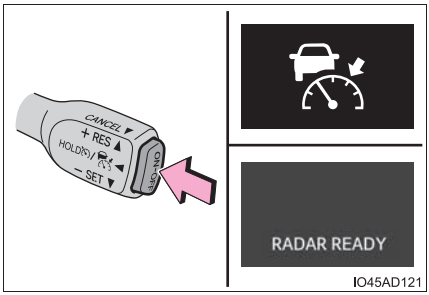
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 ON-OFFスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

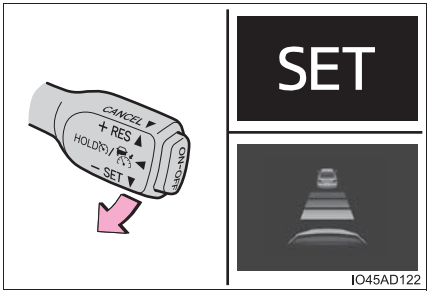
ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P. 369）



2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。



設定速度をかえる

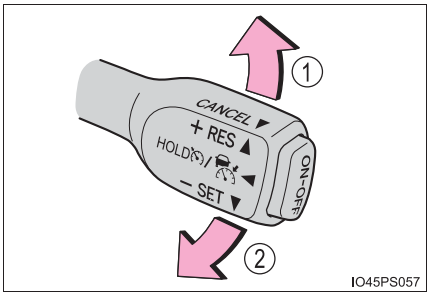
設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

② 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す



車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→ P. 369）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

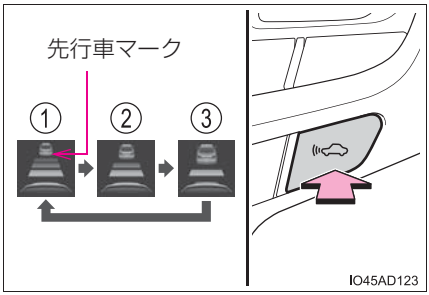
① 長い

② 中間

③ 短い

パワースイッチを ON モードにするたびに車間距離は①にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



車間距離選択の目安（車間制御モード）

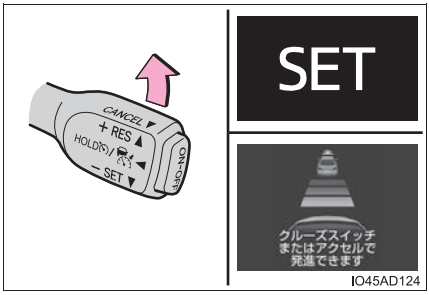
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

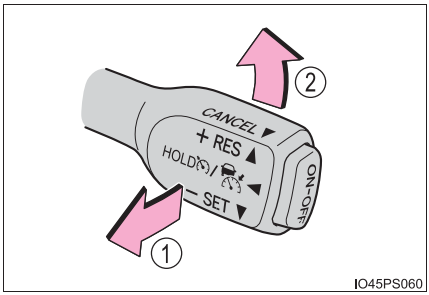


制御を解除する・復帰させる

① 制御を解除するには、レバーを手前に引く

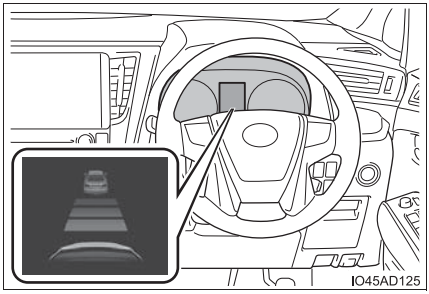
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

② 制御を復帰させるには、レバーを上げる



接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

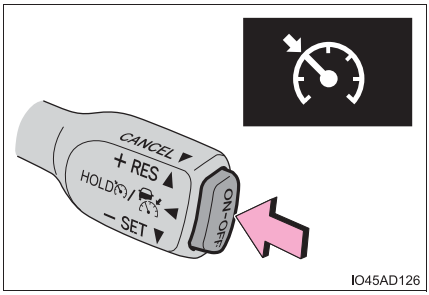
車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

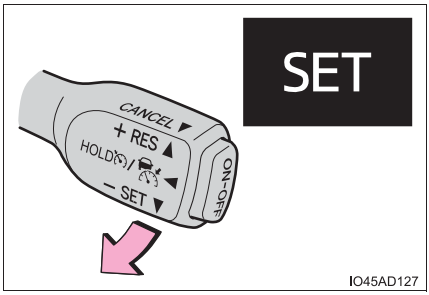
1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON-OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける



ON-OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムがOFFの状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する



クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→ P. 366）

制御を解除する・復帰させる（→ P. 368）

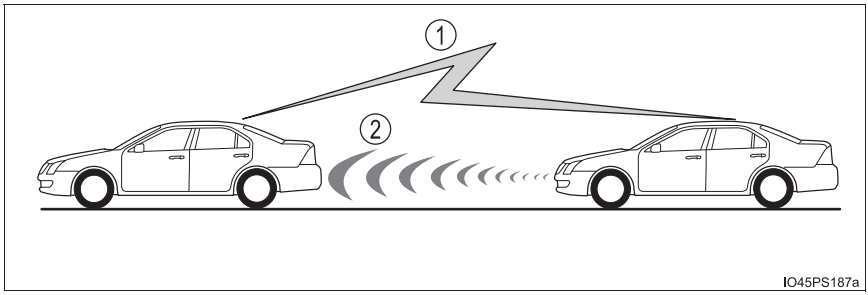
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P. 380 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



① 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

② ミリ波レーダー

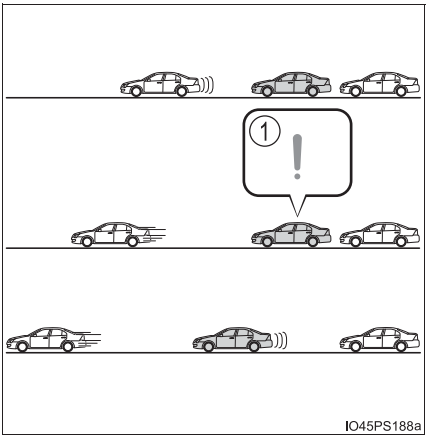
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

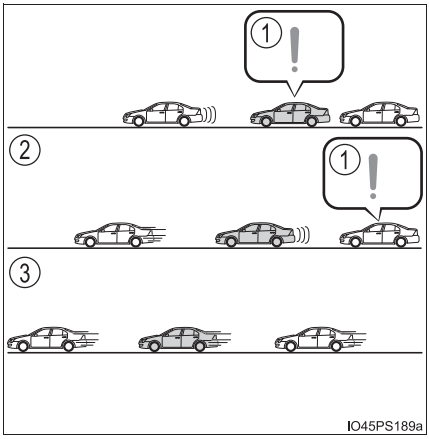
車間制御モードに比べて次のような作動になります。

▶ 車間制御モード



① 先行車の発進に遅れて気付く

▶ 通信利用型レーダークルーズコントロール



① 先行車の発進に素早く気付く
② スムーズな加速で追従
③ 短時間で渋滞解消

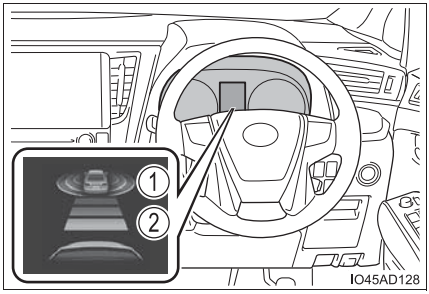
■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 131）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

① 先行車通信マーク

② 車間距離表示



■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。(→ P. 367)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

●制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次の状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで自車、または先行車両の GPS 受信状態や車車間通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→ P. 333, 633）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

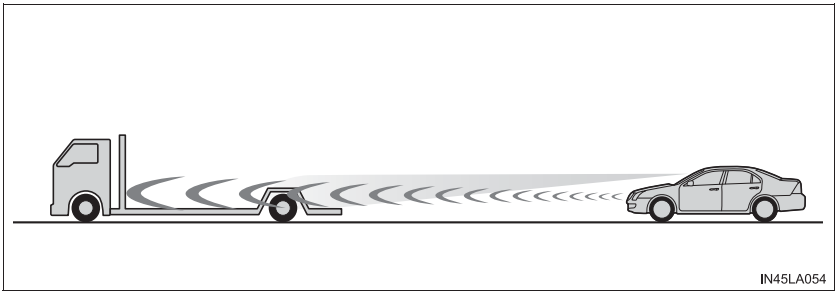
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 368）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

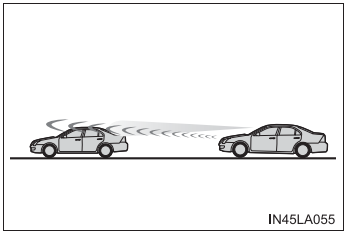
●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



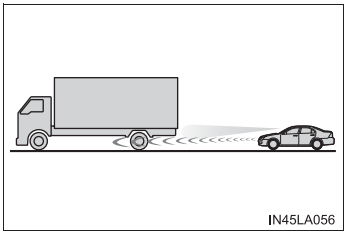
●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



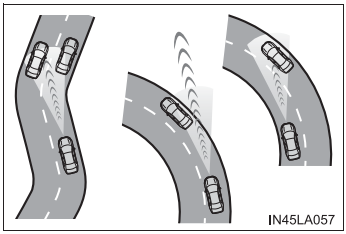
●先行車の車高が極端に高いとき



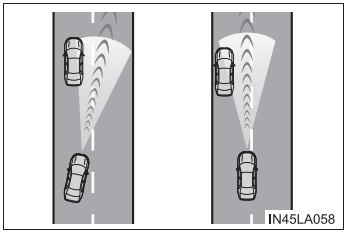
■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

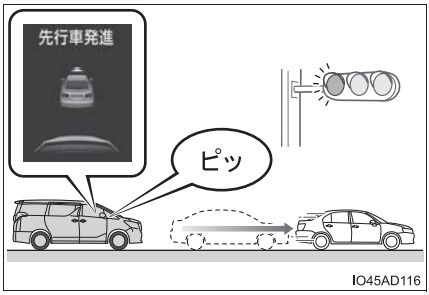
●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP･R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→ P. 131）

●先行車発進告知機能の告知距離

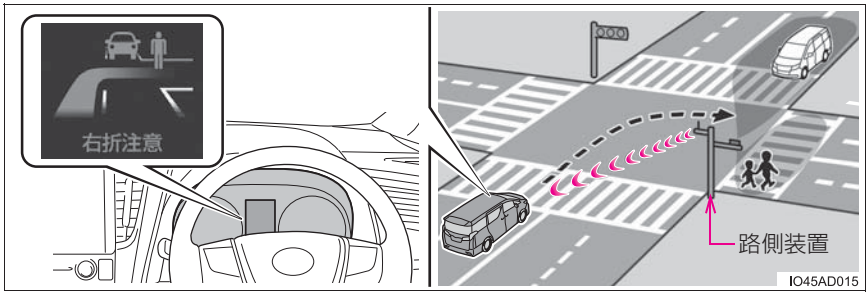
告知する距離を切りかえることができます。（→ P. 131）

ITS Connect ★

ITS Connect の概要

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

◆ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起



ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

◆ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P. 370 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→ P. 389）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

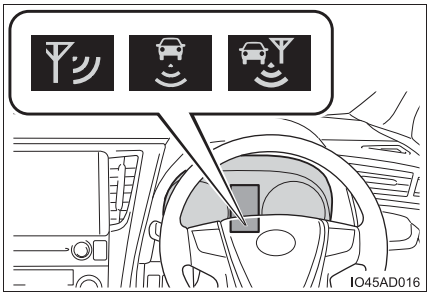
●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→ P. 383）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

IO45AD017

▶ 対向車のみを感知する交差点

IO45AD018

・注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

IO45AD019

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

IO45AD020

■ **緊急車両存在通知**

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

IO45AD021

■ **一時停止注意喚起 ※1**
（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときにブザーと表示で注意喚起を行います。

IO45AD022

■ **前方停止車両存在案内 ※1**
（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45AD023

■ **わき道車両存在案内 ※1**
（ナビゲーションシステム ※2 & ETC2.0 ユニット装着車）

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

IO45AD024

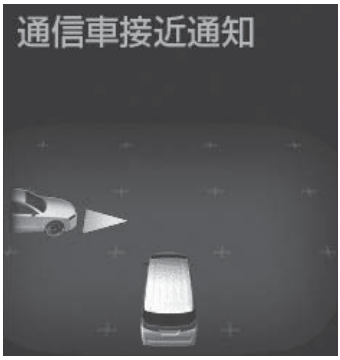
※1 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱書／ナビゲーション／地図画面を操作する／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能を使用する」を参照してください。

※2 メーカーオプションのナビゲーションシステムのみ

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。



IO45AD025

■ 通信車両接近通知の使い方

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

メーター操作スイッチ(→P. 123)の < > を操作して を選択し、 を上下に操作して通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面の「車両設定」から「ITS Connect」または「クルーズ（ITS）」を選択することで、次の機能の設定を変更することができます。（→ P. 131）

設定項目		設定内容
ITS Connect	信号情報	次の機能の ON ／ OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 赤信号注意喚起 ・ 信号待ち発進準備案内
	道路環境情報	次の機能の ON ／ OFF の切りかえ ※1 （初期設定：ON） ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起 ・ 前方停止車両存在案内 ※2 ・ わき道車両存在案内 ※2
	緊急車両通知	緊急車両存在通知のON／OFFの切りかえ （初期設定：ON）
	通知感度	次の機能の通知感度（高い／低い）の切りかえ ※3, 4 （初期設定：高い） ・ 赤信号注意喚起 ・ 一時停止注意喚起 ※2 ・ 右折時注意喚起
クルーズ（ITS）		通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF の切りかえ （初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON ／ OFF することはできません。

※2 ナビゲーションシステム（メーカーオプション）＆ETC2.0ユニット装着車のみ

※3「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

※4 各機能の通知タイミングを個別に変更することはできません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・ハイブリッドシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。

・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

■ITS Connect 機器に関する情報

●本製品は、T-Engine フォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や道路上の通信設備の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

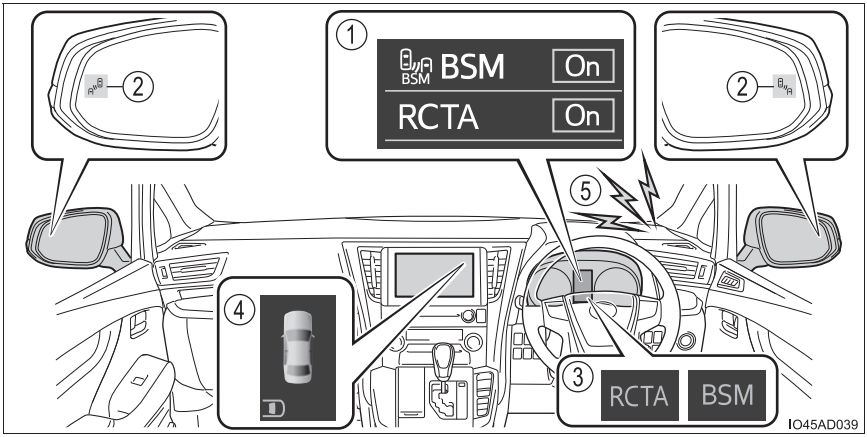
BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターの概要

ブラインドスポットモニターには 2 つの機能があります。

- BSM（ブラインドスポットモニター）機能
  運転者による車線変更時の判断を支援します。
- RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能
  後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。



① マルチインフォメーションディスプレイ

BSM 機能または RCTA 機能の ON ／ OFF を切り替えます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

② ドアミラーインジケーター

BSM 機能：
ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

RCTA 機能：
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

③ BSM 表示灯／ RCTA 表示灯

BSM 機能または RCTA 機能が ON のとき、それぞれのインジケーターが点灯します。

④ ナビゲーション画面の表示 ※（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン（→ P. 400）が点灯します。

イラストは左後方から車両が接近している例です。

※ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ

⑤ RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの 画面でBSM／RCTAの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 131）

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM　現在使用できません」または「RCTA 現在使用できません」が表示されたとき

電圧異常やセンサー周辺のリヤバンパー上方に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます（→ P. 394）。センサー周辺のリヤバンパー上方の氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障　販売店で点検してください」または「RCTA 故障　販売店で点検してください」が表示されたとき

センサーの故障や位置、向きのずれなどが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
（→ P. 131）

■レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

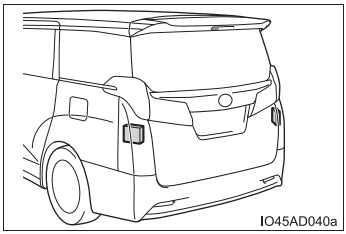
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R　202-LSC077

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー上方の内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



●センサー周辺のリヤバンパー上方は常にきれいにしておく
センサー周辺のリヤバンパー上方に汚れや着雪がある場合、警告表示（→ P. 393）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、BSM 機能の作動条件（→ P. 397）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサー周辺のリヤバンパー上方への強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
・センサー周辺のリヤバンパー上方などに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

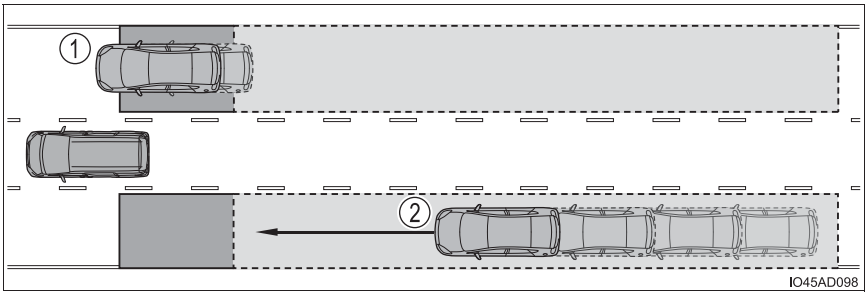
●センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品を取り付けたりしない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方を改造しない

●リヤバンパー上方の塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

BSM 機能

BSM 機能はレーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

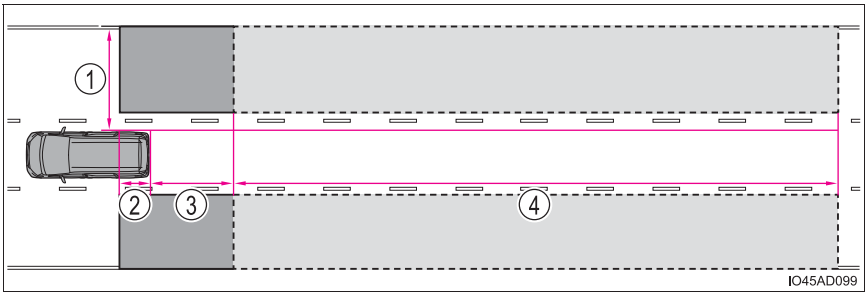


① ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

② 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

BSM 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

① 車両の両側面について、側面から約 0.5 m 離れた面から約 3.5 m の領域 ※

※ 車両側面から外側に約 0.5 m は検知しません。

② リヤバンパーから約 1 m 前方の領域

③ リヤバンパーから約 3 m 後方の領域

④ リヤバンパーから後方約 3 m ～ 60 m の領域 ※

※ 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯、点滅します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

BSM 機能は、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

知識

■BSM 機能の作動条件

BSM 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●BSM 機能が ON のとき

●シフトレバーが R 以外の位置のとき

●車速が約 16 km/h 以上のとき

■BSM 機能が車両を検知する条件

BSM 機能は、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

●隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき

●他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■BSM 機能が車両を検知しない状況

BSM 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●対向車

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●同じ車線を走行する後続車 ※

●2 つ隣の車線を走行する他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■BSM 機能が有効に作動しないおそれがある状況

●BSM 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

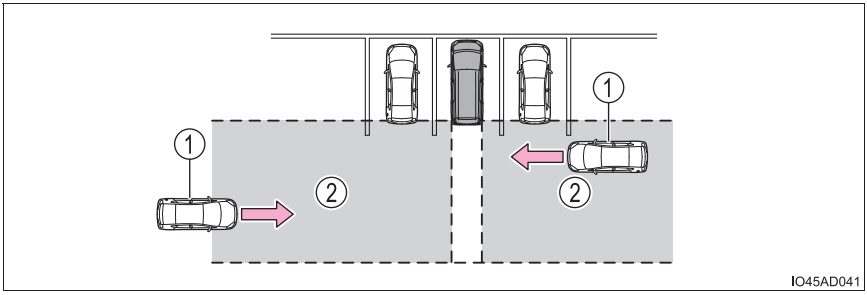
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・自車と他車の速度差に変化があるとき
・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・BSM 機能または RCTA 機能を ON にした直後

●BSM 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき
・雨や雪を後方に巻き上げているとき

RCTA 機能

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



① 接近車両

② 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をします。

画面表示	表示内容
	左後方から車両が接近しているとき
	右後方から車両が接近しているとき
	両方向から車両が接近しているとき
	RCTA 機能に異常があるとき（→ P. 393）

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

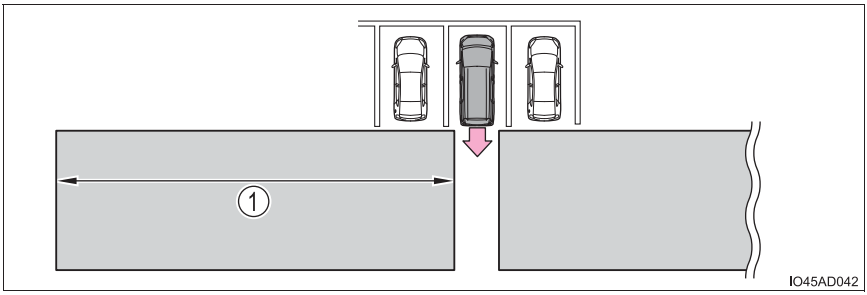
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両	速度	①警報距離（概算）
速い	28 km/h	20 m
遅い	8 km/h	5.5 m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトレバーが R のとき

●自車の車速が約 8 km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8 km/h ～ 28 km/h の間のとき

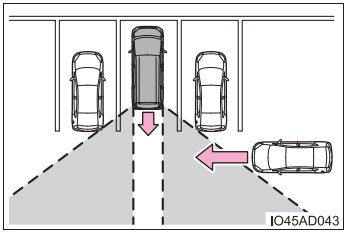
■RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両



●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型の二輪車、自転車、歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

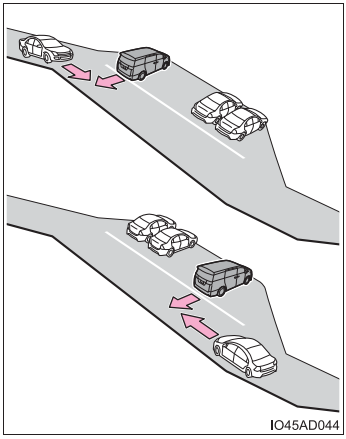
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■RCTA 機能が有効に作動しないおそれがある状況

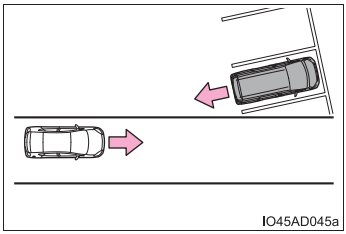
●RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパー上方に付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・高速で接近する車両
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやけん引フックを装着しているとき

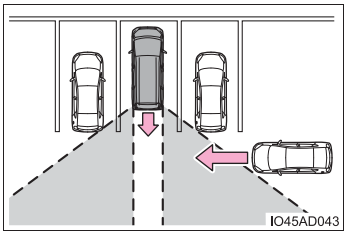
・勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



・浅い角度での駐車



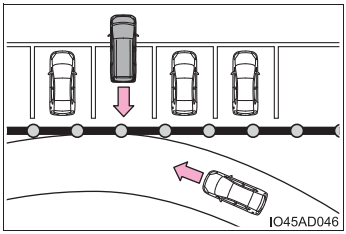
・RCTA 機能を ON にした直後
・RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後
・障害物のためにセンサーが検知できない車両



●RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

・自車の横を通過する車両

・駐車場に面した道を走行する車両

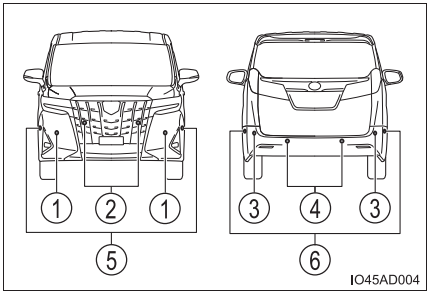


・車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、低速（約10km/h以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって感知して、マルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面★の距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類



① フロントコーナーセンサー

② フロントセンサー（パーキングサポートブレーキ装着車）

③ リヤコーナーセンサー

④ バックセンサー

⑤ フロントサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

⑥ リヤサイドセンサー（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

クリアランスソナーの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 131）

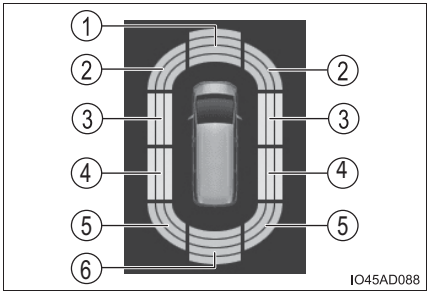
ON を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF を選択して、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から を ON にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

クリアランスソナーの表示のしかた

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

① フロントセンサー作動表示★
② フロントコーナーセンサー作動表示
③ フロントサイドセンサー作動表示★
④ リヤサイドセンサー作動表示★
⑤ リヤコーナーセンサー作動表示
⑥ バックセンサー作動表示



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **ナビゲーション画面の表示（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）**

障害物を感知すると自動的に表示されます。

①クリアランスソナー表示

インテリジェントパーキングアシスト２★・パノラミックビューモニター★非表示時

表示されないように設定することができます。（→ P. 411）

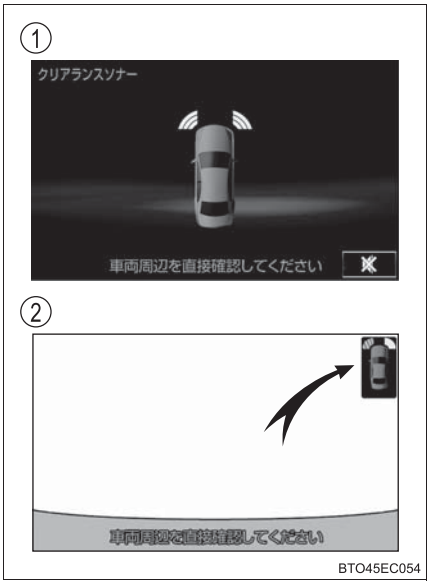
：ブザー音ミュート（消音）スイッチ

ブザー音を一時的に消すことができます。

②割り込み表示

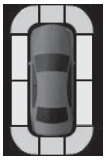
インテリジェントパーキングアシスト２★・パノラミックビューモニター★表示時

画面上に簡略表示されます。
（右の画面はインテリジェントパーキングアシスト 2 の場合です。パノラミックビューモニター表示時の割り込み表示については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

距離表示の見方

通常表示 ※1、※2	割り込み表示		障害物までのおおよその距離		
	インテリジェントパーキングアシスト2使用時 ※2	パノラミックビューモニター使用時 ※5	―	フロントコーナー＆フロントセンサー★＆フロントサイドセンサー★	リヤコーナー＆バックセンサー＆リヤサイドセンサー★
（点灯）	（遅い点滅）	（遅い点滅）	遠い ↑	フロントセンサー：約 100cm ～ 60cm	バックセンサー：約 150cm ～ 60cm
（点灯）	（点滅）	（点滅）		コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm サイドセンサー：約 100cm ～ 40cm フロントセンサー：約 60cm ～ 45cm	コーナーセンサー：約 60cm ～ 45cm サイドセンサー：約 100cm ～ 40cm バックセンサー：約 60cm ～ 45cm
（点灯）	 （速い点滅）	（速い点滅）		コーナーセンサー：約 45cm ～ 35cm サイドセンサー：約 40cm ～ 20cm フロントセンサー：約 45cm ～ 35cm	コーナーセンサー：約 45cm ～ 35cm サイドセンサー：約 40cm ～ 20cm バックセンサー：約 45cm ～ 35cm
（点滅 ※3 または点灯 ※4）	（点灯）	（点灯）	近い ↓	コーナーセンサー：約 35cm 以下 サイドセンサー：約 20cm 以下 フロントセンサー：約 35cm 以下	コーナーセンサー：約 35cm 以下 サイドセンサー：約 20cm 以下 バックセンサー：約 35cm 以下

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※5 イラストは説明のための例であり、表示により異なります（→ P. 406）

※6 インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車では、センサー表示が灰色で表示されます。また、サイドエリアのスキャンが完了するまでの間は、フロントサイドセンサー作動表示、リヤサイドセンサー作動表示は表示されません。（→ P. 414, 415）

※7 マルチインフォメーションディスプレイ

※8 ナビゲーション画面

※9 パノラミックビューモニター装着車にはサイドセンサーは装着されません。

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

■ フロント側またはリヤ側のみで障害物を感知しているとき

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- ・フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- ・フロントサイドセンサー★、リヤサイドセンサー★が感知した障害物との距離が約 20cm 以下
- ・フロントセンサー★が感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- ・リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下
- ・バックセンサーが感知した障害物との距離が約 35cm 以下

● 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 障害物を車両の前後で同時に感知したとき

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）で新たに障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピピピピピ　ピー」をくり返します。

● フロント側、またはリヤ側で障害物を感知してブザーが連続で鳴っているとき、反対側（フロントまたはリヤ）でもブザーが連続で鳴る範囲内に障害物を感知すると、ブザー音は「ピピピ　ピー」をくり返します。

ブザーの音量と鳴るタイミングを変更することができます。

● ナビゲーションシステム装着車：→ P. 411
● ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 699

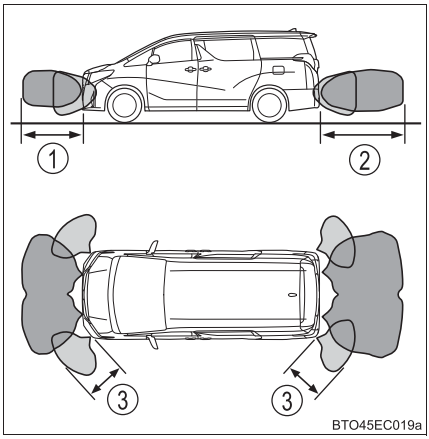
障害物を感知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）★

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）

・感知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。
・サイドエリアの障害物の感知については P. 414 を参照してください。
・障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。



障害物を感知できる範囲を変更することができます。

● ナビゲーションシステム装着車：→ P. 411
● ナビゲーションシステム非装着車：→ P. 699

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声案内・ナビゲーション画面表示・ブザーの設定（メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車）

パワースイッチが ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

1 画面外の「設定・編集」にタッチする

2 画面内の「運転支援」を選択する

3 画面内の「クリアランスソナー設定」を選択する

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ ソナー表示の ON・OFF

画面内の「ソナー表示なし」を選択する

作動表示灯が点灯しているときは、ソナー表示されません。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の「切替え」を選択する

- フロントセンサー★：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 100cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。
- バックセンサー：
  選択するごとに、感知範囲が「遠」（緑色、約 150cm 以内）と「近」（黄色、約 60cm 以内）に切りかわります。

フロントセンサー★・バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

●フロントコーナーセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき（シフトレバーが R にあるときは除く ※）

※ パーキングサポートブレーキ装着車を除く

●フロントサイドセンサー★／リヤサイドセンサー★：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき
・ハンドルを約 90 度以上切っているとき

●フロントセンサー★：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナーセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき（パーキングサポートブレーキ装着車）

●バックセンサー：

・パワースイッチが ON モードのとき
・シフトレバーが R にあるとき

■クリアランスソナーの割り込み表示について（インテリジェントパーキングアシスト 2 装着車）

→ P. 436

■センサーの感知について

●センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると感知できないことがあります。

●障害物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

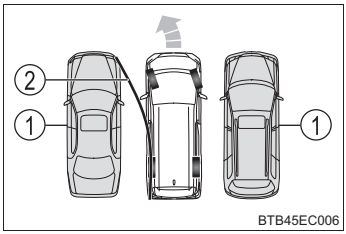
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■巻き込み警報機能について（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

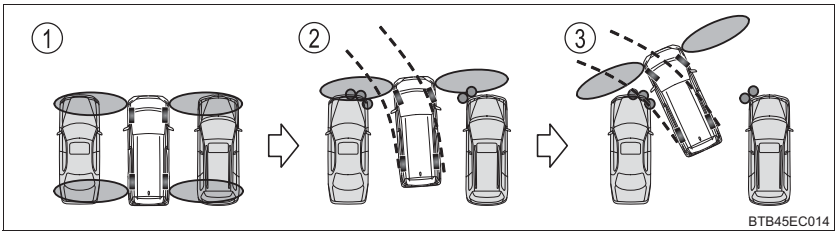
サイドエリアの障害物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

① 障害物

② 計算した車両経路



走行中にサイドセンサーで障害物を感知します。車両が移動して障害物がサイドセンサーで感知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで障害物の位置を算出し、車両の経路内に障害物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



●：サイドセンサーで感知した障害物

① 停車時はサイドエリアの障害物の感知は行いません。

② 車両移動中に障害物を感知

③ サイドセンサーで、障害物を直接感知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

■サイドエリアの障害物の感知について
（インテリジェントパーキングアシスト２装着車）

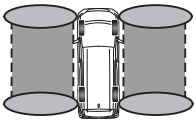
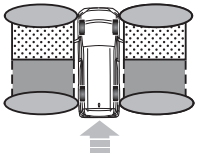
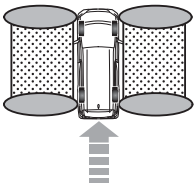
●サイドエリアの障害物は、センサーで直接感知するのではなく、車両前後のサイドセンサーで感知したあと、車両の位置を計算することで障害物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON モードにしたあと、しばらく走行してセンサーでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに障害物があっても感知できない場合があります。

●サイドセンサーで車・人・動物などを感知したときは、車・人・動物などがサイドセンサーの感知範囲内から出ても感知している状態が継続します。

●サイドエリアをスキャン中は、マルチインフォメーションディスプレイの表示が次のようになります。

スキャンが完了すると、約 3 秒間マルチインフォメーションディスプレイの表示が継続されたあとにセンサー作動表示は消灯します。

▶前進しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両前半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 パワースイッチを ON モードにした直後	 車体の全長の半分の距離を前進した状態	 車体の全長分の距離を前進した状態

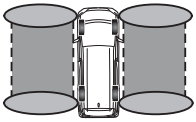
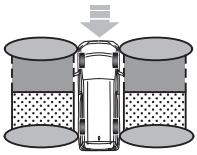
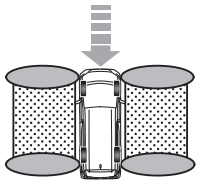
●：サイドセンサーの感知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の感知エリアとは異なります。

▶後退しているとき

	サイドエリアのスキャンが未完了の状態	車両うしろ半分のスキャンが完了した状態	サイドエリアのスキャンが完了した状態
マルチインフォメーションディスプレイの表示			
車両の状態※	 パワースイッチをONモードにした直後	 車体の全長の半分の距離を後退した状態	 車体の全長分の距離を後退した状態

●：サイドセンサーの感知エリア

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが未完了の部分）

●：サイドエリア（サイドエリアのスキャンが完了した部分）

※ イラストは説明のための例であり、実際の感知エリアとは異なります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ブザーの音量などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 699）

警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください
- マルチインフォメーションディスプレイに「ソナーの汚れを除去してください」が表示された場合、センサーの状態を確認してください。センサー部に氷・雪・泥などが付着してないのに警告メッセージが表示している場合は、センサーの異常が考えられますのでトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

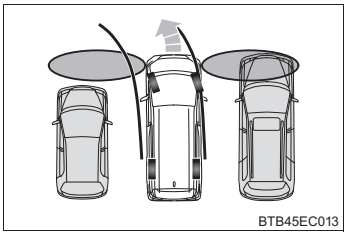
警告

■**サイドセンサーについて★**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●パワースイッチを ON モードにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで感知できないような小さい車両や障害物が隣にあるとき

右図の場合、前進しても左側にある車両を感知できないため、巻き込み警報機能は作動しません。



●サイドセンサーで感知できない位置に障害物がある場合や、人がいる場合

●サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに進入してきた場合は感知できません。

■**正確に感知できないことがある障害物**

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても感知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■クリアランスソナー使用時の注意

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 障害物を感知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■洗車時の注意

- 高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗浄機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

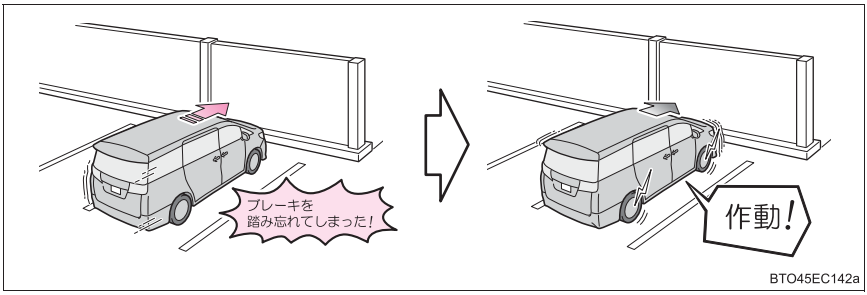
パーキングサポートブレーキ★

駐車時や極低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

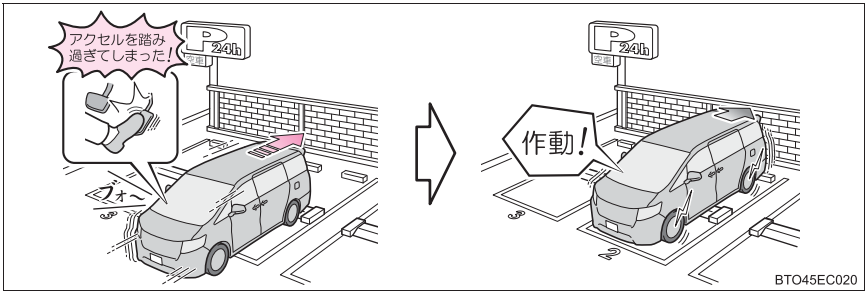
システム作動例

次のようなときに進行方向の障害物を感知してシステムが作動します。

◆ 極低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

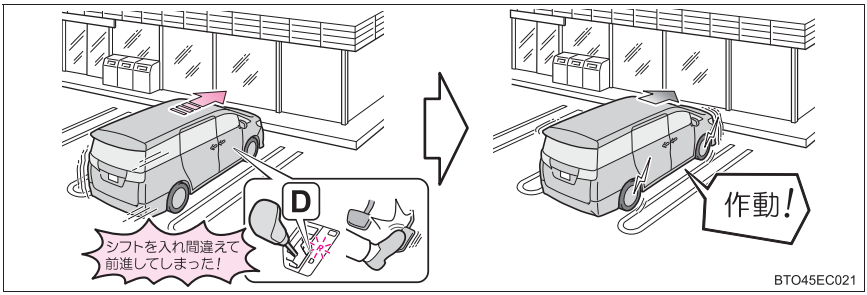


◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



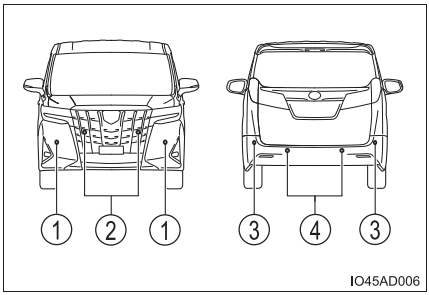
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



センサーの種類

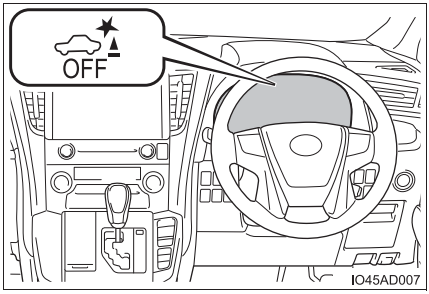
① フロントコーナーセンサー
② フロントセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ バックセンサー



パーキングサポートブレーキの切りかえ

マルチインフォメーションディスプレイの 画面でパーキングサポートブレーキの ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 131）

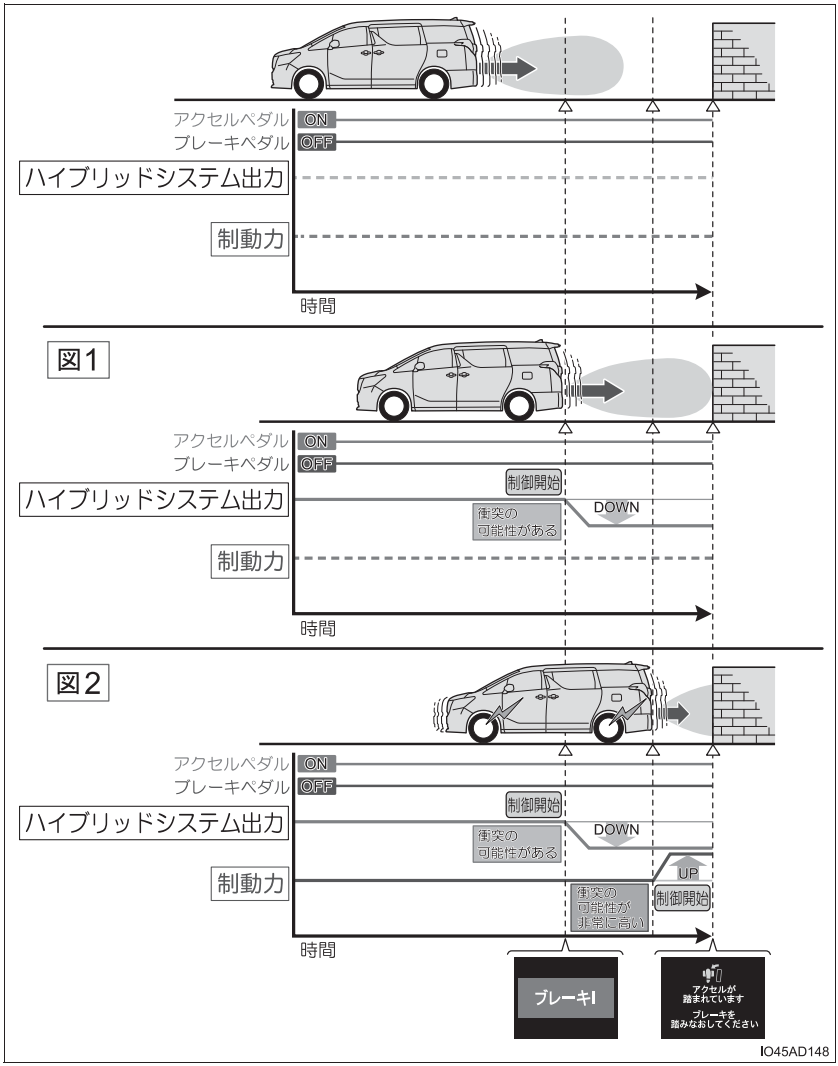
パーキングサポートブレーキが OFF（停止）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。



OFF（停止）に切りかえて、パーキングサポートブレーキを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から を ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキは、衝突の可能性がある障害物を感知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 429，630）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

▶ハイブリッドシステム出力抑制制御

・パーキングサポートブレーキを ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・車両進行方向に障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

▶ブレーキ制御

・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

▶ハイブリッドシステム出力抑制制御

・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

▶ブレーキ制御

・パーキングサポートブレーキを OFF（停止）にした
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
・車両進行方向の障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF 表示灯	ブザー
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	加速抑制中です	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	ブレーキ!	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください	点灯	“ポーン”（単発音）

知識

■センサーの感知範囲について

パーキングサポートブレーキの感知範囲は、クリアランスソナーの感知範囲（→ P. 410）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキは作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキが停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

■システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキが停止した場合に、パーキングサポートブレーキを復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキを ON にし停止を解除（→ P. 422）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが感知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

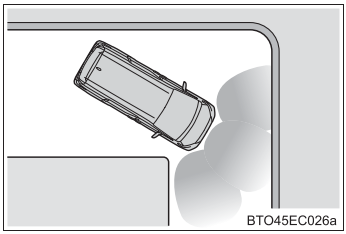
■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON・OFF に関係なく（→ P. 406）、パーキングサポートブレーキを停止させていなければ（→ P. 422）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

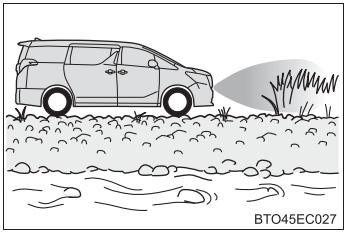
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

▶ 狭い道を走行するとき



▶ 砂利道・草むらなどを走行するとき



●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき
・砂利道・草むらなどを走行するとき
・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

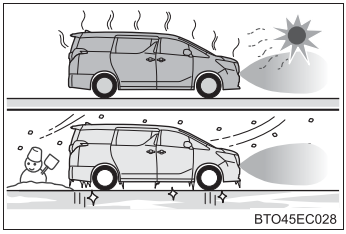
■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動したときは

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキが誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

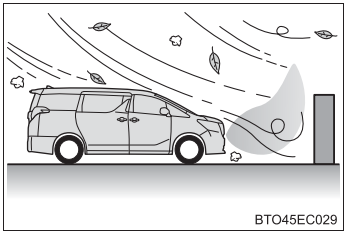
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

▶ 炎天下や寒冷時


BTO45EC028

▶ 風が強いとき


BTO45EC029

●周辺環境の影響

・ 感知できる障害物と車両のあいだに、感知できない障害物がある場合
・ 車、二輪車、自転車、歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合
・ センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・ 風が強いとき
・ 霧、雪、砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・ 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■インテリジェントパーキングアシスト2作動中のパーキングサポートブレーキについて

→ P. 433

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約35km/h以上の車速で5秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ 現在使用できません」が表示されPKSB OFF表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
  この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
  また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示がでるとき、センサーが汚れてなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化をおこなってください。（→ P. 429）

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示されPKSB OFF表示灯が点滅したときは

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。
トヨタ販売店で点検してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキは衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキは、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 422）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠注意

■センサーの故障を防ぐために

- ●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- ●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- ●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ●けん引フックを取り付けた場合

インテリジェントパーキングアシスト2★

インテリジェントパーキングアシスト2について

■ 機能概要

車両後方の映像に後退操作の参考になるガイド線を合成して表示することにより、後退駐車を補助するシステムです。
アシストモードでは、ハンドルを自動で操作することにより、画面上で確認した目標駐車位置付近への後退駐車や縦列駐車からの出庫を補助します。（シフトレバー操作、および前進・後退時の速度調整は自動で行いません）

- インテリジェントパーキングアシスト2は自動駐車装置ではありません。後退駐車や縦列駐車からの出庫を行うための補助装置です。
- 設定した目標駐車位置付近に向けハンドル操作をアシストするシステムのため、駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

■ パーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト2が作動しているときは、パーキングサポートブレーキのON／OFFに関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのエンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。（→P. 433）

⚠ 警告

- 後退または前進するときは、必ず車両の後方や前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退または前進してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPAスイッチ（→P. 434）を押してシステムを解除してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。（→P. 487, 488）
- インテリジェントパーキングアシスト2はシステムで停車を行いません。
  目標駐車位置および切返し位置では、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 低い障害物（縁石やブロックなど）は検知できないことがあるため、周囲の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合は、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリジェントパーキングアシスト 2 のアシストモードと機能一覧

アシストモード	駐車種類	機能	機能概要	参照ページ
車庫入れ アシストモード	並列駐車	バック 駐車機能	後退開始位置からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。 また、認識した駐車区画から目標を選択・変更できます。	P. 451
		前進誘導 機能	目標駐車位置の正面に停車した状態からアシストを開始し、後退開始位置への案内を含めたバック駐車アシストを行います。	P. 450
縦列駐車 アシストモード	縦列駐車	縦列駐車 機能	目標駐車位置の検出と後退開始位置を案内し、後退からアシストを開始し、目標駐車位置までアシストを行います。	P. 461
縦列出庫 アシストモード	縦列出庫	縦列出庫 機能	縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。	P. 469

知識

■インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中のパーキングサポートブレーキについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、パーキングサポートブレーキの ON ／ OFF（→ P. 422）に関係なく、システムが衝突の可能性がある障害物を感知したとき、パーキングサポートブレーキのハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

●パーキングサポートブレーキ作動後はインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を一時的に中止し、パーキングサポートブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。（→ P. 425）

●パーキングサポートブレーキが解除されたあと、インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動可能な場合は、マルチインフォメーションディスプレイにシフト操作を促すメッセージが表示されます。マルチインフォメーションディスプレイの表示に従いシフトレバーを操作し、再度 IPA スイッチ（→ P. 434）を押すことでインテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を継続できます。

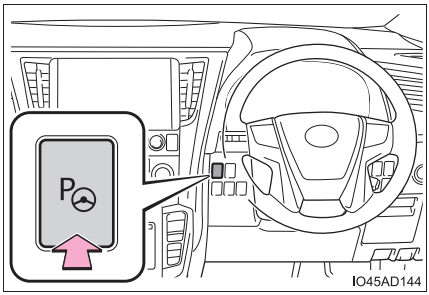
●パーキングサポートブレーキの作動による中止が 3 回発生した場合、インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動を解除します。

アシストモードの切りかえ

■ IPA スイッチによる切りかえ

スイッチを押す

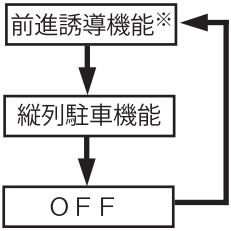
機能の切りかえ、アシストモードの中止／再開ができます。



パワースイッチが ON モード、シフトレバーが P、R 以外で車速が約 30km/h 以下のとき、IPA スイッチを押すごとに、次のように機能が切りかわります。

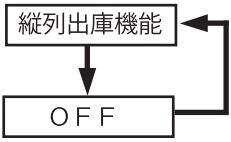
選択中の機能がマルチインフォメーションディスプレイの作動表示部（→ P. 435）に表示されます。

▶ シフトレバーが P 以外で IPA スイッチを押したとき



※ 前進誘導機能の作動条件（→ P. 457）を満たしたときに切りかえできます。作動条件を満たしていない場合は、縦列駐車機能に切りかわります。

▶ シフトレバーが P で IPA スイッチを押したとき



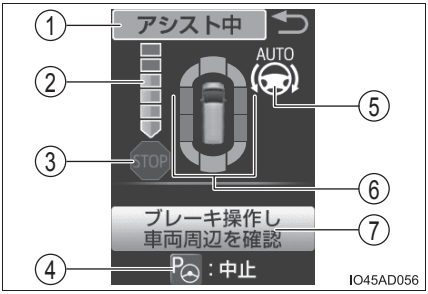
■ シフトレバー操作による機能の切りかえ（シフトリバース連動機能 ON 時）

パワースイッチが ON モードのとき、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能に切りかわります。

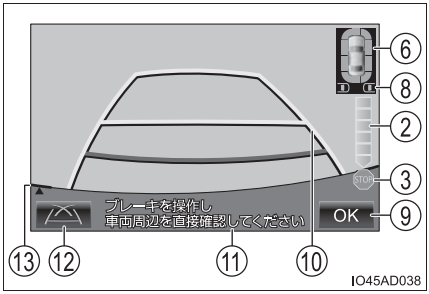
ガイド画面について

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーション画面にガイド画面が表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ表示



▶ ナビゲーション画面



① 作動表示部

インテリジェントパーキングアシスト 2 の作動状態を示します。

② アシスト段階表示

車両停止位置・アシスト終了位置まで の段階を目盛りの数で表示します。

③ ストップ表示

点灯したときは、すみやかにブレーキ ペダルを踏んで車両を停止してください。

④ IPA スイッチアイコン

IPA スイッチを操作することでアシストモードの切りかえができます。また、システムの中止／再開ができるときに表示されます。

⑤ ハンドル AUTO 操作表示

ハンドルの自動操作が作動しているとき表示されます。

⑥ クリアランスソナー表示

→ P. 406

⑦ アドバイス表示

表示内容に従って操作を行ってください。画面の例では、「ブレーキペダルを踏んで車速を調整しながら、車両周辺の安全を確認してください」という内容をお知らせしています。

⑧ RCTA 表示

→ P. 400

⑨ OK スイッチ

バック駐車機能使用時に目標駐車位置を確定させる際に使用します。

→ P. 456

⑩ ガイド線

→ P. 448, 460

⑪ 注意メッセージ

表示内容に従って操作を行ってください。

⑫ 表示モード切りかえスイッチ

ガイド線の表示モードを切りかえることができます。（→ P. 440）

⑬ カメラ取り付け状態確認線

カメラの取り付け状態を確認する線です。（→ P. 437）

知識

■メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯（→ P. 113）について

インテリジェントパーキングアシスト2によるハンドルの自動操作が作動しているときに点灯します。制御が終了したときは、しばらく点滅したあとに消灯します。

■クリアランスソナーの割り込み表示について

インテリジェントパーキングアシスト 2 作動中は、クリアランスソナーの ON ／ OFF（→ P. 406）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を感知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。（→ P. 406）

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

- 音量はナビゲーションシステムの設定に連動します。
- マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面から音声案内の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 131）

■シフトリバース連動機能（→ P. 456）を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面からシフトリバース連動機能の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 131）

注意

■**カメラ取り付け状態確認線がずれている場合**

ナビゲーション画面に映っているバンパーの端がカメラ取り付け状態確認線と一致していないときは、カメラの向きがずれています。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アシストモードの中止・中断

次のときにアシストモードが中止または、中断されます。

▶ アシストが解除されるとき
・画面を切りかえた
・システムの温度保護機能が働いた
・システム異常
・車庫入れアシストモードで目標駐車位置を確定せずに後退した
・システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した

アシストが中止されたときは、ハンドルをしっかり持って、ブレーキペダルを踏んで車両を停車してください。
すでにシステムは中止されていますので、はじめからやり直すか、引き続き駐車するときは通常どおりハンドルを操作してください。

▶ アシストが中断されるとき
・ハンドルを操作した
・アシスト中に車速が 7km/h をこえた
・パーキングサポートブレーキが作動した

アシストが中断されたときは、IPA スイッチを押すことでアシストを再開できます。

知識

■アシスト中に制限速度を超過しそうになったとき

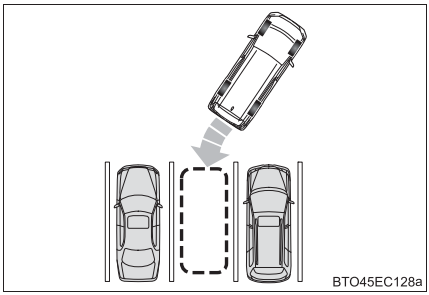
ブザーが鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。
アドバイスが表示されたときは、ただちにブレーキペダルを踏んで減速してください。減速しないまま加速し続けると、一定の速度をこえた時点でアシストが中断されます。
(→ P. 482)

IO45AD057

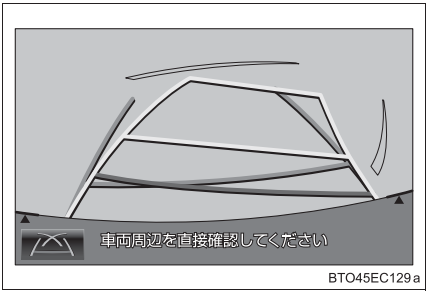
並列駐車（車庫入れ）時に使用する

車庫入れなど並列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

車庫入れアシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。

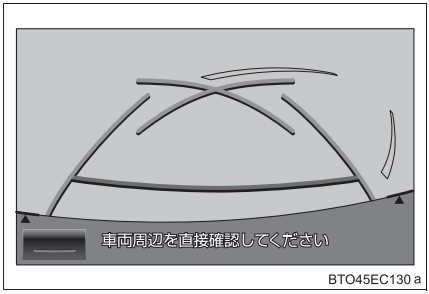


▶ 進路表示モード
（→ P. 443）



ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

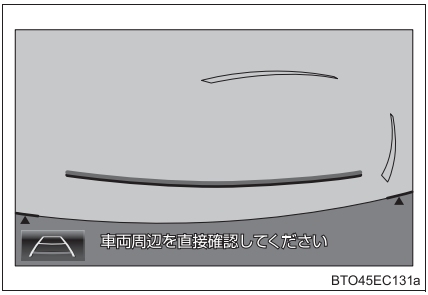
▶ 駐車ガイド線表示モード
（→ P. 448）



ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路表示モードや車庫入れアシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

▶ 距離目安線表示モード

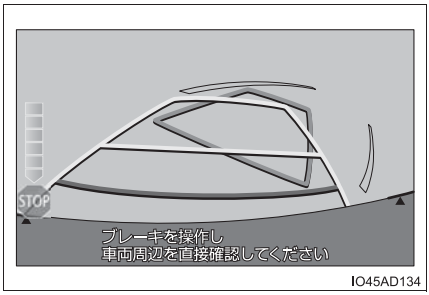


BTO45EC131a

距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

▶ 車庫入れアシストモード（→ P. 450）



IO45AD134

画面上で確認した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、車庫入れ駐車を補助するモードです。

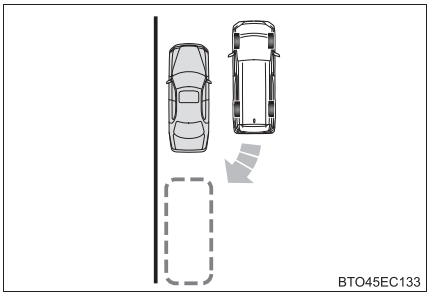
■ 表示モードの切りかえかた

表示モード切りかえスイッチ（→ P. 435）にタッチするごとに「進路表示モード」→「駐車ガイド線表示モード」→「距離目安線表示モード」の順で表示モードが切りかわります。
また、アシストモードの切りかえは IPA スイッチまたは、シフトレバーで行います。（→ P. 434）

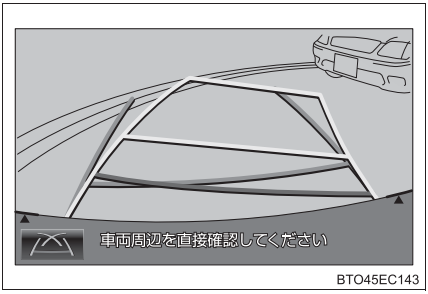
縦列駐車時に使用する

縦列駐車をするときは、次のいずれかのモードを使用します。

縦列駐車アシストモードのみ、ハンドルの自動操作を行います。

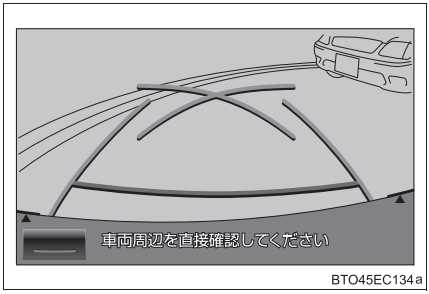


▶ 進路表示モード



ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

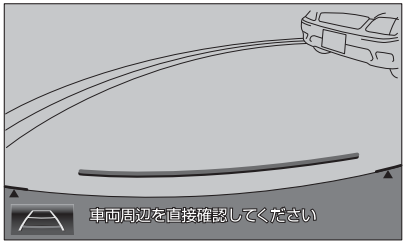
▶ 駐車ガイド線表示モード（→ P. 460）



ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（縦列駐車アシストモードを必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。

▶ 距離目安線表示モード

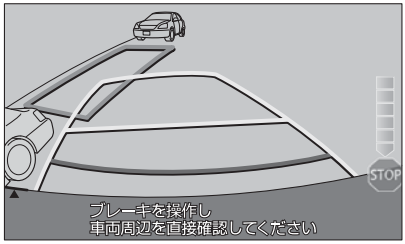


BTO45EC135a

距離目安線のみ表示されるモードです。

ガイドを必要としない方はご使用ください。

▶ 縦列駐車アシストモード
（→ P. 461）



IO45AD135

画面上で確認した目標駐車位置付近に駐車できるように、ハンドル操作を自動で行うことにより、縦列駐車を補助するモードです。

■ 表示モードの切りかえかた

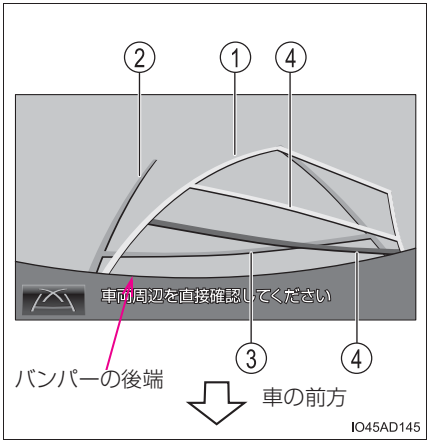
→ P. 440

並列駐車のしかた（進路表示モード）

■ 画面の見方（ナビゲーション画面）

シフトレバーを R にすると使用することができます。
シフトリバース連動機能（→ P. 458）が ON のときは、シフトレバーを R にするとバック駐車機能（→ P. 451）が作動します。
バック駐車機能を作動させずにナビゲーション画面にガイド線のみを表示させたい場合は、マルチインフォメーションディスプレイの

画面で「Pリバース連動」を OFF にしてください。
（→ P. 131）



① 予想進路線（黄色）
車が後退していく進路の目安を示します。

ハンドル操作と連動します。

② 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・実際の車幅より広く表示しています。
・ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときは、予想進路線と重なります。

③ 距離目安線（青色 約 0.5m）
車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・約 0.5m 先を示します

④ 距離目安線（赤色 約 0.5m）（黄色 約 1m）
車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・ハンドル操作と連動します。予想進路線とともに動きます。
・それぞれの中心位置で、約 0.5m 先（赤色）・約 1m 先（黄色）を示します。
・ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっていないときは誤差が生じます。

上の画面では、距離目安線が示す実際の距離（赤色：約 0.5m 先、黄色：約 1m 先）より、右側は近くの位置に、左側は遠くの位置に表示されます。

警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）になっているときに車幅延長線と予想進路線がずれる場合、初期化が正しく行われていないことが考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ **駐車する**

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順は、車両右側に駐車する場合です。

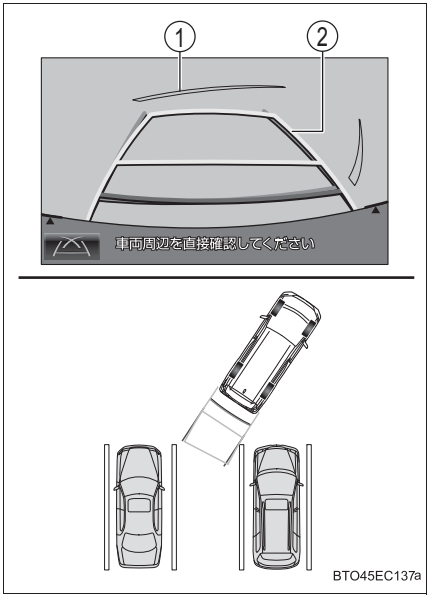
1 進路表示モードにする（→ P. 439）

2 シフトレバーを R にする

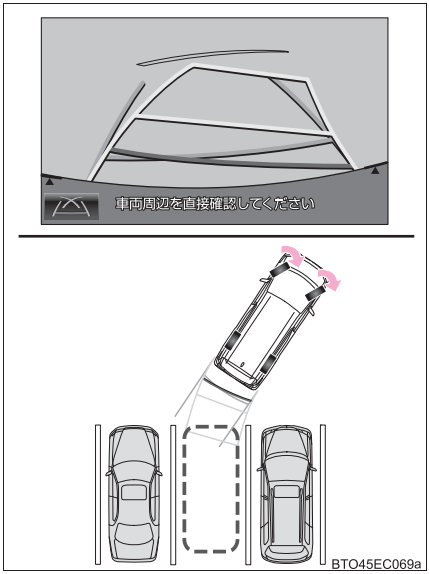
シフトリバース連動機能（→ P. 458）を OFF にしていないと、目標駐車位置に青の枠が表示されますが、そのまま後退してください。

① 駐車場の区画線

② 予想進路線



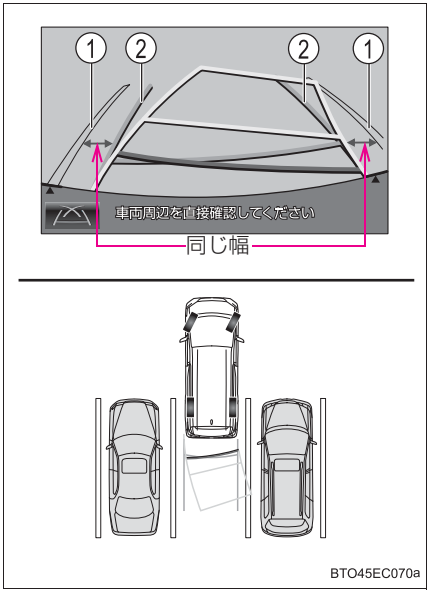
3 予想進路線が目標駐車位置の中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



4 車の後部が目標駐車位置の中に入ったら、車幅延長線と目標駐車位置左右の区画線との間隔が、車の近くの位置で同じくらいになるようにハンドルを操作する

①駐車場の区画線

②車幅延長線

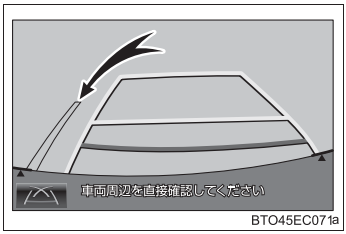


5 車幅延長線と駐車場の区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にして、車が目標駐車位置に全部入るまで、ゆっくり後退する

6 適切な位置で停止し、駐車を終える

知識

- 駐車するときは、画面の映像と実際の状況は異なることがありますので、必ず直接確認してください。
- 距離目安線と目標駐車位置の後端が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。
- 駐車場の区画線が片側しかないときは、車幅延長線と目標駐車位置の左端（右端）が画面では平行に見えても、実際には平行ではないことがあります。



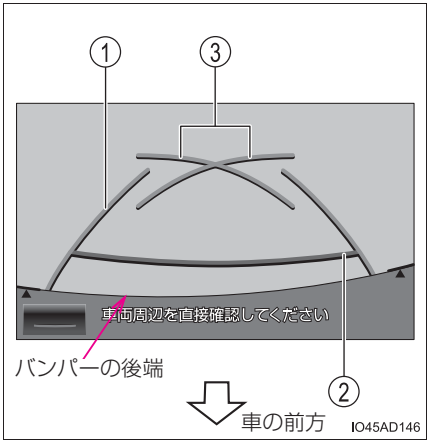
BTO45EC071a

並列駐車のしかた（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方（ナビゲーション画面）

シフトレバーを R にすると使用することができます。
シフトリバース連動機能（→ P. 458）が ON のときは、シフトレバーを R にするとバック駐車機能（→ P. 451）が作動します。
バック駐車機能を作動させずにナビゲーション画面にガイド線のみを表示させたい場合は、マルチインフォメーションディスプレイの

画面で「P リバース連動」を OFF にしてください。
（→ P. 131）



① 車幅延長線（青色）
車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示します。
・実際の車幅より広く表示しています

② 距離目安線（赤色 約 0.5m）車の後方（バンパー後端から）の距離を示します。
・約 0.5m 先を示します。

③ 駐車ガイド線（青色）
ハンドルをいっぱいまでまわして後退（もっとも小まわり）したときの進路の目安を示します
・駐車時にハンドルを操作する位置の目安となります。

警告

- 道路の状況（段差・勾配など）や乗車人数・積載量により、画面のガイド線の表示位置は変化します。必ず後方および周辺の安全を直接確認しながら運転してください。
- 車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ 駐車する

操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順は、車両右側に駐車する場合です。

1 駐車ガイド線表示モードにする（→ P. 439）

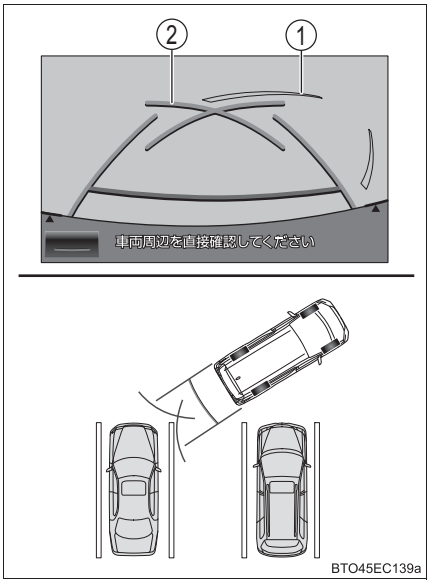
2 シフトレバーを R にする

シフトリバース連動機能（→ P. 458）を OFF にしていないと、目標駐車位置に青の枠が表示されますが、そのまま後退してください。

3 駐車ガイド線が目標駐車位置の左端の区画線に合うまで後退したら止まる

① 駐車場の区画線

② 駐車ガイド線（青色）



4 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

5 車が目標駐車位置と平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする。画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

並列駐車のしかた（車庫入れアシストモード）

■ 機能概要

車庫入れアシストモードは次の 2 つの機能があります。

▶ 前進誘導機能（→ P. 452）

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、前進誘導機能を使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

① 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを押して、車庫入れ駐車を選択

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

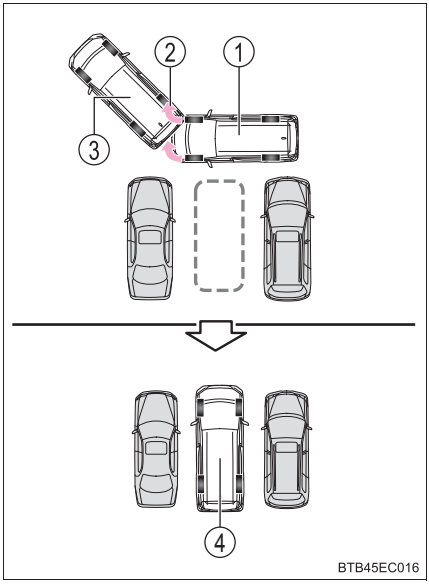
② ハンドルの自動操作が作動します。

③ 後退開始位置に着いたことを音により案内します。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



▶ バック駐車機能（→ P. 456）

目標駐車位置の前方で停車し、シフトレバーを R にすると、バック駐車機能を使用することができます。（シフトリバース連動機能 ON 時）
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

駐車スペースに区画線があるときに使用できます。

① 目標駐車位置の前方で停止し、シフトレバーを R にする

シフトリバース連動機能によりインテリジェントパーキングアシスト 2 が作動します。

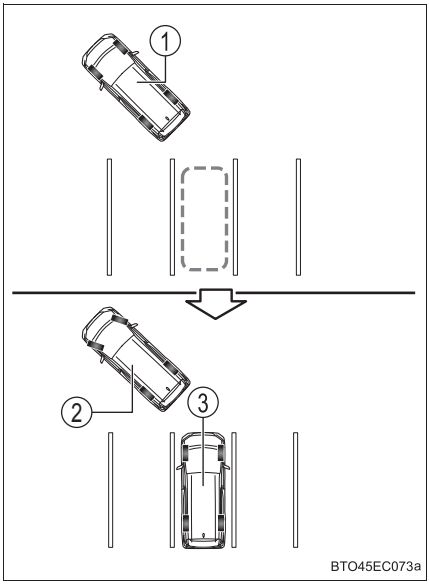
② ハンドルを操作して、お好みの駐車スペースを選択する

目標駐車位置を確定するとアシストが開始されます。

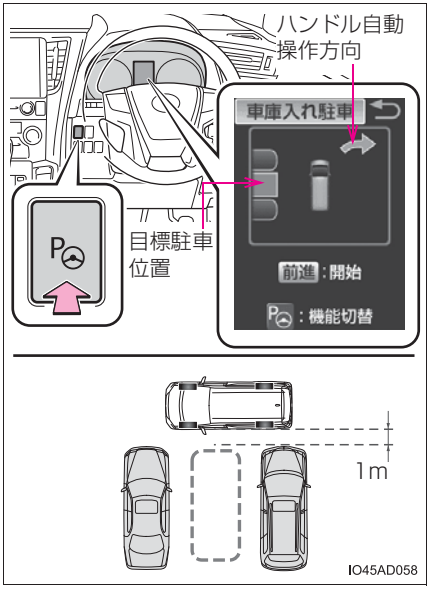
③ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、② でアシストを開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



■ 前進誘導機能を使用して駐車する



1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「車庫入れ駐車」に切りかわったことを確認する

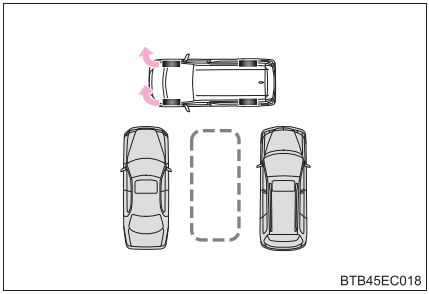
前進誘導機能に切りかわると**「前進誘導モードです 前進するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。

- 表示内のハンドル自動操作方向の矢印の向き、および目標駐車位置を確認してください。
- IPA スイッチを、押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 434）
- シフトレバーが D※ 以外、または車速が検知されたときは、IPA スイッチを押しても車庫入れ駐車の表示には切りかわりません。

※ D は S ポジションを含みます。

- 方向指示レバー（→ P. 296）を操作して車両の左右いずれか駐車したい方向を選択できます。
- 駐車スペースが狭い場合や、アシストに十分なエリアがない場合はシステムを使用できません。マルチインフォメーションディスプレイの表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

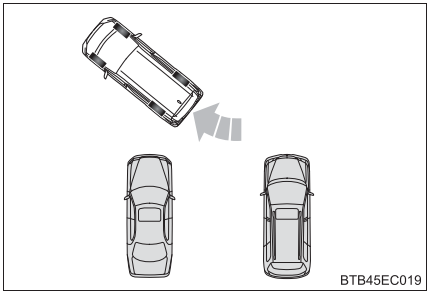
2 通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進すると**「“ピー”」**という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。



- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 435）とアシスト段階表示（→ P. 435）が表示されます。
- アシストを中止するには、IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。
- 車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン”」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。（→ P. 438）
- アシスト開始時にスペースが狭かった場合、**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。

3 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

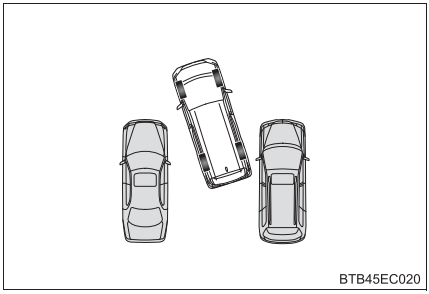


4 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

▶ 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 6 へ
切り返しが不要な場合は手順：12 へ（→ P. 455）

6 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

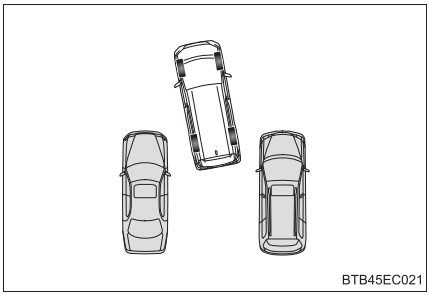


7 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は S ポジションを含みます。
現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

8 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

9 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



10 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたら、シフトレバーを R にする

11 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 6 から 11 をくり返す場合があります。

12 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

車庫入れアシストモードが終了します。

- ブザーは安全のため、目標駐車位置より若干手前で出力されます。また、その時点でシステムの作動も終了するため、ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退し、希望の位置に駐車します。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

■ バック駐車機能を使用して駐車する

シフトリバース連動機能（→ P. 458）が ON のとき、シフトレバーを R にするとバック駐車機能が作動し、複数の駐車区画から目標を選択・変更することができます。

車庫入れアシストモードで使用できます。

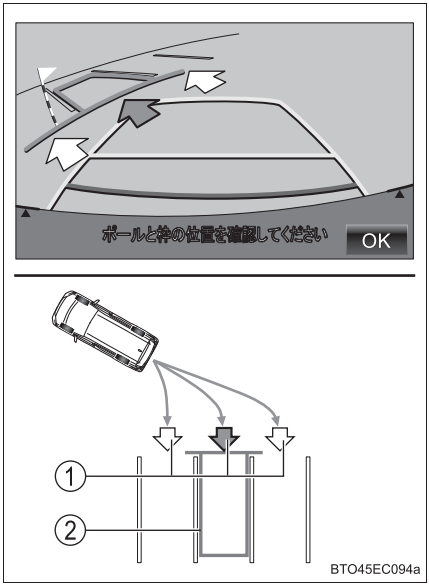
1 シフトレバーを R にする

「バック駐車モードです」と音声が出力され、駐車枠の候補が表示されます。

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車枠

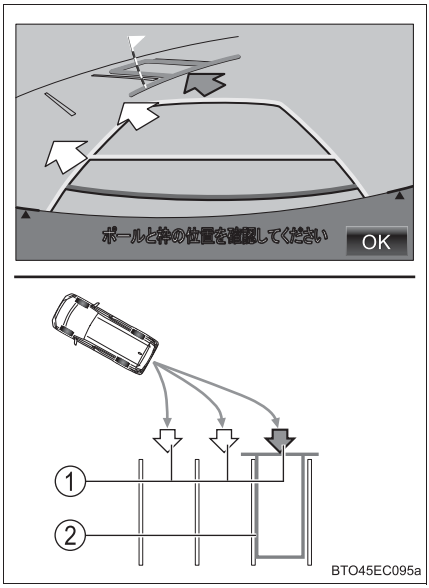


2 ハンドルに左右に力を加えることで目標駐車位置を変更する

① 認識した駐車区画

現在選択されている駐車区画が青色で表示されます。

② 目標駐車位置



3 ナビゲーション画面の OK（→ P. 435）にタッチして目標を確定すると、**「後退するとアシストを開始します」**と音声が出力されます。その後、ブレーキペダルから徐々に足を離しゆっくり後退すると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

ナビゲーション画面の OK にタッチしたあとの手順は前進誘導機能を使用して駐車する手順の 5 以降と同様です。（→ P. 454）

知識

■車庫入れアシストモードの作動条件

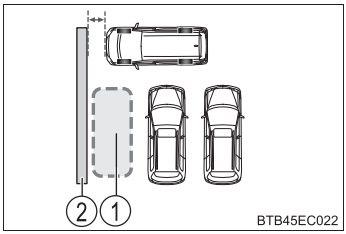
- 機能を正しく作動させるために、ゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車両が移動しているときは、使用することができません。
- バック駐車機能は白線認識により駐車場の区画線を検出し、駐車区画を特定しております。
  正常に検出できなかった場合（→ P. 486）バック駐車機能を作動できません。

■前進誘導機能について

- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 494）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車位置を特定できないため、前進誘導機能を作動できません。
- 駐車スペースの状況により、車両前方に駐車に必要なスペースがない場合は、目標駐車位置に到達できないことがあります。

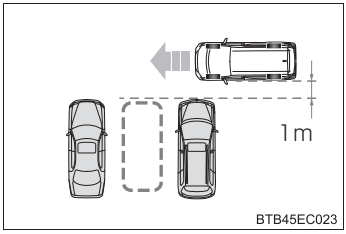
① 目標駐車位置

② 壁

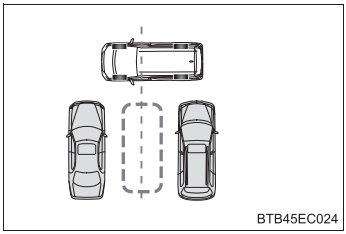


■前進誘導機能を使用するときのコツ

1 駐車車両と約 1m 間隔をあけて目標駐車位置に近づいてください。
駐車車両との間隔があきすぎていると、フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーが駐車車両を検出できない場合があります。



2 目標駐車位置の中央が真横に見える位置で停車してください。
また、IPA スイッチを押すときは、車両が完全に停車した状態で押してください。



■バック駐車機能について

●検出した駐車区画が 1 つの場合は、目標駐車位置の選択・変更はできません。
●検出した駐車区画が複数の場合は、最も適した駐車区画を目標駐車位置としてシステムが選択します。（最初にシフトレバーを R にしたときに選択されます）

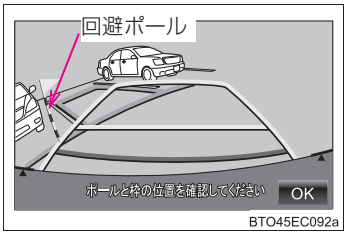
■シフトリバース連動機能を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの 画面からシフトリバース連動機能の ON ／ OFF を設定できます。（→ P. 131）

警告

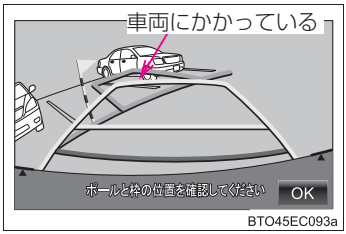
■回避ポールについて

回避ポールは目安です。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら、慎重に後退してください。



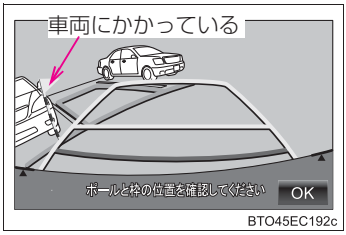
注意

- 青の枠や回避ポールが駐車車両にかかっているなど、目標駐車位置を誤認識している場合は、駐車位置を変更してください。



BTO45EC093a

- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため車庫入れアシストモードは使用しないでください。



BTO45EC192c

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、車庫入れアシストモードは使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。

縦列駐車のしかた（駐車ガイド線表示モード）

■ 画面の見方

→ P. 448

■ 駐車する

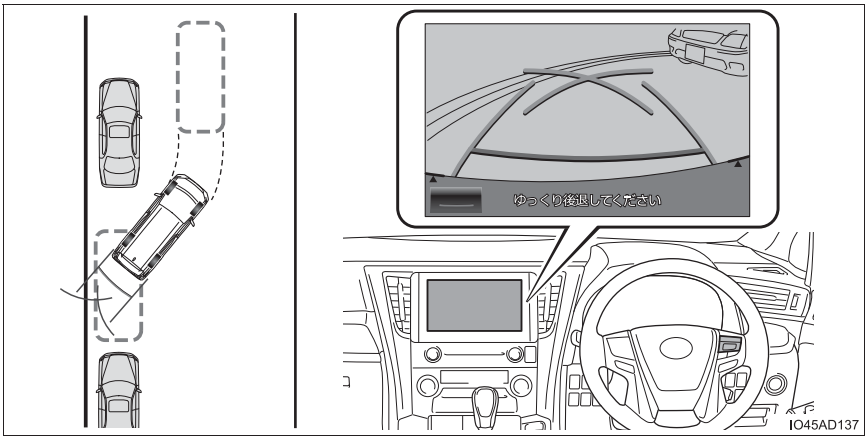
操作手順はあくまでも一例であり、駐車時の道路事情・路面状況・自車の状況などにより、ハンドル操作のタイミング・操作量は異なります。

以下の手順は、車両左側に駐車する場合です。

1 駐車ガイド線表示モードにする（→ P. 441）

2 シフトレバーを R にする

3 駐車ガイド線が駐車したい位置の左端に合うまで後退したら止まる



4 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

5 車が路肩と平行になったら、ハンドルをまっすぐ（直進状態）にする
画面を参考に最適な位置まで後退し、駐車を終える

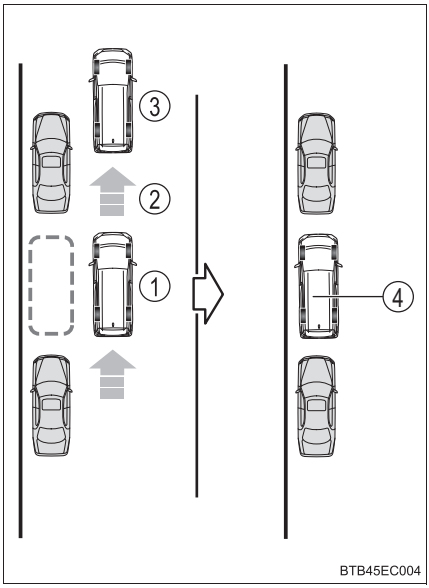
⚠ 注意

車の左前端を前方に駐車している車にぶつけないよう注意して、ゆっくり後退してください。

縦列駐車のしかた（縦列駐車アシストモード）

■ 機能概要

駐車スペースが検出できれば、アシスト開始位置までの前進を案内し、アシストを開始する縦列駐車アシストモードを使用することができます。
また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。



① 道路または路肩と平行にまっすぐ前進して目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車し、IPA スイッチを 2 回押して、縦列駐車アシストモードを選択

② 道路または路肩と平行にまっすぐ前進し駐車スペースを検出

③ アシスト可能な後退開始位置に着いたことを音と表示により案内し、案内に従ってシフトレバーを切りかえ、移動を開始するとハンドルの自動操作が開始されます。

検出した駐車スペース、または道幅（駐車スペース向い側までの距離）が狭い場合は案内されません。

④ 駐車完了

アシストモードが終了します。

駐車スペースの状況により、③のあと後退を開始してから駐車完了までのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。

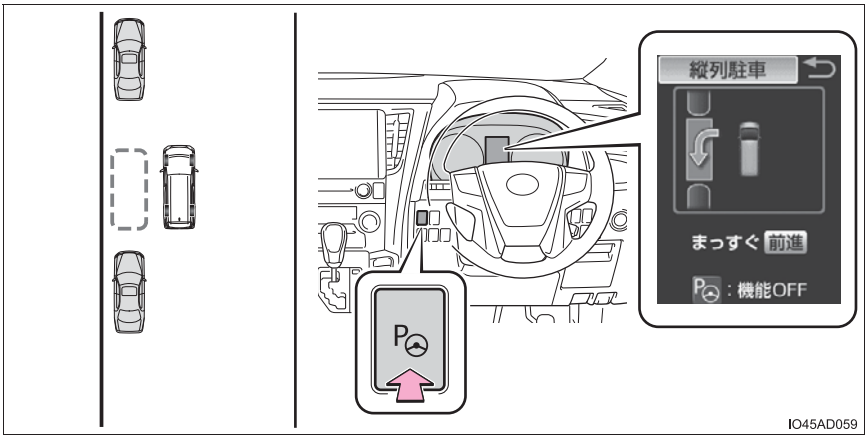
■ **縦列駐車機能を使用して駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、IPA スイッチを 2 回押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列駐車」に切りかわったことを確認する

縦列駐車機能に切りかわると、**「縦列駐車モードです ゆっくり前進してください」**と音声が出力されます。

● IPA スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 434）

● 車速が約 30km/h 以上のときは、IPA スイッチを押しても「縦列駐車」の表示には切りかわりません。

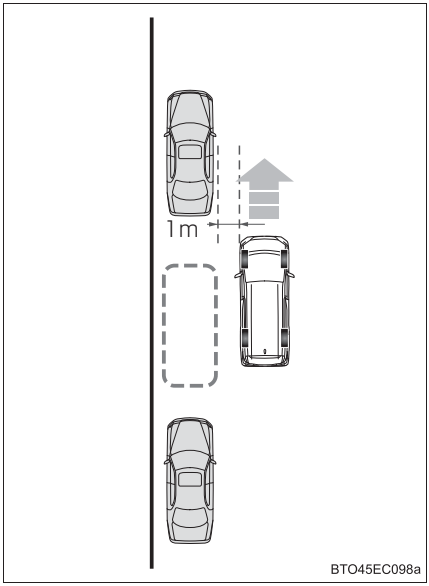


2 道路（または路肩）と平行で、駐車車両との間隔が約1mの位置に車両を移動させ、まっすぐ前進する

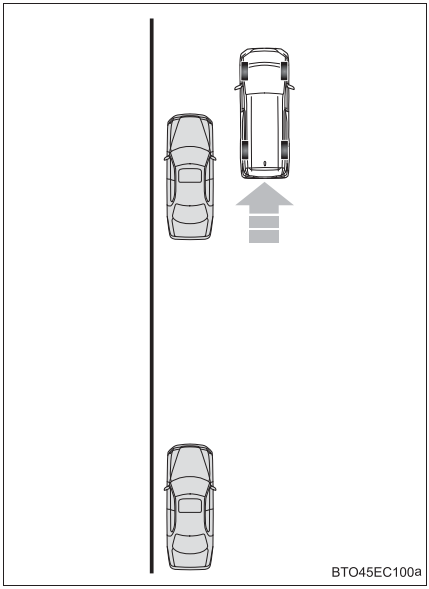
- ゆっくり前進してください。
- 駐車スペースの探索が開始されます。

  スペース探索中に、方向指示レバー（→ P. 296）で車両左右の駐車スペースを選択できます。

- 機能を中止する場合は、IPA スイッチを 1 回押して、機能を OFF にしてください。
- 駐車スペースを検出すると画面が切りかわります。

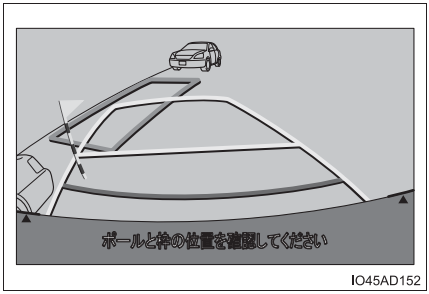


3 「“ポーン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



4 「**シフトをリバースにしてください**」と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

5 青の枠が駐車したい場所に合っていることを確認する



6 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退すると「**“ピー”**」という音が鳴り、メーター内のインテリジェントパーキングアシスト 2 表示灯が点灯し、アシストが開始されます。

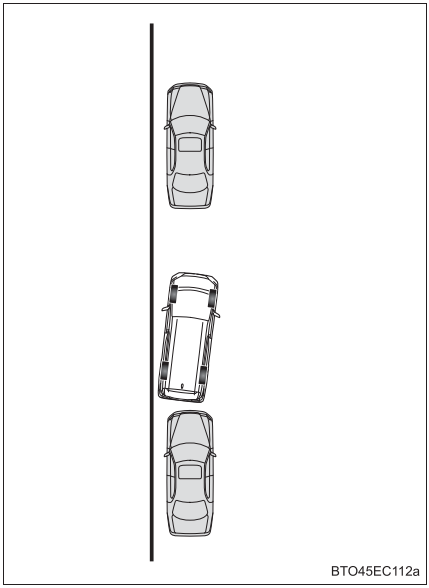
- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 435）とアシスト段階表示（→ P. 435）が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

  アシストが中止されると「**“ピピッ” アシストを中止します**」と音声が出力されます。

7 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、駐車スペース内に障害物がないことを確認してから、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながらゆっくり後退する

- 後退車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 画面に表示されている青の枠は自車の大きさとほぼ同じサイズで表示されます。（目標駐車位置設定時に表示される青の枠は、一般的な路面の駐車枠の大きさで表示されます）
- 目標駐車位置に一度で入りきらず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ
  切り返しが不要な場合：手順 14 へ

8 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



9 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は S ポジションを含みます。

現在停車している位置でアシストを終了したい場合は、シフトレバーを P にしてください。

10 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

11 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

12 **「シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

13 **「ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 8 から 13 をくり返す場合があります。

14 車両がほぼ目標駐車位置に入り、**「“ピー”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

縦列駐車アシストモードが終了します。

- 停車したあと、任意で前進または後退し、希望の位置に車両を移動してください。
- 必ず目視やミラーで車両の前後を確認しながら後退してください。

知識

■縦列駐車アシストモードの作動条件

- 縦列駐車アシストモードを正しく動作させるために、道路（または路肩）と平行に駐車車両との間隔が約 1m の位置をゆっくり（すぐに停車できる車速で）走行してください。
- 車速が約 30km/h 以上のときは、使用することができません。
- フロントサイドセンサー・リヤサイドセンサーにより駐車車両を検出し、駐車位置を特定しているため、検出できない場合（→ P. 494）は、案内されません。
- 駐車車両がない場合は、駐車車両を特定できないため縦列駐車アシストモードは作動できません
- 駐車スペースの周囲の環境によってはスペースを検出できず、縦列駐車アシストモードが作動できないことがあります。
- 車速が約 30km/h 以上になる、または IPA スイッチにより機能を OFF にするまで案内が継続されます。

■IPA スイッチを押すタイミングについて

縦列駐車アシストモードを使用して駐車するときの手順で、次のときもアシストモードが作動することがありますが、その際はマルチインフォメーションディスプレイの表示に従って駐車操作を行ってください。

●手順 1 で、目標駐車位置の手前を通りこして IPA スイッチを押した
手順 1 で、停車せずに車両移動中に IPA スイッチを押す場合、1 回押すだけで「縦列駐車」を選択でき、そのまま手順 2 に移ることができます。

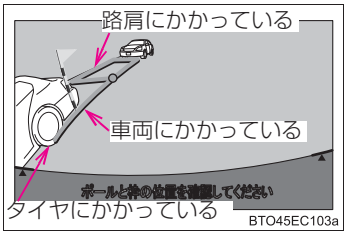
●IPA スイッチを押していない状態のまま、手順 3 の位置まで車両を移動し、シフトレバーを R にしてから IPA スイッチを押した

警告

■回避ポールについて
→ P. 458

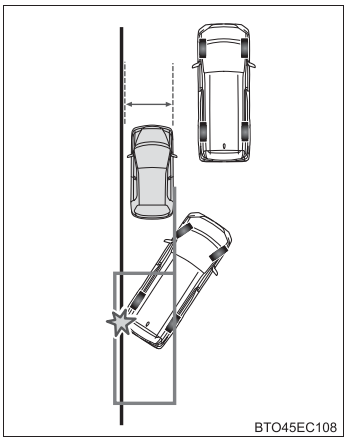
注意

- 青の枠の中や自車と目標駐車位置との間に障害物がなく、回避ポールが駐車車両や壁などにかかっていないことを必ず確認してください。
  青の枠の中や自車と目標駐車位置の間に障害物がある、または回避ポールが駐車車両や壁などにかかっている場合は、接触するため縦列駐車アシストモードは使用しないでください。



- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車アシストモードは使用しないでください。

- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してしてシステムを解除してください。



- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。
- 駐車車両など周辺の環境によって駐車位置がずれたり車両が傾くことがあります。必要に応じて手動で整列してください。
- 駐車スペースに障害物、段差や縁石があるときでも、隣接車両に合わせた位置にアシストします。
  接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチでシステムを中止してください。
- 低い障害物は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキペダルを踏んで停車してください。

縦列出庫のしかた（縦列出庫アシストモード）

■ 機能概要

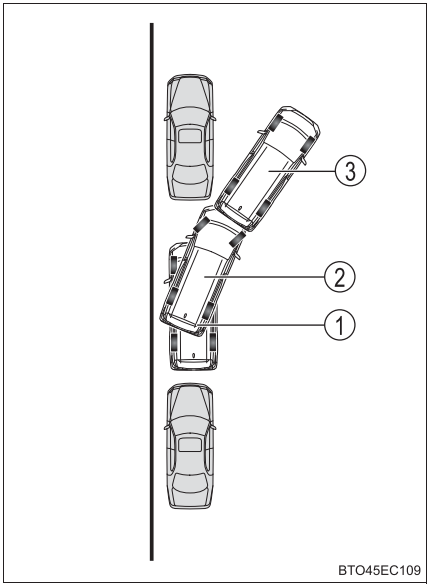
縦列駐車から出庫する際、出庫したい方向を選択することで発進可能な位置までのハンドル操作をアシストします。

① シフトレバーがPの状態でIPAスイッチを押して、縦列出庫を選択し、方向指示レバーで希望の出庫方向を選択する

② 案内に従ってシフトレバーを切りかえると、ハンドルの自動操作が作動します。

③ 発進可能な位置に到達したことを音と表示で案内します。

駐車スペースの状況により、②でハンドルの自動操作が開始してから発進可能な位置に到達するまでのあいだに、前進または後退方向への切り返しが必要な場合は、前進開始位置・後退開始位置の案内、およびハンドルの自動操作をくり返します。



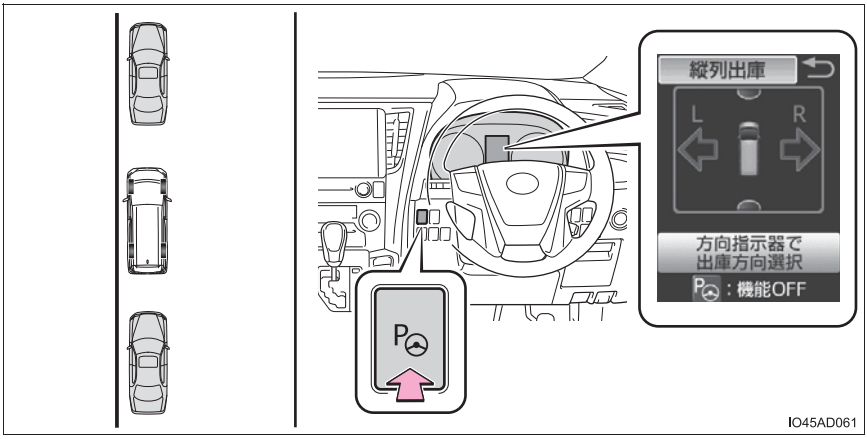
■ 縦列出庫機能を使用して出庫する

⚠ 注意

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを操作してアシストを中止してください。

1 シフトレバーが P の状態で IPA スイッチを押し、マルチインフォメーションディスプレイの表示が「縦列出庫」の画面に切りかわったことを確認する

縦列出庫機能に切りかわると**「縦列出庫モードです 方向指示レバーで方向を選択してください」**と音声が出力されます。



2 方向指示レバー（→ P. 296）を操作して左右いずれか出庫したい方向を選択する

3 表示内のアドバイス表示（→ P. 435）に従って、シフトレバーを R（または D※）にすると、**「“ピー”」**という音が鳴りアシストが開始されます。

手順 4 以降は、方向指示レバーで出庫方向を選択後、アドバイス表示に「シフト→ [R]」が表示されたときの場合です。

※ D は S ポジションを含みます。

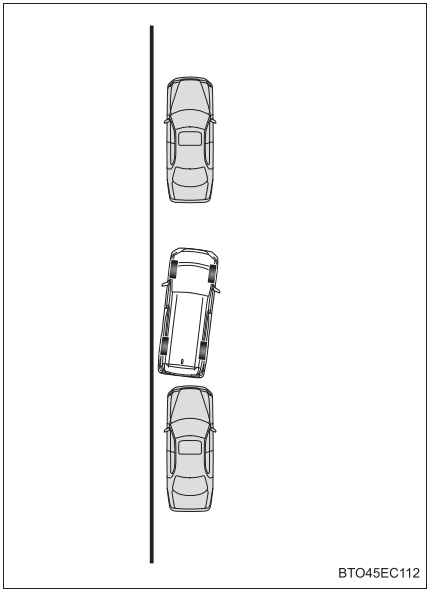
- ハンドルの自動操作が開始されると、表示内にハンドル AUTO 操作表示（→ P. 435）とアシスト段階表示（→ P. 435）が表示されます。
- アシストを中止するには IPA スイッチを押します。

アシストが中止されると**「“ピピッ” アシストを中止します」**と音声が出力されます。

4 通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退してください。

- 後退車速が速すぎると、**「“ピピッ” アシストを中止します アシストを再開する場合は IPA スイッチを操作します」**と音声が出力され、アシストが中断されます。
- 制限車速が超過しそうになったときは、**「“ポーン” “ポーン”」**という音が鳴り、制限速度をこえてしまう可能性があることをお知らせするアドバイスが表示されます。（→ P. 438）

5 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する



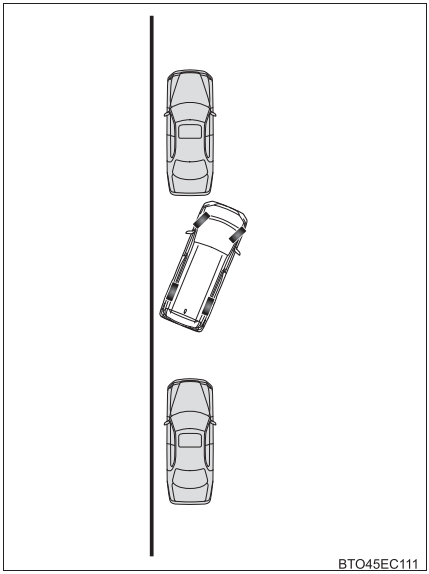
6 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は S ポジションを含みます。

7 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

▶ 一度で出庫できず、切り返しが必要な場合：手順 8 へ（→ P. 472）
切り返しが不要な場合：手順 14 へ（→ P. 474）

8 **「“ポーン”」**という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

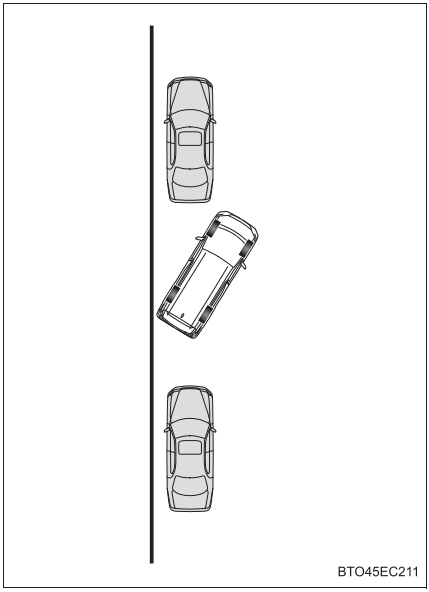


9 **「“ポン” シフトをリバースにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを R にする

10 **「“ポン” ゆっくり後退してください」**と音声が出力されたら通常の後退操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、後方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり後退する

駐車スペースの状況により、手順 5 から 10 をくり返す場合があります。

11 「“ポーン”」という音が鳴り、表示内のストップ表示（→ P. 435）が点灯したらブレーキペダルを踏んで停車する

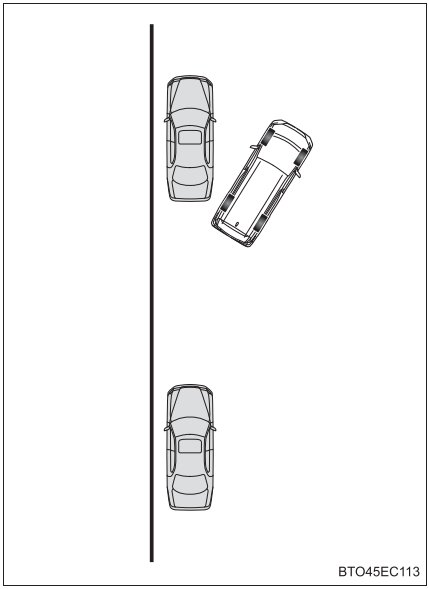


12 **「シフトをドライブにしてください」**と音声が出力されたらシフトレバーを D※ にする

※ D は S ポジションを含みます。

13 **「ゆっくり前進してください」**と音声が出力されたら通常の運転操作の姿勢をとり、ハンドルに力を加えないように軽く手を添え、前方および周辺の安全を直接確認し、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進する

14 車両がほぼ出庫可能位置に到達し、**「“ピー” アシストを終了します」**と音声が出力され、アシストが終了します。
そのままハンドルを持ち、前進してください。



知識

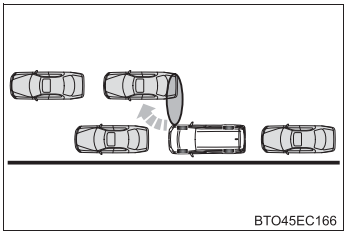
■縦列出庫機能について

アシスト中に、運転者が出庫可能と判断しハンドルを操作すると、その位置でアシストを中止します。

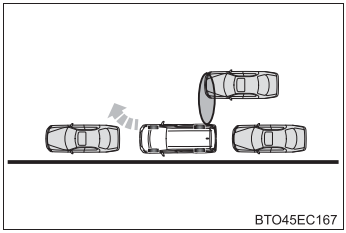
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

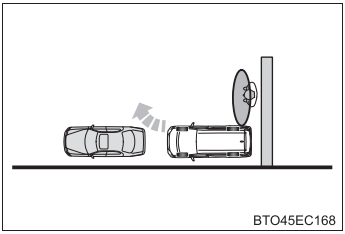
●出庫方向に信号待ちなどの車両がある場合



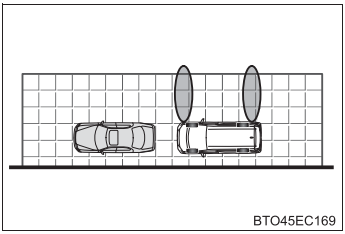
●出庫方向の後方に車両が待っている場合



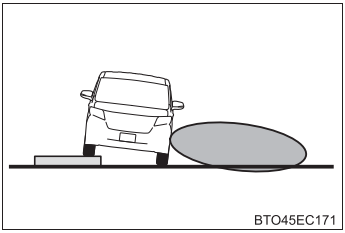
●フロントまたは、リヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合


BTO45EC168

●路面が石畳や荒い砂利・グレーチングになっている場合


BTO45EC169

●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を感知している場合


BTO45EC171

●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

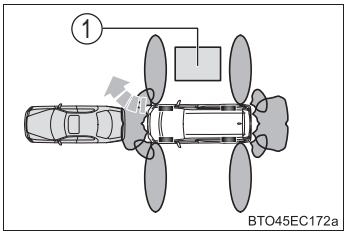
警告

■**縦列出庫機能について**

次のとき、サイドセンサーで障害物を正確に感知できないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

●障害物がセンサーで感知できない位置にある場合

① 障害物

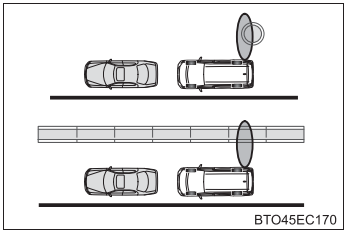


●次のような障害物は正確に感知しないことがあります。

・針金・フェンス・ロープなどの細いものの場合
・綿・雪などの音波を吸収しやすいものの場合
・鋭角的な形のものの場合
・背の低いものの場合
・背が高く上部が張り出しているものの場合
・人・動物などの動いているものの場合

特に人は衣類の種類によっても感知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

●出庫方向の側面に穴や溝がある場合



マルチインフォメーションディスプレイのメッセージについて

インテリジェントパーキングアシスト 2 が作動できないときや、作動が中止または、中断されたときなどにマルチインフォメーションディスプレイに次のメッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。

■ 作動できないとき

メッセージ	状況・対処方法
	システムに異常があるおそれがある → パワースイッチをいったん OFF にしてからハイブリッドシステムを始動してください。再度表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
	システムに故障のおそれがある
	パワーステアリング装置の一時的な過熱が起きた → パワースイッチをいったん OFF にし、しばらくしてからハイブリッドシステムを始動して使用してください。
	ハイブリッドシステムが作動していない → ハイブリッドシステムを始動してください。
	センサー部に氷・雪・泥などが付着している → 氷・雪・泥などを取り除いてください。
	センサー部が凍結している → 凍結部が解ければ正常に復帰します。
	補機バッテリーを脱着した → 約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行してください。
	車速が 30km/h を超過した状態で IPA スイッチを操作した → 車速約 30km/h 以下にして使用してください。

メッセージ	状況・対処方法
	バックドアが開いた状態で IPA スイッチを操作した → バックドアを閉じてから使用してください。
	駐車スペースがない場所で IPA スイッチを操作した、または道幅の狭い駐車スペースでIPAスイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。 → 道幅が狭いためアシストできません。道幅が約4.5m以上の駐車スペースの近くで使用してください。
	自車が駐車するのには狭すぎる駐車スペースでIPA スイッチを操作した → 駐車スペースがないためアシストできません。横幅が約 2.6m 以上の駐車スペースに移動して使用してください。
	自車前方に障害物が存在し、後退開始位置まで前進できないような場所でIPAスイッチを操作した → 前方に障害物があるためアシストできません。駐車スペースの前で停車した際に、前方に障害物がないような駐車スペースで使用してください。
	縦列出庫で自車前後の間隔が狭いときにIPAスイッチを操作した → 自車前後スペースが狭く、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。

メッセージ	状況・対処方法
	縦列出庫で、前方近くに障害物が存在しない、または自車側方に障害物が存在し、出庫ができない状況で IPA スイッチを操作した → 容易に出庫できる、または側方に障害物があるため、アシストによる出庫ができません。周囲の安全を確認した上で手動で出庫してください。
	ハンドルに力を加えた状態でアシストを開始した → ハンドルに力を加えないように手を添えてください。アシストが開始されます。
	ハンドルに力を加えた状態で車両移動し、アシストを開始した → 停車し、案内どおりに操作するとアシストが開始されます。

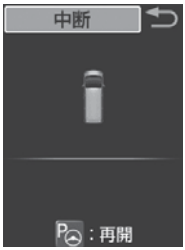
■ 作動が中止されたとき

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト中に運転者がシフトレバーを P にした、または IPA スイッチを操作した
	縦列アシストモードの駐車スペース探索中に車速が 30km/h をこえた
	駐車スペースが狭い場所でアシストを開始した
	縦列出庫アシストモードにおいて、方向指示レバーで出庫方向を選択せずにシフトレバーを操作した → 案内どおりに操作してください。

メッセージ	状況・対処方法
	アシスト開始時に、案内と逆方向に進行した → 案内どおりに操作、進行してください。
	アシスト中に切り返し回数が上限になった、急な路面勾配で使用したため設定した目標位置に到達できない → 路面勾配のない、広いスペースでアシスト案内に従って使用してください。
	前方に車両がない / アシストの必要がない → 前方に車両または障害物があるため、出庫に必要なスペースがある環境で使用してください。

■ 作動が中断されたとき

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中に運転者がハンドルに力を加えた	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でIPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に車速が7km/h をこえた	
	アシスト中断中、ハンドルに力を加えた状態でIPA スイッチを押した	→ ハンドルに力を加えないように手を添えた状態で停車するとアシストが再開します。
	アシスト中断中、車両が移動している状態でIPA スイッチを押した	

メッセージ	状況・対処方法	
	アシスト中断中（再開可能）	→ 停車してハンドルに力を加えないように手を添えた状態でIPAスイッチを押すとアシストを再開できます。
	アシスト中に、前方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをRにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。
	アシスト中に、後方障害物に接近しすぎた	→ シフトレバーをDにしてから、IPA スイッチを押すと、アシストを再開できます。

■ インテリジェントパーキングアシスト２作動中にナビゲーション画面が黒くなったときは

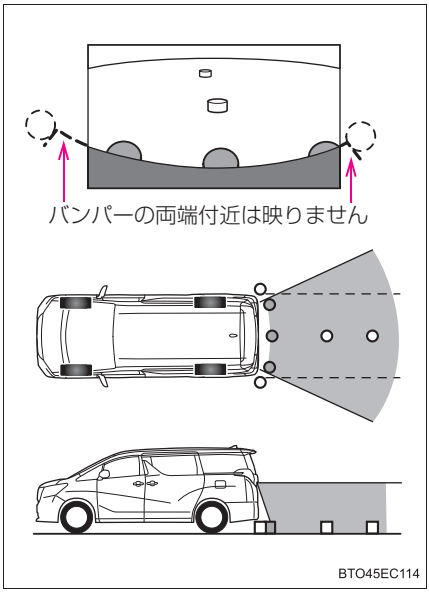
無線の電波による影響を受けているか、システムになんらかの異常が発生しているおそれがあります。
無線のアンテナをカメラの近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから、再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

使用上の注意点について

■ 画面に映る範囲について

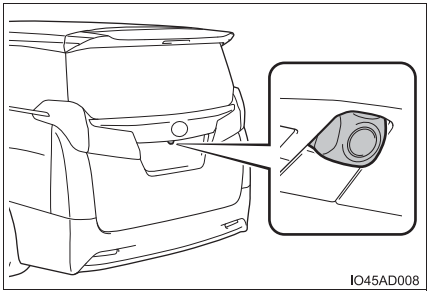
バンパー後端から車の後方（右図の範囲）が映ります。

- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラに映る範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- インテリジェントパーキングアシスト 2 のカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。



■ カメラについて

ナンバープレートの上側に取り付けられています。



● カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

■ 白線認識が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、路面の駐車枠を検出することができない場合があります。

- 白線のない駐車場（駐車枠がロープ、ブロックなどでつくられている場合）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に黄色線など）
- 路面の駐車枠線が黄色など白以外の色のとき
- 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- 積雪や融雪剤があるとき
- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
- カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。

- 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
- 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- 路面の色や明るさが一様でないとき
- 勾配がついている駐車場
- 駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- 白線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- 自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

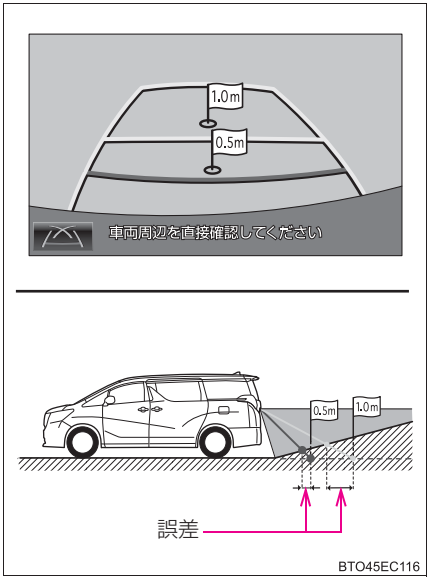
■ 画面と実際の路面との誤差について

距離目安線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面で設定した目標駐車位置や、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

● 上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂に障害物があった場合には、実際より遠くにあるように見えます。

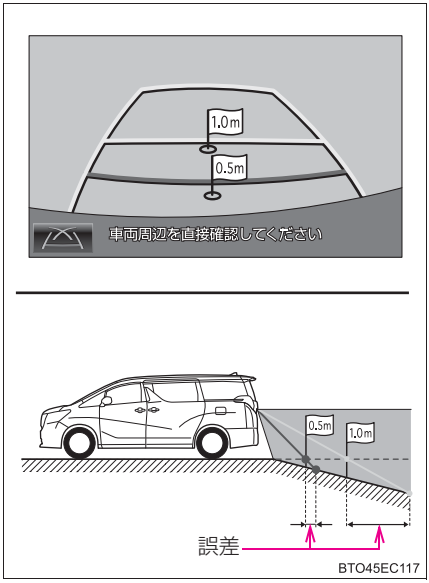
同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。



● 下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂に障害物があった場合には、実際より近くにあるように見えます。

同様にガイド線と実際の路面上の進路や目標駐車位置にも誤差が生じます。



■ 立体物が近くにあるとき

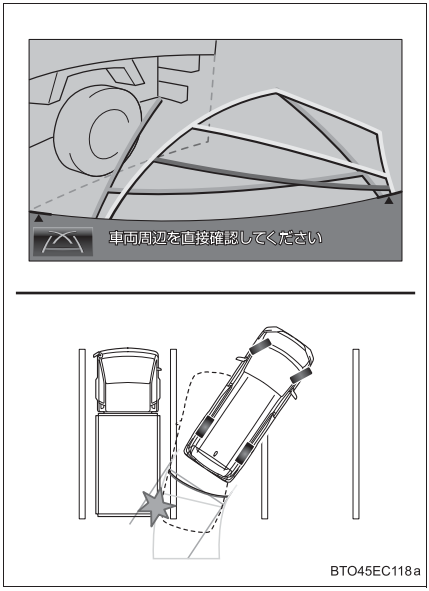
画面のガイドは平面物（道路など）を対象にしています。
張り出しのある立体物（トラックの荷台のような障害物）が近くにあるときは、以下のことに注意して、ぶつからないようにしてください。

● 予想進路線について

予想進路線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。

画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えますが、実際には荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

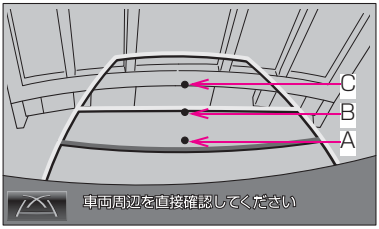
このように予想進路線が障害物の近くを通るときは、後方や周辺の安全を直接確認してください。



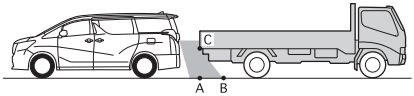
● 距離目安線について

距離目安線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。

後方や周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により B の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には A の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では A、B、C の順に近く見えますが、実際の距離はA とC は同じ距離で、B は A と C より遠い距離にあります。



A・B・C の位置



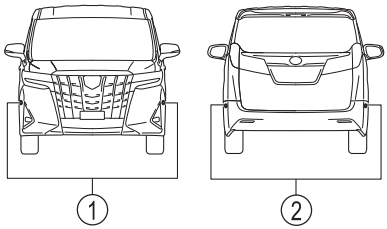
BTO45EC119

■ センサーについて

センサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

① フロントサイドセンサー

② リヤサイドセンサー

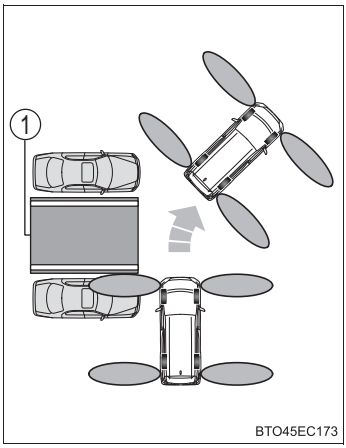


IO45AD009

知識

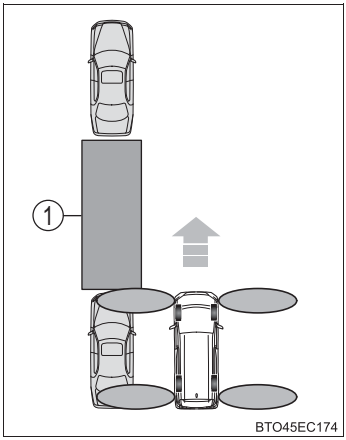
●車庫入れアシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置



●縦列駐車アシストモード時のセンサー感知範囲について

① 目標駐車位置

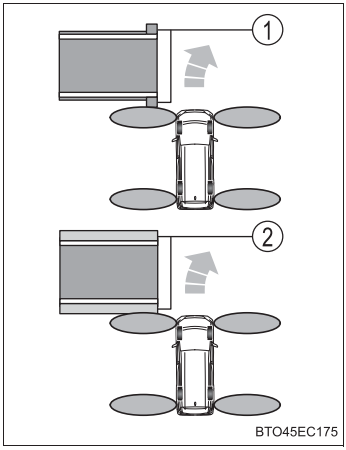


●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。また、駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

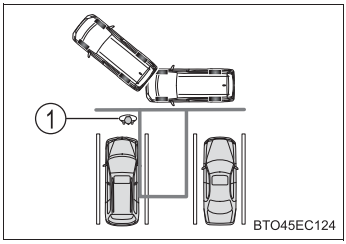
① 柱

② 壁



●歩行者などを検出して目標駐車位置がずれることがあります。

① 歩行者



警告

- インテリジェントパーキングアシスト2を過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または、後退してください。
- ナビゲーション画面だけを見ながら後退することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て後退すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。後退するときは、必ず目視やミラーなどで後方や周辺の安全を直接確認してください。
- 前進または、後退するときは、ブレーキペダルを踏んで車速調整しながら、ゆっくり前進または、後退してください。
- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車区画のある平坦な駐車場で使用してください。
- 使用中はハンドルが自動的に回転するため、次の点に注意してください。
  - ・ネクタイ、スカーフ、腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子様がハンドルに近づかないよう注意してください。
  - ・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
  - ・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、IPA スイッチを押してシステムを中止してください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
  - ・駐車場以外の場所
  - ・砂地、砂利地のような駐車枠のない整備されていない駐車場
  - ・傾斜、段差のある平坦でない駐車場
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
  - ・目標駐車位置（青の枠の中）や自車と目標駐車位置との間に障害物があるとき
  - ・人や車両などの通行量の多いとき
  - ・駐車不可能な場所（車両が入らない程狭い。崖など）
  - ・カメラのレンズの汚れ、西日、影、雪などで画面が見にくいとき
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・バックドアが完全に閉まっていないとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
・極端に重いものを積んでいるとき
・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

上記の場合以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●インテリジェントパーキングアシスト２が正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラ部に有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・カメラ部をぶつけたときや、画面に表示されるカメラ取り付け状態確認線（→ P. 437）がバンパー端に一致していないときは、カメラの位置、取り付け角度がずれているおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高水圧のためカメラの故障の原因となることがあります。

警告

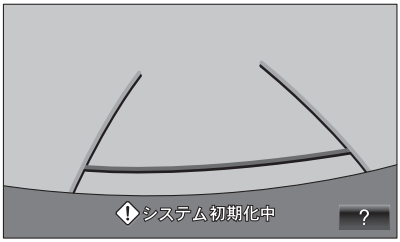
- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
  - ・センサー部付近を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
  - ・高圧洗浄機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。バンパーをぶつけたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・センサーに氷、雪、泥などが付着したときは、画面に「現在使用できません」と表示されることがあります。センサー部についた異物を取り除いてください。
- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。
  - ・サイドエリアのスキャン（→ P. 414, 415）が完了するまでのあいだは、サイドエリアに障害物があっても障害物を感知できません。
  - ・サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに進入してきた場合は感知できません。
  - ・センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）。とくに低温時には凍結などにより異常表示が出たり、駐車車両があっても感知しないことがあります。
  - ・センサーを手でふさいだとき
  - ・車両姿勢が大きく傾いたとき
  - ・炎天下や寒冷時
  - ・凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
  - ・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
  - ・雨や水しぶきがかかったとき
  - ・市販のフェンダーポール、無線機用アンテナを車に付けたとき
  - ・センサーに駐車車両が近付きすぎたとき
  - ・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
  - ・センサーが感知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

システム初期化について

■ 初期化が必要なとき

次の場合には、必ず初期化作業を行ってください。

- 補機バッテリーを脱着したとき
- シフトレバーをＲにして、システム初期化中画面が表示されたとき（補機バッテリー能力の低下など）



BTO45EC125b

■ 初期化の作業

車を止めた状態で、ハンドルを左いっぱいにまわしたあと、右いっぱいにまわします。（左右どちらが先でも可）

通常の画面にもどれば、設定終了です。システム初期化中画面で、 ? にタッチすると、操作方法を表示することができます。

BTO45EC126b

- 画面に表示された操作をして通常の画面にもどれば設定終了です。
- システム初期化中画面、またはヘルプ画面が表示されたままのときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- OK にタッチすると、元の画面にもどります。

⚠ 注意

- 上記操作を行っても、画面が切りかわらないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 上記操作を行って、通常の画面にもどったときは、一度アシストモードを使用して、目標駐車位置に以前と同じようにアシストされることを確認してください。平坦路で使用しても、以前より斜めになったり、横方向にずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・ハイブリッドシステム出力を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ E-Four（電気式 4WD システム）

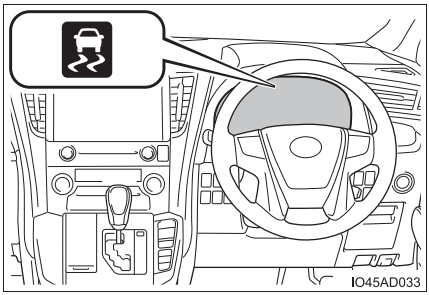
通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

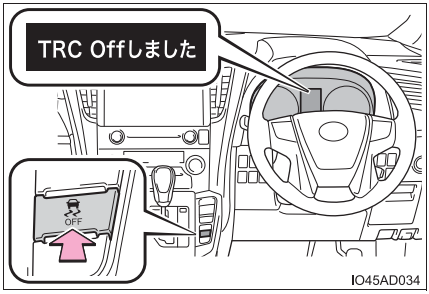
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。



知識

■VSC と TRC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [OFF] を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」と表示されます。※

もう一度 [OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 338）

■ [OFF] を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Off しました」が表示されたとき

TRC が作動できない状態になっています。トヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速が約 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

■マルチインフォメーションディスプレイに「4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能でありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているとき

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 693）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 292）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの針をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→ P. 118）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、

アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON ／ OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。
なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて：→ P. 589）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。（→ P. 298）
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

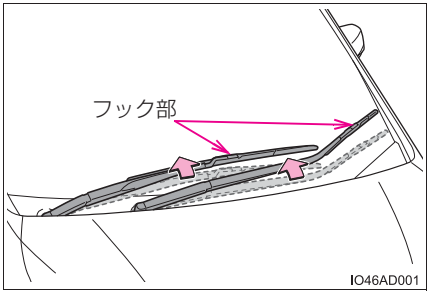
※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

ワイパーの停止位置を冬用停止位置に切りかえることができます。
フロントウインドウガラスに多量の雪が積もった場合、ワイパーが上がらなくなりワイパーモーターを損傷するおそれがありますので、標準停止位置から冬用停止位置に切りかえてください。

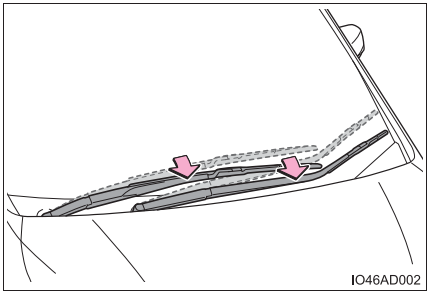
■ 冬用停止位置に切りかえるには

ワイパーアームのフック部をしっかり持ち、ガラス面にそって引き上げます。



■ 標準停止位置にもどすときは

フック上部をガラス面にそって、手で押します。



知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- ●安全に作業できる場所で行う
- ●前 2 輪に取り付ける
- ●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- ●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- ●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- ●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ワイパー停止位置の切りかえ機構（寒冷地仕様車）

標準停止位置の状態でワイパー作動中、ワイパー停止位置に雪がたまると、自動的に冬用停止位置に切りかわる構造になっていますが、雪のたまりかたによっては冬用停止位置に切りかわらず “ コツン ”、“ コツン ” と音がする場合があります。
音がしたときは、冬用停止位置に切りかえて雪を取り除いてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

■ワイパーアームを立てるとき（寒冷地仕様車）

ワイパーを積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。（→ P. 507）
停止位置を切りかえずに立てると、ワイパーアームとボンネットが干渉し、傷が付くおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

フロントオートエアコン.....512

リヤオートエアコン.....523

ステアリングヒーター／
シートヒーター／
シートベンチレーター.....526

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....529

・室内灯.....531

・マップランプ.....532

・リヤパーソナルランプ
（セカンドシート／
サードシート）.....532

・読書灯.....534

・ルーフカラー
イルミネーション.....535

5-3. 収納装備

収納装備一覧.....536

・グローブボックス.....537

・コンソールボックス.....537

・カップホルダー／
ボトルホルダー.....539

・小物入れ.....543

ラゲージルーム内装備.....545

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....548

・サンバイザー.....548

・バニティミラー.....548

・時計.....548

・アクセサリーソケット.....549

・アクセサリー
コンセント.....551

・ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）.....558

・後席用サンシェード.....564

・サイドテーブル.....565

・買い物フック.....567

・アシストグリップ.....568

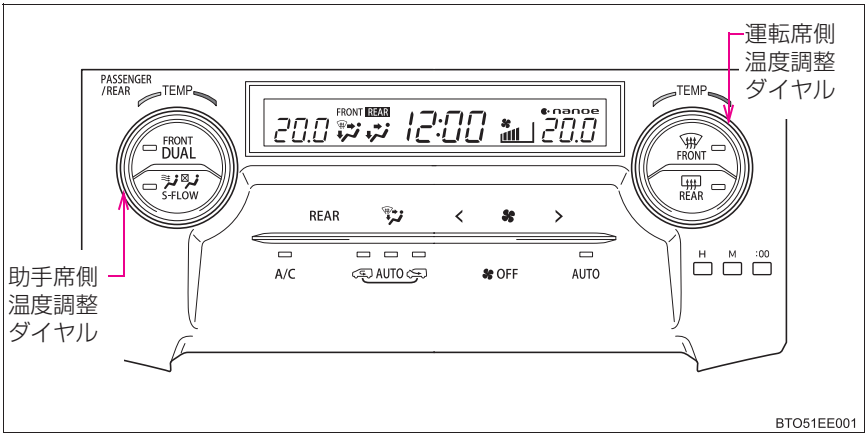
・コートフック.....569

・ステアリングスイッチ.....570

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす。

A/C のインジケーターが消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすにはエアコン操作パネルの ＜ ✤ ＞ の ＞ に、減らすには ＜ にタッチする

送風を停止するときは、✤OFF にタッチします。

■ 吹き出し口を切りかえる

エアコン操作パネルの にタッチする

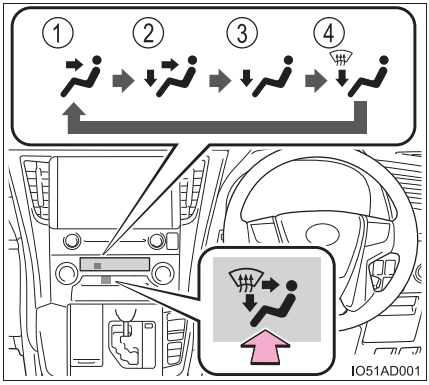
タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



■ S-FLOW モード

S-FLOW を押す

フロント席のみの送風に切りかわります。助手席に乗員がいない場合は設定温度、外気温などを判断して、運転席のみに送風します。
S-FLOW モードを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイにエアコンの状況が表示され、S-FLOW の作動表示灯が点灯します。

再度 S-FLOW を押すと、前のモードに戻ります。

■ その他の機能

- 内気循環／外気導入を切りかえる（→ P. 514）
- フロントウインドウガラスの曇りを取る（→ P. 515）
- リヤウインドウガラスの曇りやミラーの霜★をとる（→ P. 515）

オート設定で使用する

1 エアコン操作パネルの AUTO にタッチする

2 AUTO モードになるまでエアコン操作パネルの AUTO を繰り返しタッチする

排ガスセンサーにより外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 温度を設定する

4 A/C にタッチする

タッチするたびにエアコンの ON ／ OFF が切りかわります。

5 ファンをとめたいときは、エアコン操作パネルの OFF にタッチする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、エアコン操作パネルの AUTO の作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

■ 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

- FRONT DUAL を押す
- 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになり FRONT DUAL の作動表示灯が点灯します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

エアコン操作パネルの AUTO にタッチするごとに次のように切りかわり、選択されているスイッチの作動表示灯が点灯します。

外気導入モード→内気循環モード→ AUTO モード

フロントエアコンが作動しているときに AUTO モードにすると、車両外気（排気ガスなど）の状態などにより、外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

■ 前席からリヤエアコンを操作するには

エアコン操作パネルの REAR にタッチする

モニター部に「REAR」が表示され、リヤエアコン操作モードに切りかわり、前席からリヤエアコンを操作できます。
スイッチにタッチしてから、約 10 秒間スイッチ操作をしないとモニター部に「FRONT」が表示され、フロントエアコン操作モードに戻ります。

● 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは助手席側温度調整ダイヤルを右へ、下げるときは左へまわす

モニター部の助手席側設定温度の表示がリヤエアコンの設定温度の表示に切りかわります。

● 風量をかえるには

風量を増やすにはエアコン操作パネルの < ✤ >の > に、減らすには < にタッチする

送風を停止するときは、✤OFF にタッチします。

● 吹き出し口を切りかえるには

エアコン操作パネルの にタッチする

タッチするたびに吹き出し口が切りかわります。（→ P. 523）

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

フロントウインドウガラス、運転席・助手席ドアガラスの曇りを取るときに使用してください。

を押す

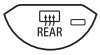
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度

を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。



を押す

リヤウインドウデフォッガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■「ナノイー」を ON・OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→ P. 131）

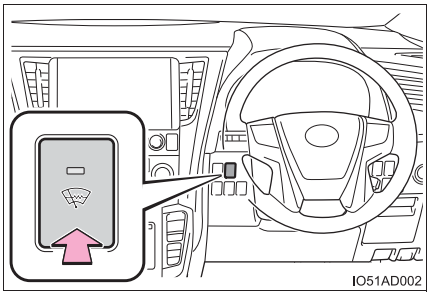
ON を選択すると、モニター部に「e-nanoe」が表示されます。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

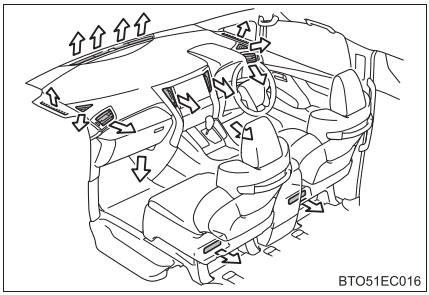
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

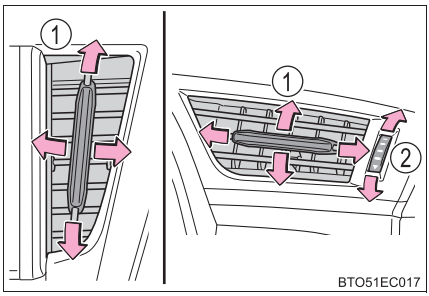
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO にタッチした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能について

オート設定時、湿度センサー（→ P. 522）でフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

・風量を調整する
・温度を調整する
・エコドライブモードを解除する

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

エアコン操作パネルの A/C にタッチしても除湿機能が作動しない場合があります。

■後席エアコン状態表示について

マルチインフォメーションディスプレイからリヤエアコンの作動状態を確認できます。（→ P. 129）

■スイッチの操作音について

タッチスイッチ以外のスイッチ（プッシュスイッチ、ダイヤルスイッチおよび時計スイッチ）の操作音は鳴りません。

■タッチスイッチの操作についてご留意いただきたいこと

●指（指の腹）で操作してください。

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき、反応しないことがあります。

●ペンなどは反応しません。

●モニター部はタッチ操作できません。

●操作するときは、他の指などがエアコン操作パネルにふれないようにしてください。

●連続して操作するときは、確実に指を離してから操作しなおしてください。

●エアコン操作パネルを強く押さないでください。

●エアコン操作パネルに水・異物が付着した場合、反応することがありますので、拭き取ってから操作してください。

■タッチスイッチの操作が正常に反応しないおそれのある状況

●手袋などを装着しているとき

●エアコン操作パネルの表面にフィルムなどを貼ったり、塗装をしたとき

●エアコン操作パネルが汚れていたり、水などが付着しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●エアコン操作パネルが次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●エアコン操作パネルに触れていたり、手を近づけた状態でパワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにすると、エアコン操作パネルが反応しないことがあります。その場合、エアコン操作パネルから手を離し、約 10 秒待ってから再度エアコン操作パネルにタッチしてください。

■タッチスイッチの操作が反応しにくいときは

エアコン操作パネルが汚れていると、タッチ操作の際に反応しにくい場合があります。タッチパネルは、こまめに清掃してください。

■エアコン操作パネルを清掃するときは

清掃する際にタッチスイッチが反応することがあります。パワースイッチを OFF にしてから清掃してください。

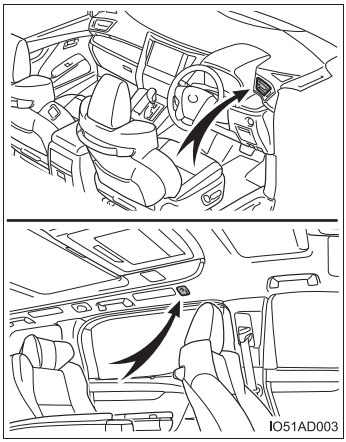
■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席外側吹き出し口・後席「ナノイー」吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます ※2。

●「ナノイー」の作動中、吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、または足元に送風のときに効果を発揮します。それ以外の条件では、効果が十分に得られない場合があります。

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●「ナノイー」作動中は、運転席外側吹き出し口、後席の「ナノイー」吹き出し口付近で、小さな作動音が聞こえることがありますが異常ではありません。



※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターついて

→ P. 595

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの反応を変更するには

次の操作により、スイッチにタッチしてから反応するまでの時間を変更できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と A/C を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「01」～「05」が表示されます。

2 REAR を押すごとに、反応するまでの時間が次のように切りかわります。

01 → 02 → 03 → 04 → 05

数字が小さいほど反応時間が早く、大きいほど遅くなります。
また、03・04・05 を選択した場合、タッチするスイッチによっては他のスイッチと反応するまでの時間が異なるものもあります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にパワースイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■エアコン操作パネルのタッチスイッチの操作音を ON ／ OFF するには

次の操作により、スイッチにタッチした時の操作音を ON ／ OFF できます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO と REAR を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、助手席側温度部に「On」または、「OFF」と表示されます。

2 REAR を押すごとに、ON ／ OFF が切りかわります。

「On」または、「OFF」を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示にもどり、設定が完了します。

設定変更後、しばらくの間モニター部の表示がすべて点灯しますが、この間にパワースイッチを OFF にしないでください。
設定した内容が取り消しになります。

■排ガスセンサーの感度調整

次の操作により、外気導入と内気循環の切りかえが AUTO モードのときの排ガスセンサーの感度調整ができます。

操作中はエアコンの操作はできません。

1 エアコン操作パネルの AUTO を約 3 秒間触れ続ける

モニターの表示が切りかわり、運転席側温度部に「-3」～「3」が表示されます。

2 運転席側温度調整ダイヤルをまわして調整する

-3 ～ 3 で調整できます。

数字が小さいほど感度が低く、大きいほど高くなります。

お好みの設定を表示した状態のまま、約 5 秒間タッチ操作を行わないと、通常の表示に戻り、設定が完了します。

■カスタマイズ機能

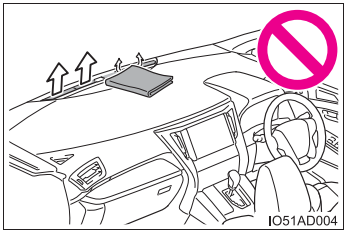
AUTO を ON にしたとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 698）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、FRONT を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



警告

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター★・ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

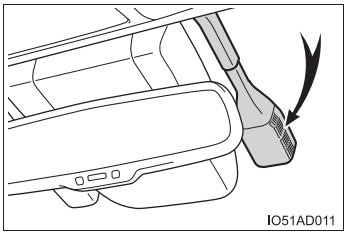
注意

■湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知（→ P. 517）のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- 湿度センサーを分解しない
- ガラスクリーナなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
- 湿度センサーにシールなどを貼らない



■「ナノイー」の損傷を防ぐために

運転席外側吹き出し口または、後席「ナノイー」吹き出し口（→ P. 519）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

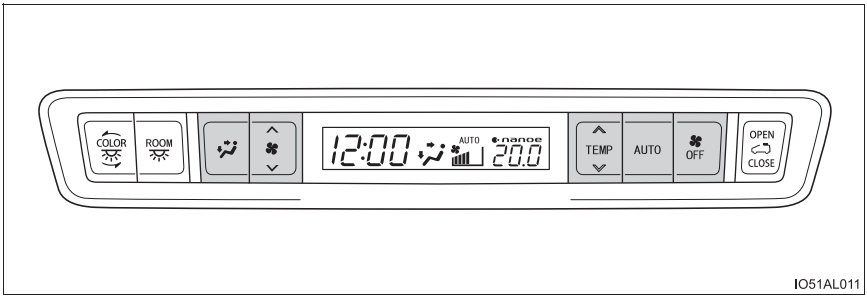
■吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤオートエアコン

リヤエアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは TEMP の ∧ を、下げるときは ∨ を押す

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには の ∧ を、減らすには ∨ を押す

送風を停止するときは、OFF を押します。

■ 吹き出し口を切りかえる

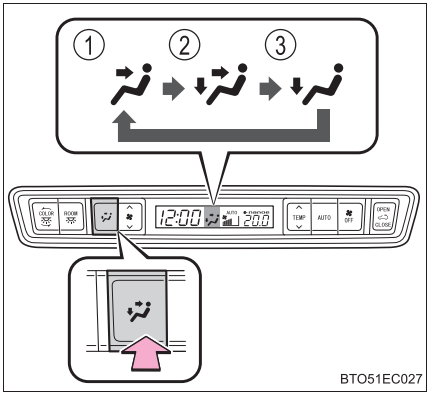
を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風



オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO を押す

モニター部に「AUTO」と表示されます。

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF を押す

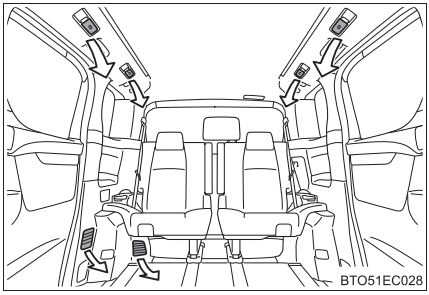
■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、モニター部の「AUTO」が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

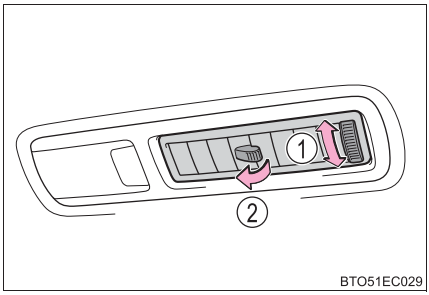


■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

① 風向きの調整

② 風向きの調整
／吹き出し口の開閉

風向きを車両後方側いっぱいに調整すると、吹き出し口を閉じることができます。



「ナノイー」を使うには

→P. 516

知識

■フロントメインスイッチについて

フロントエアコン操作パネルの REAR にタッチすることにより、フロント席からリヤエアコンの操作ができます。

■リヤエアコンの作動条件について

フロントエアコンが停止しているときは、冷房、除湿機能は作動せず、送風のみとなります。

■「ナノイー」について

→P. 519

■エアコンの臭いについて

- ●リヤエアコン使用中に、車室内のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- ●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■後席エアコン状態表示について

→P. 129

警告

■「ナノイー」について

→P. 522

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中はリヤエアコンを使用しないでください。

■吹き出し口について

→P. 522

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

→P. 522

ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

ハンドルの左右のグリップ部やシートを暖めたり、シートから風を出して通気をよくできます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次のかたがステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

注意

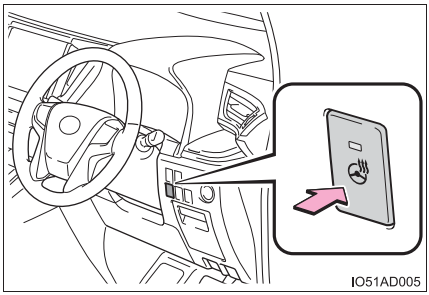
- シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ステアリングヒーター★

ON ／ OFF

ON のときはインジケーターが点灯します。



知識

- 作動条件：パワースイッチが ON モードのとき
- タイマー制御：約 30 分後に自動で OFF になります。

シートヒーター＆ベンチレーター（フロントシート）★

① ツマミを押す

ツマミが出ます。
温度や風量を調整したあとはツマミを押しもどしてください。

② OFF

③ 送風する（左にまわす）

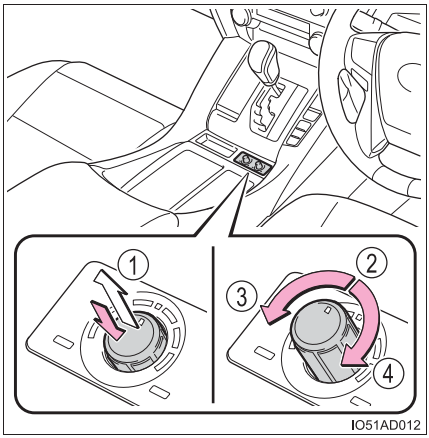
インジケーターが点灯します。

風量は 3 段階に切りかえることができます。

④ シートを暖める（右にまわす）

インジケーターが点灯します。

温度は 3 段階に切りかえることができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

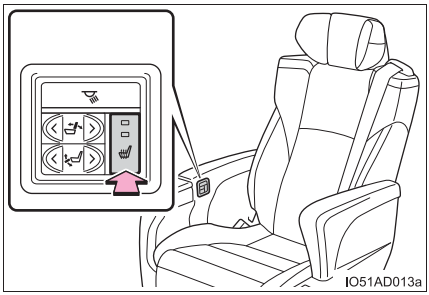
シートヒーター（セカンドパワーシート［シートポジションメモリー非装着車］）

スイッチを押す

インジケーターが点灯します。

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわり、インジケーターの数がかわります。

強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF



シートヒーター＆ベンチレーター（セカンドパワーシート［シートポジションメモリー装着車］）

1 カバーを開ける（→ P. 204）

2 シートヒーター＆ベンチレーターを ON にし、温度を調整する

① ON にする（押す）

OFF にするにはもう一度ツマミを押します。

② 送風する（左にまわす）

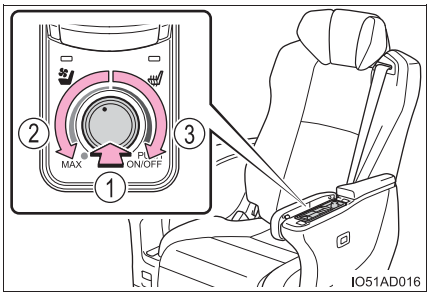
のインジケーターが点灯します。

風量は 4 段階に切りかえることができます。

③ シートを暖める（右にまわす）

のインジケーターが点灯します。

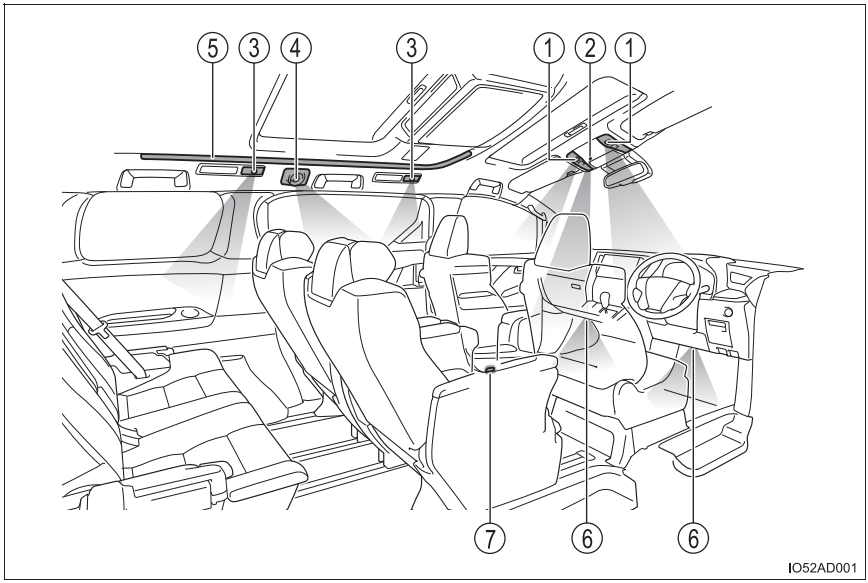
温度は 3 段階に切りかえることができます。



知識

作動条件：パワースイッチが ON モードのとき

室内灯一覧



① マップランプ（→ P. 532）

② ダウンライト

③ リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）（→ P. 532）

④ 読書灯★（→ P. 534）

⑤ ルーフカラーイルミネーション（→ P. 535）

⑥ 足元照明★

⑦ ドアカーテシランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

- メインスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- パワースイッチが OFF のとき室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 698）

注意

補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

室内灯（メインスイッチ）

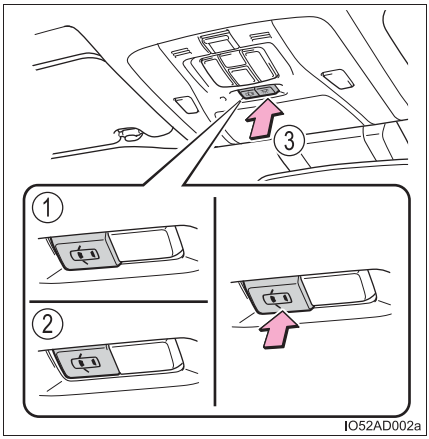
▶ タイプ A

① ドア連動を OFF にする

② ドア連動を ON にする

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます（ドアポジション）

③ ランプを点灯／消灯する

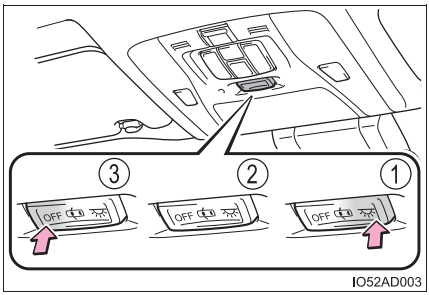


▶ タイプ B

① ランプを点灯する

② ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる（ドアポジション）

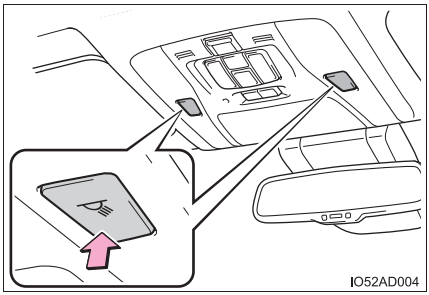
③ ランプを消灯する



を押すと、マップランプとリヤパーソナルランプが点灯します。

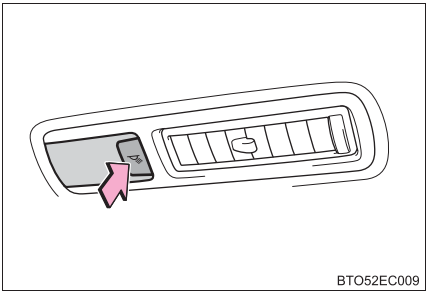
マップランプ

点灯／消灯



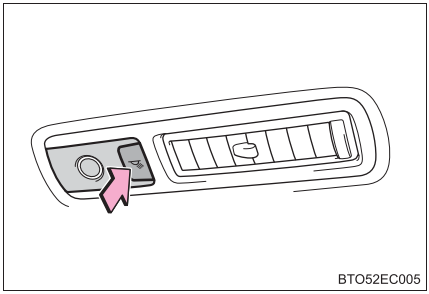
リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）

▶ タイプ A



点灯／消灯

▶ タイプ B



点灯／消灯 ※

スイッチを押すたびに明るさを３段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。

※ マルチインフォメーションディスプレイからも消灯することができます。（→ P. 129）

知識

■ラウンジモードについて（タイプ B）

マルチインフォメーションディスプレイで「天井照明設定」から「ラウンジモード」を選択すると、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。（→ P. 129）

- ラウンジモードの解除ができます。
- ラウンジモードで点灯中でも、リヤパーソナルランプのスイッチで明るさを切りかえたり、消灯したりすることができます。
- ラウンジモードを選択していると、パワースイッチを ON モードにするたびに、すべてのリヤパーソナルランプが 20% の明るさで点灯します。

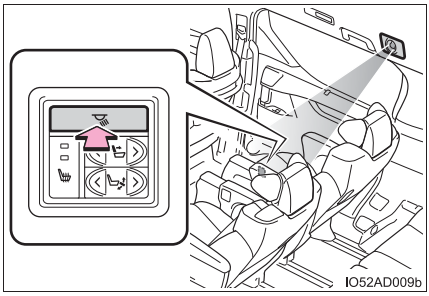
読書灯★

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）

点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。

スイッチを押し続けると、どの段階の明るさからでも消灯します。



▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）

1 カバーを開ける（→ P. 204）

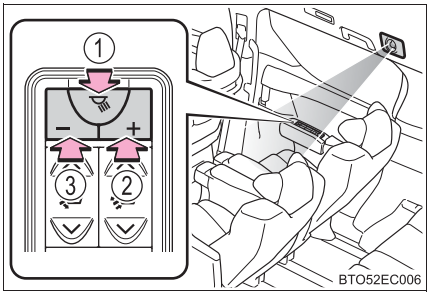
2 次の要領で操作する

① 点灯／消灯

② 明るくする

③ 暗くする

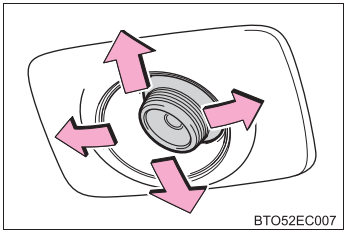
スイッチ（②または③）を押すたびに、明るさを 4 段階に切りかえることができます。



知識

●読書灯を消灯させたあとで再度点灯させたときは、消灯前と同じ明るさになります。

●お好みの角度に調整できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

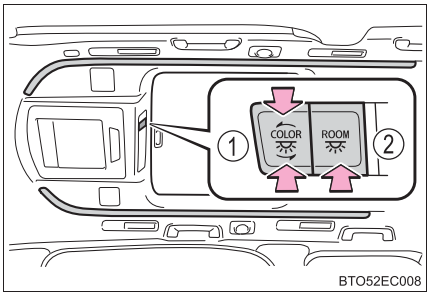
ルーフカラーイルミネーション

① 色をかえる

スイッチを押すたびに 16 色から選択できます。

② 点灯／消灯

スイッチを押すたびに明るさを 4 段階に切りかえることができます。
スイッチを押し続けると消灯します。



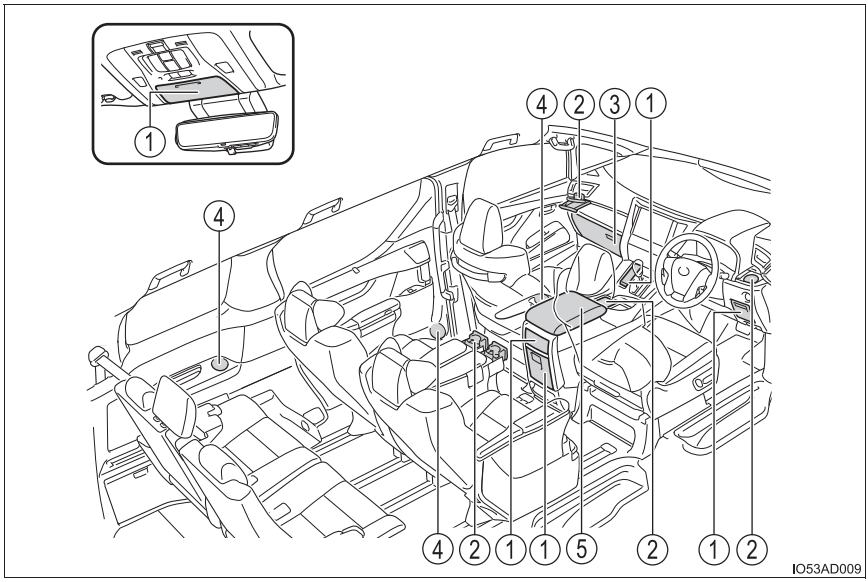
知識

- ルーフカラーイルミネーションはマルチインフォメーションディスプレイからも操作することができます。（→ P. 129）
- パワースイッチが OFF のときにルーフカラーイルミネーションを点灯しても、ON モードにすると消灯します。

  再び ROOM を押すと点灯します。

- ルーフカラーイルミネーションが部分的に点灯している、またはカラーが混ざって点灯しているときは、使用しないでトヨタ販売店で点検を受けてください。

収納装備一覧



① 小物入れ （→ P. 543）

② カップホルダー （→ P. 539）

③ グローブボックス （→ P. 537）

④ ボトルホルダー （→ P. 541）

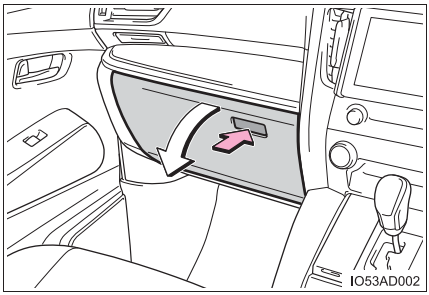
⑤ コンソールボックス （→ P. 537）

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックス

ボタンを押して開ける



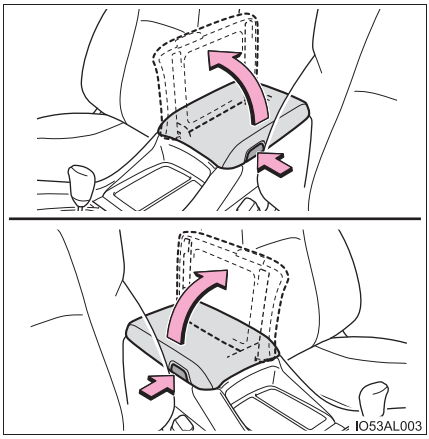
知識

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとランプが点灯します。

コンソールボックス

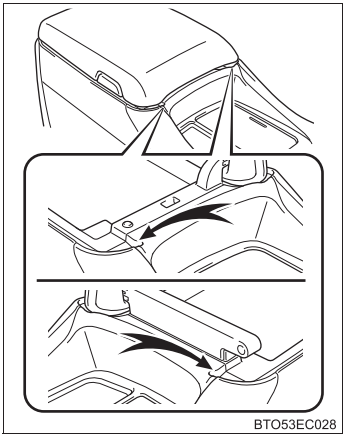
ボタンを押して開ける

左右どちらからでも開けることができます。



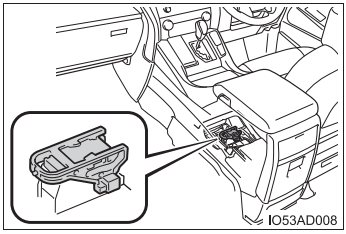
知識

フタが閉まっているとき、接続機器の配線は図の穴を通してください。



警告

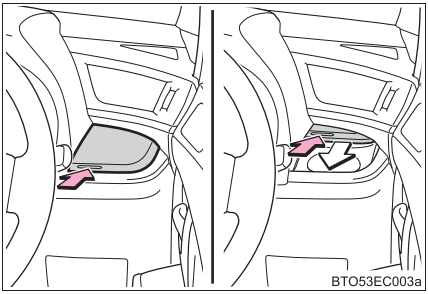
コンソールボックス下部にサービスプラグがあります。サービスプラグはトヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。
取り扱いを誤ると感電のおそれがあるため、絶対にさわらないでください。



カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー

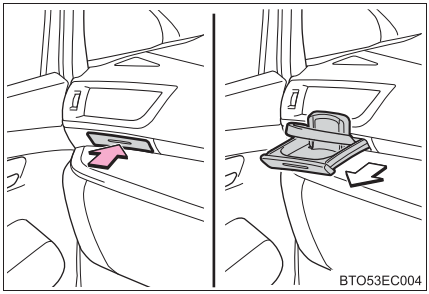
▶ フロントシート（運転席側）



押して開ける

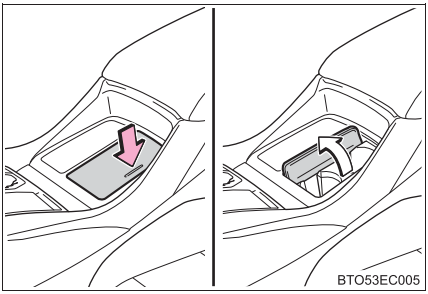
再びノブを押すと閉まります。

▶ フロントシート（助手席側）



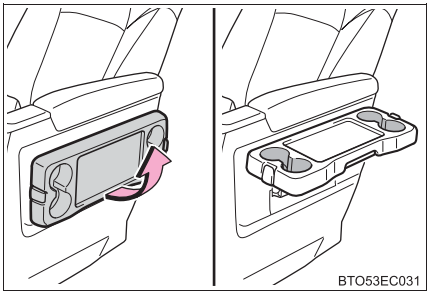
押して開ける

▶ コンソールボックス



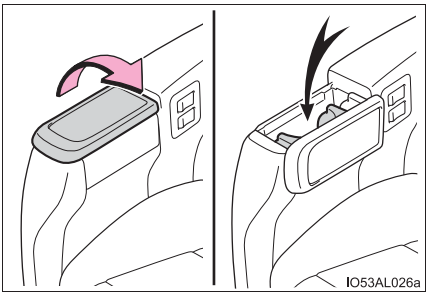
押して開ける

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）／セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



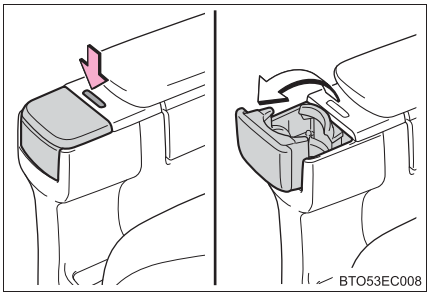
サイドテーブルを引き起こす（→ P. 565）

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



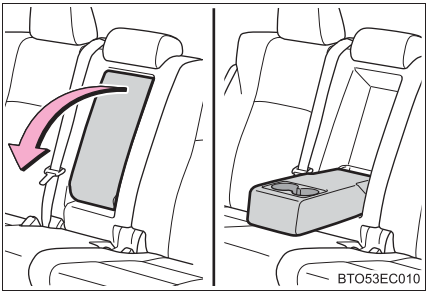
カバーを開ける

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



ボタンを押してカバーを開ける

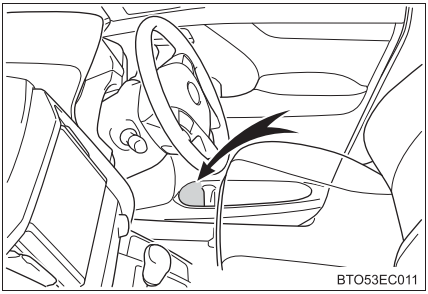
▶ セカンドシート（8 人乗り車）



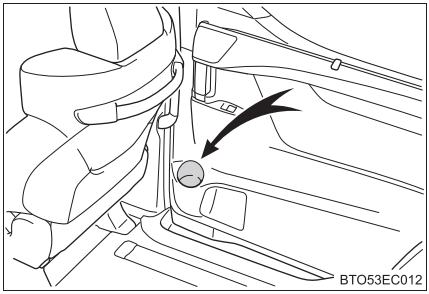
アームレストを倒して使用する

■ ボトルホルダー

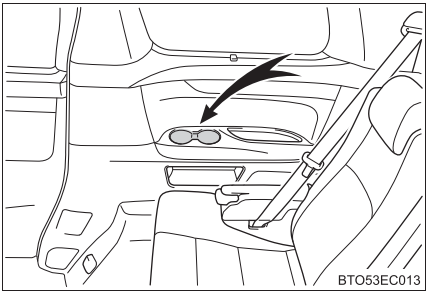
▶ フロントシート



▶ セカンドシート



▶ サードシート



運転席側は 2 つ、助手席側は 1 つになります。

知識

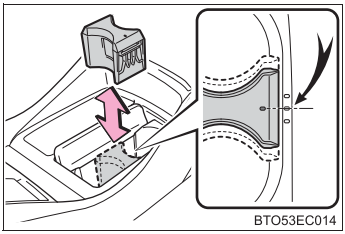
■カップホルダーを使用するときは（セカンドマニュアルシート［7 人乗り車］）

セカンドシートの左右位置が外側にあるときに使用できます。

■カップホルダーの仕切りについて

●位置を調整することができます。

●清掃のために取りはずすことができます。



■ボトルホルダーを使用するときは

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

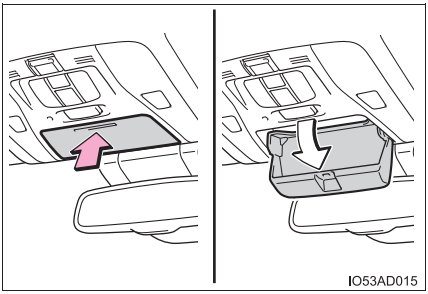
- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。また、フタを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。
- ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。急ブレーキをかけたときや衝突時に収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。
- フロントシート（運転席側）カップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- スライドドアを開ける前にセカンドシートのボトルホルダーを使用していないことを確認してください。
  ドアの開閉を妨げたりドアを損傷するおそれがあります。
- フロントシート（助手席側）のカップホルダーを使用するときは、過度の負荷を与えないでください。また、車に乗り降りする際に手をついたり、体があたったりしないように注意してください。

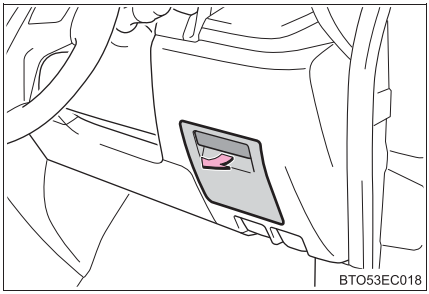
小物入れ

▶ オーバーヘッドコンソール



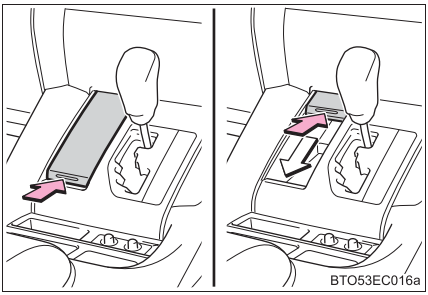
押して開ける

▶ 運転席ロア小物入れ



ノブを引いて開ける

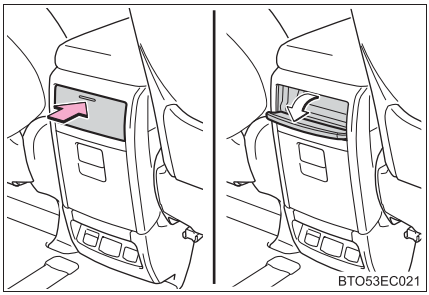
▶ センターパネル



押して開ける

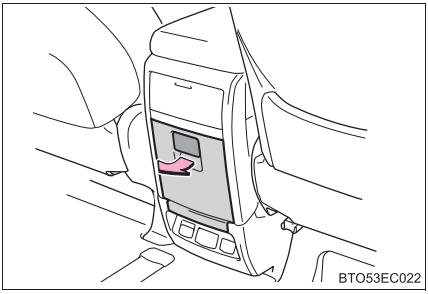
再び押すと閉まります。

▶ コンソールボックス後部



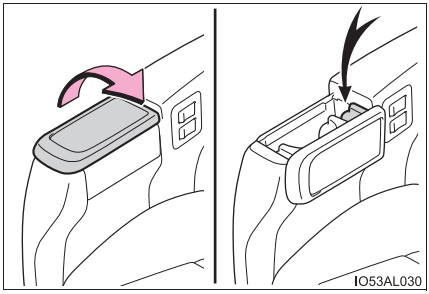
押して開ける

▶ コンソールボックス後部



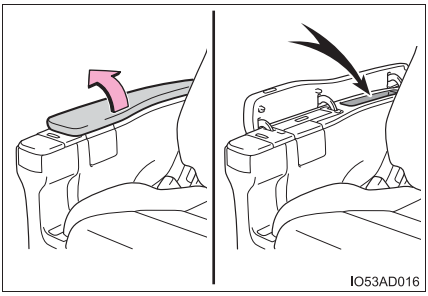
ノブを引いて開ける

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



カバーを開ける

▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



カバーを開ける

知識

メーカーオプションのETC2.0ユニット★は、運転席ロア小物入れの中に装着されます。

警告

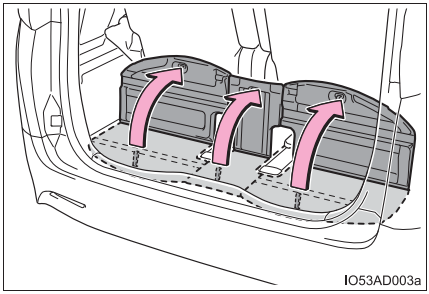
オーバーヘッドコンソールに200g以上のものを入れないでください。200g以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード

ストラップを持ってデッキボードを上げる



知識

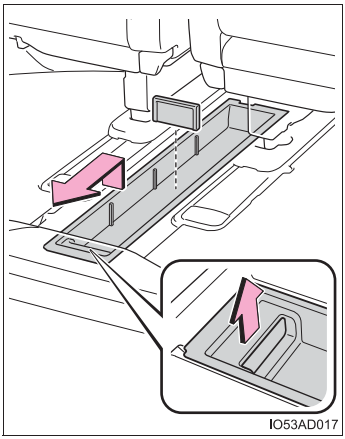
■停止表示板について

左右どちらかのデッキボードを上げて、その中に収納してください。

■ラゲージボックスについて

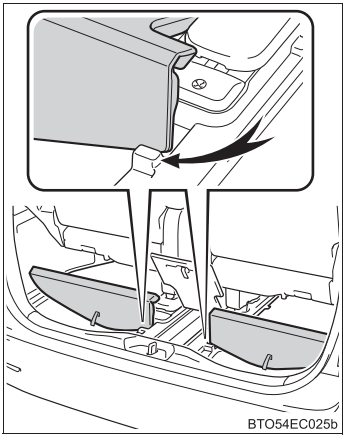
●仕切りの位置を調整したり、取りはずすことができます。

●ラゲージボックスは取りはずすことができます。真上に持ち上げて取りはずしてください。



■デッキボードについて

左右のデッキボードを折り曲げて図のくぼみにかけることができます。



警告

デッキボードを取りはずしたときは、走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。取りはずしたまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

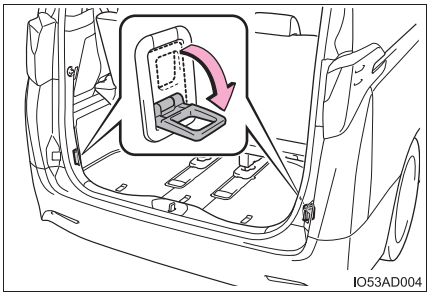
注意

破損を防ぐために、デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

デッキフック

フック起こして使用する

デッキフックを使って荷物を固定することができます。

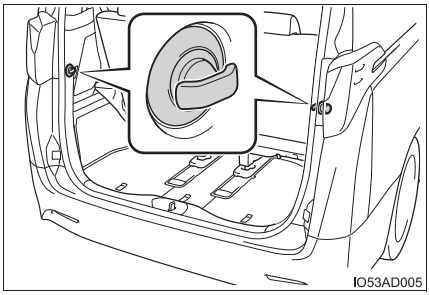


警告

デッキフックを使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

ネットフック

積荷ネットなどをかけるときに使用する



注意

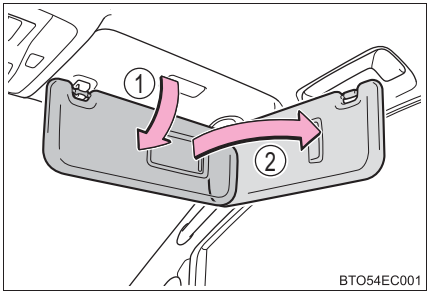
ネットフックの破損を防ぐために、3kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

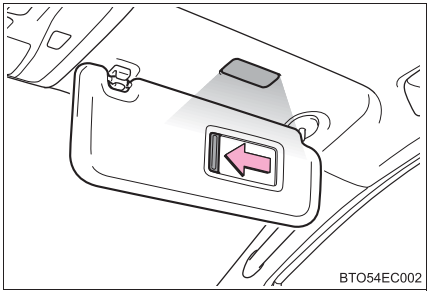
② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。



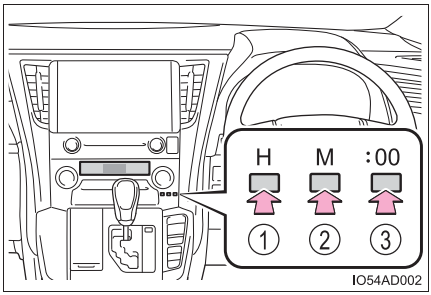
時計

① “時” を調整する

② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする ※

※（例）1：00～1：29→1：00
1：30～1：59→2：00



知識

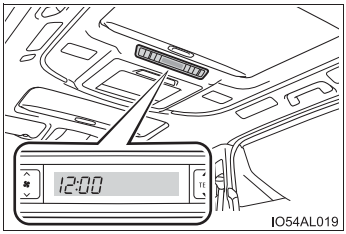
●時刻が表示されるとき

・フロントエアコン操作パネル：パワースイッチがアクセサリーモードまたはON モードのとき

・リヤエアコン操作パネル：パワースイッチが ON モードのとき

●補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計は自動的に 1:00 にセットされます。

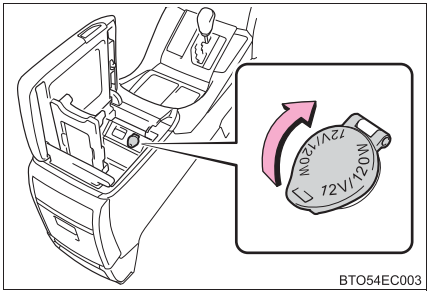
●リヤエアコン操作パネルの時計も同時に調整されます。



アクセサリーソケット

DC12 V ／ 10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

●使用条件：パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

●接続する機器によっては、USB接続端子★またはHDMI端子★と同時に使用することができない場合があります。
USB 接続端子および HDMI 端子については、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

- ショートや故障を防ぐために、アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

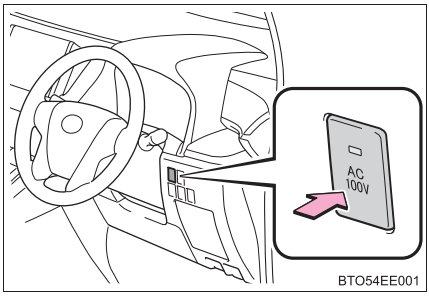
アクセサリーコンセント★

AC100 V で最大消費電力 1500 W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

1 メインスイッチを押す

スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

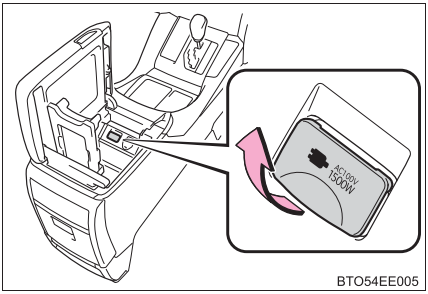
スイッチを押すたびに電源の ON ／ OFF が切りかわります。



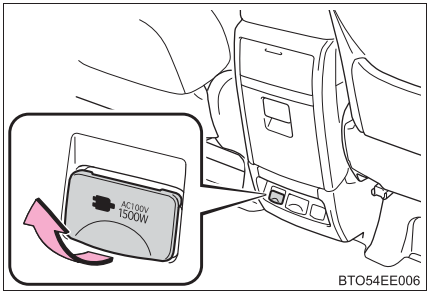
2 フタを開けて使用する

アース線のある電気製品を使用するときは、アース線を接続してください。

▶ コンソールボックス内部

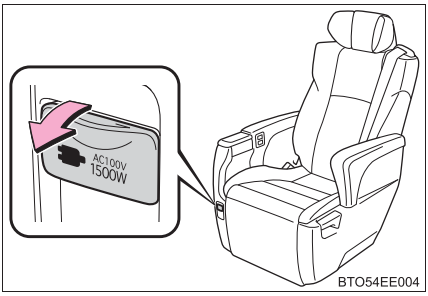


▶ コンソールボックス後部

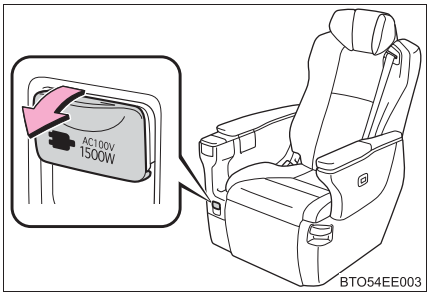


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

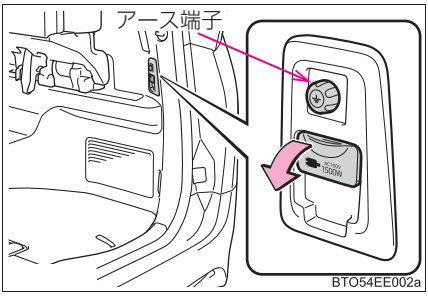
▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



▶ セカンドパワーシート（シートポジションメモリー装着車）



▶ ラゲージルーム



知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■駐車中または停車中に使用するときは

駆動用電池の残量が少なくなると、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車中または停車中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例にふれ罰則の適用を受けるおそれがあります。駐車中または停車中のアクセサリーコンセントの使用については、関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■使用しないときは

メインスイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

■アクセサリーコンセントについて

- AC100Vで最大消費電力1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、AC 電源装置の保護機能が作動し、アクセサリーコンセントが使用できなくなります。
- メインスイッチをONにした状態で、アクセサリーコンセントに電気製品のプラグを挿入した場合、電気製品側の回路構成によっては挿入時に大きな電流が流れ瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、AC 電源装置の保護機能が作動し、自動でメインスイッチが OFF になることがあります。電源プラグ挿入後、再度メインスイッチを ON にしてください。
- 使用する電気製品によっては、ラジオやテレビに雑音が入ることがあります。
- アクセサリーコンセントの電圧は、市販のテスターでは正常な電圧を計測できません。電圧の確認が必要な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- アクセサリーコンセントを使用中、コンセント周辺から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器や医療機器など、AC 電源の出力が連続して必要な電気製品

■使用できないときは

メインスイッチの作動表示灯が消灯して、コンセントから AC 電源が出力されない場合、再度メインスイッチを ON にしても復帰しないときは、保護機能が作動していることが考えられます。この場合は、まず次の処置を行ってください。

●電気製品のプラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかどうかを確認し、再度メインスイッチを ON にしてください。

●電気製品のプラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度メインスイッチを ON にしてください。

●駆動用電池の残量を確認してください（→ P. 140）。残量が少ない場合は、シフトレバーを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度メインスイッチを ON にしてください。

●炎天下に放置した直後など車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し、車内温度を下げ、しばらくしてから再度メインスイッチを ON にしてください。

以上の処置を行っても復帰しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■寒冷地で使用するときは

外気温が－ 15 ℃以下になるようなときは、駆動用電池を保護するため、数十分間アクセサリーコンセントが使用できないことがあります。この場合はエアコンを使用して車内を暖房し、駆動用電池を暖めてから使用してください。

■電源周波数について

車両側の電源周波数は、50Hz に設定されています。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50Hz ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を一致させておいてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVDなど）
・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなど、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品は使用しないでください。アクセサリーコンセントが使用できなくなったり、感電したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品のプラグを抜き挿ししたり、ピンなどをアクセサリーコンセントに挿したりしないでください。感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

●アクセサリーコンセントの改造や分解・修理などはしないでください。また、車両に搭載されている AC100V インバーターを、市販の AC100V インバーターに組みかえないでください。思わぬ事故の原因となって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

警告

■駐車中または停車中に使用するときは

災害時などやむを得ず駐車中または停車中に使用するときは、次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- 必ずシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 車庫内や雪が積もった場所などでは、排気ガスが充満したり、滞留したりするおそれがあるため、使用しないでください。（→ P. 66）
- 状況によっては、自動でエンジンが始動するため、排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。また、エンジンルーム内に顔や手などを近付けないでください。
- 車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の浸入などに注意してください。アクセサリーコンセントに雨水などが付着した場合は、乾燥させてから使用してください。また、電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- アクセサリーコンセントは、照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

■接続する電気製品について

使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。なお、次のような機器は使用しないでください。

- 医療用機器
  車両の状態によっては、一時的に AC 電源出力が断たれることがあります。
- 計量器・計測器など
  AC 電源電圧を基準にした計測機器の場合は、精度が不安定になるおそれがあります。

注意

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損したり、焼損したりするおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を、車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- アクセサリーコンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- AC アダプターを直接アクセサリーコンセントに接続しないでください。フタを損傷したり、使用中に AC アダプターが脱落したりするおそれがあります。
- お子さまに、アクセサリーコンセントをさわらせないでください。
- アクセサリーコンセントに、二股などの分岐用コンセントを接続するなど、タコ足配線をしないでください。
- アクセサリーコンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品のプラグをアクセサリーコンセントに挿し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 駆動用電池の残量によっては、アクセサリーコンセントが使用できない場合があります。できるだけ駆動用電池の残量が多い状態で使用してください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合した携帯電話やスマートフォンなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

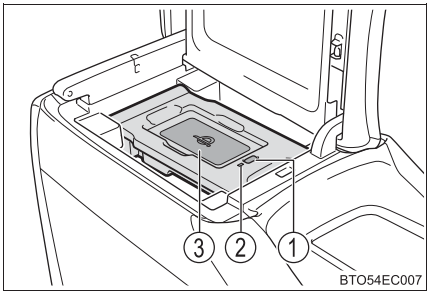
「Qi」および Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」および「おくだけ充電」マークは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

① 電源スイッチ
② 作動表示灯
③ 充電エリア

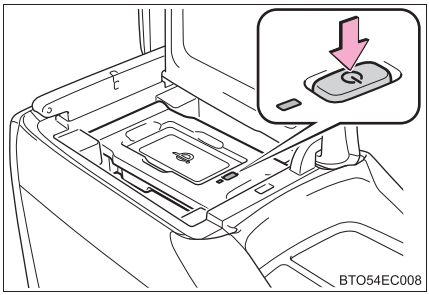


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 充電する

1 コンソールボックスのフタを開ける（→ P. 537）

2 電源スイッチを押す

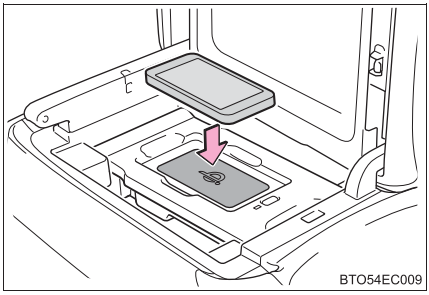


押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

3 充電エリアに携帯機器を置く



携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

● 再充電機能

・充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
・携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時 ※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

● 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生すると作動表示灯が橙色に点滅します。次の表に基づき、対処をしてください。

作動表示灯	想定される原因	対処方法
1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器の故障**	トヨタ販売店へお問い合わせください。
3 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**異物検知** 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のずれ 置かれた場所から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。
4 回連続の点滅をくり返す（橙色）	**ワイヤレス充電器内の温度上昇**	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■作動条件

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

スマートエントリー＆スタートシステムが作動中は、一時的に充電が停止することがありますが、異常ではありません。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。
ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。
充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

警告

■**運転中の注意**

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■**電波がおよぼす影響について**

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■**故障や火災を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、車両火災、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- ワイヤレス充電器に異物を入れたり、飲料水などをかけない
- 布などをかぶせて充電しない
- 充電エリアにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

⚠注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

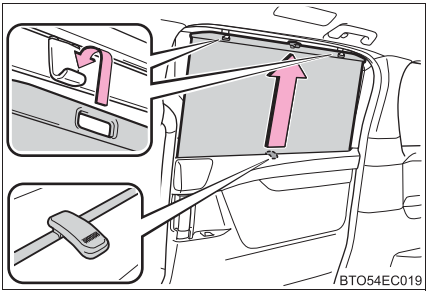
- 充電中に充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

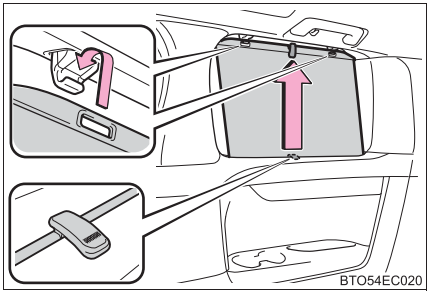
ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

後席用サンシェード★

▶ セカンドシート



▶ サードシート



ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

⚠ 注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 開閉のさまたげになる部分にものを置かない
- 後席用サンシェードにものを貼らない
- 後席用サンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない
- スライドドアが開閉しているときは、セカンドシートの後席用サンシェードを操作しない
- 収納するときに傾けた状態で収納しない

  傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■後席用サンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

- フックが片方はずれた状態で使用しない

  スライドドアを開閉するときに後席用サンシェードが破損するおそれがあります。
- フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない

  スクリーン部が破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

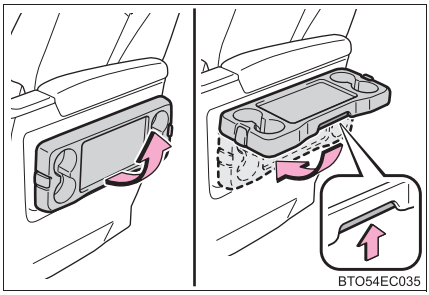
サイドテーブル★

▶ タイプ A

サイドテーブルを引き起こす

サイドテーブルがロックしていることを確認してください。

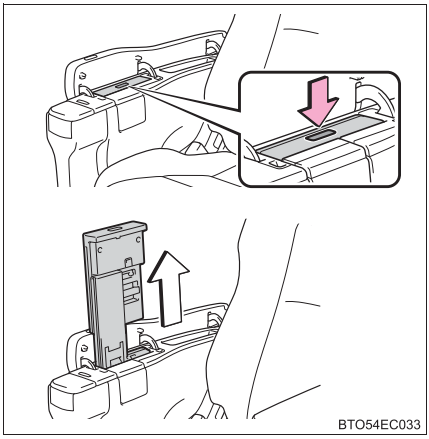
格納するときは、レバーを上に引いてテーブルを押します。



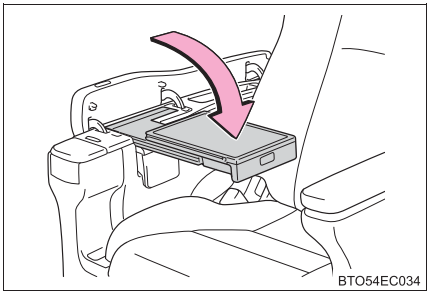
▶ タイプ B

1 フタを開けてボタンを押す

サイドテーブルが自動で上がります。

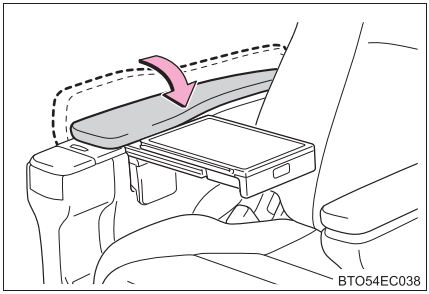


2 サイドテーブルを倒す



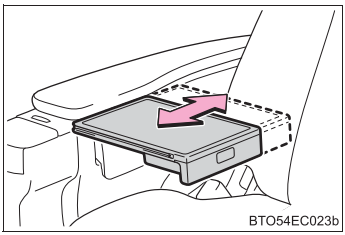
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 フタを閉じる



知識

- タイプ B：テーブルを格納するときは、テーブルをいちばんうしろまで移動させてください。
- タイプ B：前後にスライドさせることができます。



警告

サイドテーブルを使用するときは次の警告をお守りください。
お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に傷害につながるおそれがあり危険です。

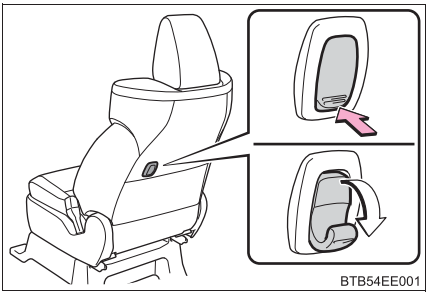
- サイドテーブルの上に乗ったり、重いものをのせないでください。
- 使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。
- タイプ B：走行中はサイドテーブルを使用しないでください。
- タイプ B：サイドテーブルを使用するときは、フタを閉じてください。

注意

- テーブルの破損を防ぐために、重いものをのせないでください。
- タイプ B：いちばん上の位置にあげてからサイドテーブルを倒してください。

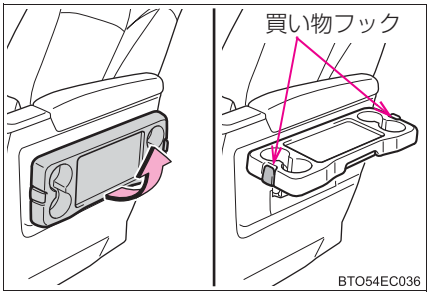
買い物フック★

▶ 運転席



フックを引き起こす

▶ セカンドマニュアルシート（7 人乗り車）／セカンドパワーシート（シートポジションメモリー非装着車）



サイドテーブルを引き起こす
（→ P. 565）

警告

使用しないときは、けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

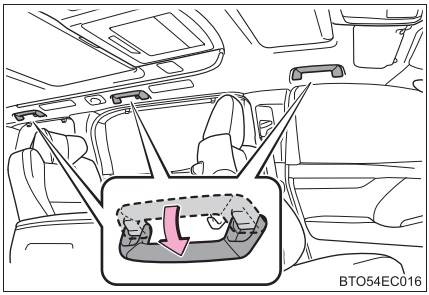
注意

買い物フックの破損を防ぐために、4kg 以上のもの（運転席）、2kg 以上のもの（セカンドシート）をフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

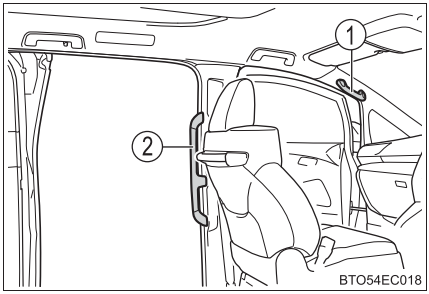
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップ（回転式）は、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



乗降時などでは、ピラーに取り付けられている①または②のアシストグリップ（固定式）をお使いください。



警告

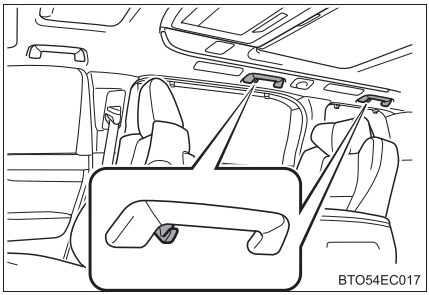
アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフック

コートフックは、セカンドシート／サードシートのアシストグリップに付いています。



警告

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

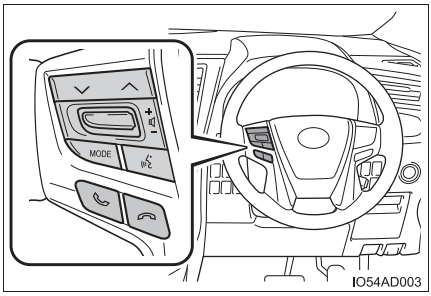
注意

- コートフックに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。
- セカンドシートにあるコートフックを使用するときは、スライドドアを開閉する際にドアへ引っかからないよう注意してください。

ステアリングスイッチ

▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車

ハンドル左側にあるスイッチで、オーディオを操作することができます。
装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは商品に付属の取り扱い説明書をご覧ください。



▶ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車

別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

警告

事故を防ぐために、運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....572
内装の手入れ.....577
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 581
ガレージジャッキ.....585
ウォッシャー液の補充.....587
タイヤについて.....589
タイヤ空気圧について 593
エアコンフィルターの交換 ...595
ワイパーゴムの交換.....598
キーの電池交換.....604
ヒューズの点検・交換.....608
外装のランプの交換.....611

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●お車を洗う前に：

・ドアミラーを格納する
・パワースライドドアを停止する（→ P. 167）
・パワーバックドア★を停止する（→ P. 183）

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

●洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■洗車などで車に水をかけたとき

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

●電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）

●電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→ P. 193）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

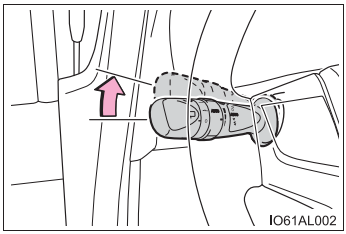
警告

■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知式ワイパー装着車）**

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内からセンサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパー上方の塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラ★やカメラ周辺に直接水をあてないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% にうすめて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■白色革シートの革部分・合皮部分の手入れ

白色革シートの革部分または合皮部分は、汚れをふき取り易くする加工を施してありますが、汚れが目立ちやすいのでこまめなお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラス・リヤクォーターガラス・リヤウインドウガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■**車両への水の浸入**

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。（→ P. 99）
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 35）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★（→ P. 558）をぬらさないでください。
発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シート周辺の注意**

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラス／右側クォーターウインドウの内側を掃除するときは

●熱線（リヤウインドウガラス）やアンテナ（右側クォーターウインドウ）を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラス・リヤクォーターガラス・リヤウインドウガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 330）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

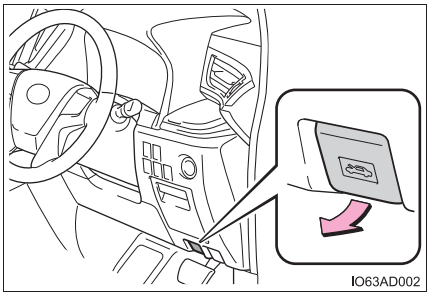
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

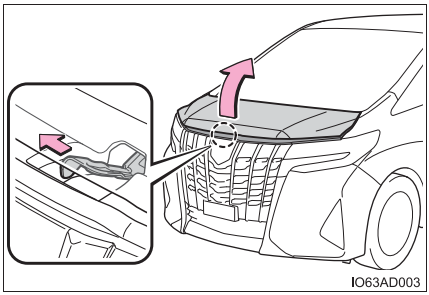
開け方

1 ボンネット解除レバーを引く

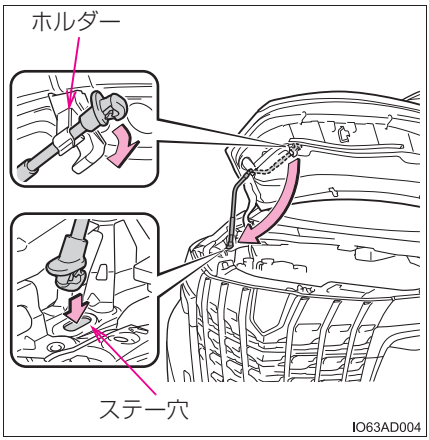
ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを押して、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



閉め方

1 ボンネットを支えながら、ボンネットステーをはずしてホルダーに格納する

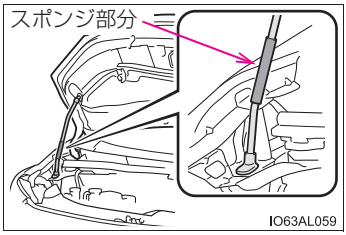
2 車体から約 20cm の高さまで、ボンネットをゆっくりおろす

3 ボンネットを落として閉め、ロックされていることを確認する

知識

■ボンネットを開くとき

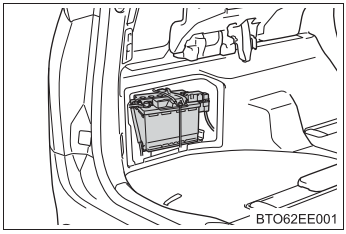
ボンネットステーはスポンジ部分を持って取り扱ってください。また、走行直後にボンネットを開ける必要がある場合は、ボンネットステーが熱くなっていることがあるため、金属部分にふれないよう、特に注意してください。



■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはラゲージルームのカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。（→ P. 675）



警告

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■走行前の確認

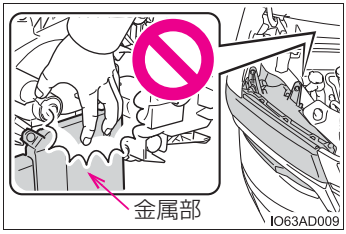
ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ランプの取り扱い

ヘッドランプ点灯中および消灯直後はヘッドランプ ECU の金属部が高温になります。やけどをするおそれがあるので、冷めるまでふれないでください。

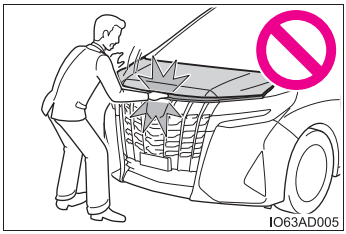


■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→ P. 680

■補機バッテリーを交換するときは

→ P. 681

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
閉め方：→ P. 582

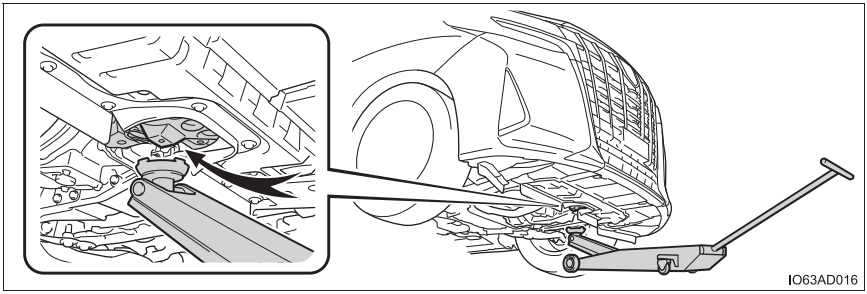
■ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

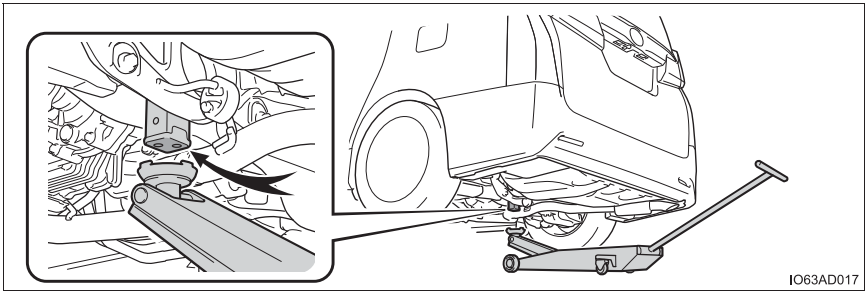
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



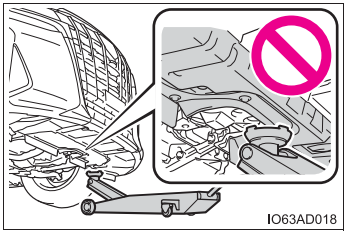
◆ リヤ側



⚠ 注意

■車両の前側をジャッキアップするときは

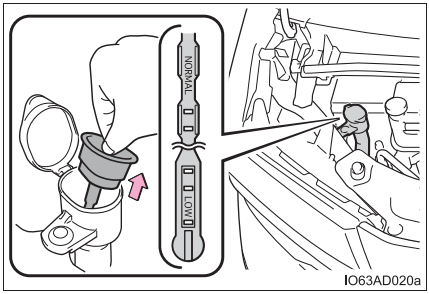
ジャッキの受け皿が車両下部の樹脂カバーにかかっていないことを確認してください。樹脂カバーにジャッキがかかった状態でジャッキアップすると、フロントサスペンションの部品が損傷するおそれがあります。



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

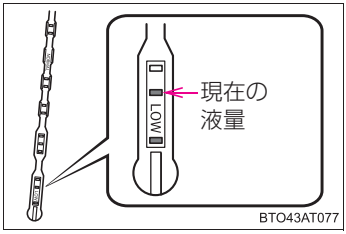
液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補充してください。



知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下回った（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

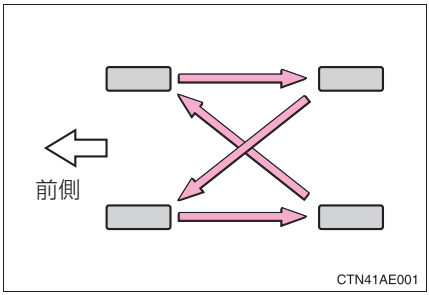
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

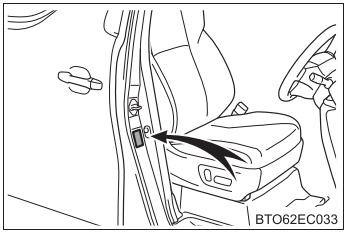
■タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa（kg/cm^2）	
	前輪	後輪
215/65R16 98H	240（2.4）	
225/60R17 99H	240（2.4）	

応急用タイヤ★：420kPa（4.2kg/cm^2）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■応急用タイヤについて（応急用タイヤ装着車）

応急用タイヤは指定の場所（→ P. 658）に搭載し、留め具をしっかり締め付けて、確実に固定してください。応急用タイヤの留め具がゆるんでいると、走行中に異音が発生することがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●工場出荷時に設定されているサイズ以外のタイヤは使用しない
次のようなおそれがあります。

・ハンドルをきった際に、タイヤと車体が干渉する
・最低地上高が確保できない
・操縦安定性の悪化による横転事故
・ABS ／ VSC が正しく作動しない

●タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

●ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

●サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷を与える

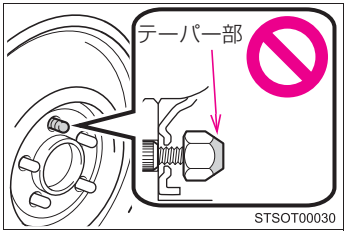
●車両が横すべりする

●車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。（→ P. 693）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

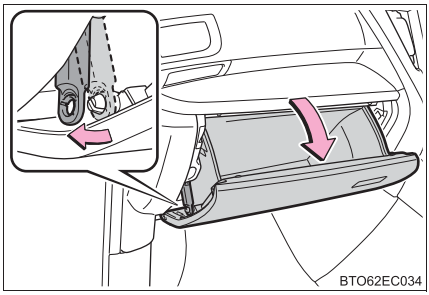
エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

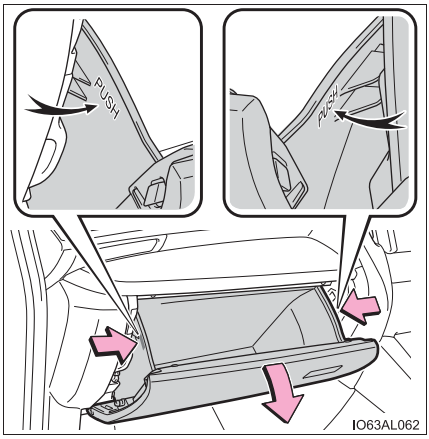
交換のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす

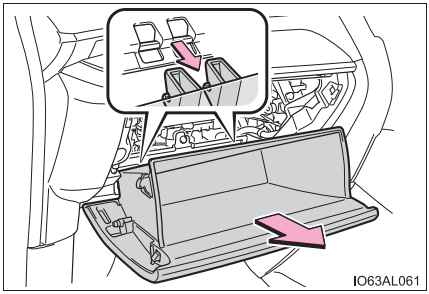


3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、グローブボックスを支えながらゆっくりと全開させる



4 グローブボックスがいっぱいまで開いた状態から、少しだけ持ち上げた位置で手前に引き、グローブボックス下部の結合部をはずす

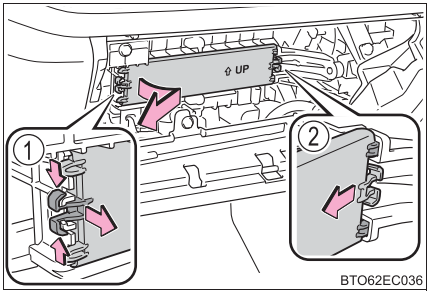
軽く引いても結合がはずれない場合は、無理に引っ張らず、持ち上げる量を微調整しながら手前に引いてください。



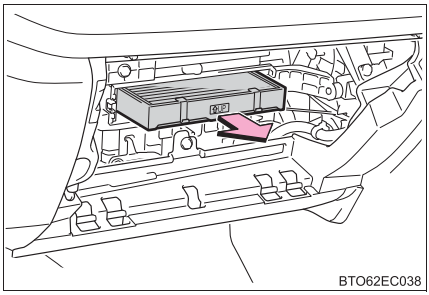
5 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

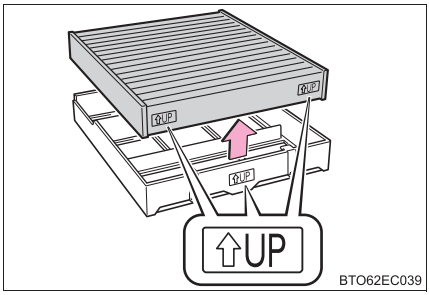


6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km※1] ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

⚠注意

■エアコンを使用するときの注意

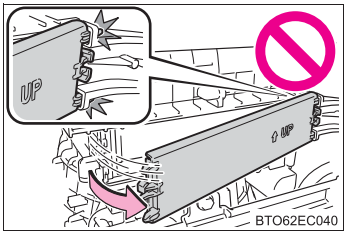
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■グローブボックスを取りはずすとき

必ず指定の手順（→ P. 595）に従って取りはずしてください。正しい方法で取りはずさないと、グローブボックス下部の結合部が破損するおそれがあります。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



ワイパーゴムの交換

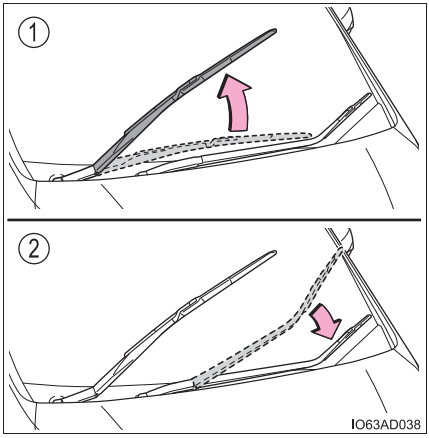
ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

ワイパーアームの取り扱い方法

■ フロントワイパー

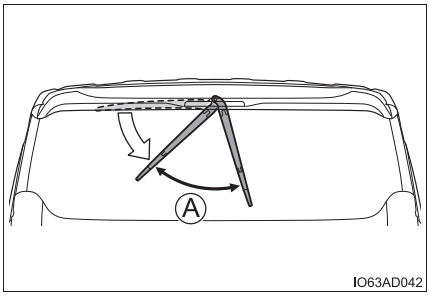
① ワイパーアームを起こすときは、運転席側から助手席側の順番でアームを持ち上げる

② もとの位置にもどすときは、助手席側から運転席側の順にアームを降ろす



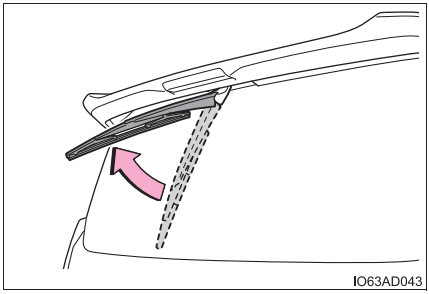
■ リヤワイパー

1 リヤワイパースイッチ（→ P. 322）でリヤワイパーを作動させ、リヤワイパーが図のⒶに示す範囲内に入ったら、パワースイッチを OFF にしてリヤワイパーを停止させる



2 ワイパーアームを起こす

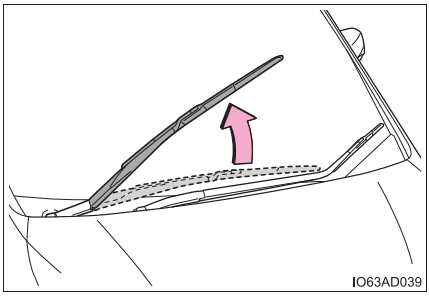
ワイパーアームをもとにもどしたあとは、忘れずにリヤワイパースイッチを OFF にしてください。



フロントワイパー

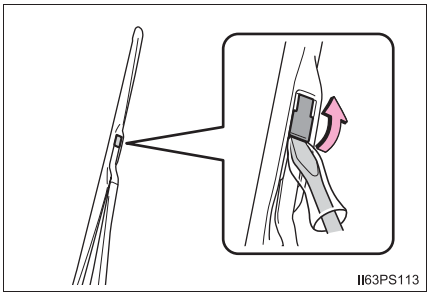
■ フロントワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす



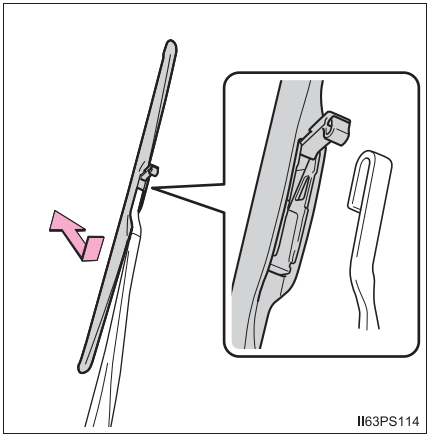
2 図のようにマイナスドライバーを挿し込んで、ストッパーを起こす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



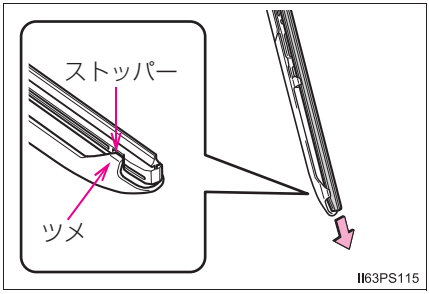
3 ワイパーブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。



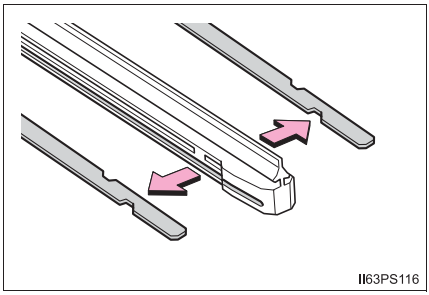
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーゴムを引っ張り、ワイパーブレードのツメをストッパーからはずし、そのまま引き抜く



2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる

金属プレートの切り欠きと反りの方向が、もとどおりになっていることを確認してください。



3 ストッパーがない側を先にして、ワイパーゴムをワイパーブレードに挿入する

4 ワイパーブレードのツメで、ワイパーゴムのストッパーを確実に固定する

リヤワイパー

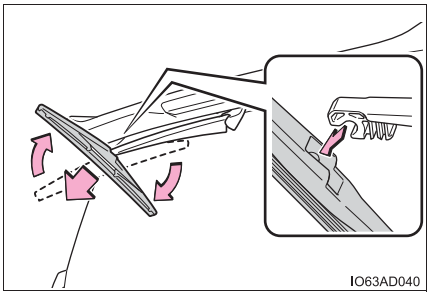
■ リヤワイパーブレードの脱着

1 ワイパーアームを起こす（→ P. 598）

2 「カチッ」と音がしてツメのかん合がはずれる位置までワイパーブレードを起こし、ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずす

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

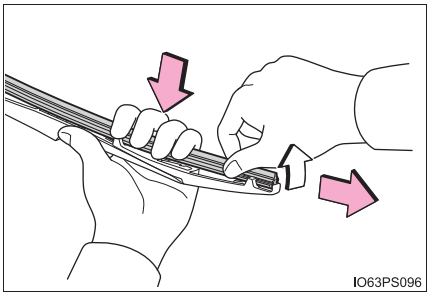
ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。



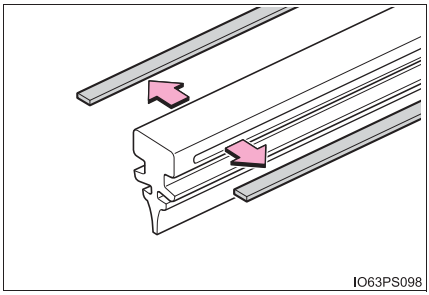
■ ワイパーゴムの交換

1 ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

ワイパーブレードのツメとツメの中央付近を軽く握って押すとワイパーゴムが浮き上がり、引き抜きやすくなります。

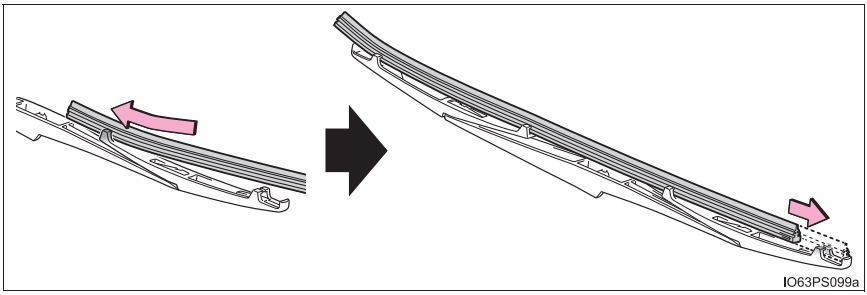


2 引き抜いたワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取りはずし、新しいワイパーゴムに付けかえる



3 ワイパーブレード中央部のツメを通してワイパーゴムを挿入し、3つのツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った1つのツメに通す

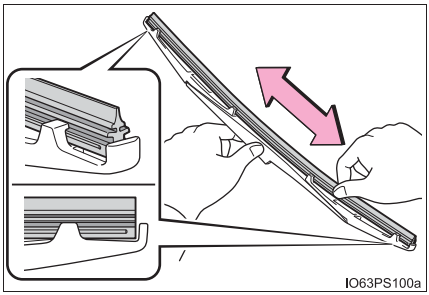
ワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



4 ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

・ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。

・ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



知識

■ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤワイパーアームを起こすとき

リヤワイパーがリヤスポイラーにあたらないことを確認しながらゆっくりと引き起こしてください。いっぱいまで起こしリヤスポイラーにあたりそうなときは、いったんリヤワイパーアームをもどし、最初に止めた位置よりも下を向くように、リヤワイパーの停止位置を調整してください。

⚠注意

■損傷を防ぐために

- ワイパーアームを起こすときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。
- ワイパーゴムを交換するときは、ツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取りはずしたあとはフロントウインドウガラスが傷付かないように、フロントウインドウガラスとワイパーアームのあいだに布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

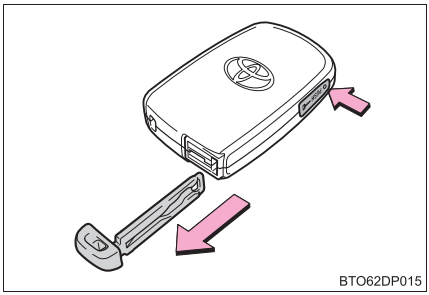
用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

▶ パワーバックドア非装着車

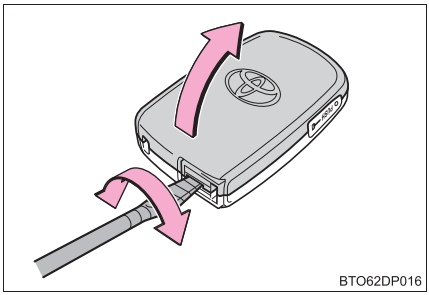
1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

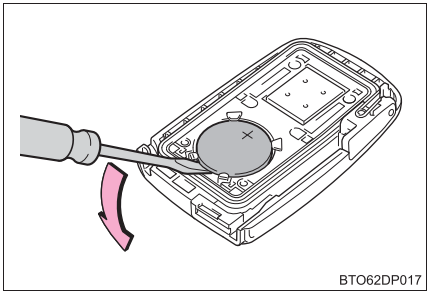
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

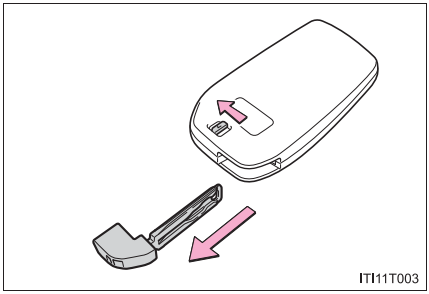

BTO62DP017

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

▶ パワーバックドア装着車

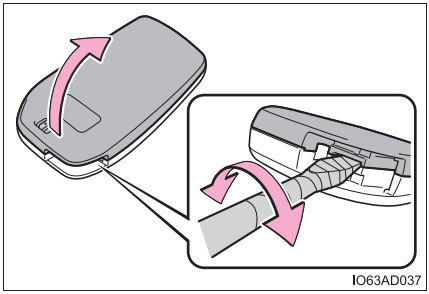
1 メカニカルキーを抜く


ITI11T003

2 カバーをはずす

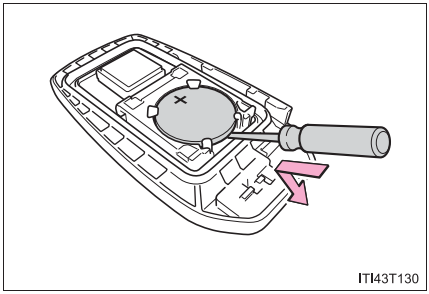
適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。無理にこじった場合、カバーが変形するおそれがあります。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


IO63AD037

3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。



電池をはずす際は、適切なサイズのマイナスドライバーをご使用ください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■キーの電池を交換したときは

キーのスイッチを押し、本体の LED が点灯することを確認します。

警告

■**取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

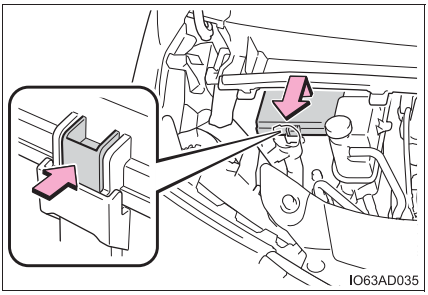
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 パワースイッチを OFF にする

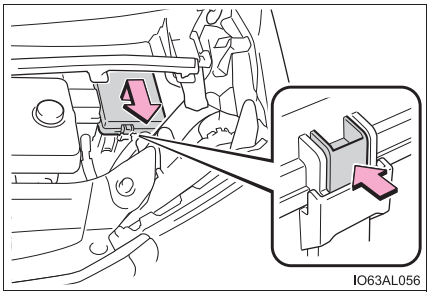
2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（1）



ツメを押してロックをはずし、フタを持ち上げながら手前に引いて取りはずす

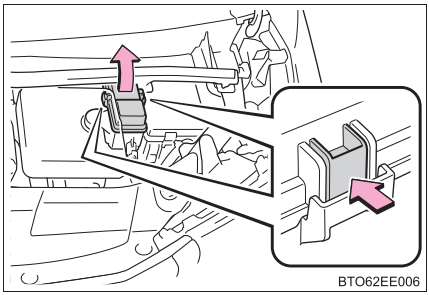
▶ エンジンルーム（2）



ツメを押してロックをはずし、フタを持ち上げながら手前に引いて取りはずす

▶ エンジンルーム（3）

ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

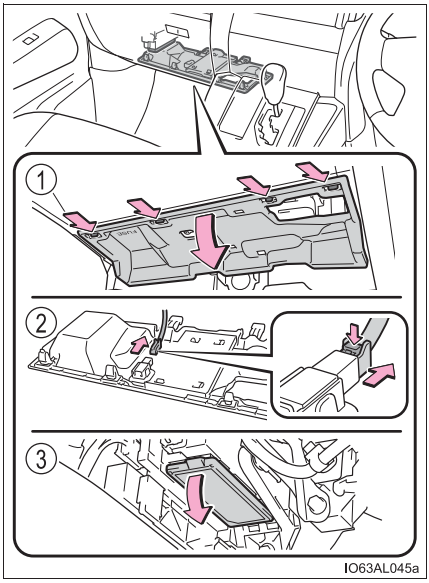


▶ 助手席足元

① ツメを押してアンダーカバーを取りはずす

② ツメを押してコネクターを取りはずす（足元照明装着車）

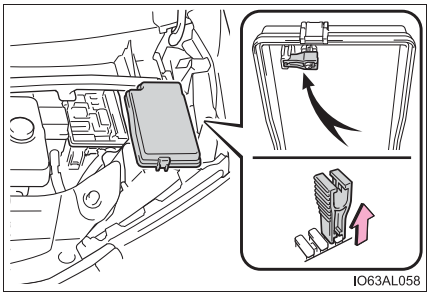
③ カバーを取りはずす



IO63AL045a

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

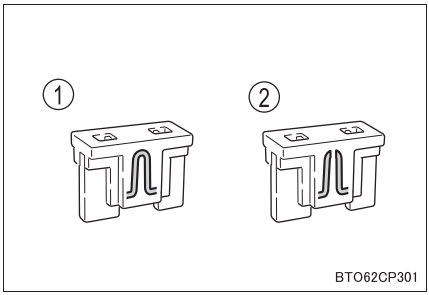

IO63AL058

4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



BTO62CP301

知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 611）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

外装のランプの交換

外装のランプが点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

知識

■LED ランプについて

次のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ●ヘッドランプ（前照灯）
- ●フロントフォグランプ
- ●コーナリングランプ★
- ●方向指示灯／非常点滅灯
- ●車幅灯／デイライト★
- ●制動灯／尾灯
- ●制動灯
- ●尾灯★
- ●後退灯
- ●リヤフォグランプ★
- ●ハイマウントストップランプ
- ●番号灯

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....614
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....615
発炎筒.....616
車両を緊急停止するには.....618

7-2. 緊急時の対処法

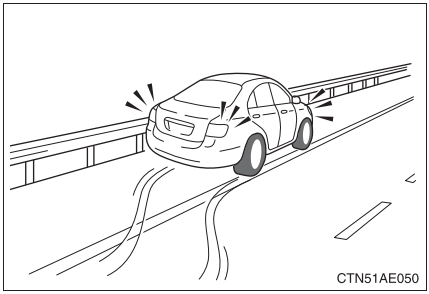
けん引について.....619
警告灯がついたときは.....628
警告メッセージが表示
されたときは.....633
パンクしたときは
（タイヤパンク応急
修理キット装着車）.....640
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....657
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....670
電子キーが正常に働かない
ときは.....672
補機バッテリーが
あがったときは.....675
オーバーヒートしたときは...682
スタックしたときは.....687

故障したときは

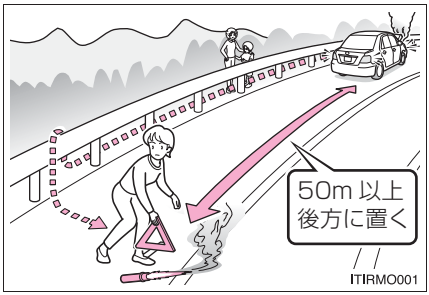
故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 615）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

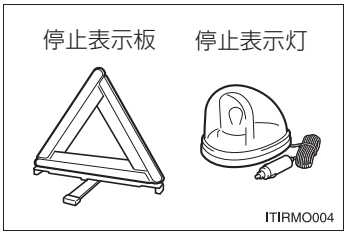


- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 616）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

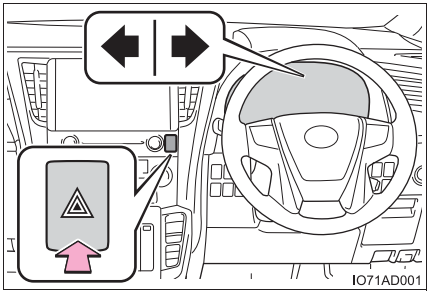


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

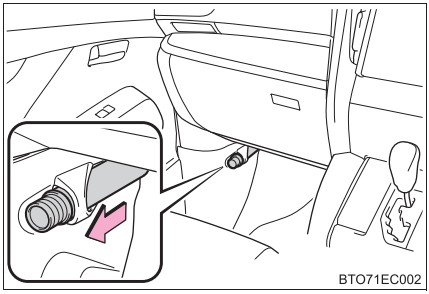
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

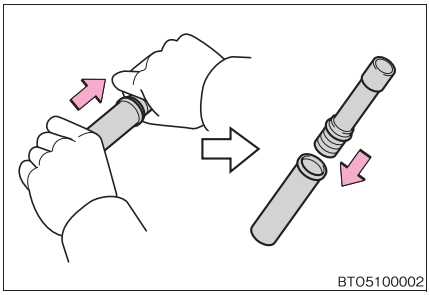
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

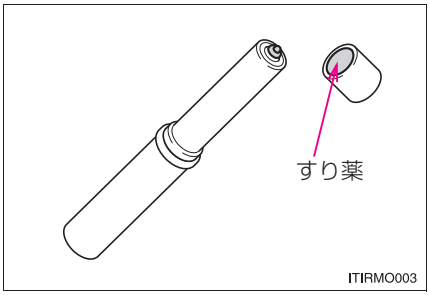


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

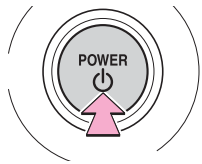
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD214

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

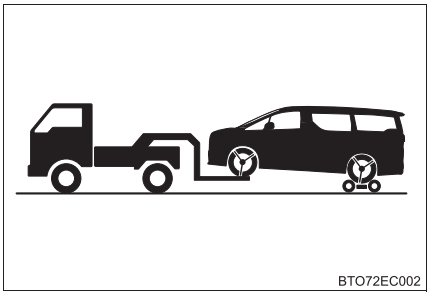
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにハイブリッドシステムの異常を示すメッセージが表示され、車が動かない（→ P. 633）
- マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム故障　この車をけん引しないでください」と表示されている
- 異常な音がする

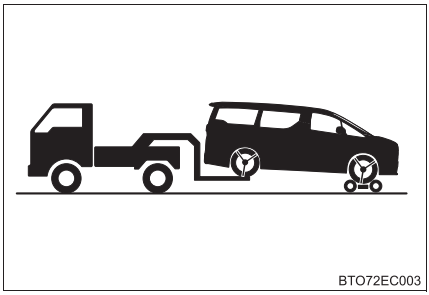
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

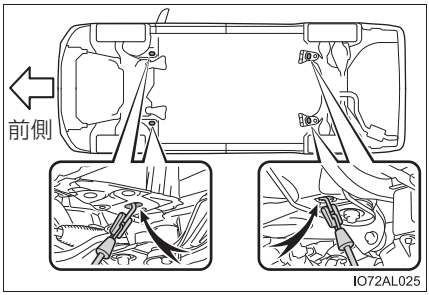
▶ うしろ向きにけん引するときは



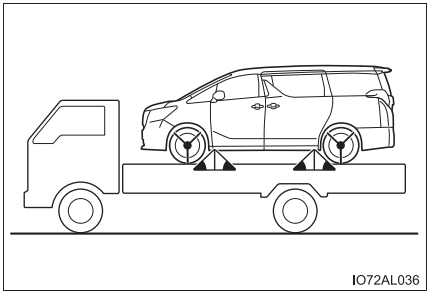
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する



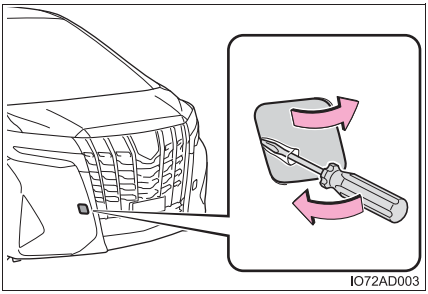
他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す（→ P. 643, 658）

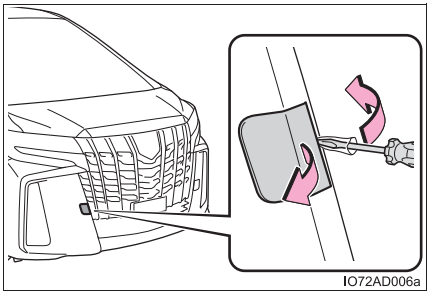
2 マイナスドライバーを使って、けん引フックを取り付ける側のフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

▶ 標準モデル

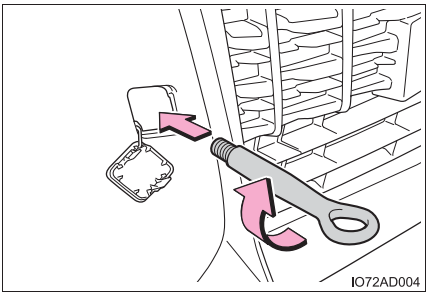


▶ エアロモデル

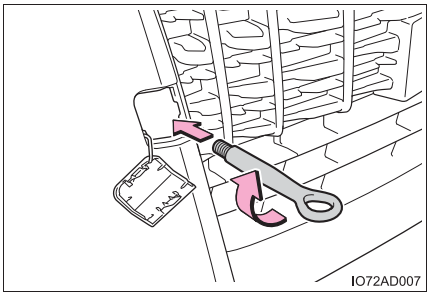


3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

▶ 標準モデル



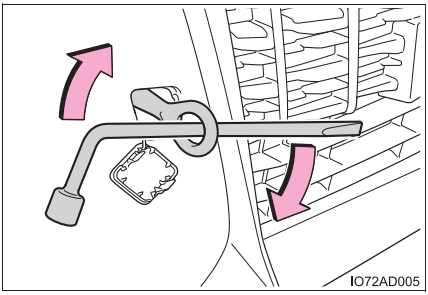
▶ エアロモデル



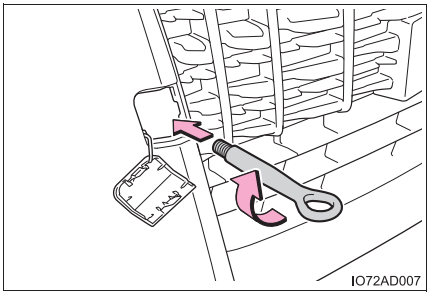
4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホイールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。

▶ 標準モデル



▶ エアロモデル

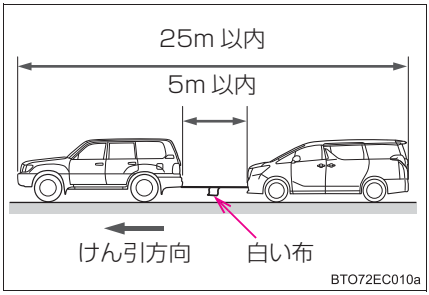


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm×30 cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）★を OFF にしてください。（→ P. 422）

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 294

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

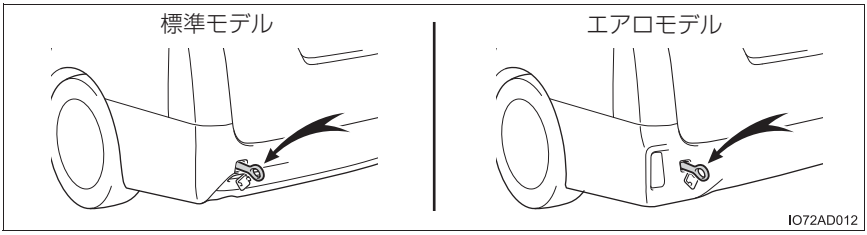
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。（→ P. 643, 658）

■リヤ側のフック取り付け位置について

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

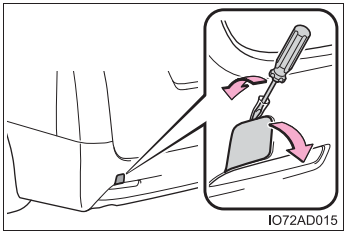


■リヤ側にフックを取り付けるとき

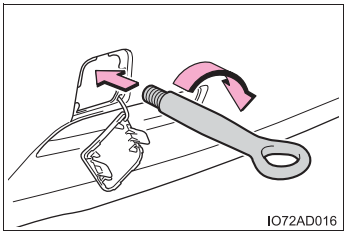
▶標準モデル

1 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

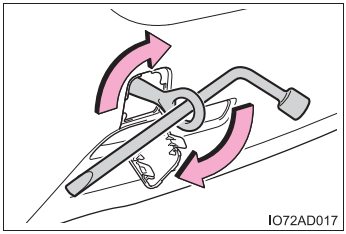


2 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



3 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

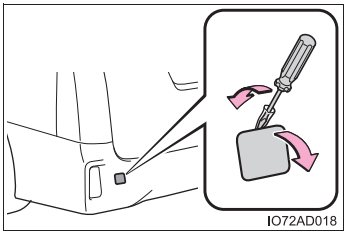
締め付ける際、ホールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。



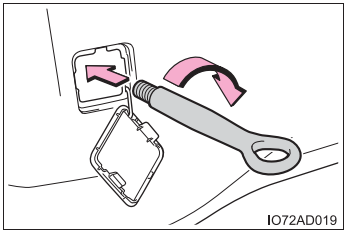
▶ エアロモデル

1 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

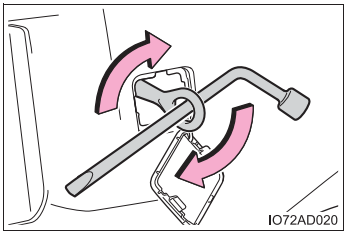


2 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



3 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

締め付ける際、ホールナットレンチや金属の固い棒などで車体を傷付けないように注意してください。

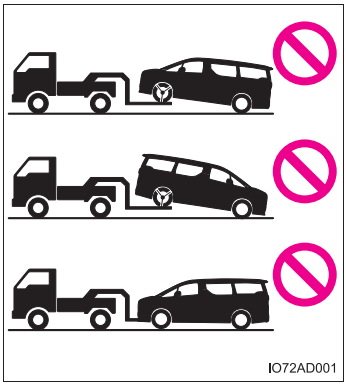


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを OFF にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

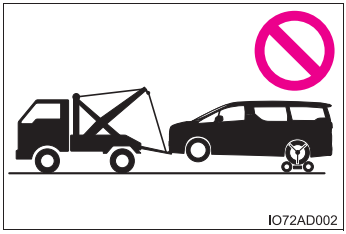
■けん引フックを車両に取り付けるときは

- けん引フックは、搭載されている車両専用です。他の車のけん引フックを使用したり、この車のけん引フックを他の車に取り付けたりしないでください。
- 指定の位置にしっかりと取り付けてください。
  指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動などできるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

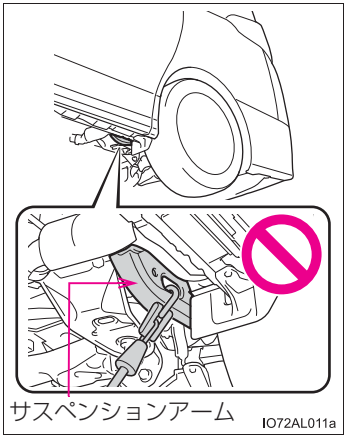
■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

⚠注意

■車両のうしろ側を固縛するときは

リヤサスペンションが損傷するおそれがあるため、図で示すサスペンションアームには絶対に固縛フックをかけないでください。



■リヤ側のフック取り付け位置について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- リヤ側に取り付けたフックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー ※1）** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
（黄色）	**ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	充電警告灯 マルチインフォメーションディスプレイに「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」が表示されているか確認する ・メッセージの表示がない場合： 充電系統の異常 **→ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** ・メッセージが表示されている場合： 補機バッテリーあがりのおそれ（→P. 637）
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS &ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （赤色 / 黄色）	**パワーステアリング警告灯（警告ブザー）** EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅または点灯）	**PCS 警告灯** ・警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ・警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ 要因と対処方法（→ P. 333, 638）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 498**
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ABS・VSC・TRC システム作動時は点滅します。
 （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ・ブレーキホールドステムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★** PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・PKSB を OFF にすると点灯します。（→ P. 422） ・システムの作動中に点灯します。（→ P. 425） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→ P. 429）
	半ドア警告灯（警告ブザー ※2） いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 開いているドアを閉める**
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 10L 以下になった **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※3） 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 **→ P. 633**
	油圧警告灯 ※4（警告ブザー ※5） エンジンオイルの圧力が異常に低い **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	高水温警告灯 ※4 エンジン冷却水の高温異常 **→ ただちに安全な場所に停車して点検する（→ P. 682）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ※4 ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ・ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ドライブスタートコントロール警告灯 ※4 ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ・ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	PKSB 警告灯 ※4 ★ PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した（→ P. 425） **→ 表示された画面の指示に従ってください。**
 （橙色で点灯）	**LTA 表示灯** ※4 **（警告ブザー）** LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→ P. 355）**

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 半ドア走行時警告ブザー：
→ P. 162

※3 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 油圧警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオ★の音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

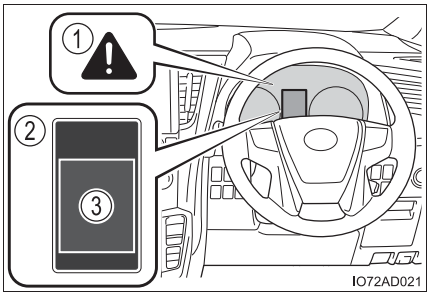
■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。※

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 対処方法

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

※ メッセージの内容によっては、マスターウォーニングが連動しない場合があります。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	―	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
―	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	―	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	―	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	―	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

上記の点灯状況、ブザーの吹鳴状況と異なる場合があります。その際は表示された内容に従ってすみやかに対応してください。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■専用警告灯について

次の内容のメッセージ、または画像が表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●「ABS 故障 販売店で点検してください」が表示されている：
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 629）

●開いているドアまたは、ボンネット※が表示されている：
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 630）

※ ボンネットのみが開いている場合、半ドア警告灯は点灯しません。

■「販売店で点検してください」の警告メッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■各部の操作に関するメッセージが表示されたとき

●アクセルペダル・ブレーキペダルの操作に関するメッセージが表示されたとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）やレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）などの走行支援システムの作動中、ブレーキ操作に関する警告メッセージが表示される場合があります。
メッセージが表示されたときは、必ず減速、または画面で指示された操作を行ってください。

●ブレーキオーバーライドシステム・ドライブスタートコントロール・PKSB（パーキングサポートブレーキ）★が作動したときに、警告メッセージが表示されます（→ P. 273, 274, 425）。
画面の指示に従って対処してください。

●パワースイッチの操作に関するメッセージが表示されたとき

正しい手順で始動操作をしていないときや、誤操作の可能性があるときなどに、パワースイッチの操作に関するアドバイスが表示されます。
画面の指示に従って操作し直してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●シフトレバーの操作に関するメッセージが表示されたとき

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、シフトレバーの操作が指示されることがあります。
その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

●各部の開閉状態や、消耗品の補充などに関するメッセージ・画像が表示されたとき

画面の表示、または警告灯で指示された部位を確認し、開いているドアを閉めたり、消耗品を補充したりするなどの対処を行ってください。

■「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたとき

●次のメッセージが表示されたときは、ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・「エンジン油圧不足 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」
・「故障のためブレーキ力が低下 安全な場所に停車して取扱書を確認」

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・「ハイブリッドシステム故障」
・「エンジン系故障」
・「バッテリー系故障」
・「アクセル系故障」
・「スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認」

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。

・「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」（→ P. 682）
・「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」（→P. 637）

■「ハイブリッドシステム高温 出力制限中です」が表示されたとき

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂の走行中や、後退方向での登坂中など）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→ P. 682

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを販売店で受けてください」が表示されたとき

フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。トヨタ販売店で駆動用電池の冷却部品のメンテナンスを受けてください。

■「補機バッテリー（始動用）充電不足　取扱書を確認してください」が表示されたときは

●数秒後※に表示が消えたときは

約 15 分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

●表示が消えないときは

「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 675）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。

※ 約 6 秒間表示されます。

■「駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください」が表示されたとき

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■「駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください」が表示されたとき

長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■「駐車時は P レンジに入れてください」が表示されたとき

シフトレバーが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時は P にしてください。

■「N レンジです アクセルを緩めて 希望レンジに切りかえてください」が表示されたとき

シフトレバーがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■「停車時はブレーキを踏んでください」が表示されたとき

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■「バッテリー保護のため自動で電源を off しました」が表示されたとき

自動電源 OFF 機能が作動したときに表示されます。

この場合、次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■「前方カメラ一時使用不可　しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを取ってください」が表示されたとき

次のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。
（要因および対処方法：→ P. 333, 629）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●アダプティブハイビームシステム★

●オートマチックハイビーム★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■「クルーズコントロール　現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■警告ブザーについて

→ P. 632

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**警告灯の点灯や警告ブザーの吹鳴に合わせて、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき**

メッセージの内容に従って対処してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です」がひんぱんに表示されるときは**

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■**「補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください」がひんぱんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 642）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■**タイヤがパンクしたときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

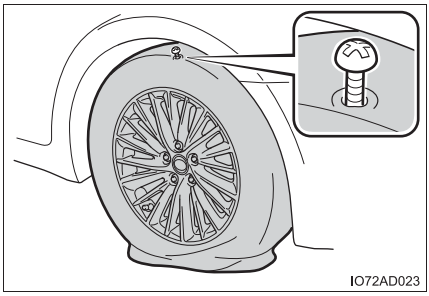
応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをＰに入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 615）
- パワードアオフスイッチを OFF にする（→ P. 167）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



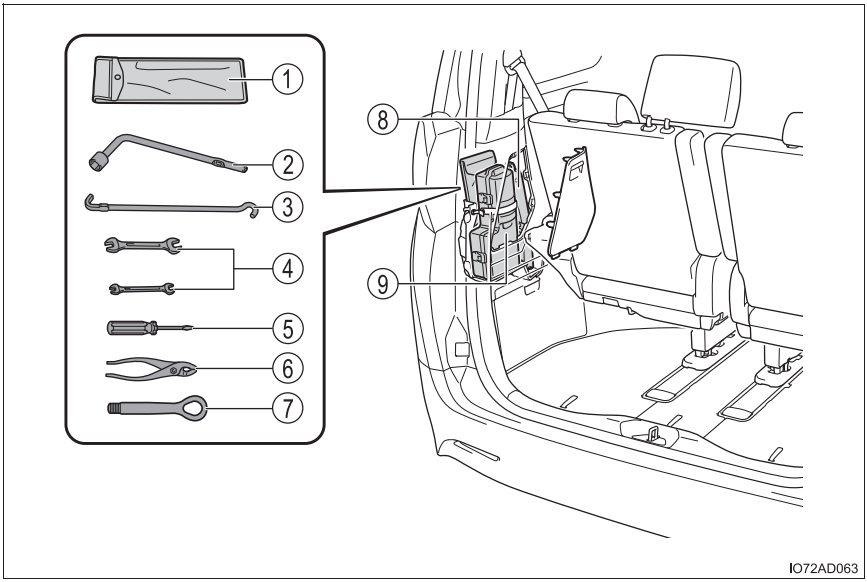
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- ●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- ●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- ●タイヤに約 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●ホイールが破損しているとき
- ●2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- ●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ●補修液の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

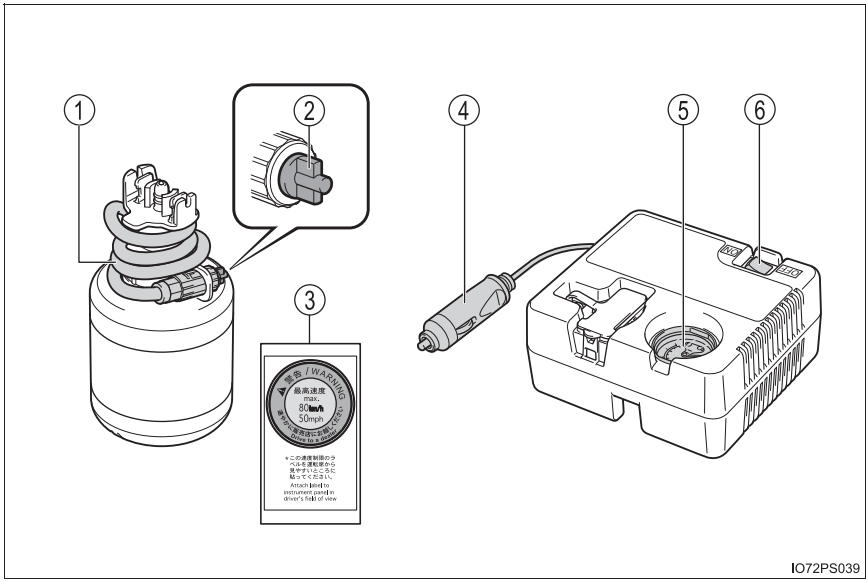


① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ スパナ★
⑤ ドライバー★
⑥ プライヤー★
⑦ けん引フック
⑧ ジャッキ ※1
⑨ タイヤパンク応急修理キット ※2

※1 ジャッキの使い方（→ P. 663）
※2 ケース内に収納されています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称



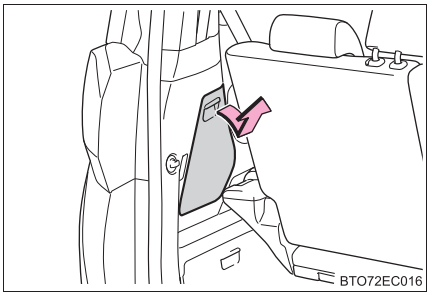
① ホース
② 空気逃がしキャップ
③ 速度制限ラベル
④ 電源プラグ
⑤ 空気圧計
⑥ スイッチ

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

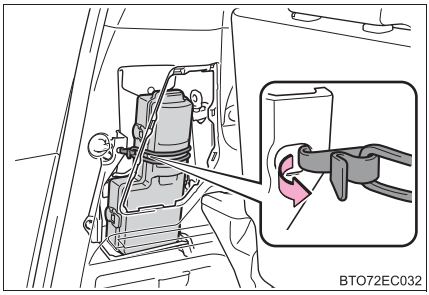
1 カバーを取りはずす

助手席側のサードシートをはね上げている（→ P. 235）ときは、シートをもとにもどしてから、カバーを取りはずしてください。

はね上げた状態ではサードシートが干渉し、カバーの取りはずしが困難になる場合があります。

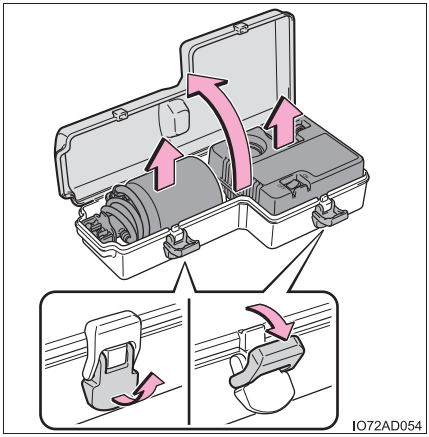


2 固定バンドのフックをはずし、タイヤパンク応急修理キットのケースを取り出す



3 ロック（2 箇所）をはずしてフタを開き、タイヤパンク応急修理キットを取り出す

使用後はもとどおりケースに収納します。



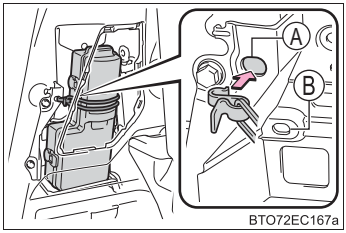
知識

■応急修理キットを使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。応急修理キットが正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

応急修理キットを固定するバンドのフックは、Ⓐの穴に掛けます。

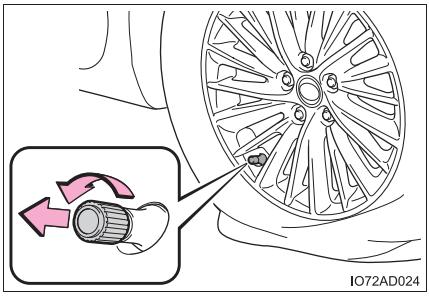
Ⓑの穴は工具袋の固定に使用します。
（→ P. 661）



応急修理するとき

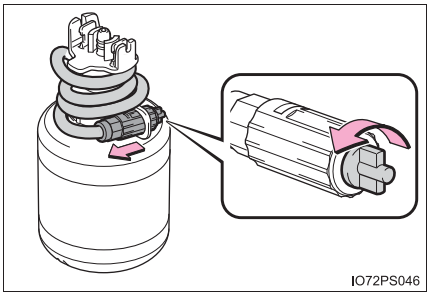
1 応急修理キットを取り出す（→ P. 645）

2 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



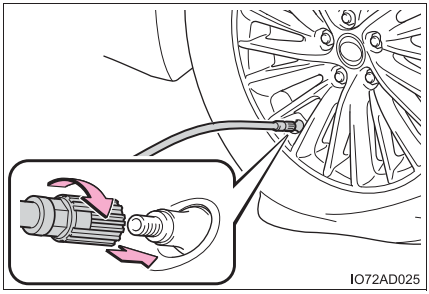
3 ホースをのばし、ホースから空気逃がしキャップを取りはずす

ボトルに同封されているラベルは、指定の位置へ貼り付けます。（手順10へ）
空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

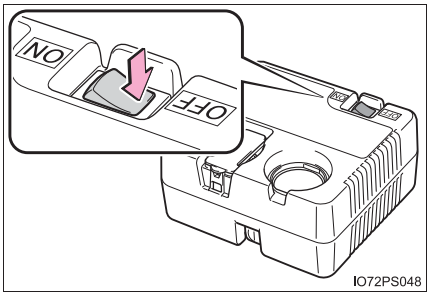


4 ボトルのホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

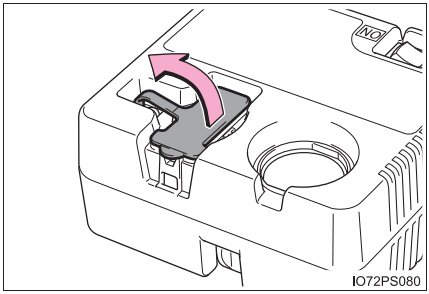
ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。



5 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

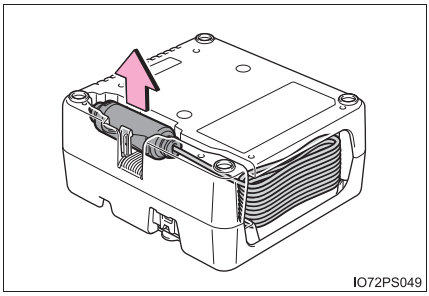


6 コンプレッサーのゴム栓をはずす

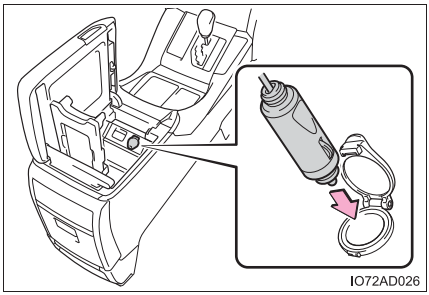


IO72PS080

7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす

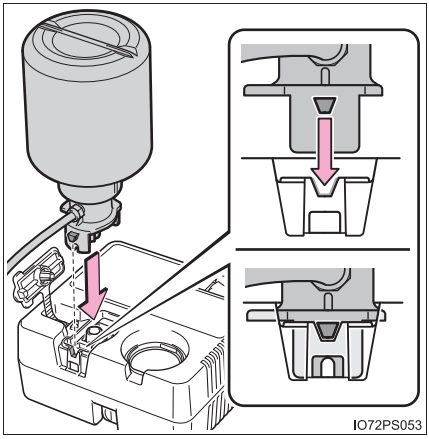

IO72PS049

8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P. 549）

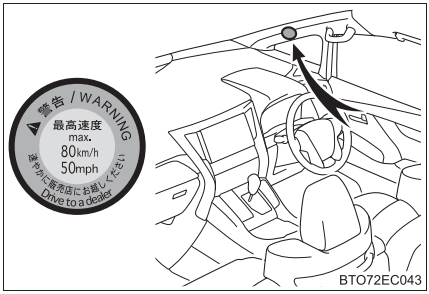

IO72AD026

9 コンプレッサーにボトルを接続する

コンプレッサーの切り欠き部とボトルの台形マークの上端とが合う位置まで、しっかりとボトルを挿し込んでください。

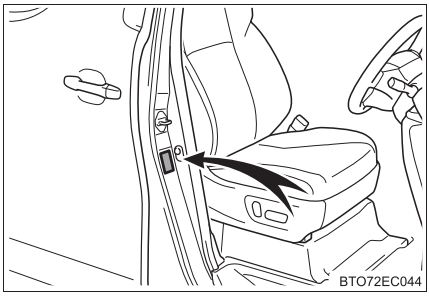


10 付属のラベルを図のように貼り付ける



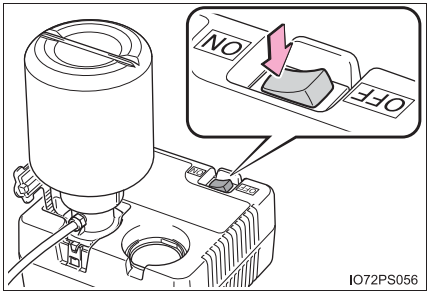
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 590）



12 ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 283）

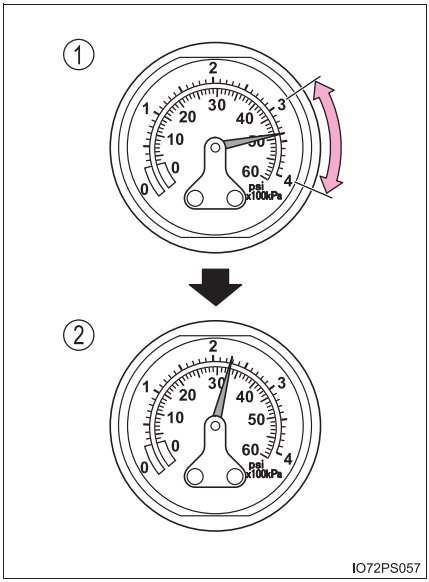
13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

① 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa(3.0～4.0kg/cm^2)まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。



空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。

25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 652, 693）

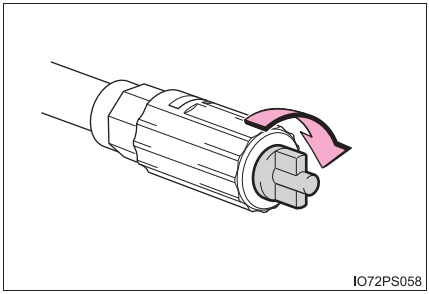
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

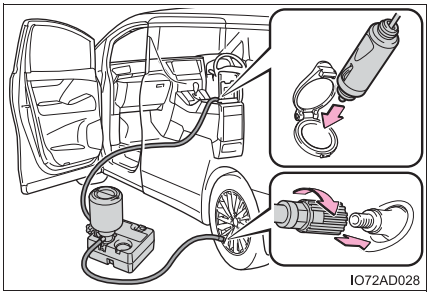


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ボトルのホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください。

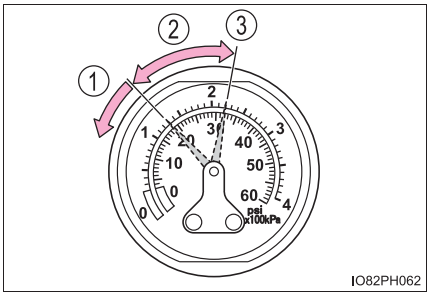


21 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

① 空気圧が130kPa (1.3kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa(1.3kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

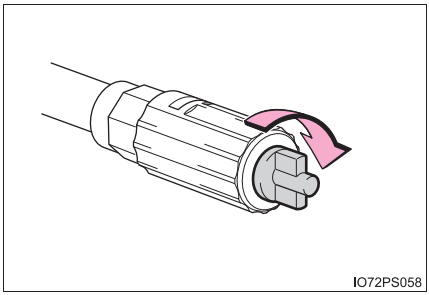
③ 空気圧が指定空気圧(→P. 693) の場合：手順 **23** へ



22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、約 100km 走行以内、かつ 80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

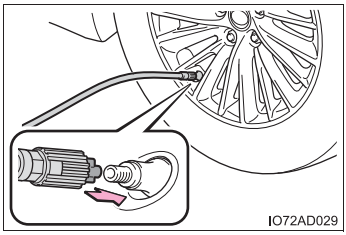
トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからボトルのホースを取りはずす

2 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－40℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■**応急修理キットについて**

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
  急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ作動部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・再度、空気圧を測ってください。130kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
  取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはケースに入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 589 を参照してください）

警告

■タイヤがパンクしたときは

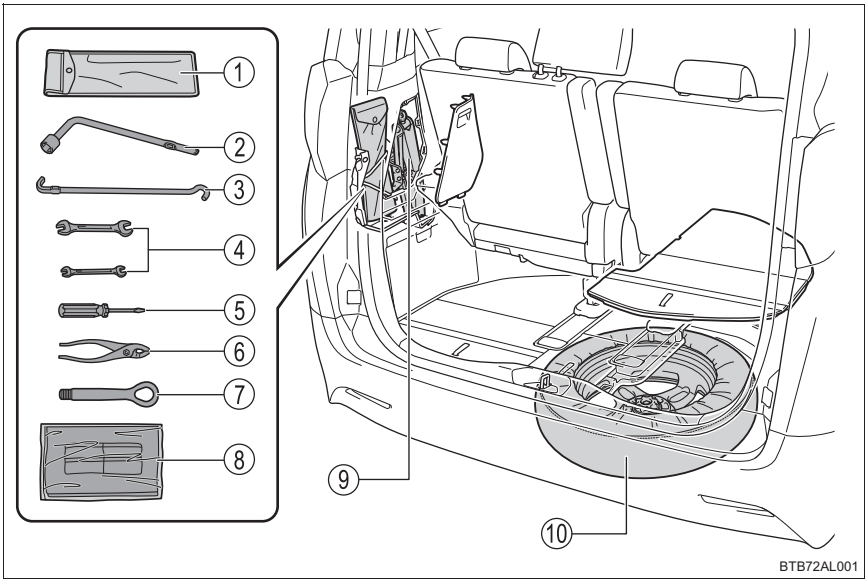
パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 615）
- パワードアオフスイッチを OFF にする（→ P. 167）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

工具とジャッキの位置



① 工具袋
② ホイールナットレンチ
③ ジャッキハンドル
④ スパナ★
⑤ ドライバー★
⑥ プライヤー★
⑦ けん引フック
⑧ 汚れ防止シート
⑨ ジャッキ
⑩ 応急用タイヤ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

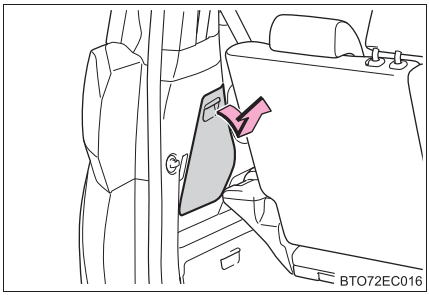
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ・工具の取り出し方

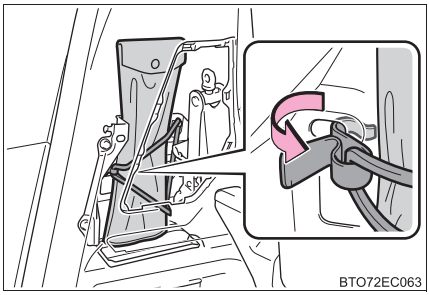
1 カバーを取りはずす

助手席側のサードシートをはね上げている（→ P. 235）ときは、シートをもとにもどしてから、カバーを取りはずしてください。

はね上げた状態ではサードシートが干渉し、カバーの取りはずしが困難になる場合があります。



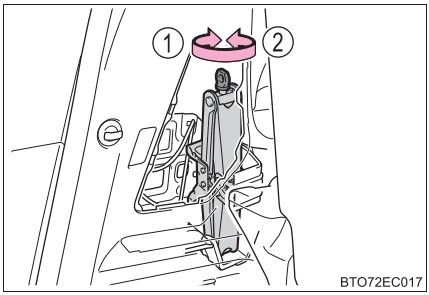
2 固定バンドのフックをはずし、工具袋を取り出す



3 ジャッキをゆるめて取りはずす

① 締まる

② ゆるむ

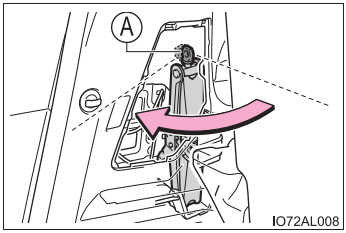


知識

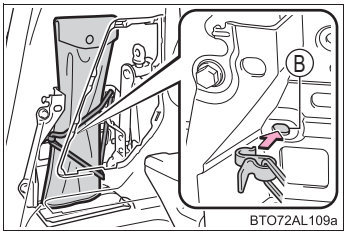
■ジャッキ・工具を使用したあとは

次の手順でもとどおり車両に搭載してください。ジャッキ・工具袋が正しく搭載されていないと、走行中に異音の発生の原因となる可能性があります。

1 ジャッキを収納部に載せ、Ⓐ部をまわして位置を固定したあと、約 2.0 ～ 4.0N・m（0.2 ～ 0.4kgf・cm）の力でしっかりと締め付ける（ジャッキを軽く固定したあとに、約 90° ～ 180° まわします）



2 工具袋を固定するバンドのフックは、Ⓑの穴に掛ける



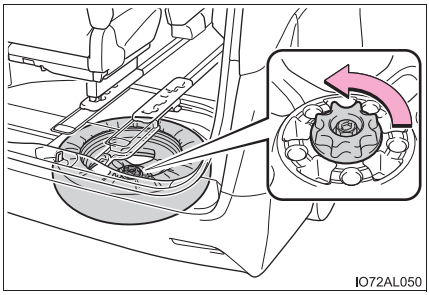
応急用タイヤの取り出し方

1 運転席側のサードシートをはね上げる（→ P. 235）

2 運転席側のデッキボードを取りはずす

3 留め具を取りはずす

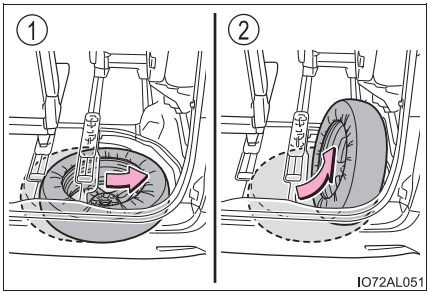
応急用タイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください）



4 次の要領で応急用タイヤを車両右側から取り出す

① 応急用タイヤを右側に引き出す

② 上に向かって転がす要領で応急用タイヤを取り出す



5 応急用タイヤカバーを取りはずす

警告

■応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

注意

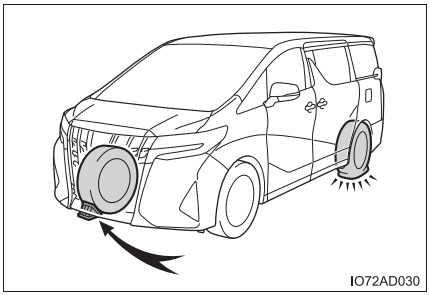
■搭載場所から応急用タイヤを取り出すとき

応急用タイヤのホイール部分をつかんで取り出してください。応急用タイヤカバーをつかんで取り出そうとすると、応急用タイヤカバーが損傷するおそれがあります。

パンクしたタイヤの交換

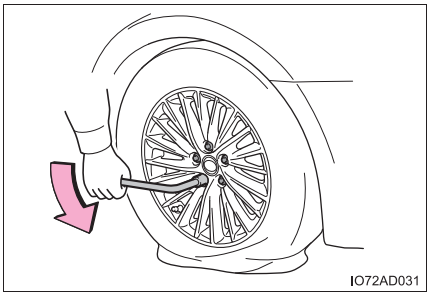
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

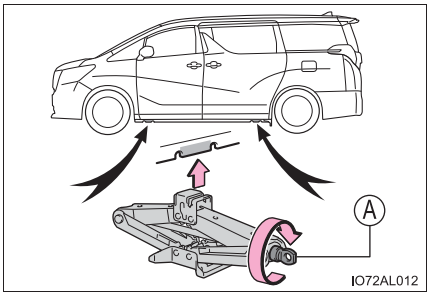


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

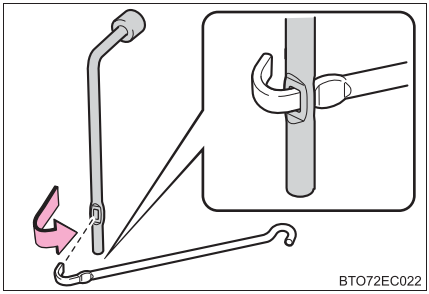
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



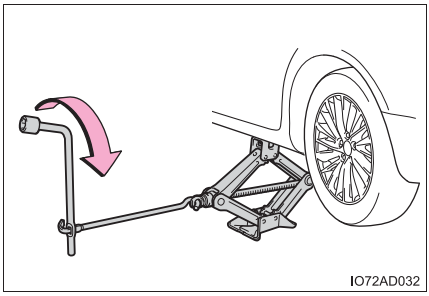
3 ジャッキのⒶ部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせる

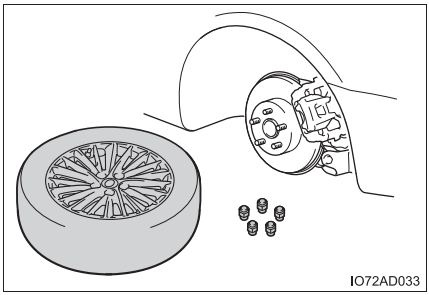


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
・パワーバックドア非装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→ P. 167）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチを操作したときにスライドドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。
・パワーバックドア装着車：タイヤ交換などをする際は、パワードアオフスイッチ（→ P. 167）を OFF にしてください。OFF にしないと、誤ってパワースライドドアスイッチ／パワーバックドアスイッチを操作したときにスライドドア／バックドアが動き、指や手などを挟んでけがをするおそれがあります。

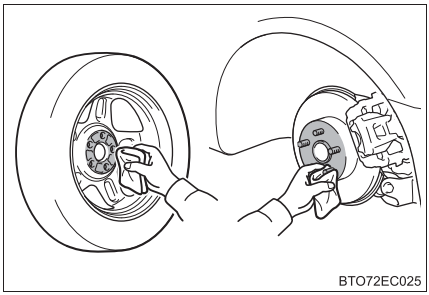
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後は、すぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→ P. 592）

タイヤの取り付け

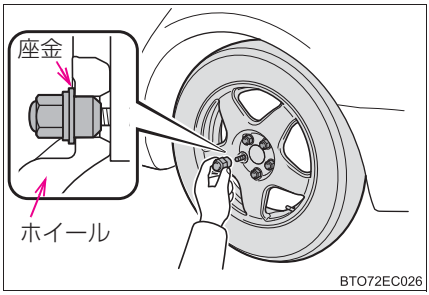
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。


BTO72EC025

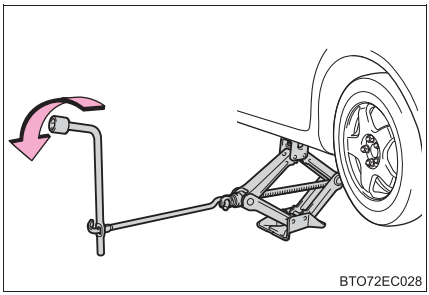
2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわします。



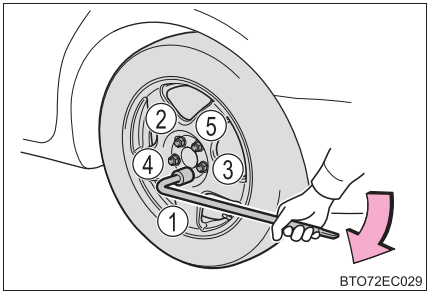
BTO72EC026

3 車体を下げる


BTO72EC028

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）



BTO72EC029

5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

パンクしたタイヤは、応急用タイヤ格納位置に格納できません。ラゲージルームに収納してください。（→ P. 667）

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 693）

■応急用タイヤを装着しているとき

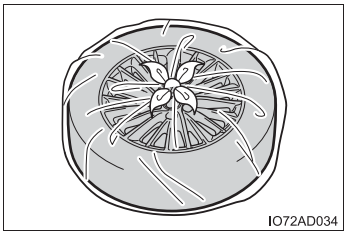
応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1. 後輪を応急用タイヤに交換する
2. パンクした前輪をはずした後輪と交換する
3. タイヤチェーンを前輪に装着する

■標準タイヤの格納について

標準タイヤは、応急用タイヤが格納してある場所には格納できません。パンクなどではずした標準タイヤは、汚れ防止シートに包んでラゲージルームに格納してください。



警告

■**応急用タイヤを使用するとき**

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■**応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- EPS
- VDIM
- アダプティブハイビームシステム★
- オートマチックハイビーム★
- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- BSM（ブラインドスポットモニター）★
- クリアランスソナー
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）★
- インテリジェントパーキングアシスト 2★
- パノラミックビューモニター★
- GPS ボイスナビゲーション★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- E-Four（電気式 4WD システム）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**ジャッキや工具を使用したあとは**

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

注意

■**応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなる場合があります。段差を乗りこえるときは注意してください。

■**タイヤチェーンの装着について**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 283）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 672）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。（→ P. 100）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 104）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 671）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 675）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 582）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 582）
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 675）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→ P. 298）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 パワースイッチをアクセサリーモードにする

4 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 194）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠とキー連動操作

メカニカルキー（→ P. 150）を使って次の操作ができます。

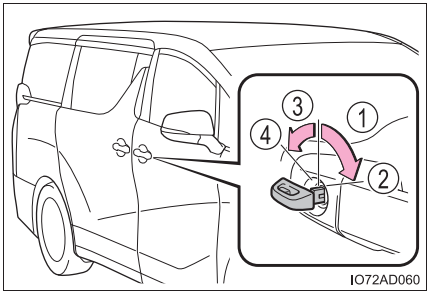
① 全ドア施錠

② ドアガラスとリヤムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）※

③ 全ドア解錠

④ ドアガラスとリヤムーンルーフ★が開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。（→ P. 700）

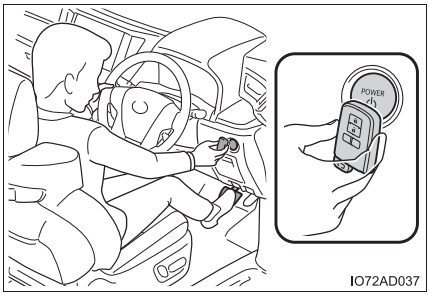


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 スイッチが付いている側を表にして、電子キーでパワースイッチにふれる

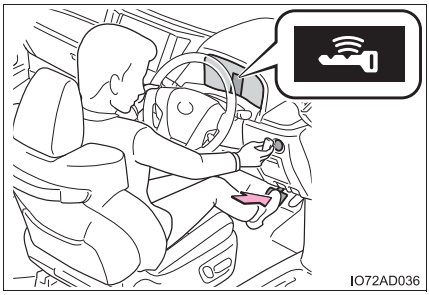


電子キーの形状は、グレード等により異なります。（→ P. 150）

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかり踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する



4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステム停止のしかた

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 604）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P. 106）

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順3で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P. 284）

■電子キーが正常に働かない場合

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
  （メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車のみ：→P. 697）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
  設定されている場合は解除してください。（→P. 193）

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスとリヤムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやリヤムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやリヤムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

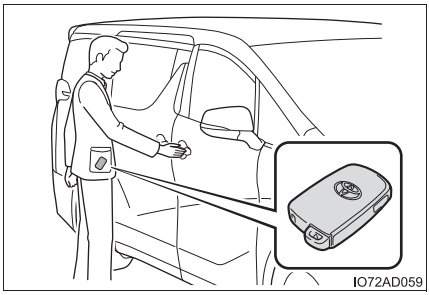
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

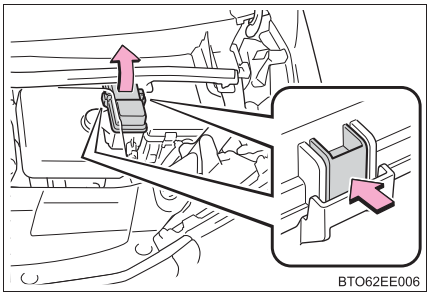
1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。
(→ P. 107)


IO72AD059

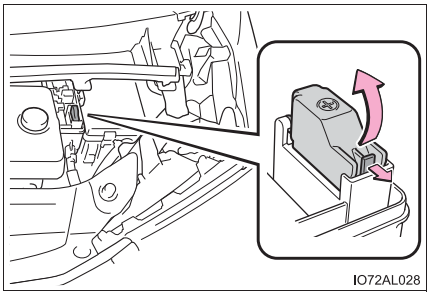
2 ボンネットを開けて(→P. 581)、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げます。


BTO62EE006

3 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを軽く引きながら、カバーを開けます。


IO72AL028

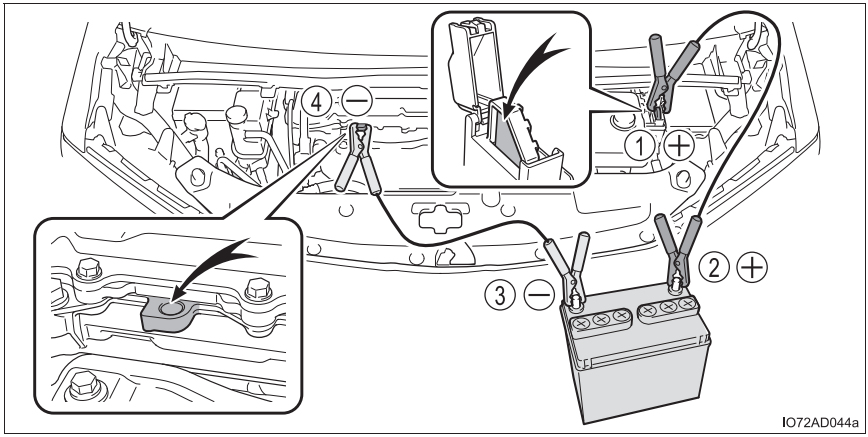
4 ブースターケーブルを次の順につなぐ

① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ



5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→ P. 703）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーについて

→ P. 582

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初のハイブリッドシステム始動は失敗することがあります。2 回目以降のハイブリッドシステム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーを交換するとき

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（51Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（380A）以上の補機バッテリーを使用してください。

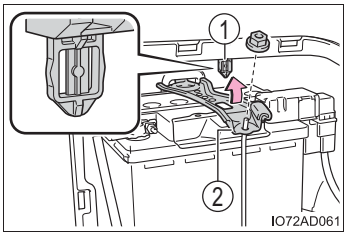
・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●一括排気タイプのカルシウムバッテリーを使用してください。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●補機バッテリーを取りはずすときは、ナットをはずしてからクランプの先端を持ち上げ、上部のクリップに挿し込んでクランプを固定します。

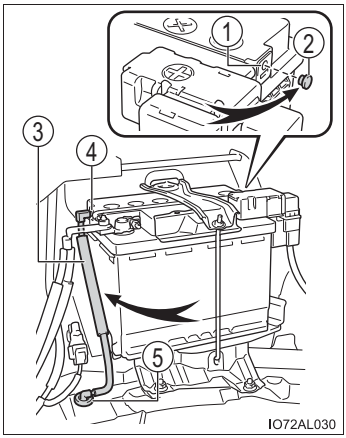
① クリップ
② クランプ



●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
・排気ホースと補機バッテリー排気穴に、エルボが確実に接続されていることを確認してください。
・エルボが接続されていない側の排気穴に、排気穴栓が確実に接続されていることを確認してください。
・エルボ／排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります)

① 排気穴
② 排気穴栓
③ 排気ホース
④ 排気穴
⑤ 車両穴部



詳細が不明な場合や、補機バッテリーについては、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

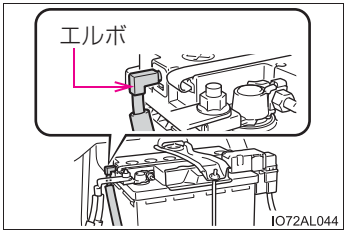
警告

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 補機バッテリー交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に、排気ホースとつながったエルボと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。



■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ブースターケーブルの取扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援しないでください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 117）の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」または「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示される（→ P. 633）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」が表示されたとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

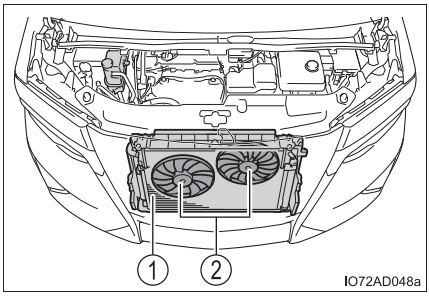
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

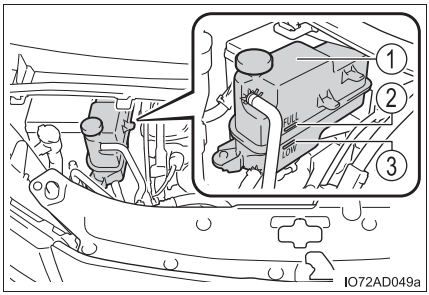


4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と “LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

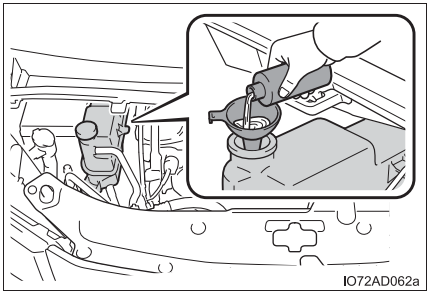
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください」表示を確認する

表示が消えていない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ マルチインフォメーションディスプレイに「ハイブリッドシステム高温　出力制限中です」が表示されたとき

1 安全な場所に停車する

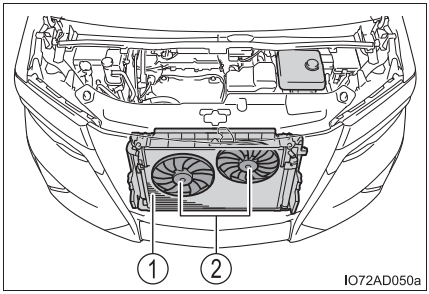
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

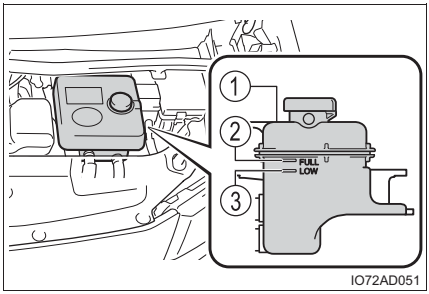


4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

② “FULL”（上限）

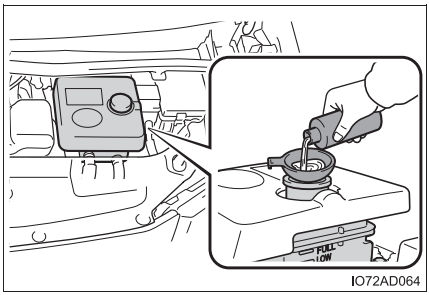
③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

応急措置として水を補給した場合は、できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受けてください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えていない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

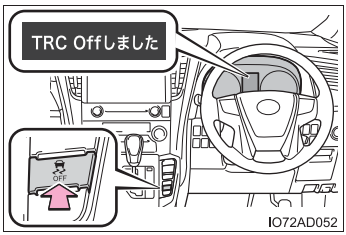
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....690
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....694
8-3. 初期設定
初期設定が必要な項目.....703

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	65

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正 キヤッスル モーターオイル SN 0W-20※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正 キヤッスル モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.0	4.4

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

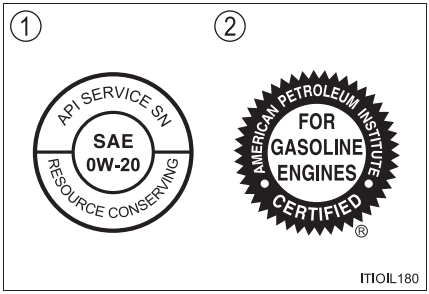
※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC規格合格油の缶にはILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

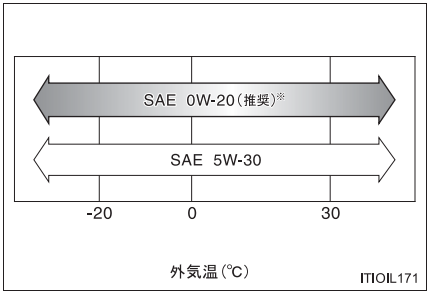
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATIONマーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は、新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12℃ 濃度 50%　－ 35℃	ガソリンエンジン	9.3
	インバーター	3.3

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.8

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（リヤ電動モーター）

指定銘柄	容量［L］（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード　WS	1.8

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	161 以上

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、490N（50kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
2.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/65R16 98H	16×6 1/2J	240（2.4）	
	225/60R17 99H	17×6 1/2J	240（2.4）	
応急用タイヤ★	T155/80D17 100M	17×4T	420（4.2）	

電球（バルブ）※

電球	W（ワット）数
マップランプ（バルブタイプ★）	8
リヤパーソナルランプ（セカンドシート／サードシート）（バルブタイプ★）	5
ドアカーテシランプ★	5
ラゲージルームランプ	5
バニティランプ	8

※ 表に記載の無いランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
アルファード	AYH30W	2AR-FXE（2.5L ガソリン）	フロント：2JM リヤ：2FM	4WD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、メーカーオプションのナビゲーションシステム★・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

設定変更のしかた

以下の方法で設定変更が可能な項目は「車両カスタマイズ設定一覧」（→ P. 695）をご確認ください。

■ メーカーオプションのナビゲーションシステムで設定するには

▶ クリアランスソナーを除く

1 「設定・編集」ボタンを押す

2 ［›］を押し、「車両」画面を表示する

3 「設定・編集」画面の「車両」を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

BTO20EC022

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）、「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整し、⮌ を選択します。

▶ クリアランスソナー

→ P. 411

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 131

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

① メーカーオプションのナビゲーションシステム★の画面操作で設定変更可能

② 車両側のスイッチなどで設定変更可能

③ トヨタ販売店で設定変更可能

■ 車両接近通報装置（→ P. 95）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
音量調整	レベル 1	レベル 2	—	—	○
		レベル 3			

■ ドアロック（→ P. 160）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	○	○
運転席を開けたときの全ドア自動解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パワースライドドア（→ P. 163）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スライドドアスイッチ反応時間	0.3 秒	OFF	―	―	○
		0.5 秒			
		0.8 秒			

■ パワーバックドア★（→ P. 181）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
バックドアスイッチの作動	長押し	短押し	―	―	○
作動の合図（ブザー）	する	しない	―	―	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→ P. 156,163,181,191）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを施錠･解錠したときの非常点滅灯の点滅（施錠・解錠時非常点滅灯応答）	あり	なし	○	―	○
半ドア警告ブザー	あり	なし	―	―	○
ドアを施錠･解錠したときの作動確認ブザー音量（施錠・解錠時ブザー音量調節）	レベル 5	OFF	○	―	○
		レベル 1 ～ 7			
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	―	―	○
		120 秒			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 191）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	―	○
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	―	―	○

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 156）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ワイヤレス機能	あり	なし	―	―	○

■ ドライビングポジションメモリー★（→ P. 219）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
降車時の運転席シート移動量調節（降車時運転席シート移動量調整）	標準	OFF	○	―	○
		少なめ			
メモリーコール機能と連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	―	―	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→ P. 304）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ライトセンサーの感度調整（コンライト感度調整）	標準	－2～2	○	―	○
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	―	―	○

■ デイライト★（→ P. 305）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
デイライトの点灯	あり	なし	―	―	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ イルミネーション（→ P. 529）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアを閉めたあと、点灯している室内灯が自動で消灯するまでの時間（室内照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○
電子キーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○

■ メーター（→ P. 116, 121）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
周囲の明るさにより、メーターなどの照度を自動減光するためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	—	—	○
周囲の明るさにより、減光したメーターなどの照度をもとにもどすためのセンサーの感度調節	0	－2～+2	—	—	○

■ エアコン（→ P. 512）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
排ガスセンサー感度調整★	標準	－3～+3	○	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコドライブモード（→ P. 292）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
エコドライブモード時にヒーター／冷却機能を最小限にする	あり	なし	―	―	○

■ オートアラーム（→ P. 105）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	―	―	○

■ クリアランスソナー（→ P. 405）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
クリアランスソナー作動時のブザー音量（ブザー音量設定）	3（中）	1 ～ 5（小～大）	○ ※	―	○
フロントセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）★	遠い	近い	○ ※	―	○
フロントサイドセンサー／リヤサイドセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）★	遠い	近い	―	―	○
バックセンサーの感知可能距離（画面表示ブザータイミング）	遠い	近い	○ ※	―	○
ナビゲーション画面★へのクリアランスソナー表示（ソナー表示）	表示	非表示	○ ※	―	○

※ → P. 411

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インテリジェントパーキングアシスト2★（→P. 432）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
障害物回避距離	標準	短い	—	—	○
		少し長い			
		長い			
並列駐車可能スペース	標準	狭い	—	—	○
		少し広い			
		広い			
縦列駐車可能スペース	標準	狭い	—	—	○
		少し広い			
		広い			

■ パワーウインドウ（→P. 263）、リヤムーンルーフ★※（→P. 267）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能（ブザー）	あり	なし	—	—	○

※：パワーウィンドウの設定を変更すると、リヤムーンルーフ★の設定も連動して変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→ P. 259）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	―	―	○
		パワースイッチと連動			
リバース連動作動	あり	なし	―	―	○

■ アダプティブハイビームシステム★（→ P. 307）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	―	―	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	―	―	○
		広い			
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	―	―	○
		約 80km/h から作動			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	―	―	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	―	―	○

※：オートマチックハイビームとして作動します。（→ P. 312）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

●「車速感応式自動ドアロック」と「シフトレバーをＰ以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。

・シフトレバーをＰ以外にすると全ドア施錠されます。
・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応式ドアロックが作動します。

●解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

警告

■カスタマイズを行うときは

ハイブリッドシステムを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パノラミックビューモニター★	・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
パワースライドドア		P. 171
パワーバックドア★		P. 186
パーキングサポートブレーキ★		P. 429
インテリジェントパーキングアシスト２★		P. 495
パワーウインドウ	正常に働かないとき	P. 264
リヤムーンルーフ★		P. 268

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....706
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....710
アルファベット順さくいん.....712
五十音順さくいん.....714

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りのお客さまは、次の装備については別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・後席 12.1 型ワイドディスプレイ
・音声操作システム
・パノラミックビューモニター
・ETC2.0 システム
・ハンズフリー
・T-Connect

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キーまたはメカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 153）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 155）

解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 604）
- パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときはパワースイッチを OFF にしてください（→ P. 284）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 194）

スライドドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください（→ P. 167）

スライドドアが全開にならない

- 中間ストッパーがかかっていませんか？
  給油口が開いていると、スライドドアは途中までしか開きません（中間ストッパー位置で停止します）。給油口を閉じ、いったんスライドドアを全閉にしてから、再度スライドドア開けてください。（→ P. 170）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→ P. 283）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 285）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 192）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 673）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 675）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON モードになっていますか？
  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 294）

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 286）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 263）

パワースイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 285）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 710）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 628、633 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 640）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 657）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 687）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 105
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 637
	窓・リヤムーンルーフ★が開いている（ハイブリッドシステム停止中のみ）	P. 264 P. 268
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 105
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 604
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 192
	電子キーを車内に置き忘れている	P. 192

※ ドアまたはバックドアを解錠する、またはパワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 630
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 300
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 630
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 294
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 277
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している	P. 368
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 334
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P. 344
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P. 358
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P. 399

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 512, 523
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 496
AHB
（オートマチックハイビーム）. 312
AHS
（アダプティブハイビームシステム）. 307
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 391
DCM
（データコミュニケーションモジュール）. 67
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）. 496
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 496
EV
（エレクトリックビークル）. 289
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 691
IPA
（インテリジェントパーキングアシスト 2）. 432
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 58
LTA
（レーントレーシングアシスト）. 344
PCS
（プリクラッシュセーフティ）. 334
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）. 420
PLS
（ポイントライトソース）. 251
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）. 399

RF-transmitter（Radio Frequency-transmitter）
（ラジオフリクエンシートランスミッター）. 9
RSA
（ロードサインアシスト）. 356
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 35
Toyota Safety Sense
LTA（レーントレーシングアシスト）. 344
PCS（プリクラッシュセーフティ）. 334
RSA （ロードサインアシスト）. 356
アダプティブハイビームシステム 307
オートマチックハイビーム 312
先行車発進告知機能. 377
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）. 361
TRC
（トラクションコントロール）. 496
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 496
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 496

五十音順さくいん

あ

アースポイント（補機バッテリーあがりの処置）..... 676
アームレスト 214, 217
RSA（ロードサインアシスト）..... 356
ITS Connect..... 380
アウターミラー（ドアミラー）... 259
　操作 259
　BSM（ブラインドスポットモニター）..... 391
アクセサリーコンセント 551
アクセサリーソケット..... 549
アクセサリーモード..... 284
アシストグリップ..... 568
足元照明 529
アダプティブハイビームシステム 307
アラーム 105
　オートアラーム 105
　音さくいん..... 710
　警告ブザー..... 628
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 496
アンテナ（スマートエントリー&スタートシステム）..... 191

い

イージークローザー（スライドドア／バックドア）..... 169, 185
EV ドライブモード.....289
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....283
位置交換（タイヤローテーション）.....589
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム..... 104
イルミネーテッドエントリーシステム.....529
インジケーター（表示灯）..... 113
インテリアランプ（室内灯）.....529
　操作.....531, 532, 534
　ワット数 693
インテリジェントパーキングアシスト 2（IPA）.....432
　縦列出庫機能 469
　縦列駐車機能 461
　前進誘導機能 452
　操作.....434
　バック駐車機能.....456
インナーミラー 245, 247

う

ウインカー（方向指示灯）..... 296
方向指示レバー..... 296
ランプの交換..... 611
ウインドウ 263
ウォッシャー..... 318, 322
パワーウインドウ 263
リヤウインドウ
デフォッガー 515
ウインドシールドデアイサー 516
ウインドウロックスイッチ 263
ウェルカム
パワースライドドア 168
ウォーニングランプ
（警告灯）..... 111, 628
ウォッシャー 318, 322
液の補充..... 587
スイッチ..... 318, 322
タンク容量..... 693
冬の前の準備・点検 505
動けなくなったときは
（スタック）..... 687
雨滴感知式ワイパー..... 319
運転..... 272
運転を補助する装置 496
寒冷時の運転..... 505
正しい運転姿勢 26
手順 272
運転席シートポジション
メモリー 219

え

エアコン.....512, 523
S-FLOW.....513
「ナノイー」.....519
フィルターの交換.....595
フロントエアコン.....512
リヤエアコン 523
エアバッグ.....35
SRS エアバッグ警告灯.....111
作動条件 39
配置.....35
ESPO 画面.....140
LTA（レーントレーシング
アシスト）.....344
警告メッセージ.....355
操作.....350
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）.....496
機能.....496
警告灯 111, 629
警告ブザー 629

エンジン
イモビライザーシステム..... 104
ハイブリッドシステムが
始動できない 670
エンジン警告灯 111, 628
パワースイッチ 283
ハイブリッドシステムの
始動方法 283
オーバーヒート 682
ボンネット 581
エンジンオイル..... 690
冬の前の準備・点検 505
メンテナンスデータ 690
油圧警告灯 111, 630
油圧警告ブザー 631
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 283
エンジンフード（ボンネット）... 581
開け方..... 581
エンジンルーム
エンジンルームから
蒸気が出ている 682

お

オイル（エンジンオイル）.....690
応急用タイヤ.....657
空気圧 693
交換方法 657
オーディオ ※
オートアラーム 105
オートアドアロック・
アンロック機能 160
オートエアコン 512, 523
オートマチック
トランスミッション.....291
操作 291
オートマチックハイビーム.....312
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）.....306
オーバーヒート.....682
オープナー
給油口 324
ボンネット 581
おくだけ充電
（ワイヤレス充電器）.....558
お子さまを乗せるとき.....43
ウインドウロックスイッチ 263
お子さまの安全のために 43
子供専用シート.....44
シートベルトの着用.....32
チャイルドシートの
取り付け 44
チャイルドプロテクター 167
オドメーター.....117
機能 117
表示切りかえボタン.....117

か

カーテンシールドエアバッグ 35
カーペット 24
洗浄 578
フロアマットの取り付け方 24
外気温度表示 116
外装のランプ 611
交換について 611
カスタマイズ機能 694
型式 693
カップホルダー 539
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー） 515
ガレージジャッキ 585
冠水路走行 281
寒冷時の運転 505

き

キー 150
ハイブリッドシステムが
始動できない 670
キーナンバープレート 150
キーの構成 150
キーレスエントリー 156, 191
キーをなくした 153, 155
正常に働かない 672
解錠・施錠ができない 672
電子キー 150
電池が切れた 604, 672
メカニカルキー 150
ワイヤレスリモコン
..... 151, 157, 163, 181
キーレスエントリー 156, 191
スマートエントリー&
スタートシステム 191
ワイヤレスドアロック 156
給油 324
給油のしかた 324
緊急時シートベルト固定機構 32
緊急時の対処
ハイブリッドシステムが
始動できない 670
オーバーヒートした 682
キーの電池が切れた 604, 672
警告灯がついた 628
警告メッセージが
表示された 633
けん引 619
故障したときは 614
車両を緊急停止する 618
スタックした 687
電子キーが正常に働かない 672
発炎筒 616
補機バッテリーがあがった 675
パンクした 640, 657

く

空気圧（タイヤ） 693
メンテナンスデータ 693
区間距離計
（トリップメーター） 117
機能 117
表示切りかえボタン 117

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

曇り取り
フロントウインドウ
ガラス.....515
ミラーヒーター.....515
リヤウインドウ
デフォッガー.....515
クラクション（ホーン）.....243
クリアランスソナー.....405
警告メッセージ.....415
警告ブザー.....409
操作.....405
クリアランスランプ（車幅灯）...304
スイッチ.....304
ランプの交換.....611
クリップ
フロアマット.....24
クルーズコントロール.....361
グローブボックス.....537
グローブボックスランプ.....537

け

警音器（ホーン）.....243
計器類（メーター）.....116
警告灯.....111
照度調整.....117
表示灯.....113
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....121
メーター.....116
警告灯.....111
ABS &ブレーキアシスト.....629
LTA 表示灯.....631
SRS エアバッグ.....628
エンジン.....628
高水温.....630
充電.....628
シートベルト非着用.....630
スリップ表示灯.....629
ドライブスタート
コントロール.....631
燃料残量.....630
パーキングブレーキ.....629
パワーステアリング.....629
半ドア.....630
PCS.....629
PKSB.....631
PKSB OFF 表示灯.....630
プリテンショナー.....628
ブレーキ.....628
ブレーキオーバーライド
システム.....631
ブレーキホールド.....629
マスターウォーニング.....630
油圧.....630

警告ブザー
運転席・助手席シートベルト
非着用 630
クリアランスソナー 409
シフトダウン制限 294
スマートエントリー&
スタートシステム 192
先行車発進告知機能 377
パーキングブレーキ
未解除走行時 300
パワーステアリング 629
半ドア 158
半ドア走行時 162
PKSB 425
PCS 334
ブレーキ 628
窓開 264
油圧 630
ランプ消し忘れ 306
リバース 293
リヤムーンルーフ開 268
レーダークルーズ
コントロール 375
警告メッセージ 633
化粧ミラー（バニティミラー） 548
けん引 619
けん引のしかた 619
フック 621

こ

交換
エアコンフィルター 595
外装のランプ 611
キーの電池 604
タイヤ 657
ヒューズ 608
ワイパーゴム 598
工具（ツール） 643, 658
後席用サンシェード 564
航続可能距離 126
後退灯（バックアップランプ）
ランプの交換 611
高電圧部位 94
コーナリングランプ 305
子供専用シート 44
選択方法 52, 60
取り付け方 51, 58, 64
小物入れ 543
コンビニフック
（買い物フック） 567
コンソールボックス 537
コンライト
（自動点灯・消灯装置） 304

さ

サービスプラグ..... 98
サイドエアバッグ..... 35
サイドテーブル..... 565
サイド方向指示灯
　方向指示レバー..... 296
　ランプの交換..... 611
サイドミラー（ドアミラー）..... 259
　操作..... 259
　BSM（ブラインドスポット
　　モニター）..... 391
坂道発進補助機能..... 496
サンシェード
　スライドドア..... 564
　ムーンルーフ..... 268
サンバイザー..... 548
サードシート..... 217

し

シート..... 198, 202,217
　子供専用シート.....44
　サードシート.....217
　シートアレンジ.....231
　セカンドシート.....202
　正しい運転姿勢.....26
　調整.....198, 202, 217
　手入れ.....577
　ドライビングポジション
　　メモリー.....219, 225
　パワーイージーアクセス
　　システム.....219
　フロントシート.....198
　ヘッドレスト.....227
　ポジションメモリー.....221
　メモリーコール機能.....223
シートアレンジ.....231
シートヒーター.....526
シートベルト.....28
　お子さまの着用.....32
　緊急時シートベルト
　　固定機構.....32
　シートベルト非着用
　　警告灯.....111, 630
　正しく着用するには.....28
　着け方・はずし方..... 28, 29, 30
　手入れ.....578
　妊娠中の方の着用.....33

シートベルトプリテンショナー..... 31
機能 31
プリテンショナー
警告灯..... 111, 628
事故が発生したとき
（ハイブリッドシステムの
注意）..... 101
室内灯
読書灯..... 534
マップランプ..... 532
ルーフカラー
イルミネーション..... 535
リヤパーソナルランプ..... 532
ワット数..... 693
始動のしかた 283
シフトポジション..... 291
シフトレバー 291
シフトレンジの切りかえ..... 291
シフトロックシステム
（解除ボタン）..... 293
操作 291
リバース警告ブザー 293
シフトレバーがシフト
できないときは..... 294
シフトロックシステム..... 293
締め付けトルク（ホイール）..... 666
ジャッキ
ガレージジャッキ 585
車載ジャッキ..... 643, 658
ジャッキハンドル..... 643, 658
車幅灯
スイッチ 304
ランプの交換 611
車両型式.....693
車両仕様（スペック）.....690
車両接近通報装置 95
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには.....618
ジュニアシート.....52
瞬間燃費.....126
仕様（車両仕様）.....690

す

スイッチ
アダプティブハイビーム
システム 308
EV ドライブモード.....289
イグニッション.....283
IPA（インテリジェント
パーキングアシスト 2）.....432
ウインドウロック.....263
ウインドシールドデアイサー
.....516
ウォッシャー 318, 322
ECO MODE 292
LTA.....350
オートマチックハイビーム 312
クルーズコントロール 361
シート調整 198, 202, 217
シートヒーター.....526
シートベンチレーター 526

シートポジション
メモリー.....219, 225
車間距離切りかえ
（レーダークルーズ
コントロール）.....367
車両接近通報
一時停止.....95
ステアリングヒーター.....527
ドアミラー.....259
ドアロック.....159
パワーウインドウ.....263
パワースイッチ.....283
パワースライドドア.....166
パワーバックドア.....183
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....615
VSC OFF.....497
フォグランプ.....316
ヘルプネット（T-Connect
DCM 単体）.....74
メーター操作.....123
ランプ.....304
リヤウインドウ
デフォッガー.....515
ワイパー.....318, 322
スタック.....687
ステアリングホイール
（ハンドル）.....243
位置調整.....243
スイッチ.....123, 570
ステアリングヒーター.....526
ステアリングロック.....286
解除できないとき.....286
警告メッセージ.....286
ストップランプ（制動灯）
ランプの交換.....611
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....505
スピードメーター.....116
スペアタイヤ（応急用タイヤ）
空気圧.....693
交換方法.....657
スペック（車両仕様）.....690
スマートエントリー&
スタートシステム.....191
アンテナの位置.....191
ハイブリッドシステムの
始動.....283
カスタマイズ設定.....694
警告メッセージ.....633
警告ブザー.....192, 633
作動範囲.....192
正常に働かないとき.....672
節電機能.....193
電波がおよぼす影響
について.....197
ドアの解錠・
施錠.....156, 163, 181
スモールランプ（車幅灯）.....304
スイッチ.....304
ランプの交換.....611
スライドドア.....163
スライドドア
イージークローザー.....169
スマートエントリー&
スタートシステム.....163
ドアガラス.....263
半ドア警告灯.....630
半ドア走行時警告ブザー.....162
パワースライドドア.....164
窓開警告ブザー.....264
ロックレバー.....163
ワイヤレスリモコン.....163

せ

清掃 572, 577
アルミホイール 574
外装 572
シートベルト 578
内装 577
レーダー 330
制動灯
ランプの交換 611
セカンドシート 202
シートヒーター 526
シートベンチレーター 526
シートポジションメモリー 225
正しい運転姿勢 26
調整 202
手入れ 577
セカンドシート
ポジションメモリー 225
積算距離計（オドメーター） 117
機能 117
表示切りかえボタン 117
セキュリティ
インジケーター 104, 105
先行車発進告知機能 377
センサー
インナーミラー 246
デジタルインナーミラー 253
雨滴感知センサー 320
Toyota Safety Sense 330
ブラインドスポット
モニター 394
洗車 572

そ

速度計（スピードメーター） 116

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯） 296
ランプの交換 611
方向指示レバー 296
タイヤ 589
応急用タイヤ 657
空気圧 593, 693
交換 657
締め付けトルク 666
点検 589
パンクしたときは 640, 657
ホイールサイズ 693
ローテーション
（位置交換） 589
タイヤが空まわりする
（スタックした） 687
タイヤチェーン 505

前照灯（ヘッドランプ） 304

スイッチ 304
ライトセンサー 305
ランプ消し忘れ警告ブザー 306
ランプ消し忘れ防止機能 305
ランプの交換 611

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 505
チャイルドシート..... 44
ISOFIX バーでの取り付け..... 58
シートベルトでの固定..... 51
選択方法..... 52, 60
チャイルドプロテクター..... 167
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 297
操作 297
警告灯..... 111
警告ブザー..... 300

つ

ツインムーンルーフ..... 267
リヤムーンルーフ開
警告ブザー 268
通信利用型レーダークルーズ
コントロール..... 370
ツール（工具）..... 643, 658

て

T-Connect DCM 単体 67
T-Connect について..... 67
ヘルプネット
（エアバッグ連動タイプ）..... 74
ヘルプネットボタン 74
マイカー Security 89
リモートメンテナンス
サービス..... 93
ディファレンシャル..... 692
デイライト 305
手入れ.....572, 577
アルミホイール.....574
外装.....572
シートベルト 578
デジタルインナーミラー 254
内装.....577
デジタルインナーミラー.....247
デッキフック.....547
デッキボード.....545
テールランプ（尾灯）.....304
スイッチ 304
ランプの交換 611
デフォッガー
（リヤウインドウ
デフォッガー）.....515
電球（バルブ）
外装のランプの交換に
ついて 611
ワット数 693
点検基準値
（メンテナンスデータ）.....690
電子キー.....150
作動範囲 192
正常に働かないとき.....672
節電機能 193
電池が切れた 604, 672
電池交換 604
電池交換（キー）.....604

と

ドア 156, 163, 181
スマートエントリー&スタートシステム..... 191
チャイルドプロテクター..... 167
ドアガラス 263
窓開警告ブザー 264
ドアロックスイッチ 159
半ドア警告灯 630
半ドア走行時警告ブザー..... 162
ロックレバー 159, 163
ワイヤレスリモコン 151, 157, 163, 181
ドアカーテシランプ 529
位置 529
ワット数 693
ドアミラー 259
操作 259
盗難防止装置
イモビライザーシステム 104
オートアラーム 105
読書灯 534
時計 548
トップテザーアンカー 64
Toyota Safety Sense..... 328
RSA（ロードサインアシスト）..... 356
アダプティブハイビームシステム 307
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 344
オートマチックハイビーム 312
先行車発進告知機能 377
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....334
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....361
ドライビングポジションメモリー 219, 225
パワーイージーアクセスシステム 219
ポジションメモリー 221
メモリーコール機能 223
ドライブインフォメーション 126
トラクションコントロール（TRC）.....496
トランスミッション 291
操作 291
メンテナンスデータ 692
トリップメーター 117
機能 117
表示切りかえボタン 117

な

内装
収納装備 536
手入れ 577
「ナノイー」.....519
ナビゲーションシステム ※

※：メーカーオプションのナビゲーションシステムは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

に

ニーエアバッグ..... 35
荷物
積むときの注意 282

ぬ

ぬかるみにはまった
（スタックした）..... 687

ね

燃費
瞬間燃費..... 126
平均燃費..... 126
燃費画面 140
燃料..... 690
給油 324
種類 690
燃料残量警告灯 111, 630
容量 690
燃料計 116

は

パーキングサポートブレーキ
（PKSB）..... 420
警告灯..... 425, 631
警告ブザー..... 425
警告メッセージ 425, 429
操作 420
表示灯..... 113
パーキングブレーキ..... 297
操作 297
警告灯..... 111, 629
警告ブザー..... 300
パーソナルランプ 532
操作 532
ワット数 693
排気ガス.....66
ハイビーム（ヘッドランプ）.....304
アダプティブハイビーム
システム 307
オートマチックハイビーム 312
スイッチ 304
電球（バルブ）の交換.....611
ハイブリッドシステム.....94
EV ドライブモード.....289
運転のアドバイス.....503
オーバーヒート.....682
回生ブレーキ 95
ガス欠になったとき.....100
緊急始動機能 671
緊急時の停止方法.....618
緊急停止システム.....99
駆動用電池冷却用吸入口 99
高電圧部位 94
サービスプラグ.....98
事故が発生したとき.....101
始動できないときは.....670
始動方法 283
車両接近通報装置.....95
充電.....96
注意.....98
特徴.....94
特有の音と振動.....97
パワー（イグニッション）
スイッチ 283
補機バッテリーがあがった 675
メンテナンス・修理・
廃車するとき.....97

ハイブリッドシステム
インジケーター..... 118
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換..... 611
バイオ混合ガソリン..... 324
ハザードランプ（非常点滅灯）... 615
スイッチ..... 615
電球（バルブ）の交換..... 611
挟み込み防止機能
スライドドア..... 171
バックドア..... 186
パワーウインドウ..... 263
リヤムーンルーフ..... 268
発炎筒..... 616
バックアップランプ（後退灯）
ランプの交換..... 611
バックドア..... 181
バックドア
イージークローザー..... 185
スマートエントリー&
スタートシステム..... 181
半ドア警告灯..... 630
半ドア走行時警告ブザー..... 162
パワーバックドア..... 183
ワイヤレスリモコン..... 183
バッテリー（駆動用）..... 98
充電について..... 96
搭載位置..... 98
冷却用吸入口..... 99
バッテリー（補機バッテリー）....582
交換するとき.....678
搭載位置.....582
バッテリーがあがった.....675
バニティ（化粧用）ミラー.....548
バルブ（電球）
外装のランプの交換に
ついて.....611
ワット数.....693
パワーイージーアクセス
システム.....219
パワーウインドウ.....263
ウインドウロックスイッチ....263
閉めることができない
ときは.....264
操作.....263
挟み込み防止機能.....263
巻き込み防止機能.....264
パワーコントロールユニット.....98
パワーステアリング.....496
機能.....496
警告灯.....629
警告ブザー.....629
警告メッセージ.....633
パワースライドドア.....164
操作.....164
挟み込み防止機能.....171
パワーバックドア.....183
パンクした
応急用タイヤ装着車.....657
タイヤパンク応急修理キット
装着車.....640

番号灯
（ライセンスプレートランプ）... 304
スイッチ 304
ランプの交換 611
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 243
位置調整 243
スイッチ 123, 570

ひ

BSM（ブラインドスポット
モニター）..... 391
BSM 機能 395
RCTA 機能 399
ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 496
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 334
ヒーター
シートヒーター 526
ステアリングヒーター..... 526
フロントエアコン 512
リヤエアコン 523
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 615
スイッチ 615
ランプの交換 611
尾灯（テールランプ）..... 304
スイッチ 304
電球（バルブ）の交換..... 611
ヒューズ 608
表示灯 113
日よけ（サンバイザー）..... 548
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 496

ふ

ブースターケーブル
のつなぎ方 675
フォグランプ 316
スイッチ 316
ランプの交換 611
ブザー
RSA
（ロードサインアシスト）.....358
RCTA（リヤクロス
トラフィックアラート）.....399
運転席・助手席シートベルト
非着用 630
クリアランスソナー.....409
シフトダウン制限.....294
車線逸脱警報機能（LTA）.....348
スマートエントリー&
スタートシステム 192
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）.....368
先行車発進告知機能.....377
パワーステアリング.....629
半ドア 158
半ドア走行時 162
PKSB 425
PCS 334
ふらつき警報機能（LTA）.....349
ブレーキ 628
窓開 264
油圧 630
ランプ消し忘れ.....306
リバース 293
リヤムーンルーフ開.....268

フック
買い物フック 567
けん引フック 621
コートフック 569
フロアマット固定フック 24
デッキフック 547
フューエルメーター（燃料計）... 116
フューエルリッド（給油口）..... 327
冬の前の準備（寒冷時の運転）... 505
冬用タイヤ 505
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 391
BSM 機能..... 395
RCTA 機能..... 399
プリクラッシュセーフティ
（PCS）..... 334
機能 334
PCS 警告灯..... 629
ブレーキ
回生ブレーキ 95
緊急ブレーキシグナル..... 497
警告ブザー 300, 628
警告メッセージ 633
パーキングブレーキ 297
ブレーキ警告灯 628
メンテナンスデータ 692
ブレーキアシスト 496
ABS ＆ブレーキアシスト
警告灯 629
機能 496
ブレーキ付近からキーキー音が
聞こえる 277
ブレーキフルード 692
ブレーキホールド 301
フロアマット 24
フロントシート 198
シートヒーター.....526
シートポジションメモリー 219
正しい運転姿勢.....26
調整 198
手入れ 577
ドライビングポジション
メモリー 219
ヘッドレスト 227
フロントフォグランプ.....316
スイッチ 316
ランプの交換 611
フロント方向指示灯 296
方向指示レバー.....296
ランプの交換 611
フロントワイパーデアイサー.....516

へ

平均燃費 126
ヘッドランプ 304
　コーナリングランプ 305
　スイッチ 304
　ライトセンサー 305
　ランプ消し忘れ警告ブザー.... 306
　ランプ消し忘れ防止機能..... 305
　ランプの交換 611
ヘッドランプオートレベリング
　システム 306
ヘッドレスト 227
ベビーシート 52

ほ

ホイール
　交換（タイヤ）..... 657
　メンテナンスデータ 693
方向指示灯 296
　方向指示レバー 296
　ランプの交換 611
ホーン（警音器）..... 243
補機バッテリー
　交換するとき 678
　搭載位置 582
　バッテリーがあがった..... 675
保証 9
補助確認装置 262
ボトルホルダー..... 541
ボンネット 581
　開け方 581

ま

マスター
　ウォーニング 111, 630, 633
マルチインフォメーション
　ディスプレイ 121
　画面の見方 121
　警告メッセージ.....633
　後席状態表示画面.....129
　設定画面 131
　ドライブ
　　インフォメーション 126
　メーター操作スイッチ 123
　メニューアイコン.....124

み

ミラー
　インナーミラー.....245
　デジタルインナーミラー 247
　ドアミラー 259
　バニティミラー.....548

む

ムーンルーフ.....267
　挟み込み防止機能.....268
　リヤムーンルーフ開
　　警告ブザー.....268

め

メーター（計器類）..... 116
警告灯..... 111
照度調整..... 117
表示灯..... 113
マルチインフォメーション
ディスプレイ 121
メーター..... 116
メカニカルキー..... 150
メモリーコール機能..... 223
メンテナンスデータ..... 690

も

モーター（電気モーター）..... 94
モーターでの走行
（EV ドライブモード）..... 289

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 694
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 687
油脂類 690

よ

4WD..... 693

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）.....304
スイッチ 304
ランプの交換 611
ラゲージルーム内装備.....545
デッキフック 547
デッキボード 545
ラジエーター
オーバーヒート.....682
メンテナンスデータ.....692
ランプ
インテリアランプ.....531
室内灯 529
パーソナルランプ.....532
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....615
フロントフォグランプ.....316
ヘッドランプ（前照灯）.....304
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）.....296
ライトセンサー.....305
ランプ消し忘れ警告ブザー 306
ランプ消し忘れ防止機能 305
ランプの交換 611
リヤフォグランプ.....316
ワット数 693
ランプ消し忘れ警告ブザー.....306
ランプ消し忘れ防止機能.....305

り

リヤウインドウデフォッガー
スイッチ 515
リヤエアコン 523
リヤフォグランプ..... 316
リヤ方向指示灯..... 296
方向指示レバー 296
ランプの交換 611
リヤワイパー 322
ワイパーゴムの交換 598

る

ルーフカラー
イルミネーション 535
ルームミラー
（インナーミラー）..... 245, 247
ルームランプ（室内灯）..... 529
操作 531
ワット数..... 693

れ

冷却水.....692
水温警告灯 111, 630
水温計 117
冬の前の準備 505
メンテナンスデータ 692
冷却装置（ラジエーター）
オーバーヒート.....682
メンテナンスデータ 692
レーダークルーズ
コントロール 361
警告メッセージ..... 638
接近警報 368
前方センサー 330
レーントレーシングアシスト
（LTA）.....344
警告メッセージ.....355
操作.....350
レバー
給油口 327
シフト 291
ハンドル位置調整レバー 243
方向指示 296
ボンネット解除.....581
ロック（レバー）.....159, 163

ろ

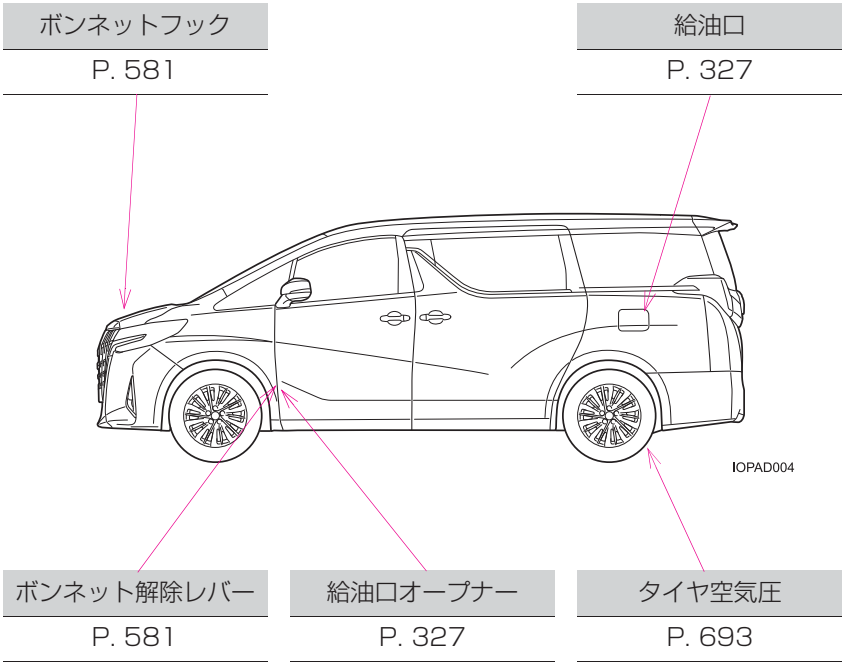
ロードサインアシスト
（RSA）..... 356
ロック
ウインドウロック 263
シフトロック 293
スマートエントリー&
スタートシステム..... 191
チャイルドプロテクター..... 167
ドア 159, 163, 181
ワイヤレスリモコン
..... 151, 157, 163, 181

わ

ワイパー&
ウォッシャー..... 318, 322
ワイパーゴムの交換..... 598
ワイパーブレード（寒冷地用）... 508
ワイヤレス充電器
（おくだけ充電）..... 558
ワイヤレスリモコン
..... 151, 157, 163, 181
作動の合図..... 158, 169
操作 151, 157, 163, 181
電池の交換..... 604
半ドア警告ブザー 158
半ドア走行時警告ブザー..... 162
ワックス 572
ワット数 693

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	65L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン　P. 690 ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 693
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時：4.0L オイルとフィルター交換時：4.4L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正 キヤッスル モーターオイル ・SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30）

水没したときは

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

⚠ 警告

■緊急脱出用ハンマー※1の使用について

この車両のリヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※1で割ることはできますが、フロントウインドウガラス・フロントドアガラス※2・リヤドアガラス※2は合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※1で割ることができません。

※1：詳しくは販売店にお問い合わせください。

※2：合わせガラス装着車

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

■フロントドアガラス・リヤドアガラスについて（合わせガラス装着車）

遮音性を高めるために合わせガラスを使用しています。ガラスの隅に下記の文字が印字されています。

・LAMISAFE（AGC 旭硝子製）

・LAMIPANE または SuperUV400（日本板硝子製）

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社

http://toyota.jp

カ-16

M 58163
01999ー58163
CI-2018年 3 月13日
2018年 3 月20日 初版
アルファード(ハイブリッド車)